

明治国際医療大学 鍼灸学科

講義概要

〔2024〕

鍼灸学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
大学の教育と研究	前期	1	1
基礎ゼミ	前期	1	1
学習技法	前期	1	1
医療概論	前期	1	1
解剖学Ⅰ	前期	1	2
東洋医学概論Ⅰ	前期	1	1
東洋医学概論Ⅱ	後期	1	1
はり・きゅう技術学総論	前期	1	1
入門はり技術学実習	前期	1	1
基礎はり技術学実習	後期	1	1
入門きゅう技術学実習	前期	1	1
基礎きゅう技術学実習	後期	1	1
経絡経穴学Ⅰ	通年	1	2
経絡経穴学実習Ⅰ	通年	1	1
触察解剖学演習	後期	1	1
はり・きゅう臨床実習Ⅰ	通年	1	1
健康スポーツ実習Ⅰ	前期	1	1
医療情報学	前期	2	1
社会保障制度と職業倫理	後期	2	1
解剖学Ⅲ	前期	2	1
解剖学Ⅳ	後期	2	1
臨床医学総論Ⅰ	前期	2	1
臨床医学総論Ⅱ	後期	2	1
臨床医学各論Ⅰ	通年	2	2
臨床医学各論Ⅱ	前期	2	1
臨床医学各論Ⅲ	後期	2	1
臨床医学各論Ⅳ	後期	2	1
東洋医学概論Ⅲ	前期	2	1
はり・きゅう理論Ⅰ	前期	2	1
はり・きゅう理論Ⅱ	後期	2	1
はり・きゅう安全学	後期	2	1
応用はり技術学実習	前期	2	1
応用きゅう技術学実習	前期	2	1
臨床はり・きゅう技術学実習	後期	2	1
経絡経穴学Ⅱ	通年	2	2
経絡経穴学実習Ⅱ	通年	2	1
東洋医学診察法演習	後期	2	1
現代医学診察法実習	後期	2	1
医療面接	後期	2	1
はり・きゅう臨床実習Ⅱ	通年	2	1
スポーツ医学基礎	前期	2	2
スポーツ医学応用	後期	2	2

鍼灸学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
医療人のための英語Ⅰ	前期	3	1
医療人のための英語Ⅱ	前期	3	1
鍼灸師のための解剖学	前期	3	1
鍼灸師のための生理学	前期	3	1
鍼灸師のための臨床医学各論	後期	3	1
鍼灸師のための東洋医学概論	後期	3	1
臨床経穴学	後期	3	1
東洋医学治療法実習	前期	3	1
臨床病態学	後期	3	1
東洋医学臨床論Ⅰ	前期	3	2
東洋医学臨床論Ⅱ	前期	3	2
東洋医学臨床論Ⅲ	前期	3	1
東洋医学臨床論Ⅳ	後期	3	1
東洋医学臨床論実習Ⅰ	前期	3	1
東洋医学臨床論実習Ⅱ	前期	3	1
東洋医学臨床論実習Ⅲ	前期	3	1
スポーツはり・きゅう学	後期	3	1
高齢者はり・きゅう学	後期	3	1
最新はり・きゅう学	後期	3	1
基礎養生学	後期	3	1
鍼灸総合演習Ⅰ	通年	3	3
はり・きゅう臨床実習Ⅲ	通年	3	2
生活習慣病とその予防	後期	3	1
キャリア教育	前期	4前	1
介護技術学	前期	4前	1
医療機関実習A	通年	4通	2
医療機関実習B	通年	4通	4
はり・きゅう臨床実習Ⅳ-A	通年	4通	2
はり・きゅう臨床実習Ⅳ-B	通年	4通	4
はり・きゅう高齢者ケア実習	通年	4通	1
はり・きゅう学外臨床実習A	通年	4通	1
はり・きゅうインターンシップ実習	通年	4通	1
症例報告、研究の方法と発表	前期	4前	1
はり・きゅう師に必要な看護学・リハビリテーション学	前期	4前	1
鍼灸経営論	前期	4前	1
社会鍼灸学	後期	4後	1
鍼灸総合演習Ⅱ	前期	4前	1
鍼灸総合演習Ⅲ	後期	4後	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅰ:予防・養生	前期	4前	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅱ:健康寿命	後期	4後	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅳ:臨床スポーツ	通年	4通	1
人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅴ:伝統医学	前期	4前	1

## 鍼灸学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
アスレチックリハビリテーション	前期	4前	1
アスレチックリハビリテーション実習	前期	4前	1
卒業研究Ⅳ	通年	4通	1
合計単位数			106
省令で定める基準単位数			13

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	4	選択
担当教員			
廣正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：180時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本実習の目標は、鍼灸臨床に必要な基本的な医学知識のほか、医療に関する幅広い知識を習得することにある。また、実際の臨床現場で学修することにより医療人としての自覚を養い、実習によって得た知識を、鍼灸臨床に活用できるようにすることを目標とする。さらに、現代西洋医学的な診察や治療の流れについて理解を深めるとともに、最新の医療情報や技術についても学習し、各診療科での医療従事者の役割、チーム医療の在り方を学ぶ。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機関実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。</li> <li>2. 身なりや接遇、基本的な衛生操作、感染対策について理解できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p> <p>2～11回目 各症状の臨床診断に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 胸痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>2. 腹痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>3. 頭痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>4. 呼吸器症状、呼吸困難に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>5. めまいに対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>6. 疲労感に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>7. 腰痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。</li> <li>8. 課題1：感度、特異度、陽性尤度比、陰性尤度比について説明できる。</li> <li>9. 課題2：痛みの臨床診断で用いる「OPQRSTUV」について説明できる。</li> <li>10. 課題3：腹痛の部位ごとの頻度と重大性について説明できる。</li> <li>11. 課題4：一次性および二次性頭痛、頭痛のRed flag signについて説明できる。</li> <li>12. 課題5：上気道および下気道感染症、呼吸器感染のRed flag signについて説明できる。</li> <li>13. 課題6：めまいの原因や頻度、重大性、めまいのRed flag signについて説明できる。</li> <li>14. 課題7：疲労感の原因、疲労感のRed flag signについて説明できる。</li> <li>15. 課題8：呼吸困難と呼吸不全の違いについて説明できる。</li> <li>16. 課題9：腰痛の頻度と重大性の高い腰痛とその鑑別、疲労感のRed flag signについて説明できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド、課題</p> <p>12～16回目 リハビリテーション医学に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳卒中のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。</li> <li>2. 脳卒中の回復期リハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。</li> <li>3. 疼痛のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。</li> <li>4. 運動器のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。</li> <li>5. 課題1：脳卒中の原因疾患、評価について説明できる。</li> <li>6. 課題2：回復期リハビリテーションにおけるそれぞれの職種役割について説明できる。</li> <li>7. 課題3：疼痛のメカニズム、慢性疼痛患者に接する際の注意点、慢性疼痛に対する評価について説明できる。</li> <li>8. 課題4：運動療法の具体的方法とその評価、腰痛の運動療法について説明できる。</li> <li>9. 課題5：肩関節周囲炎および変形性膝関節症のリハビリについて説明できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド、課題</p> <p>17, 18回目 放射線科に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放射線科の施設について説明できる。</li> <li>2. 放射線科の検査内容について説明できる。</li> <li>3. 課題1：放射線の人体への影響と、X線やCT検査による被爆について説明できる。</li> <li>4. 課題2：レントゲン（X線）、MRI、CTの特徴について説明できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド、課題</p> <p>19～29回目 各科外来でみる疾患、臨床検査および病理検査に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科外来で診る主要な疾患について説明できる。</li> <li>2. 外科外来で診る主要な疾患について説明できる。</li> <li>3. 歯科外来で診る主要な疾患について説明できる。</li> <li>4. 泌尿器科外来で診る主要な疾患について説明できる。</li> </ol>

	<p>5. 臨床検査の内容および検査方法について説明できる。</p> <p>6. 病理検査の内容および検査方法について説明できる。</p> <p>7. 総合リハビリテーションセンターの役割について説明できる。</p> <p>8. 課題1：骨折や捻挫の固定に使用する素材とそれぞれの特徴について説明できる。</p> <p>9. 課題2：関節内注射の適応と注意点について説明できる。</p> <p>10. 課題3：顎関節症の原因・症状・治療方法および顎関節症、顎関節脱臼、下顎骨折の鑑別について説明できる。</p> <p>11. 課題4：血液検査、尿検査の検査項目と正常値について説明できる。</p> <p>12. 課題5：前立腺がんの診断について説明できる。</p> <p>13. 課題6：下部尿路障害の3つの疾患(前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱)の病因とその症状について説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド、課題</p> <p>30～50回目 内科・整形外科・脳神経外科外来での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>2. 外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>3. 脳神経外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>4. 課題：各診療科で診た症状・疾患に対してそれぞれの病態・原因・西洋医学的治療について説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p> <p>51～71回目 外科、泌尿器科、皮膚科外来での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>2. 泌尿器科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>3. 皮膚科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>4. 課題：各診療科で診た症状・疾患に対してそれぞれの病態・原因・西洋医学的治療について説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p> <p>72～90回目 リハビリテーション、臨床検査、放射線科などの検査系統での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションにおける全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>2. 臨床検査における全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>3. 放射線科における全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>4. 課題：実習で得た知識を今後鍼灸師としてどのように活かしていくか具体的に説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生までに学習した内容について、現代西洋医学を中心に復習を行う。</li> <li>・なお、実習で得た知識についてもレポート課題を通して復習する。</li> <li>・本実習における予習・復習(60分)</li> </ul>
教科書	指定なし。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生までの学習に使用した全ての配布資料。</li> <li>・病気がみえるシリーズ(メディックメディア社)</li> </ul>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価(60%)およびレポート課題(40%)で評価する(60点以上を合格とする)。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜～金曜</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・桂川鍼灸院・きららの湯若狭鍼灸院・附属病院にて実務経験あり</li> <li>・アクティブラーニングとして、実習後に振り返りを行う。</li> <li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2</li> </ul>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義・AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	明治国際医療大学の本学の建学の精神・教学の理念を学び、医療人としての鍼灸師のあり方を理解するとともに、附属病院、他の医療職との連携について理解する。 なお、講義の順番は、準備状況により入れ替わることがある。また、講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します。レポートはグーグルクラスルームで受け付けます。
授業計画	<p>第1回 明治国際医療大学の建学の精神・教学の理念、沿革と教育の特徴 1. 建学の精神・教学の理念 2. 明治国際医療大学の歴史 3. 明治国際医療大学の教育の特徴</p> <p>第2回 鍼灸学部鍼灸学科の教育（伊藤） 鍼灸学部鍼灸学科の教育概要と目指す医療人像 鍼灸師とは （各学部共通）</p> <p>第3回 保健医療学部柔道整復学科の教育（保険医療学科長） 保健医療学部柔道整復学科の教育概要と目指す医療人像 柔道整復師とは （各学部共通）</p> <p>第4回 保健医療学部救急救命学科の教育（救急救命学科長） 保健医療学部救急救命学科の教育概要と目指す医療人像 救急救命士とは （各学部共通）</p> <p>第5回 看護学部看護学科の教育（看護学科長） 看護学部看護学科の教育概要と目指す医療人像 看護師・保健師・助産師とは （各学部共通）</p> <p>第6回 鍼灸学部の特徴と強み 明治国際医療大学鍼灸学部について理解する （鍼灸学部のみ）</p> <p>第7回 鍼灸学部の研究 明治国際医療大学鍼灸学部について理解する （鍼灸学部のみ）</p> <p>第8回 鍼灸学部のブランディング 明治国際医療大学鍼灸学部について理解する （鍼灸学部のみ）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回講義ごとに動画を配信しますので、関連する内容（参考資料など）について授業前・授業後にそれぞれ30分間程度予習復習をしてください。
教科書	動画教材
参考書	なし
成績評価	授業の出席、または課題動画を視聴した上で、グーグルフォームの回答した課題の内容をフィードバックしたうえで評価する。 なお、本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います
担当教員の基本情報	伊藤和憲（鍼灸学部）、保健医療学部・柔道整復学科長、保健医療学部・救急救命学科長、看護学部・看護学科長 オフィスアワー：各教員に確認のこと  連絡先 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。
備考	DPとの関係：3：関心意欲◎ SS-1-HS1-RS-L-1
	実務経験 伊藤和憲 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに教授する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
山本 岳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	信頼される医療従事者になるためには、人間を知ることが必要です。それを学ぶ手段の1つとして、心理学という分野が存在します。また最近では、社会状況の複雑化等により、ますますメンタルケアが必要であることが指摘されています。 そのことから本講義では、心理学の基礎を学びながら、医療従事者として今後出会うであろう患者へのメンタルケアの重要性を理解してもらうことを目的として講義を実施します。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション(授業方針、評価方法)、心理学とは何か。基礎心理学①(知覚とは) [到達目標]心理学はどういうもので、どんな分野があるのか理解するとともに、基礎心理学(知覚・認知)の概要を理解する。 (キーワード：心理学、心理測定、知覚心理学・認知心理学) [備考]</p> <p>第2講 基礎心理学②(学習、適応とは) [到達目標]基礎心理学(学習、記憶)の概要を理解する。 (キーワード：(学習心理学、反射、学習、条件づけ、記憶) [備考]</p> <p>第3講 健康心理学(心理的ストレスの概要) [到達目標]心理的ストレスの概念と概要を理解する。 (キーワード：健康心理学、適応、ストレッサー、ストレス反応、コーピング) [備考]</p> <p>第4講 発達心理学(子どもから大人までのこころの発達と教育) [到達目標]子どもから大人までのこころの発達の概要を理解する。 (キーワード：発達心理学) [備考]</p> <p>第5講 臨床心理学(カウンセリングと精神症状)① [到達目標]臨床現場で出会う可能性のあるこころの病気や障がいの概要を理解する。 (キーワード：臨床心理学 精神症状) [備考]</p> <p>第6講 臨床心理学(カウンセリングと精神症状)② [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理アセスメント) [備考]</p> <p>第7講 臨床心理学(カウンセリングと精神症状)③ [到達目標]臨床現場で出会う可能性のある心理療法や心理検査の概要を理解する。 (キーワード：心理療法) [備考]</p> <p>第8講 まとめ(評価含む) [到達目標]第1講から第7講までのまとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を使い事前学習や事後学習をすることをお勧めします。 また余力のある受講者は、授業計画にある各キーワードを調べておくことも良い学習に繋がると思います。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。
教科書	特にありません。講義の進み具合で適宜資料を配布します。
参考書	1. 心理学概論(向井希宏・水野邦夫 編, ナカニシヤ出版) 2. 心理学 [第3版] (和田万紀 編 弘文堂)
成績評価	1. 心理学全般の知識(50点):定期試験(持込不可)を行います。試験範囲は全講義内容から問題を提示します。 2. 平常点(50点):出席カードを毎回提出してもらいます。 ①心理学とは何かを理解し、それを活用できる。 ②受講者という集団の一人として、そして医療従事者の卵として、他者を尊重・共感し、他者の話を傾聴できる。 ③授業に積極的に参加し、自ら質問や発言をする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 岳 (非常勤講師) 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー: 授業終了後
備考	講義は基本的にPower Pointを使用します。受講者は各自で適宜配布する資料にメモを取って受講するようにしてください。講義は講師と学生の双方向の関わりにより進めます。そのことから、講義をただ聞くという受け身の姿勢ではなく、積極的に講義に参加する学生に受講してもらいたいと思います。



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
池田 正樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) 新たな他者と接する状況で、良好な関係を構築する技術・理論を理解・使用できる 2) レポート作成など、基本的な文章作成が行える 3) 対人関係上生じる可能性のある問題点を学び、それらに対して自分なりに理解・対応できる
授業計画	<p>第1講 身近な精神疾患について [到達目標] 身近に接する可能性のある精神疾患について、理解する</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第2講 文章の書き方の基本 [到達目標] 基本的な長文の構成を理解し、自分で記述できるようになる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第3講 レポートの書き方の基本 [到達目標] レポートの構造と記載内容の意味を理解し、自分でレポートを書くことができるようになる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第4講 プレゼンテーションの基礎を学ぶ [到達目標] プレゼンテーションの基本的な構造を学び、実際に作成できる。</p> <p>[備考] オンデマンド講義</p> <p>第5講 アサーショントレーニング1 [到達目標] アサーションの基本を学ぶ</p> <p>[備考] 特に無し</p> <p>第6講 アサーショントレーニング2 [到達目標] アサーティブな自己表現の方法を学ぶ</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第7講 話の聞き方 [到達目標] 基本的な傾聴の方法について理解する</p> <p>[備考] 特になし</p> <p>第8講 しんどくなりすぎない受け取り方 [到達目標] 自分のものの見方の癖を知る</p> <p>[備考] 特になし</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	連続ものの内容もあるため、適時復習を行なってください。
教科書	適時紹介します。
参考書	適時紹介します。
成績評価	<p>①評価方法 : レポート70%、平常点30%</p> <p>②評価基準 : レポートは講義の内容を一つ、もしくは複数選んで書いてもらいます。自分なりにそのテーマを今後どの様に役立てていくかなどについて、論述してください。論述においては、講義中に説明したレポートの書き方やパラグラフライティングの方法を参考としてください</p>

	い。 平常点は受講態度、出席の有無で判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池田正樹 研究室 : 1号館2階こころの相談室・8号館4階講師室 メールアドレス : ms_ikeda@tch.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業開始終了前後
備考	対面：講義形式とグループワーク形式を適時切り替える予定です。 オンデマンド：講義＋課題の構成で行う予定です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、齊藤真吾、田口玲奈、藤井健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習（対面授業） AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	自主的に学ぶ存在である「大学生」の学び方の基礎を身につけ、思考力、調査力、表現力、発信力を養うことを目標とする。 本学や地域社会を理解し、鍼灸師として社会に果たすべき役割を考える。
授業計画	<p>1回目 鍼灸学科の教育課程(カリキュラム)について理解し、自らの履修モデルを作成する・大学生生活の基礎を学ぶ 【到達目標】 鍼灸学科の教育課程(カリキュラム)について理解し説明できる。 自らの履修モデルを作成し、履修登録を確定する。 大学生生活を行ううえで基本となるルールや規則について理解し説明できる。 YOMOGIアプリで自分の体調を知る。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 学生便覧を熟読しておくこと。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>2回目 大学でのコミュニケーションを学ぶ① 【到達目標】 自己紹介を行うことでクラスメイトとコミュニケーションを図る。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自己紹介の内容について考えをまとめておくこと。 履修登録の確認を行う。</p> <p>3回目 大学での学びの意味を考える① 【到達目標】 大学で学ぶ意味を理解し説明できる。 大学で鍼灸を学ぶ意味を考える。 学習に関する問題点を抽出し、学生同士で共有することで問題の解決を図る。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自分の考えをまとめておくこと。</p> <p>4回目 大学でのコミュニケーションを学ぶ② 【到達目標】 コミュニケーションの基本となる自己概念を理解し説明できる。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 自己分析(TEG、GSES、POMS)を行う。体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>5回目 鍼灸について理解する① 【到達目標】 自ら学ぶ鍼灸について理解し説明できる。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 グループに分かれて鍼灸について調べ、グループディスカッションを行う。</p> <p>6回目 鍼灸について理解する② 【到達目標】 自ら学ぶ鍼灸について理解し説明できる。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 グループディスカッションを行った内容についてグループごとにまとめる。</p> <p>7回目 鍼灸について理解する③ 【到達目標】 自ら学ぶ鍼灸について理解し説明できる。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 グループディスカッションを行った内容についてグループごとに発表を行う。</p> <p>8回目 大学での学びの意味を考える② 【到達目標】 前期前半に学んだ科目の理解度を確認し、さらに理解を深める。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、経絡経穴学Ⅰの理解度を各自で整理しておくこと。 体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p> <p>9回目 大学での学びの意味を考える③ 【到達目標】 アドバイザーや鍼灸学科教員の考えに触れることで、大学や鍼灸についてさらに理解を深める。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】</p> <p>10回目 キャリア形成 【到達目標】 自らのキャリアプランを考える。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 キャリアについて考えておくこと。</p> <p>11回目 大学での学びの意味を考える④ 【到達目標】 アドバイザーや鍼灸学科教員の考えに触れることで、大学や鍼灸についてさらに理解を深める。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】</p> <p>12回目 大学での学びの意味を考える⑤ 【到達目標】 前期に学んだ科目の理解度を確認し、さらに理解を深める。 【授業形態】 対面で実施する。 【備考】 解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、経絡経穴学Ⅰの理解度を各自で整理しておくこと。 体調管理アプリを用いた体調チェックを実施する。</p>

	<p>13回目 鍼灸を知る① 【到達目標】鍼灸業界で活躍する鍼灸師の意見を聞くことにより、鍼灸やキャリアに対して視野を広げる。 【授業形態】オンデマンドで実施する。 【備考】動画を視聴して課題を行うこと。提出期限を厳守すること。</p> <p>14回目 鍼灸を知る② 【到達目標】鍼灸業界で活躍する鍼灸師の意見を聞くことにより、鍼灸やキャリアに対して視野を広げる。 【授業形態】オンデマンドで実施する。 【備考】動画を視聴して課題を行うこと。提出期限を厳守すること。</p> <p>15回目 鍼灸を知る③ 【到達目標】鍼灸業界で活躍する鍼灸師の意見を聞くことにより、鍼灸やキャリアに対して視野を広げる。 【授業形態】オンデマンドで実施する。 【備考】動画を視聴して課題を行うこと。提出期限を厳守すること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や医療の動向を注視し、最新の情報に触れておく(30分)。 地域社会についての情報を集める(30分)。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	3/5以上の出席とレポート課題をすべて提出したものに単位を認める。 成績は主体的な授業参加度を重視し、授業内で実施するレポートや課題への取り組みで総合的に評価(秀・優・良・可)する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、齊藤真吾、田口玲奈、藤井健介 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp、s_saito@meiji-u.ac.jp、k_fujii@meiji-u.ac.jp、k_fujii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：課題に対してグループワークを実施し、自分の考えや他社の考えをまとめて発表する。
	ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-◎ ④態度・人間性-○ 科目ナンバー：SS-1-HS4-RS-S-1
	資料や課題の提出にはGoogle Classroomを使用します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
山本 直子			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	説明的文章や文学的文章を正しく読み解き、理解するための基礎的な事項を身につけることができる。また、読解した内容や解釈したことを、文章で説明し、まとめることができる。さらに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、他者に伝える力や理解力、論理的思考力などを培い、コミュニケーション能力を身につけることができる。
授業計画	<p>第1講 インTRODククション [到達目標] 新聞を題材に、構成や文体を理解し、内容が読み取れるようになる。 [備考]</p> <p>第2講 論説文の読解① [到達目標] 文章表現や構造を理解したうえで、文章の意図や主題、書き手の考えを考察し、まとめることができる。 [備考]</p> <p>第3講 論説文の読解② [到達目標] 前時のまとめをグループワークを通して深め、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第4講 小論文を書く [到達目標] 小論文の書き方の基本を習得し、論理的に書くことができる。 [備考]</p> <p>第5講 小説の読解① [到達目標] 小説を題材に、内容を読み取り、テーマを設定することができる。 [備考]</p> <p>第6講 小説の読解② [到達目標] 前時で設定したテーマに関連する資料や文献を参考に、自己の考えをまとめることができる。 [備考]</p> <p>第7講 プレゼンテーション [到達目標] 前時でまとめたことをスライドやPPを用いて、発表することができる。 [備考]</p> <p>第8講 まとめ（評価含む） [到達目標] 授業を振り返り、読解への理解を深め、思考力や表現力などを向上させる実践力を身につけることができる。 [備考] 第8講の後半で試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	次回使用する教材や準備物を授業中に提示または配付しますので、準備をしておいてください。事前学習が済んでいるものとして授業を進めます。
教科書	特に購入していただくものではありません。
参考書	特になし。
成績評価	①評価方法：試験評点60%、平常点40% ②評価基準：試験は授業の理解度や実践力（小論文1題）に関する問題を出題し、判定します。平常点は受講態度、出席状況、課題の取組、提出などで判定します。
担当教員の基本情報	担当教員名：山本 直子 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス： オフィスアワー：授業前及び授業終了後
備考	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ（レポート作成） レポート作成等	
授業時間外の学習（準備学習等）について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	なし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3, ○-2		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河井 正隆			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義（オンデマンド：ビデオ配信）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この授業では、大学での学びに対する真摯な態度やスキルを、さまざまな側面から考えていきます。そして、最終的にはあなた自身が、自立した学習者に成長するきっかけ（契機）をつかむことが、この授業の目標です。
授業計画	<p>1回目 大学ってどんなところ！？ 【到達目標】大学で求められる力や態度を判断できる。</p> <p>※課題1：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>2回目 学習スタイルとやり抜く力 【到達目標】自らの学習スタイルを知り、今後の学習方法を省察できる。</p> <p>※課題2：「やり抜く力」のアンケートに回答してください（期日までにGoogle formsへ）。</p> <p>3回目 考えるってどういうこと？ 【到達目標】学びのスキルや思考方法（批判的思考）を活用できる。</p> <p>※課題3：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>4回目 プロフェッショナルとコミュニケーションを考える 【到達目標】プロとしてのコミュニケーションの概要を説明できる。</p> <p>※課題4：ビデオの中で示される【課題①】【課題②】の2つを考えてください（各課題を200字程度で）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>5回目 ディプロマ・ポリシーとICEルーブリック 【到達目標】ディプロマ・ポリシーとICEルーブリックの作成を通して、自らの学びを考察できる。</p> <p>※課題5：あなた自身の「ICEルーブリック」を書いて提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>6回目 1. 図式化に挑戦！ 2. NOLの紹介 【到達目標】選択した科目の重要ポイントを図式化により整理できる。</p> <p>※課題6：あなたが描く「図式化」の成果物を提出してください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>※課題7：NOLを読んで、あなた自身の「感想」を教えてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）</p> <p>7回目 短期記憶の実験 【到達目標】短期記憶の実験をとおして、自身の記憶の傾向性を認識する。</p> <p>※課題8：今日の授業を受け、自分なりに「考えたこと」をレポートしてください（200字程度）（期日までにGoogle Classroomへ）。</p> <p>8回目 レポートの書き方 ※アクティブ・ラーニング（学びの振り返りと表出） 【到達目標】本授業で学んだ内容を踏まえ、適切なレポートを作成できる。</p> <p>※課題9：本授業を受講した上で、「今までの学びを振り返り、これからの4年間を展望してください（400字）」をレポートしてください（期日までにGoogle Classroomへ）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>1. 課題は、Google ClassroomへUPします。</p> <p>2. 本授業における時間外学習は、週4時間となります。</p>
教科書	授業テーマに応じた資料をGoogle ClassroomにUpします。
参考書	必要に応じて、授業テーマに即した図書などをGoogle Classroomで紹介します。
成績評価	<p>1. 課題の提出締切日：期日までにGoogle Classroomへ提出してください（厳守）。</p> <p>2. 課題点：①+②=100点 ※期日を過ぎると点数はありません。</p> <p>①「課題1～8」：10点×8課題=80点（提出点）</p> <p>②「課題9」：20点（配点基準は、Google ClassroomにUpするルーブリックを参照：後日）</p> <p>3. 60点以上が合格点です（単位認定）。</p> <p>4. 教員からの各課題へのコメントは、基本的には全体または個別で行います（Google ClassroomにUp）。</p>
担当教員の基本情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員名 : 河井正隆</li> <li>・研究室 : 学修支援センター別室（3号館内）</li> <li>・メールアドレス : m_kawai@meiji-u.ac.jp</li> <li>・オフィスアワー : 水曜日、午後4時30分～午後6時</li> </ul>

備考	<p>1. 本授業とディプロマ・ポリシーとの関連：関心・意欲 (DP3) ー◎、態度・人間性 (DP4) ー○</p> <p>2. 本授業では、スマートフォンやノートパソコンなどの端末機を積極的に活用します。</p> <p>3. 授業の進捗状況や社会的情勢により、授業内容を変更することがあります。その場合は、Google Classroomやメリーでお伝えします。</p>
	<p>実務経験：京都府亀岡市に所在地を置く整形外科・内科医院および明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センターにて鍼灸臨床に従事する（臨床歴：約35年）。なお後者（学校）では、鍼灸学科生および教員養成学科生の臨床実習指導にも携わる。</p>
	<p>科目ナンバー：SS-1-HS8-RS-S-1</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>医療系学生に必要な生物学の知識を習得することを目標とする。</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生物の原則」である細胞、分子、遺伝子の働きを説明できる。</li> <li>・DNAからRNAそしてタンパク質へと進む遺伝情報の伝達の仕組みを理解する。</li> <li>・物質代謝、自己複製の仕組みを理解する。</li> <li>・解剖学・生理学等を理解するのに必要な、「ヒトに関する基本」（ヒトの組織や器官の構造と働き、健康を維持するシステム、病気の原因）に関する基礎的な内容を説明できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 生物とは何か、生物としてのヒト</p> <p>【到達目標】：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の条件を説明できる。</li> <li>・生物としてのヒトの特徴を説明できる。</li> </ul> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第2回 細胞、細胞小器官</p> <p>【到達目標】：細胞と細胞小器官の構造と機能を説明できる</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第3回 生物を構成する物質</p> <p>【到達目標】：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物を構成する元素と分子にはどのようなものがあるかを説明できる。</li> <li>・生物を構成する元素と分子の基本的な性質を説明できる。</li> </ul> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第4回 栄養と代謝</p> <p>【到達目標】：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒトが必要とする栄養にはどのようなものがあるかを説明できる。</li> <li>・基礎的な代謝の流れを説明できる。</li> </ul> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第5回 遺伝とDNA、遺伝情報の発現</p> <p>【到達目標】：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝の仕組みについて説明ができる。</li> <li>・DNAからRNA、タンパク質への遺伝情報の伝達の仕組みを説明できる。</li> </ul> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第6回 細胞の増殖、生殖、発生、分化</p> <p>【到達目標】：基礎的な自己複製の仕組みを説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第7回 ヒトの生殖、発生、分化</p> <p>【到達目標】：ヒトの自己複製の仕組みを説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>中間試験 中間試験</p> <p>対面形式で行う。 日時は別途指定する。</p> <p>第8回 動物の組織</p> <p>【到達目標】：動物組織の基礎的な構造や特徴について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第9回 動物の器官Ⅰ（消化器系・循環器系）</p> <p>【到達目標】：動物の器官（消化器系・循環器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第10回 動物の器官Ⅱ（呼吸器系・排出系・感覚器系）</p> <p>【到達目標】：動物の器官（呼吸器系・排出系・感覚器系）の基礎的な構造や機能について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。（正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）</p> <p>第11回 ホルモンと生体調節</p> <p>【到達目標】：ヒトの各内分泌器官から分泌されるホルモンとその作用について説明できる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。</p>

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第12回 神経系  <b>【到達目標】</b>：動物の神経系の基礎的な構造や機能について説明できる。  <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。  (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 免疫・微生物  <b>【到達目標】</b>：  ・生体防御システムの基礎的な機能について説明できる。  ・病原微生物と感染症との関係について説明できる。  <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。  (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 がんと老化  <b>【到達目標】</b>：  ・がん発生の仕組みについて説明できる。  ・細胞や個体の老化のプロセスについて説明できる。  <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。  (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 バイオテクノロジーと医療・総括  <b>【到達目標】</b>：  ・遺伝子組換え技術や再生医療などの基礎的な仕組みや意義を説明できる。  ・本講義を通じて学んだことを述べるができる。  <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験  対面形式で行う。  日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)。
教科書	「医療・看護系のための生物学」 田村 隆明 著 (裳華房) ISBN978-4-7853-5233-2
参考書	「キャンベル生物学」 Urry, Cain, Wasserman, Minorsky, Reece著 池内昌彦、伊藤元己、箸本春樹、道上達男 監訳 (丸善出版) ISBN978-4-621-30276-7
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験(試験86%、課題14%)、期末試験(試験86%、課題14%)それぞれ6割以上を合格とし、中間試験(50%)と期末試験(50%)により成績を評価する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-4、○-1 科目ナンバー：SS-0-NS1-RS-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療には物理学の知見が多く取り入れられている。本講義では、医学を深く学ぶ上で必要となる物理学の基礎知識を身に着けることを授業目標とする。		
授業計画	第1回	単位と移動の基礎 到達目標： ・単位を説明できる。速度，加速度，移動距離を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	ニュートンの法則 到達目標： ・三角関数が理解できる。 ・ベクトルを計算できる。 ・ニュートンの法則を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	浮力 到達目標： ・密度を計算できる。 ・浮力を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	放物運動 到達目標： ・自由落下，投げ上げの速度，移動距離が計算できる。 ・放物運動を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	抵抗 到達目標： ・モノに働く抵抗を計算できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	円運動と万有引力 到達目標： ・円運動，万有引力が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	電気の基本 到達目標： ・電気の基本が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	電気の特性 到達目標： ・電気の特性が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第9回	波の基本特性 到達目標： ・縦波，横波，振幅，周期，周波数を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第10回	音における波の特性 到達目標： ・音の波の特性を説明できる。 ・ドップラー効果を説明できる。 ・耳からの伝わり方を説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第11回	光における波の特性 到達目標： ・光の波の特性を説明できる ・サングラスの偏光を説明できる ・ヒトの映像の見え方を説明できる 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第12回	光の特殊な性質 到達目標： ・光の量子性について説明できる。 ・量子コンピュータの概要が説明できる。 授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。	
	第13回	いろいろエネルギー 到達目標：	

	<p>・エネルギー保存の法則を説明できる。  ・モノのエネルギーが説明できる。  授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。  試験及びまとめ  到達目標：全体的な概要の説明ができる。  授業形態：  対面形式で行う。日時は別途指定する。  確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>第15回  総括  到達目標：講義全体を振り返り、自然現象を総合的に判断し説明することができる。  授業形態：確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	種々の物理の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習(130分)と講義内容の復習(130分)を行う。
教科書	特に指定しない。
参考書	改訂版 センター試験 物理基礎の点数が面白いほどとれる本。 鈴木誠治(著) ISBN-10: 404600777X
成績評価	1回の試験により成績を評価する。  本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	この講義とディプロマポリシーとの関連「〇-1」, 「◎-4」 科目コード: SS-0-NS2-ES-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。
	「課題の提出はグーグルクラスルームで受け付けます」

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	選択
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（遠隔・オンデマンド授業）	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素、分子およびそれらの性質を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。 ・その他、生化学や生理学などを理解するために必要な化学の法則を説明できる。		
授業計画	第1回	元素記号・周期律・化学の基礎 <b>【到達目標】</b> ：おもな元素記号を記述できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第2回	原子の構造、電子配置と原子軌道 <b>【到達目標】</b> ：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第3回	イオン結合 <b>【到達目標】</b> ：主要なイオン性物質の組成式を作ることができる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第4回	分子の間に働く力、共有結合、金属結合 <b>【到達目標】</b> ：分子軌道により共有結合を説明できる。 それぞれの化学結合の特徴を説明できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第5回	原子量・分子量・式量 <b>【到達目標】</b> ：原子量、分子量と式量を計算できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第6回	物質量 <b>【到達目標】</b> ：粒子の数、質量、体積と物質量の関係を理解し算出できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第7回	溶液・コロイド <b>【到達目標】</b> ： ・溶液、コロイドの特徴について説明できる。 ・溶液の濃度、希釈、作成について計算できる。 <b>【授業形態】</b> ：	
	第8回	化学反応式 <b>【到達目標】</b> ：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第9回	酸と塩基 <b>【到達目標】</b> ：酸と塩基の性質を説明できる。 水素イオン指数pHを説明、計算できる。 中和反応を説明、計算できる <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第10回	酸化還元反応 <b>【到達目標】</b> ：酸化・還元反応の性質を説明できる。 電池・電気分解を説明できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第11回	熱化学 <b>【到達目標】</b> ：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 （正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。）	
	第12回	酵素反応と酸塩基平衡 <b>【到達目標】</b> ：酵素反応のしくみを説明できる。 化学平衡と緩衝液について説明できる。 <b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。	

	<p>(正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第13回 有機化合物 【到達目標】：炭化水素と有機化合物の名称や分類について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第14回 生体を構成する物質 【到達目標】：糖質、脂質、タンパク質、核酸について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：動画を視聴した上で課題問題を解いてもらう。 (正誤は提出期限後に掲示される解答例を見て自身で修正する。)</p> <p>第15回 無機化合物・高分子化合物 【到達目標】：身近な化合物の性質を理解する。 【授業形態】 アクティブ・ラーニングの有無：無</p> <p>期末試験 期末試験 対面式で行う。日時は別途指定する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習45分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習45分)
教科書	「生理学・生化学につながる ていねいな化学」 白戸亮吉、小川由香里、鈴木研太著(羊土社) ISBN978-4-7581-2100-2
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4 「ブラウナー一般化学 I、II」 T. H. Brown 他著、荻野和子監訳(丸善出版) ISBN978-4-621-30010-7, -30011-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験(72%)と課題(28%)により成績を評価する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 13:00-13:50
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-4、○-1 科目ナンバー: SS-0-NS3-ES-L-1
	講義の動画は該当週の月曜日9:25までに公開する。 動画視聴(40~50分程度)と課題(40~50分)で講義を行う。 講義内容に対する質問は、原則Mellyで行なってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 課題の解答は提出期限後にGoogleclassroom上に掲示する。
	出欠は課題の期限内での提出をもって行います。 課題への取り組みが不十分とみなされる場合には、課題点が付与されないことがあります。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とします。また、デジタルデータを正確に取り扱い、コンピュータを用いてデータの記録と解析を達成できることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] キーボードショートカットを用いた操作を修得する 関数を使った計算を復習し、棒グラフを正確に作成することができる 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ① 度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 関数を利用してさまざまなデータの度数を算出できる [備考] 課題あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ② ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③ 散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など必要に応じたグラフを選択し作成することができる [備考] 課題あり</p> <p>第7回 デジタルデータの取り扱いと工夫 [到達目標] 実験などで得られる実データの安全な取り扱い方と記録の意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 大規模なデータを取り扱うためのデータハンドリングについて知る [備考] 課題あり</p> <p>第8回 データの収集および解析の実践 [到達目標] データに対して適した解析方法を選択し、正確に処理できる グラフ等を用いてデータを視覚的表現できる データを読み解き結果を言葉で表現することによって、レポート等を作成できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておきましょう（120分程度）。</li> <li>・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるように準備しておいて下さい。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めましょう（120分程度）。</li> <li>・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておい</li> </ul>

	て下さい。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は試験90%、課題10%とします。 試験は選択式および記述式の問題により、データ処理能力および他者に対して説明する能力の到達度を総合的に評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子  研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター  メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一  研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター  メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : 〇-3, ◎-4 「科目ナンバー」 : SS-1-NS4-RS-L-1  講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します (別途指示)。  課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。  アクティブラーニング形式の授業は実施しない。  本試験で不合格となった場合には、原則補講や課題を課します。別途指示に従ってください。</p>



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
山本 奈美			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、英単語や英文法の習得を中心に英語の基礎力を固め、将来医療従事者として活動する際に必要とされる、実践的な英語でのコミュニケーションの能力を身につけることを目的とします。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]授業の構成、目的、スケジュール、評価基準を理解する [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	過去時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問文 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	未来時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	完了時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	接続詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	動名詞・不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第14講	受動態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第15講	まとめ [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]定期テストを実施します。	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は、教科書に沿って進めていきます。毎回、授業前課題を実施しますので、予習が必要です。また、授業ごとに英単語や英語表現の小テストも行います。次の授業で活かせるように復習も重要です。また本講義においては、TOEICやTOEFLなど学外英語検定に向けた英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していきます。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido (2021)
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	平常点 70% (授業への積極的な参加、課題と小テスト) 定期テスト 30%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-4 科目ナンバー : SS-0-LI1-ES-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
山本 奈美			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この科目では、英単語や英文法の習得を中心に英語の基礎力を固め、将来医療従事者として活動する際に必要とされる、実践的な英語でのコミュニケーションの能力を身につけることを目的とします。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]授業の構成、目的、スケジュール、評価基準を理解する [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか説明します。	
	第2講	現在時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第3講	代名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第4講	前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第5講	過去時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第6講	疑問文 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第7講	進行形 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第8講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第9講	未来時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第10講	比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第11講	完了時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第12講	接続詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第13講	動名詞・不定詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第14講	受動態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]授業前課題の採点と文法解説→課題に取り組む→小テスト [備考]授業ごとに単語と表現を習得していきましょう。	
	第15講	まとめ [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法を習得する。 [授業形態]定期テストを実施します。	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業は、教科書に沿って進めていきます。毎回、授業前課題を実施しますので、予習が必要です。また、授業ごとに英単語や英語表現の小テストも行います。次の授業で活かせるように復習も重要です。また本講義においては、TOEICやTOEFLなど学外英語検定に向けた英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していきます。
教科書	English Booster!, Robert Hickling and Yasuhiro Ichikawa, Kinseido (2021)
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	平常点 70% (授業への積極的な参加、課題と小テスト) 定期テスト 30%
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山本 奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー :
備考	
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-4 科目ナンバー : SS-0-LI1-ES-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
横田 良聡			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	国際化が進む中でグローバルな視点で医療を捉えられるためには、英語を習得することが大切である。この講義では、日本人が特に苦手とするリスニングとスピーキングに重点を置き、医療現場における様々なシチュエーションの会話をパターンプラクティスで習得するとともに、映画やアニメのシナリオを通して実用的な英語に触れることを目指す。また、今後必要となる可能性のある医療用語についても学ぶ。		
授業計画	第1講	オリエンテーション、診療予約の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①診療予約の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第2講	受付業務(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第3講	受付業務(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①受付業務(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第4講	道案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①道案内の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第5講	院内案内の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①院内案内の表現を学習する②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第6講	身長・体重測定と採血の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身長・体重測定と採血の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第7講	血圧・脈拍測定の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①血圧・脈拍の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第8講	体温測定・身体チェック(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①体温測定・身体チェック(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第9講	身体チェック(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①身体チェック(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第10講	症状を診て薬を出す指示(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第11講	症状を診て薬を出す指示(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。	
	第12講	症状を診て薬を出す指示(3)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(3)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習	

	<p>し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第13講 症状を診て薬を出す指示(4)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①症状を診て薬を出す指示(4)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第14講 問診(1)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(1)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p> <p>第15講 問診(2)の英会話、映画等のシナリオ考察 [到達目標] ①問診(2)の表現を学習する。②短い英会話をパターンプラクティスで練習し習得を目指す。③映画等を視聴し1シーンの会話を聴きリスニング力を高める。それぞれの取り組みの最後に課題を提出する。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	予習することはありません。各講義内での課題や小テストをクリアするためには、講義内での取り組みが重要になります。講義内にしっかり取り組んでいれば及第点の取れる課題や小テストですから、積極的に音読や会話練習で英語を使う姿勢を持って臨んでください。
教科書	教科書は使用しません。基本的にパワーポイントを使った授業になります。必要に応じてプリントをこちらから用意します。
参考書	英和辞書もしくは電子辞書(高校で使用していたものでよい)
成績評価	テストは行わず、「講義への参加度合い、積極性、各講義課題提出等」の各講義で評価します。そのため、10分を越える遅刻・早退・中座については減点対象とします。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 横田 良聡 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標は初級中国語の基礎を身につけることである。中国語は発音が難しい。だが音声表示（ピンイン）の仕組みを理解し、継続して練習を重ねると身につくはず！練習方法は；①シャドーイングの反復、ライティングと意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行で繰り返すことである。また②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（ライティング）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ教材の運用練習をすることも効果が高い。</p> <p>学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる中国語教材の表現練習を採り入れ、中国語の知識をゆたかにすることも授業目標の一つである。</p> <p>なお「継続は力なり」という言葉をいつも自分に言い聞かせるとうよいでしょう！</p>
授業計画	<p>第1講 中国語の音声（ピンイン）の仕組みを理解しよう [到達目標]①中国語の音声の仕組みを「中国語音節表」（p.74-75）に基づいて学ぶ。教科書に基づいて授業の進め方を説明し、相互に確認する。また次回授業の準備（p11-16）を予習する。</p> <p>[備考]補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>第2講 第1課「自己紹介」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。さらに、ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>第3講 第2課「どうなさいましたか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。つぎに前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。また、発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p.20）の発音練習・書取を行う。</p> <p>[備考] さらに、次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>第4講 第3課「この薬はどう飲みますか」を学ぶ。音声（ピンイン）の復習もおこなう。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn/答dá」ができるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：鼻母音と「新出語句」（p.26）の発音・書取を行う。</p> <p>第5講 第3課「この薬はどう飲みますか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>第6講 第4課「病室はどこですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p.33）の練習・書取を行う。</p> <p>第7講 第4課「病室はどこですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>第8講 第5課「具合はいかがですか」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p.38）」「補足語句（p.40）」と「表現」の練習・書取を行う。</p> <p>第9講 第5課「具合はいかがですか」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>[備考] 次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>第10講 第6課「心配いりません」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。また、前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合いを確認・補正する。</p> <p>[備考] さらに、発音：「新出語句（p.44）」「補足語句（p.46）」と「表現」の練習・書取を</p>

	<p>第11講 行う。 第6課「心配いりません」の復習。 [到達目標]会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。</p> <p>第12講 [備考] 次回の授業：p. 47-48「ドリル」を完成し、p. 49-51を予習する。 第7課「退院おめでとう」の学習。 [到達目標]「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。また、前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認、補正する。</p> <p>第13講 [備考] さらに、発音：「新出語句 (p. 50)」「補足語句 (p. 51)」と「表現」の練習・書取を行う。 第7課「退院おめでとう」の復習。 [到達目標]「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。さらに「チャレンジ (p. 54)」をグループワークで行う。</p> <p>第14講 [備考] また、次回授業の準備：p. 52-53のドリルを完成する。 第1課～第7課の総復習と「自己紹介」の練習を行う。 [到達目標]第1課～第7課のまとめ (p. 55-60)を総括する。</p> <p>第15講 [備考] 「自己紹介文」について発音・音読練習をおこなう。 第1課～第7課で身につけた中国語をつかい「自己発表」を行う。 [到達目標] 自信をもって「自己紹介」できることが目標である。</p> <p>[備考] 評価と今後の学習のための助言を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>① 予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くと効果は高い。日本語の発音と異なるの中国語音の微妙な違い、イントネーション (声調) に注意してシャドーイングを繰り返すと効果があります。</p> <p>② またシャドーイングと同時に書写 (ライティング) を習慣として行うと定着度は高いはずですが。「ドリル」を完成することも、頭に定着させるためには大切です。</p> <p>③ ピンイン、単語、例文などを音読しながら書写することにより定着度を高めることも出来ます。自分で時間の配分を考えながら実行することを習慣にすること、も高い効果を期待できます。「習慣」は人生を変えます!</p>
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価：2100円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%)。なお平常点には小テスト (複数回) の成績も算入する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢放 昭文 (ヤハナシ アキフミ) 大阪外国語大学大学院外国語学研究科東アジア語学 (中国語専攻) 修了 大阪大学大学院人文学研究科招聘研究員 文学修士、京都産業大学名誉教授</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業時間の前後に随時受け付ける。</p>
備考	



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習（一部遠隔授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを利用した課題の遂行を通じ、様々なアプリケーションの使い分けに加えてデータサイエンスの基盤となるデータ整理のスキル獲得を目的とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキルと犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のシステムおよびメール等の学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	<p>ガイダンス、PCの基本操作、学内システムへのアクセス法</p> <p>[到達目標]          本学でのコンピュータ利用方法を知る          コンピュータからメールが送受信できる          学修支援システムとmellyを利用できる          大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する</p> <p>[備考]          入学時ガイダンスでの配布物（パスワードが記載された用紙）を必ず持参すること</p>	
	第2講	<p>基本操作の修得</p> <p>[到達目標]          電子レポートを提出できる          電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる          USBフラッシュメモリ等の外部デバイスの利用に対する注意点を理解する</p> <p>[備考]          必要に応じてUSBメモリーを持参すること（任意）</p>	
	第3講	<p>表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能</p> <p>[到達目標]          表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる          表計算ソフトを操作し、四則演算ができる          表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる          キーボードショートカットを活用できる</p> <p>[備考]          課題あり</p>	
	第4講	<p>表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方</p> <p>[到達目標]          グラフの特徴を理解し、活用することができる          種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる          データに対して適切なグラフを作成することができる</p> <p>[備考]          課題あり</p>	
	第5講	<p>表計算③：さまざまな関数の利用</p> <p>[到達目標]          引数の概念を理解する          “条件分け”の関数を適用することができる          “抽出”の関数を適用することができる</p> <p>[備考]          課題あり</p>	
	第6講	<p>表計算④：復習と演習</p> <p>[到達目標]          表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる</p> <p>[備考]          課題あり</p>	
	第7講	<p>表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説</p> <p>[到達目標]          表計算ソフトを独力で使いこなすことができる</p> <p>[備考]          表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>	
	第8講	<p>情報倫理とネットセキュリティ</p> <p>[到達目標]          ITリテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる          ネットのビジネスマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について知識を修得する</p> <p>[備考]          講義時間内に情報倫理に関するwebテストを実施          NOA出版の教科書にて事前に学修しておくこと</p>	

	<p>第9講 文書表現の実践：文章表現の実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] Word等の文書作成ソフトを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第10講 ビジュアル表現の実践：プレゼンテーションの実践とルーブリックによる自己評価 [到達目標] PowerPoint等のプレゼンテーションソフトを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第11講 デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第12講 デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 自身の評価を文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [アクティブラーニング]与えられたテーマについて調べ、資料をまとめ、教員と学修者が共有する「評価軸」によって他者の資料を評価することで自身の要約力および表現力のブラッシュアップに繋げる [備考] 課題あり</p> <p>第13講 記録とデータ [到達目標] 記録の必要性を理解する データの種類を理解する cloud環境で利用できる仕組みを活用してポートフォリオ作成を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第14講 データベースとその意義 [到達目標] データベースとは何かを説明できる 情報を活用するためのデータ取得について考える プログラミングとは何かを知る スクリプトを用いてデジタル処理の動作を体験する [備考] 課題あり</p> <p>第15講 機械学習の基本 [到達目標] 機械学習とは何かを説明できる 社会の中で機械学習がどのように活用されているかを知る [備考] 課題あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(30分程度)。必要に応じて復習を行い、コンピュータスキルの獲得に努めて下さい(30分程度)。第10講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」(noa出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題40%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ○-3, ◎-4 「科目ナンバー」: SS-1-LI9-RS-S-1 講義資料および課題は授業専用のホームページにて提供します(別途指示)。

	課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。 本試験で不合格となった場合には、原則補講や課題を課します。別途指示に従ってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
伊藤 博康			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療の担い手としての医療従事者（看護師）には、高度な医療・看護の技術だけでなく、患者様の心と向き合い、その尊厳を保障するために高い人権意識と倫理観が求められる。看護師を目指す学生に分かりやすく講義をする。		
授業計画	第1講	生命倫理の流れ 看護の倫理 現代の医療倫理 [到達目標]生命倫理の流れを理解し、説明できる。  [備考] 教科書1ページから12ページ	
	第2講	人工妊娠中絶 選別出産と減数手術 [到達目標]生命を絶つことを理解し、説明できる。  [備考] 教科書47ページから63ページ	
	第3講	脳死と臓器移植 [到達目標]死と生について理解し、説明できる。  [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第4講	安楽死と尊厳死 [到達目標]安楽死と尊厳死について理解し、説明できる。  [備考] 教科書78ページから97ページ	
	第5講	医療と宗教 [到達目標]医療と宗教について理解し、説明できる。  [備考] 教科書98ページから106ページ	
	第6講	ターミナルケアからエンド・オブ・ライフケアへと死の臨床 [到達目標]生と死のケアについて理解し、説明できる。  [備考] 教科書117ページから137ページ	
	第7講	インフォームド・コンセント [到達目標]インフォームド・コンセントについて理解し、説明できる。  [備考] 教科書139ページから163ページ	
	第8講	医療と法と倫理そして医療倫理の今後・まとめ [到達目標]守秘義務と医療事故について理解し、説明できる。  [備考] 教科書165ページから183ページ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	・ 授業計画の備考に記載している教科書の指定ページの予習と復習（各2時間以内）をすること。 ・ 保健・医療・福祉に関するニュースに注視し、特に関心がある事項については、記録し問題意識を持つようにすること。		
教科書	生命倫理への招待（改訂6版） 著者 塩野寛 清水恵子 発行者 南山堂（ISBN 978-4-525-52016-8）		
参考書	厚生労働白書（最新版） 厚生労働省編 （ISBN 978-4-86579-384-0）		
成績評価	本試験80% 平常点 10% 出席点 10%		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤 博康（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : hiro0404yasu@yahoo. co. jp オフィスアワー : 授業終了後		
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4，○-2		
	全国紙（朝日・読売・産経・日経）の中から一紙、朝刊を毎日読む習慣をつけるよう努力しましょう。大学生として教養とコミュニケーション力を高めましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTROクシヨンとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第7回 EBMとCAM EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第8回 まとめ(評価含む)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>初回講義で配布されるテキストを中心に復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。</p>
教科書	なし(講義でプリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当者 : 北小路博司</p> <p>研究室 : 非常勤講師室</p> <p>メールアドレス :</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
渡邊 康晴			
鍼灸学科	60時間	対面講義＋遠隔講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>人体の構造の理解と知識は、医学領域において基盤となる知識であり、疾病を学ぶ上でも必要不可欠である。解剖学Iでは、主に解剖学基礎、骨学、筋学を学ぶ。あわせて筋を支配する神経の一部である脊髄と脊髄神経についても学ぶ。経穴を取穴して鍼灸施術を行ううえで必要な構造についての理解を深め、患者を診る際に重要な人体について説明できるようにすることを授業目標とする。</p> <p>当該領域は、毎年必ず国家試験に出題される。このため当該の科目では、授業と自学学修を通して国家試験の水準まで『知識の理解し、定着させること』をゴールとし、この水準を単位認定の基準とする。</p>
授業計画	<p>第1講 解剖学概論（ガイダンス）、解剖学基礎（細胞小器官、細胞分裂、上皮組織） [到達目標] 細胞小器官の機能と構造、細胞分裂、上皮組織について説明できる。 [備考] 教科書P2-P13を学修する。</p> <p>第2講 解剖学基礎〔結合組織（骨組織と軟骨の種類を含む）〕、方向と位置を示す用語 [到達目標] 結合組織、骨組織（海綿質と緻密質）、軟骨の種類、方向と位置を示す用語について説明できる。 [備考] 教科書P13-P22を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p> <p>第3講 骨の形状、骨の連結、骨学各論（鎖骨、肩甲骨） [到達目標] 骨の形状、骨の連結、鎖骨、肩甲骨について説明できる。 [備考] 教科書P160-P161、P179-P180を学修する。 この講より、それぞれの骨が有する特徴的な構造について学ぶため、学修量が急増する。</p> <p>第4講 関節の構造、関節の種類、骨学各論（上腕骨） [到達目標] 骨の連結様式、関節の種類、上腕骨の特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P19-P21、P162-P163、P180-P181を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p> <p>第5講 骨学各論（橈骨、尺骨、手の骨）、上肢の関節 [到達目標] 関節の種類、前腕、手の各骨の名称と特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P181-P187を学修する。</p> <p>第6講 上肢の関節、脊柱の構成、脊柱と椎間板、骨学各論（胸椎） [到達目標] 上肢の主な関節と脊柱の構成、胸椎の特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P183-P187、P169-P174を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p> <p>第7講 胸郭、骨学各論（肋骨、頸椎、腰椎、仙椎） [到達目標] 胸郭、椎骨の名称と特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P171-P179を学修する。</p> <p>第8講 骨盤、骨学各論（寛骨、大腿骨） [到達目標] 骨盤、寛骨と大腿骨の名称と特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P187-P190を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p> <p>第9講 骨学各論（脛骨、腓骨、足の骨）、下肢の関節 [到達目標] 上肢の主な関節、下腿と足の骨の名称と特徴的な部位名が説明できる。 [備考] 教科書P190-P197を学修する。</p> <p>第10講 骨学各論（頭蓋骨） [到達目標] 脳頭蓋と顔面頭蓋における特徴的な構造を説明できる。眼窩および鼻腔の構成要素を説明できる。 [備考] 教科書P198-P210を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p> <p>第11講 解剖学基礎・骨学の総括 [到達目標] 解剖学基礎・骨学の全般について説明できる。 [備考] 第12講で行う「まとめ」に向けて、これまでの学修内容を総括する。 ※アクティブラーニングにて実施予定。</p> <p>第12講 国家試験過去問題の解説（解剖学基礎・骨学系） [到達目標] 過去の国家試験問題の解説内容を理解でき、類似問題が解答できる。 [備考] ビデオオンデマンドにて実施予定。</p> <p>第13講 まとめ（第1講～第12講） [到達目標] 第1講から第12講の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説を行う。</p> <p>第14講 筋学総論、身体の運動軸、筋学各論（浅胸筋、深胸筋） [到達目標] 身体の運動の軸と方向、浅胸筋、深胸筋について説明できる。 [備考] 教科書P22-P24、P163-P168、P211-P213を学修する。 筋学では起始、停止、作用の3つを学修する。総じて学修量は骨学よりも増加する。</p> <p>第15講 筋学各論（横隔膜、腹筋、会陰筋、背筋） [到達目標] 横隔膜、腹筋、会陰筋、背筋について説明できる。</p>

第16講	<p>[備考] 教科書P214-P224を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。 筋学各論（上肢帯の筋、上腕の筋、前腕の屈筋） [到達目標] 上肢帯の筋、上腕の筋、前腕の屈筋について説明できる。 [備考] 教科書P237-P244を学修する。</p>
第17講	<p>筋学各論（前腕の伸筋、手の筋）、手根管、手の伸筋支帯 [到達目標] 前腕の伸筋、手の筋、手根管、手の伸筋支帯について説明できる。 [備考] 教科書P244-P257を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のためのグループ学修を行う。</p>
第18講	<p>筋学各論（下肢帯の筋） [到達目標] 外寛骨筋、内寛骨筋について説明できる。 [備考] 教科書P265-P268を学修する。</p>
第19講	<p>筋学各論（大腿の伸筋、大腿内面の筋、大腿の屈筋） [到達目標] 大腿の伸筋、大腿内面の筋、大腿の屈筋について説明できる。 [備考] 教科書P269-P274を学修する。 授業進行が良好であれば、知識定着のための演習を行う。</p>
第20講	<p>筋学各論（下腿の筋、足の筋、咀嚼筋） [到達目標] 下腿の筋、足の筋、咀嚼筋について説明できる。 [備考] 教科書P265-P272を学修する。</p>
第21講	<p>神経学総論、神経細胞、中枢神経系（脊髄） [到達目標] 神経細胞の構造と情報伝達の仕組み、脊髄を取り巻く構造（脊柱管、椎間孔）について説明できる。 [備考] 授業進行が良好であれば、知識定着のための演習を行う。</p>
第22講	<p>中枢神経系（脊髄）、末梢神経系（脊髄神経総論） [到達目標] 脊髄の構造（頸膨大、腰膨大、脊髄円錐、馬尾）、脊髄神経の構造（白質と灰白質の構造、前根と後根）について説明できる。 [備考]</p>
第23講	<p>末梢神経系（脊髄神経：頸神経叢、腕神経叢） [到達目標] 頸神経叢の構造および支配領域、腕神経叢の構成について説明できる。 [備考] 脊髄神経の学修では、筋学の知識が欠かせない。必要に応じて筋学の学修内容を振り返ることを推奨する。 授業進行が良好であれば、知識定着のための演習を行う。</p>
第24講	<p>末梢神経系（脊髄神経：腕神経叢） [到達目標] 腕神経叢の支配領域について説明できる。 [備考]</p>
第25講	<p>末梢神経系（脊髄神経：胸神経、腰神経叢） [到達目標] 胸神経の支配領域、腰神経叢の構成について説明できる。 [備考] 授業進行が良好であれば、知識定着のための演習を行う。</p>
第26講	<p>末梢神経系（脊髄神経：腰神経叢、仙骨神経叢） [到達目標] 腰神経叢の支配領域、仙骨神経叢の構成について説明できる。 [備考]</p>
第27講	<p>末梢神経系（脊髄神経：仙骨神経叢、陰部神経） [到達目標] 仙骨神経叢の支配領域、陰部神経の支配領域について説明できる。 [備考] 授業進行が良好であれば、知識定着のための演習を行う。</p>
第28講	<p>筋学系、脊髄・脊髄神経系の総括 [到達目標] 筋学、脊髄・脊髄神経系の全般について説明できる。 [備考] 第30講で行う「まとめ」に向けて、これまでの学修内容を総括する。 ※アクティブラーニングにて実施予定。</p>
第29講	<p>国家試験過去問題の解説（筋学系・神経系） [到達目標] 過去の国家試験問題の解説内容を理解でき、類似問題が解答できる。 [備考] ビデオオンデマンドにて実施予定。</p>
第30講	<p>まとめ（第14講～第29講） [到達目標] 第14講から第29講の講義内容についての設問に60%以上解答できる。 [備考] 試験時間後に問題に対する解説を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>高校までの学習と比べ、授業進行は極めて速い。事前に教科書を読み、次回の授業範囲の下調べを行う（予習15分）。 授業は、人体の構造を「理解する」ことに重点をおく。授業後の復習として、授業内容を学修用ノートにまとめ直すことなどにより理解を深め、講義内容の記憶定着につとめる（復習15分）。 Google classroom上にある小テスト（国家試験の過去問題）を行い、知識の理解と定着を確認する（演習15分）。</p>
教科書	<p>「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著 医歯薬出版 5,900円（+税） また、講義内容の理解を深めるため、pdfの学修用ノートをGoogle classroom上にアップロードする。</p>
参考書	<p>「カラー 人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで」 F.H. マティーン M.J. ティモンズ M.P. マッキンリ 著 井上貴央 監訳 西村書店 7800円（+税）※講義で主に使うものではないが、より高度な学びを目指す場合には、本書を使うことを推奨する。</p>
成績評価	<p>&lt;配点&gt; 中間試験および期末試験（80%）：国家試験の過去問題と同等水準の問題を解答する。試験日時とそれぞれの試験の詳細については、授業において告知する。 授業内演習および小テスト（20%）：小テストについては過去の国家試験問題を活用し、何回でも受験可とする。それぞれの小テストの最高点を評価する。また、講義内で確認テストを実施する。 &lt;評価基準&gt; 90点以上 たいへん優れている 80点～89点 優れている 70点～79点 良い成績である 60点～69点 概ね水準に達している 59点以下 不合格</p>

担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊康晴 研究室 : 附属病院1階MRセンター (6号館1階事務所にいることが多い) メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyでの質問等を推奨する 質問推奨時間 平日の9:00-19:00
備考	実務経験の有無: 専門学校、大学にて当該領域の教育経験、MRIを用いた人体構造にかかる研究実績、鍼灸師としての臨床経験を有する。これらの経験を基に講義を行う。
	授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎ー1 科目ナンバー: SS-1-MM1-RS-S-1
	講義の一部でアクティブラーニング形式の学修(グループワーク)を行う。
	この科目は、原則として対面の講義形式にて実施するが、適宜、遠隔授業に変更されることがある。教室内は一つの社会と解釈される。医療人になるとの目的を忘れることなく、他の学生が不快となるような言動は慎み、全員による居心地の良い教室空間の構築を強く期待する。



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年生	2	必修
担当教員			
多田羅 勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	2年生以降で学ぶ学科のための基礎となる解剖学の範囲に苦手意識を持たせることなく土台を構築していく。		
授業計画	第1講	消化器系 1 [到達目標]消化器系の構造、部位ごとの特徴を理解する。 [備考]	
	第2講	消化器系 2 [到達目標]消化器系の構造、部位ごとの特徴を理解する。 [備考]	
	第3講	消化器系 3 [到達目標]消化器系の構造、部位ごとの特徴を理解する。 [備考]	
	第4講	消化器系 4 [到達目標]消化器系の構造、部位ごとの特徴を理解する。 [備考]	
	第5講	消化器系 5 [到達目標]消化器系の構造、部位ごとの特徴を理解する。 [備考]	
	第6講	消化器系問題演習 [到達目標]消化器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]	
	第7講	消化器系問題演習 [到達目標]消化器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]	
	第8講	循環器系 1 [到達目標]心臓や血管の構造について理解する。 [備考]	
	第9講	循環器系 2 [到達目標]部位ごとの血管の走行や名前などを理解する。 [備考]	
	第10講	循環器系 3 [到達目標]部位ごとの血管の走行や名前などを理解する。 [備考]	
	第11講	循環器系 4 [到達目標]部位ごとの血管の走行や名前などを理解する。 [備考]	
	第12講	循環器系 5 [到達目標]部位ごとの血管の走行や名前などを理解する。 [備考]	
	第13講	循環器系問題演習 [到達目標]循環器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]	
	第14講	循環器系問題演習 [到達目標]循環器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]	
	第15講	中間試験 [到達目標]消化器系、循環器系の範囲で中間試験を行う。 [備考]	

	<p>第16講 神経系 1 [到達目標]脳の構造、機能について理解する。 [備考]</p> <p>第17講 神経系 2 [到達目標]脳の構造、機能について理解する。 [備考]</p> <p>第18講 神経系 3 [到達目標]脳の構造、機能について理解する。 [備考]</p> <p>第19講 神経系 4 [到達目標]脳神経について機能について理解する。 [備考]</p> <p>第20講 神経系 5 [到達目標]脳神経について機能について理解する。 [備考]</p> <p>第21講 神経系問題演習 [到達目標]神経系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第22講 神経系問題演習 [到達目標]神経系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第23講 感覚器系 1 [到達目標]感覚器系の構造について理解する。 [備考]</p> <p>第24講 感覚器系 2 [到達目標]感覚器系の構造について理解する。 [備考]</p> <p>第25講 感覚器系問題演習 [到達目標]感覚器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第26講 感覚器系問題演習 [到達目標]感覚器系の問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第27講 全範囲問題演習 [到達目標]問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第28講 全範囲問題演習 [到達目標]問題演習を通して学んだ知識の確認を行う。 [備考]</p> <p>第29講 評価試験 [到達目標]評価試験を行う。 [備考]</p> <p>第30講 評価試験解説 [到達目標]評価試験を行う。 [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	習った内容に対しての1時間復習をしっかりと行うこと。
教科書	解剖学 (医歯薬出版)
参考書	解剖学的構造と生理学 (VISIBLE BODY)
成績評価	中間試験と期末試験を合算して評価を行う。評価割合は中間50%、期末50%で行う。 中間試験と期末試験の平均で60%以上を合格とする。 講義30コマのうち3/5以上の出席を満たしたものの。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 多田 羅 勝広 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : bsyhq934@ybb.ne.jp オフィスアワー : 授業の前後
備考	1. 実務経験 たたら鍼灸整骨院での鍼灸施術、柔道整復施術。 平成医療学園専門学校、宝塚医療大学、兵庫鍼灸専門学校での非常勤講師としての指導経験をもとに指導を行う

	う。
	2. ディプロマポリシーとの関連 1-㊟
	3. 課題に対してはフィードバックを行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、細胞の働き、血液の働き、循環、呼吸、消化・吸収、代謝を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を運搬する血液の働き、血液やリンパ液を生体の隅々まで運ぶ仕組み、酸素と二酸化炭素のガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収・代謝等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学とは？ 到達目標：「生体の機能とは？」、および生理学の学修に必要な単位の接頭辞・ローマ数字の読み方と書き方・最低限知っておいて欲しい単語について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 生理学の基礎（1） 到達目標：ホメオスタシス、細胞膜について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 2-5）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 生理学の基礎（2） 到達目標：細胞小器官の機能、物質代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 5-8）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 生理学の基礎（3） 到達目標：体液の組成と働き、物質移動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 8-13）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 生理学の基礎のまとめ 到達目標：第1回～4回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第6回 血液（1） 到達目標：血液の組成、血球の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 16-22）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 血液（2） 到達目標：免疫機能、血漿の機能、酸塩基平衡について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 281-284, 22-23）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 血液（3） 到達目標：血液凝固、血液型について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 23-28）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 血液のまとめ 到達目標：第6回～8回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第10回 循環（1） 到達目標：循環器系、心筋の特徴、心周期について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 28-32）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 循環（2） 到達目標：心音、心拍出量、心電図、心臓の神経支配の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 32-36）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 循環（3） 到達目標：血管系、血圧について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 37-44）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 循環（4） 到達目標：循環調節、特殊な部位の循環、およびリンパ系について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 44-52）、並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 循環のまとめ</p>

第15回	到達目標：第10回～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。 中間試験（60分）＋まとめ（30分）
第16回	到達目標：第1～14回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。 呼吸（1） 到達目標：呼吸器系の構造と機能、肺気量、肺胞換気量について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 54-58）、並びに配布プリントを熟読すること。
第17回	呼吸（2） 到達目標：ガス交換、ガスの運搬、呼吸運動とその調節、呼吸調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 59-61）、並びに配布プリントを熟読すること。
第18回	呼吸（3） 到達目標：呼吸運動とその調節、呼吸調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 62-65）、並びに配布プリントを熟読すること。
第19回	呼吸のまとめ 到達目標：第16回～18回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第20回	消化と吸収（1） 消化器系の構造と機能、口腔～大腸の運動について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 68-75）、並びに配布プリントを熟読すること。
第21回	消化と吸収（2） 到達目標：排便、各消化液の働きとその調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 76-83）、並びに配布プリントを熟読すること。
第22回	消化と吸収（3） 到達目標：消化管ホルモン各栄養素の吸収について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 83-87）、並びに配布プリントを熟読すること。
第23回	消化と吸収（4） 到達目標：肝臓の働き、摂食の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 88-89）、並びに配布プリントを熟読すること。
第24回	消化と吸収のまとめ 到達目標：第20回～23回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第25回	代謝（1） 到達目標：栄養素の働き、基礎代謝量、身体活動時のエネルギー代謝量、呼吸商について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 92-96）、並びに配布プリントを熟読すること。
第26回	代謝（2） 到達目標：各栄養素の働きと代謝について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 96-105）、並びに配布プリントを熟読すること。
第27回	代謝のまとめ 到達目標：第25回～26回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第28回	生理学Ⅰのまとめ（前半範囲） 到達目標：第2～14回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の知識を応用できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第29回	生理学Ⅰのまとめ（後半範囲） 到達目標：第16～27回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の知識を応用できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。
第30回	期末試験（60分）＋まとめ（30分） 到達目標：第16～27回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習45分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。（復習45分）
教科書	「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会の編、内田さえ、原田玲子 他著（医歯薬出版株式会社）
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学（改訂第2版）」 照井直人 編（羊土社） 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修（オーム社）

	「やさしい生理学（改訂第7版）」 彼末一之・能勢博 編集（南江堂） 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集（メジカルビュー社） 「生理学テキスト（第9版）」 大地陸男 著（文光堂）
成績評価	中間試験および期末試験の結果(80%)，各項目ごとに行う小テストの結果（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー : 月曜日16:30～17:30
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務経験：あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生理学の講義を行う。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1</li> <li>・科目ナンバー：「SS-1-MM7-RS-L-1」</li> <li>・Classroomの活用：授業資料の配布，小テストへのアクセス</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、体温調節、腎機能、神経系の働き、感覚を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：産熱と放熱のバランスをとる体温調節、体液の恒常性維持に必須の腎機能、神経系による生体の調節、刺激を感覚としてとらえる機構等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 体温（1） 到達目標：体温の部位差と生理的変動、熱産生の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 108-112），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 体温（2） 到達目標：熱放散の特徴、体温調節、高体温について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 112-116），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 体温のまとめ 到達目標：第1回～2回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第4回 腎機能（1） 到達目標：腎臓の働き、ネフロン、糸球体濾過、について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 118-122），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第5回 腎機能（2） 到達目標：クリアランス、尿細管の再吸収と分泌、体液の調節、排尿について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 122-124），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 腎機能（3） 到達目標：尿の成分、体液の調節、排尿について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 125-128），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 腎機能のまとめ 到達目標：第4回～6回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第8回 神経の基本的機能（1） 到達目標：ニューロンの構造と働き、静止膜電位について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 164-168），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第9回 神経の基本的機能（2） 到達目標：活動電位、興奮の伝導について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 168-172），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 神経の基本的機能（3） 到達目標：シナプス伝達について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 172-178），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 神経の基本的機能のまとめ 到達目標：第8回～10回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>第12回 中間試験（60分）＋まとめ（30分） 到達目標：第1～11回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分） 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p> <p>第13回 中枢神経系（1） 到達目標：中枢神経系の分類と機能、反射、脊髄内の伝導路について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 178-184），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 中枢神経系（2） 到達目標：脳幹（中脳、橋、延髄）、小脳、および間脳（視床、視床下部）の役割が説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし）</p>

第15回	備考：教科書 (p. 184-189) , 並びに配布プリントを熟読すること。 中枢神経系 (3) 到達目標：大脳基底核と辺縁系の役割, 大脳皮質の機能局在について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第16回	備考：教科書 (p. 190-193) , 並びに配布プリントを熟読すること。 中枢神経系 (4) 到達目標：高次脳機能, 脳波, 脳脊髄液の特徴について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第17回	備考：教科書 (p. 193-197) , 並びに配布プリントを熟読すること。 中枢神経系のまとめ 到達目標：第12回～15回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり)
第18回	備考：課題に対して, 解答ができるように準備すること。 末梢神経系 (1) 到達目標：脳神経, 脊髄神経の構成と機能, 自律神経系の構成と機能について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第19回	備考：教科書 (p. 198-205) , 並びに配布プリントを熟読すること。 末梢神経系 (2) 到達目標：自律神経系について, 調節の特徴, 伝達物質と受容体, 関与する反射について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第20回	備考：教科書 (p. 205-213) , 並びに配布プリントを熟読すること。 末梢神経系 (3) 到達目標：各器官における体性-内臓反射について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第21回	備考：教科書 (p. 213-215) , 並びに配布プリントを熟読すること。 末梢神経系のまとめ 到達目標：第18回～19回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり)
第22回	備考：課題に対して, 解答ができるように準備すること。 感覚 (1) 到達目標：感覚の一般的性質, 体性感覚の受容器と特徴などについて説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第23回	備考：教科書 (p. 250-255) , 並びに配布プリントを熟読すること。 感覚 (2) 到達目標：体性感覚の伝導路, 内臓感覚, 痛みの分類について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第24回	備考：教科書 (p. 255-260) , 並びに配布プリントを熟読すること。 感覚 (3) 到達目標：発痛物質, 痛みによる反応, 痛みの抑制系, 味覚と嗅覚の受容器・性質・伝導路について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第25回	備考：教科書 (p. 260-266) , 並びに配布プリントを熟読すること。 感覚 (4) 到達目標：聴覚の受容器・性質・伝導路, 平衡感覚の受容器と伝導路について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第26回	備考：教科書 (p. 266-270) , 並びに配布プリントを熟読すること。 感覚 (5) 到達目標：視覚の性質・受容器・伝導路について説明できる。 授業形態：講義 (アクティブラーニングなし)
第27回	備考：教科書 (p. 270-276) , 並びに配布プリントを熟読すること。 感覚のまとめ 到達目標：第21回～25回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり)
第28回	備考：課題に対して, 解答ができるように準備すること。 生理学Ⅱのまとめ (前半範囲) 到達目標：第1回～11回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を応用できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり)
第29回	備考：課題に対して, 解答ができるように準備すること。 生理学Ⅱのまとめ (後半範囲) 到達目標：第13回～27回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を応用できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック (アクティブラーニングあり)
第30回	備考：課題に対して, 解答ができるように準備すること。 期末試験 (60分) + まとめ (30分) 到達目標：第13～27回までの学習範囲について理解した上で, その範囲の内容を説明できる。 授業形態：筆記試験 (60分) + 演習 (アクティブラーニングあり) (30分)
授業時間外の学習 (準備学習等) について	各講義項目の分野に関して, 事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。 (予習45分) 各講義後, 配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし, それでも分らない部分は質問にて理解できるようにする。 (復習45分)
教科書	「生理学 (第3版)」 公益社団法人 東洋療法学校協会編, 内田さえ, 原田玲子 他著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	※必要に応じて, 自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学 (改訂第2版)」 照井直人 編 (羊土社) 「マンガでわかる基礎生理学」 田中 越郎 監修 (オーム社) 「やさしい生理学 (改訂第7版)」 彼末一之・能勢博 編集 (南江堂)



	「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集 (メジカルビュー社) 「生理学テキスト (第9版)」 大地陸男 著 (文光堂)
成績評価	中間試験および期末試験の結果(80%) , 各項目ごとに行う小テストの結果 (20%) にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4階林 (知) 教授室 オフィスアワー : 月曜日16:30~17:30
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務経験 : あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生理学の講義を行う。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-1</li> <li>・科目ナンバー : 「SS-1-MM8-RS-L-1」</li> <li>・Classroomの活用 : 授業資料の配布, 小テストへのアクセス</li> </ul>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、鍼灸医学の根幹をなす東洋医学の基礎理論、すなわち東洋医学について学修する。その内容はこれまで受けてきた学校教育の視点とは大きく異なるため、日常体験しうる身近な事例を紹介しながら学修を進めていく。</p> <p>【授業目標】</p> <p>①東洋医学における人体の捉え方と自然界の関わりについて説明できる。          ②東洋医学における人体の構造と機能について説明できる。          ③人体に起こる現象について東洋医学的視点から捉えることができ、それを説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、東洋医学の特徴          [到達目標] 1) 東洋医学の沿革について理解する。          2) 東洋医学の人体の見方について理解する。          3) 東洋医学的治療について理解する。          4) 日本の東洋医学の現状を理解する。          [備考] 予習は教科書p2~36を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第2回 東洋医学の思想、東洋医学における陰陽学説の運用、陰陽学説のまとめ          [到達目標] 1) 陰陽学説の成り立ちを理解する。          2) 陰陽学説の基本内容と陰陽の組み合わせと分類を理解する。          3) 陰陽の相互関係として、対立と互根、対立と制約、消長と転化、可分を理解し説明できるようになる。          4) 人体における陰陽を理解する。          5) 病と陰陽の関係性を理解する。          6) 診断治療における陰陽を理解する。          [備考] 予習は教科書pp182~184、186~187、p68~73を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第3回 東洋医学の思想（五行学説）          [到達目標] 1) 五行学説の成り立ちを理解する。          2) 五行学説の基本内容と五行分類を理解する。          3) 五行の関係を理解し、相生・相克・相乗・相侮を理解し説明できるようになる。          [備考] 予習は教科書p188~191を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第4回 東洋医学における五行学説の運用、五行学説のまとめ          [到達目標] 1) 東洋医学における五行学説の運用について理解する。          2) 五行色体表を覚える。          [備考] 予習は教科書p191~199を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第5回 生理と病理（生体物質と神）          [到達目標] 1) 生体物質の分類（精・気・血・津液）と神を理解する。          2) 精と気の生理と病理を理解し説明できるようになる。          [備考] 予習は教科書p38~49を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第6回 生理と病理（血、津液と神）          [到達目標] 1) 生体物質の分類（精・気・血・津液）と神を理解する。          2) 血、津液と神の生理と病理を理解し説明できるようになる。          [備考] 予習は教科書p50~68を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第7回 まとめ（形成的評価を含む）          [到達目標] 1) 1~6回までに学習した内容を理解し、説明することが出来る。          [備考] 理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第8回 生理と病理（蔵象：蔵象学説、肝と胆）          [到達目標] 1) 蔵象学説について理解する。          2) 臓腑（五臓と六腑）の分類を理解する。          3) 肝と胆の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。          [備考] 予習は教科書p74~87を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第9回 生理と病理（蔵象：心と小腸、脾と胃）          [到達目標] 1) 心と小腸の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。          2) 脾と胃の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。          [備考] 予習は教科書p87~105を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第10回 生理と病理（蔵象：肺と大腸、腎と膀胱）</p>

	<p>[到達目標] 1) 肺と大腸の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 2) 腎と膀胱の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。</p> <p>[備考] 予習は教科書p106~125を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第11回 生理と病理 (蔵象: 三焦、まとめ)</p> <p>[到達目標] 1) 三焦の基本的な生理機能と病理を理解し、説明できる。 2) これまで学んだ蔵象学説の復習し、さらに理解を深める。</p> <p>[備考] 予習は教科書p125~127を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第12回 生理と病理 (経絡、病因病機)</p> <p>[到達目標] 1) 経絡の概念、機能、構成、病理を理解する。 2) 病因病機について病因 (外感病因) を理解し、説明できる。</p> <p>[備考] 予習は教科書p150~167を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第13回 生理と病理 (病因病機)</p> <p>[到達目標] 1) 病因病機について病因 (内傷病因、病理産物・その他の病因) を理解し、説明できる。</p> <p>[備考] 予習は教科書p168~173を事前に読んでおくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業の初めに質問を行うこと。</p> <p>第14回 生理と病理 (まとめ)</p> <p>[到達目標] 1) 8~13回で学習した生理と病理の内容を理解し、説明することが出来る。 [備考] 8~13回で学修した範囲を確認して、不明なところをまとめておくこと。復習を行い理解が十分でないところをまとめておき、次の授業までに質問を行い理解すること。</p> <p>第15回 総括 (評価を含む)</p> <p>[到達目標] 1) 1~14回までに学習した内容を理解し、説明することが出来る。 [備考] 理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとして対話 (フィードバック) を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと (30分)。 授業内容をノートにまとめたり必要な事項を暗記することで復習を行うこと (30分)。なお授業日のうちに復習を行うことが望ましい。授業ごとに宿題を出すので次の授業までに実施しておくこと。宿題の解答および解説は次の授業の初めに対話 (アクティブラーニング) にて行う。</p>
教科書	<p>「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編 (医道の日本社) (価格5,200円+税)</p> <p>授業配布資料 (授業資料はGoogle クラウドにアップされていますのでタブレット端末やPCなどを用いて授業を受ける方は活用して下さい。)</p>
参考書	「鍼灸学基礎編」日中共同編集 (東洋学術出版社)
成績評価	<p>評価対象: 出席基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法: 中間評価 (50%) と期末評価 (50%) にて行う。 単位認定: 評価点 (中間と期末評価の合計) が60%以上の者に単位を評価する。</p> <p>※本試験に合格しなかった者について、担当教員が必要と認めた場合かつ指定された補講 (課題含む) を受講した場合のみ、再試験を行うことがあります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口 辰樹 研究室 : 病院2階鍼灸学系教員室 メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>本授業は対話 (アクティブラーニング) として毎回の授業の終わりに、ミニツッパーパー (コミュニケーションカード) を用い、その日に学習した内容で重要だと思った点や印象に残った点、疑問に思った点やよく理解できなかった点について記載してもらいます。その内容については可能な限り当日のうちにメリーによりフィードバックを行います。自分で疑問に思った点を理解したり、自分自身では気づかなかった疑問点などを他人の意見を参考にしさらなる学修に役立てて下さい。</p> <p>実務経験内容 : 教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎-1】 【科目ナンバー: SS-1-OM1-RS-L-1】</p>
	この授業は東洋医学概論Ⅱ (1年生後期開講)、東洋医学概論Ⅲ (2年生前期開講) の2科目と教育内容が関連しています。東洋医学概論Ⅰの内容が十分理解できていないと東洋医学概論ⅡおよびⅢの理解が難しくなりますのでしっかりと理解するようにして下さい。
	不明な点は授業中に遠慮なく質問してください。コミュニケーションを取りながら双方向性に授業を勧めていきたいと思っております。皆さんの積極的な授業参加の姿勢が授業をより良くします。良い授業を作れるように協力しましょう。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義/対面 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期で学んだ東洋医学概論Ⅰの知識を基礎に、新たに東洋医学診断法（四診法）について学ぶ。</li> <li>・身体の状態を四診法により引き出す術を学ぶ。</li> <li>・四診法で得られた身体の情報の意味を理解し、東洋医学的病態について考えることができる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回目 総論</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 東西の健康観・整体観について説明できる。</li> <li>2, 治療原則について説明できる。</li> <li>3, 東西両医学の違いについて説明できる。</li> </ol> <p>第2回目 陰陽論・五行学説</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 陰陽学説について説明できる。</li> <li>2, 五行学説について説明できる。</li> </ol> <p>【備考】 陰陽学説、五行学説について復習すること（30分以上）。</p> <p>第3回目 気血津液</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 気血津液について説明ができる。</li> <li>2, 気血津液の病証について説明ができる。</li> <li>3, 小テストを行い、フィードバックする。</li> </ol> <p>【備考】 気血津液とその病証について復習すること（30分以上）。</p> <p>第4回目 蔵象学説</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 蔵象学説について説明ができる。</li> <li>2, 臓腑病証について説明ができる。</li> <li>3, 小テストを行い、フィードバックする。</li> </ol> <p>【備考】 蔵象学説とその病証について復習すること（30分以上）。</p> <p>第5回目 望診</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 神、色、形、態について理解し、判断できる。</li> <li>2, 舌診 舌質・舌苔について理解し、判断できる。</li> </ol> <p>教科書P. 202～212参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3, 小テストを行い、フィードバックする。</li> </ol> <p>【備考】 講義で学んだ望診について復習すること（30分以上）。</p> <p>第6回目 聞診</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 声診について理解し、判断できる。</li> <li>2, 五音、五声について理解し、判断できる。</li> <li>3, 呼吸について理解し、判断できる。</li> <li>4, 発語、異常音について理解し、判断できる。</li> <li>5, 気味について理解し、判断できる。</li> </ol> <p>教科書P. 213～218参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6, 小テストを行い、フィードバックする。</li> </ol> <p>【備考】 講義で学んだ聞診について復習すること（30分以上）。</p> <p>第7回目 問診 1</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 基本的問診事項について理解し、判断できる。</li> </ol> <p>教科書P. 219～233参照</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2, 小テストを行い、フィードバックする。</li> </ol> <p>【備考】 講義で学んだ問診について復習すること（30分以上）。</p> <p>第8回目 問診 2</p> <p>【授業形態】講義形式 【学習目標】</p>

	<p>1, その他の問診事項について理解し、判断できる。 教科書P. 234～248参照</p> <p>2, 小テストを行い、フィードバックする。 【備考】 講義で学んだ問診について復習すること（30分以上）。</p> <p>前半まとめ 【授業形態】 課題解決型学習 【学習目標】</p> <p>1, 前半の内容について理解、判断することができる。</p> <p>切診 1 【授業形態】 講義形式 【学習目標】</p> <p>1, 腹診について理解し、判断できる。 教科書P. 249～254参照</p> <p>2, 小テストを行い、フィードバックする。 【備考】 講義で学んだ腹診について復習すること（30分以上）。</p> <p>切診 2 【授業形態】 講義形式 【学習目標】</p> <p>1, 切経について理解し、判断できる。 2, 経穴診（募穴診、背候診）について理解し、判断できる。 教科書P. 254～255参照</p> <p>3, 小テストを行い、フィードバックする。 【備考】 講義で学んだ切経、経穴診について復習すること（30分以上）。</p> <p>切診 3 【授業形態】 講義形式 【学習目標】</p> <p>1, 脈診（寸口診）について理解し、判断できる。 教科書P. 255～258参照</p> <p>2, 小テストを行い、フィードバックする。 【備考】 講義で学んだ切診（寸口診）について復習すること（30分以上）。</p> <p>切診 4 【授業形態】 講義形式 【学習目標】</p> <p>1, 脈診（脈状診）について理解し、判断できる。 教科書P. 258～266参照</p> <p>2, 小テストを行い、フィードバックする。 【備考】 講義で学んだ脈診（脈状診）について復習すること（30分以上）。</p> <p>これまでのまとめ、復習 【授業形態】 講義形式 【学習目標】</p> <p>1, 後半の内容について理解、判断することができる。</p> <p>まとめ、筆記試験 【授業形態】 課題解決型学習 【学習目標】</p> <p>1, 四診全体の内容について理解、判断することができる。 2, 筆記試験を行い、試験の内容はその場でフィードバックする。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	授業前に範囲の教科書を一読、予習すること（60分）
教科書	新版 東洋医学概論 医道の日本
参考書	新しい鍼灸診療：北出利勝編集、医歯薬出版社 針灸学〔基礎編〕 東洋学術出版社 中医針灸治療のプロセス：朱江ほか編、篠原昭二監訳、東洋学術出版社
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施する。 成績は小テスト10%、筆記試験90%で評価し、これらを総合し、60%以上取得した者に対し、単位を認定する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・火曜日 9:00～17:30
備考	1, 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（20年）をもとに教育指導を行う。 2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2 3, 科目ナンバー SS-2-OM2-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	鍼施術の起源と鍼器具の変遷、現代の鍼と現行刺鍼手技、衛生的な鍼施術の手順、鍼施術の過誤と副作用、灸療法の起源と艾の特徴、現代灸法、灸施術の過誤と副作用について、要点を記憶し、記載できる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス～鍼療法の起源と鍼器具の変遷  [到達目標] 鍼灸技術学の学習範囲、鍼施術の起源を理解する、古代九鍼の種類・形態に対して用途で分類できる。  [授業形態] 講義と演習（鍼と灸の技術学を考える）  [備考] 鍼施術の起源を理解し古代九鍼の種類・形態・用途を理解し、小テストで古代九鍼の名称を記載でき、用途区分ができる。  予習：鍼の長さを調べてみる。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>2回目 現代の鍼と衛生的な鍼施術の手順  [到達目標] 現代の鍼の形状、材質、サイズおよび毫鍼の各部の名称と鍼尖端の形状について説明できる。また衛生的な鍼施術の手順（手洗いを含めた衛生的な鍼施術（鍼の滅菌法含む）を理解する。  [授業形態] 講義と演習（現行の刺鍼手順、衛生的な鍼施術の手順をシミュレーションする）  [備考] 小テストで現代の鍼の形状、材質、サイズおよび毫鍼の各部の名称と鍼尖端の形状を記載できる。手洗いを含めた衛生的な鍼施術（鍼の滅菌法含む）を復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>3回目 灸療法の総論・起源・艾について  [到達目標] 灸療法の総論・起源・歴史、艾について理解する。艾の原料・製法の行程について概要を説明できる。  [授業形態] 講義と演習（艾の製法の手順を理解する）  [備考] 小テストで艾の原料、艾の種類と特徴を記載できる。灸療法の総論・起源・歴史についてを復習する。</p> <p>4回目 現代の灸  [到達目標] 艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違い、灸の米粒大について理解する。  [授業形態] 講義と演習（良質艾と粗悪艾との比較の理解を深める）  [備考] 小テストで艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違い、灸の米粒大を記載できる。艾の原料や成分、薬理効果、良質艾と粗悪艾の違いについてを復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>5回目 現行刺鍼手技の手順  [到達目標] 現行刺鍼手技（刺鍼17手技）の手順について理解し、その手技の要約を説明できる。  [授業形態] 講義と演習（図を用いて現行刺鍼手技の理解を深め、実習前に手順のシミュレーションができる）  [備考] 小テストで現行鍼手技の名称を記載でき、その刺鍼手技の区分ができる。現行刺鍼手技についてを復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>6回目 灸術の種類  [到達目標] 灸術の種類、灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。  [授業形態] 講義と演習（灸術の種類を理解する）  [備考] 小テストで灸術の種類（隔物灸、艾条灸、薬物灸、その他など）の要点や特徴を記載できる。灸術の種類（隔物灸、艾条灸、薬物灸、その他など）の要点や特徴についてを復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>7回目 国家試験の問題体験（はり理論の一部）  [到達目標] 鍼技術の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを理解・記憶する。  [授業形態] 講義と演習（自ら国家試験の問題に解いて、その理解を深める）  [備考] 鍼技術の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを復習する。  国家試験問題を行い、その結果をフィードバック。</p> <p>8回目 はり技術学総論・国家試験の問題体験の解説  [到達目標] 鍼療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）総合的に理解・記憶する。  [授業形態] 講義と演習（鍼技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める）  [備考] 鍼療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）を復習する。</p> <p>9回目 国家試験の問題体験（きゅう理論の一部）  [到達目標] 灸療法の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを理解・記憶する  [授業形態] 講義と演習（灸技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める）  [備考] 灸療法の講義の中で、国家試験に関わる重要ポイントを復習する。  国家試験問題を行い、その結果をフィードバック。</p> <p>10回目 灸療法・国家試験の問題体験の解説  [到達目標] 灸療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）総合的に理解・記憶する。</p>

	<p>的に理解・記憶する  [授業形態] 講義と演習（灸技術のまとめの問題を解いて、その理解を深める）  [備考] 灸療法の歴史から過誤・副作用まで（国家試験に関わる重要ポイントを含む）を復習する。</p> <p>11回目  鍼刺激について、鍼施術の過誤と副作用  [到達目標] 鍼治療の刺激量の調整、鍼施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解し、要点を説明できる。  [授業形態] 講義と演習（鍼灸の刺激量と感受性の理解を深める）  [備考] 小テストで気胸、抜鍼困難についてなどを記載できる。鍼施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置についてを復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>12回目  灸術の種類、灸刺激、灸施術の過誤と副作用  [到達目標] 灸術の種類、灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置について理解する。  [授業形態] 講義と演習（灸の刺激量、灸の刺激量と禁忌を理解する）  [備考] 小テストで灸術の種類、灸の刺激量の調節、灸施術上の注意点、過誤、副作用などの要点を記載できる。灸の刺激量の調節、燃焼時の温度変化、灸施術上の注意点、過誤、副作用の予防と処置についてを復習する。小テストの結果をフィードバック。</p> <p>13回目  総括1（鍼灸技術学）  到達目標 鍼灸術の起源と鍼器具の変遷、現代の鍼と現行刺鍼手技、衛生的な鍼施術の手順、鍼灸術の過誤と副作用、灸療法の起源と艾の特徴、現代灸法、灸施術の過誤と副作用について、要点を記憶し、記載できる。  [授業形態] 科目の総復習を行って、試験対策を行う。  [備考] 鍼灸技術学の要点を理解し、記憶し記載できる。</p> <p>14回目  総括2（鍼灸技術学）  [到達目標]  [授業形態] 演習（筆記試験の評価を行い、その後、解説を行う。）  [備考] 鍼灸技術学の要点を理解し、記憶し記載できる。</p> <p>15回目  総括3（鍼灸技術学）  [到達目標]  [授業形態] 演習（筆記試験の評価を行い、その後、解説を行う。）  [備考] 鍼灸技術学の要点を理解し、記憶し記載できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	（準備学習等）について ・教科書を熟読した上での受講が望ましい（予習30分）。講義後は配布資料等も含めて復習し（復習30分）、不明な点は翌週の講義前後の時間を利用して教員に質問し確認する。 ・「鍼灸術の起源と鍼器具の変遷」、「現代の鍼と現行刺鍼手技」、「衛生的な鍼施術の手順」、「鍼灸術の過誤と副作用」、「灸療法の起源と艾の特徴」、「現代灸法」、「灸施術の過誤と副作用」についてまとめ、覚える。
教科書	・『はりきゅう理論』教科書執筆小委員会著（医道の日本社）
参考書	・『鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー』川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版） ・『図解鍼灸臨床手技マニュアル』尾崎昭弘（医歯薬出版）
成績評価	評価方法：定期試験（筆記試験）60点以上で合格とする。 筆記試験は規定の出席日数に達することが必要（15回の3/5以上）。 追再試験：追再試験を実施する際に、課題、補習を行う場合は、必ず指示に従うこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：齊藤真吾 研究室：鍼灸センター2階 メールアドレス：s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 12:40-13:20、16：30-17：00
備考	① 実務経験 齊藤真吾 はり師きゅう師、鍼灸学（博士）、附属鍼灸センターでの治療 ② アクティブラーニング：毎回、授業の後半に小テストを行い、その解答を次週に解説し、その正誤を自ら確認して復習してもらう。 ③ クラブルームを使用し、デジタルデータの共有、小テストを実施する。
	ディプロマポリシーとの関連：○-1 科目ナンバー：SS-1-AM4-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、鶴浩幸、大場美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>入門はり技術学実習では、鍼の基本的な技術と衛生的で安全な技術の習得をはかりながら、臨床への架け橋となるべき知識と技術を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、日常臨床で使用する基本的な刺鍼手技を習得し、基本的な刺鍼法が一定時間内にできるようにするため、鍼の基本的な扱いから始め、片手挿管、刺鍼練習台での刺入の練習、17術の習得、自分の身体への刺鍼練習を行い、最終的には他者への刺鍼を安全にできるところまでを目標とする。</p> <p>また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 基本手技の再確認・刺鍼における注意</p> <p>【到達目標】          鍼施術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。          実習室の使い方、基本的ルールを理解し実践できる。          刺鍼の基本手技と手順を理解できる。          安全に刺鍼を行うための注意点を確認する。          両手挿管ができる。          実習後の後片付けができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>2回目 手洗い・消毒・鍼の過誤・鍼の安全性</p> <p>【到達目標】          鍼治療に必要な衛生概念、および鍼の安全性を確認する。          安全に刺鍼を行うための注意点を再確認し、鍼治療の過誤事例からその危険性を認識できる。          両手挿管ができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>3回目 基本的な刺鍼技術1</p> <p>【到達目標】          刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入を行うことができる。          片手挿管ができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>4回目 基本的な刺鍼技術2</p> <p>【到達目標】          刺鍼練習台を使い、単刺術による直刺刺入を行うことができる。          一定の刺入深度で鍼を刺入することができる。          片手挿管ができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>5回目 基本的な刺鍼技術3</p> <p>【到達目標】          刺鍼練習台を使い、旋撚法と送り込み法による直刺刺入を行うことができる。          片手挿管ができる。          一定の刺入深度、角度での刺鍼ができる。          単刺術による斜刺刺入の練習を行うことができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>6回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術1</p> <p>【到達目標】          自分の身体に対して安全に刺鍼（単刺術・旋撚術）ができる。          身体刺鍼に際しての消毒法・清潔操作ができる。          一定の刺入深度で刺鍼ができる。          材質、太さ、長さの異なる鍼での刺鍼感覚の違いを体験・観察できる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>7回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術2、鍼の十七術の中で雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術の手法を学ぶ</p> <p>【到達目標】          自分の身体に対して安全に刺鍼（雀啄術、間欠術、屋漏術、随鍼術、振せん術）ができる。          一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。          【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う          【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>8回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術3、鍼の十七術の中で置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼術の手法を学ぶ</p> <p>【到達目標】          自分の身体に対して安全に刺鍼（置鍼術、旋撚術、回旋術、乱鍼術、副刺激術、示指打法、随鍼</p>



	<p>術)ができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>9回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術4、鍼の十七術の中で内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法の手法を学ぶ 【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼（内調術、細指術、管散術、刺鍼転向法、刺鍼転移法）ができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>10回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術4、鍼の十七術の復習1 【到達目標】 自分の身体に対して安全に刺鍼ができる。 直刺刺入と斜刺刺入を行うことができる。 一定の刺入深度での刺鍼を行うことができる。 十七術ができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>11回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術5、鍼の十七術の復習2 【到達目標】 他者の身体に対して安全に刺鍼（単刺術・旋撚術）ができる 他者の身体に対して安全に直刺刺入と斜刺刺入を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>12回目 身体への刺鍼・安全な刺鍼技術6、鍼の十七術の復習3 【到達目標】 他者の身体に対して安全に刺鍼（置鍼術、雀啄術）ができる 他者の身体に対して安全に直刺刺入と斜刺刺入を行うことができる。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>13回目 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価1 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、刺鍼深度、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 他者の身体に対して安全に刺鍼することができる。 【授業形態】実習/対面、1～12回の授業で習得した基本的な鍼の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>14回目 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価2 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、刺鍼深度、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 他者の身体に対して安全に刺鍼することができる。 【授業形態】実習/対面、1～12回の授業で習得した基本的な鍼の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>15回目 基本的な刺鍼と人体への刺鍼の総復習及び評価3 【到達目標】 基本的な刺鍼技術（片手挿管、基本刺鍼手技、刺鍼深度、鍼の十七術、衛生的操作など）ができる。 他者の身体に対して安全に刺鍼することができる。 【授業形態】実習/対面、1～12回の授業で習得した基本的な鍼の技術の評価し、フィードバックを行う 【備考】刺鍼手順についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各実習につきテキスト及び鍼を用いた予習（30分）と復習（30分）を行うこと。 鍼の手技に関する動画をグーグルクラスルームに公開するので、予習や復習に活用すること。
教科書	『 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たした者に対して評価を行う。 片手挿管（10回/1分）と刺鍼の実技（17術、直刺、斜刺、横刺）を行い、秀・優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従うこと。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメールもしくはメリーで時間調整をお願いします)</p> <p>担当教員名 : 鶴浩幸 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>

	担当教員名 : 大場美穂 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : @meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は刺鍼を行うに適したものであること。 サンドルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：刺鍼手技が適切に行えているのかを担当教員が評価し、随時フィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5 科目ナンバー：SS-1-AM5-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
吉田行宏、鶴浩幸、大場美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL:実習	
添付ファイル			

授業目標	基礎はり技術学実習では、常用穴に対する身体各部への刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解する。 その上で、入門はり技術学実習で習得した基本的鍼技術を応用して、他者に対する身体各部への安全かつ衛生的な鍼施術を行える技術を修得することを目標とする。基本的鍼技術を用いて、鍼灸臨床に用いる代表的な身体各部に安全かつ衛生的な鍼技術を行うことができるようになる。また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようになる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、衛生的刺鍼技術を習得、他者への身体刺鍼（下腿） [到達目標] 基礎はり技術学実習について理解する。 人体への刺鍼に必要な衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 [授業形態]実習/対面 ペアの学生に対して、指示した下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習：入門はり技術学実習で学んだ鍼技術を確認する。 復習：衛生的刺鍼技術の流れを確認する。</p> <p>2回目 他者への身体刺鍼（下肢1） [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 ペアの学生に対して、指示した下肢前面の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [授業形態]実習/対面 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習・復習：下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>3回目 他者への身体刺鍼（下肢2） [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 ペアの学生に対して、指示した下肢後面の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [授業形態]実習/対面 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習・復習：下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>4回目 他者への身体刺鍼（上肢1） [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 ペアの学生に対して、指示した上肢後面の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [授業形態]実習/対面 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習・復習：上肢経穴の取穴や上肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>5回目 他者への身体刺鍼（上肢2） [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 ペアの学生に対して、指示した上肢前面の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [授業形態]実習/対面 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習・復習：上肢経穴の取穴や上肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>6回目 他者への身体刺鍼（頸部および肩部） [到達目標] 衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。 ペアの学生に対して、指示した頸部、肩部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。 [授業形態]実習/対面 [備考] 鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。 予習・復習：頸部、肩部経穴の取穴や頸部、肩部への刺鍼の流れを確認する。</p>

7回目	<p>他者への身体刺鍼（肩背部）          頸部、肩部〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、指示した肩背部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：肩背部経穴の取穴や肩背部への刺鍼の流れを確認する。</p>
8回目	<p>他者への身体刺鍼（腰背部）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、指示した腰背部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：腰背部経穴の取穴や腰背部への刺鍼の流れを確認する。</p>
9回目	<p>他者への身体刺鍼（腹部）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、指示した腹部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：腹部経穴の取穴や腹部への刺鍼の流れを確認する。</p>
10回目	<p>他者への身体刺鍼（頭部および顔面部）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、指示した頭部、顔面部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：頭部、顔面部経穴の取穴や頭部、顔面部への刺鍼の流れを確認する。</p>
11回目	<p>他者への身体刺鍼の復習（上肢・下肢）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、基礎はり技術学実習で学んだ上肢・下肢の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：上肢・下肢の経穴の取穴や上肢・下肢への刺鍼の流れを確認する。</p>
12回目	<p>他者への身体刺鍼の復習（頭部・肩部・背部・腰部・腹部）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、基礎はり技術学実習で学んだ頭部・肩部・背部・腰部・腹部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：頸部・肩部・背部・腰部・腹部経穴の取穴や頭部・肩部・背部・腰部・腹部への刺鍼の流れを確認する。</p>
13回目	<p>他者への身体刺鍼の復習（頭部および顔面部）          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、基礎はり技術学実習で学んだ頭部および顔面部の経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：頭部および顔面部の経穴の取穴や頭部および顔面部への刺鍼の流れを確認する。</p>
14回目	<p>まとめ          〔到達目標〕          衛生的刺鍼技術（手洗い、手指消毒、患部消毒などを含んだ一連の刺鍼技術）を身につける。          ペアの学生に対して、基礎はり技術学実習で学んだ全ての経穴を取穴し、安全かつ衛生的な手技で目的の深度と角度で刺入ができる。          [授業形態]実習/対面          [備考]          鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行う。また後片付けができる。          予習・復習：基礎はり技術学で学んだ各部位への刺鍼の流れを確認する。</p>
15回目	<p>人体への刺鍼の評価2          〔到達目標〕          人体各部位へ安全かつ衛生的な刺鍼が行える。          [授業形態]          実習/対面、1～14回目の授業で習得した基本的な鍼の技術を評価し、フィードバックを行う。          [備考]          鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。</p>

	予習・復習：1～14回の授業で学んだ経穴の取穴や刺鍼の流れを確認する。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布教材(プリント)及び教科書による予習・復習、また自己に対する技術トレーニングを積み(予習・復習各30分)、授業に臨むこと。学習内容で不明な点があれば教員に積極的に質問し、なるべく授業時間内に解決すること。 資料や実技に関する動画をグーグルクラスルームに公開するので、予習や復習に活用すること。
教科書	作成した印刷教材(プリント)を配布する。 「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」 尾崎 昭弘著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	「鍼灸医療安全ガイドライン」 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 (医歯薬出版株式会社)
成績評価	出席日数(4/5以上)を満たしたものに対して評価を実施する。 評価は片手挿管(10回/1分)と人体への刺鍼を行う。 衛生操作は適切にできているか、規定通りの深さ・角度で安全な刺鍼ができているか、手順や患者(役の学生)への配慮が適切か、設定した時間内で手際よく刺鍼できているかを総合的に判断し、秀・優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度(私語やルールを守れない等)が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従うこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメリーで連絡してください) 担当教員名 : 鶴 浩之 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は刺鍼を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	吉田行宏 資格：はり師きゅう師、鍼灸学(博士) 実務経験：鍼灸臨床歴20年、教員歴12年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに学習指導を行う。  鶴浩之 鶴 浩幸：本学附属鍼灸センター、附属総合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム(老人保険施設含む)、クリニカ・ツチヤ(ポルトガル)、Sport Lisboa e Benfica(SLB、ポルトガル)、などでの実務経験(24年)をもとに指導を行う。  アクティブラーニング：授業内に自己練習として、刺鍼練習台や自らの手足を用いた刺鍼の練習、片手挿管の練習を行う。
	DPとの関連：◎-5 科目ナンバー：SS-2-AM6-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
藤井健介、大場美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>入門きゅう技術学実習では、灸の基本的な技術と安全な技術の習得をはかりながら、臨床への架け橋となるべき知識と技術を習得することを目標とする。</p> <p>具体的には、灸の基本的な扱いから始め、米粒大を安全で正確かつスピーディーに施灸できるように、まず施灸用紙で技術習得し、その後人体へ安全な施灸ができる技術を習得するところまでを目標とする。</p> <p>また、間接灸(生姜、大蒜、塩、味噌)、台座灸、温筒灸なども安全な施術ができる技術を習得する。また、鍼灸臨床の素養として、灸技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備 や後片付けを身につけることができるようにする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、基本手技の確認・施灸における注意点 【到達目標】 施灸道具の名称と使用法について理解する。 灸施術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習が行う。 実習室の使い方、基本的ルールを理解し実践できる。 施灸の基本手技と手順を理解できる。 安全に施灸を行うための注意点を確認する。 実習後の後片付けができる 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>2回目 エシュ(米粒大)の作製法 【到達目標】 エシュの作製法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。</p> <p>3回目 エシュ(米粒大)の点火法 【到達目標】エシュへの点火法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>4回目 米粒大の施灸1、間接灸(温筒灸・円筒灸・台座灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 温筒灸と円筒灸および台座灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>5回目 米粒大の施灸2、間接灸(生姜灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 生姜灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>6回目 米粒大の施灸3、間接灸(大蒜灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 大蒜灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>7回目 米粒大の施灸4、間接灸(味噌灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 味噌灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>8回目 米粒大の施灸5、間接灸(塩灸) 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 塩灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>9回目 米粒大の施灸6、間接灸(艾条灸：棒灸) 【到達目標】</p>

	<p>施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 艾条灸：棒灸の施灸法を修得する。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>10回目 米粒大の施灸7、間接灸（箱灸）、身体への施灸1 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 箱灸の施灸法を修得する。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>11回目 米粒大の施灸8、間接灸（隔物灸、知熱灸）、身体への施灸2 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 隔物灸、知熱灸灸の施灸法を修得する。 自分の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>12回目 米粒大の施灸9、身体への施灸3 【到達目標】 施灸用紙に米粒大の施灸ができる。 他者の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>13回目 基本的な施灸の総復習及び評価1 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 他者の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～12回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>14回目 基本的な施灸の総復習及び評価2 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 他者の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～12回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>15回目 基本的な施灸の総復習及び評価3 【到達目標】 基本的な施灸技術（施灸用紙への米粒大の施灸）ができる。 他者の身体に対して安全な施灸（米粒大、紫雲膏灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～12回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸（予習30分：復習30分）の課題を出すので、授業毎に1枚必ず提出すること。授業資料は事前にグーグルクラスルームに公開するので、予習を行ってください。
教科書	『 凶解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）及び施灸用紙の提出基準（毎回1枚）を満たした者に対して評価を行う。施灸用紙（米粒大30壮/5分）と施灸の実技（米粒大の大きさ、形状等）を行い、秀・優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藤井健介 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : k_fujii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 大場美穂 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。

	福井整形外科と現在明治国際医療大学附属鍼灸センターの経験を基に「入門きゅう技術学実習」を行います。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5 科目ナンバー：SS-1-AM8-RS-P-1



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
藤井健介、大場美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は1年前期開講の入門きゅう技術学実習で学んだ知識と技術を基に、患者への灸治療を想定して安全でかつ適切な刺激量とそのコントロールが行える技術の習得を目標とする。</p> <p>具体的には米粒大と半米粒大の直接灸(透熱灸・知熱灸)と間接灸(紫雲膏灸など)、大豆大の知熱灸の技術を修得することを目標とする。</p> <p>2年次に開講される応用きゅう技術学実習に向けて、難易度の高い糸状灸の技術習得も目標とする。</p> <p>具体的には人体に対する灸法を、正しい施術を用いて学生同士で実施する。</p>
授業計画	<p>第1回 灸技術の復習、人体への施灸総論</p> <p>【到達目標】 基礎きゅう技術学実習の概要を理解する。 入門きゅう技術学実習で習得した灸の基本的な施術ができる。 紫雲膏による人体施灸法を習得する。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第2回 頸肩部への施灸1</p> <p>【到達目標】 肩背部に対して安全な施灸(米粒大紫雲膏灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第3回 頸肩部への施灸2</p> <p>【到達目標】 肩背部に対して安全な施灸(米粒大紫雲膏灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第4回 肩背部への施灸1</p> <p>【到達目標】 背部に対して安全な施灸(米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第5回 肩背部への施灸2</p> <p>【到達目標】 背部に対して安全な施灸(米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第6回 背部・腰部への施灸1</p> <p>【到達目標】 腰部に対して安全な施灸(米粒大・半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第7回 背部・腰部への施灸2</p> <p>【到達目標】 腰部に対して安全な施灸(米粒大・半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第8回 腹部への施灸1</p> <p>【到達目標】 腹部に対して安全な施灸(半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸、大豆大知熱灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第9回 腹部への施灸2</p> <p>【到達目標】 腹部に対して安全な施灸(半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸、大豆大知熱灸)ができる。</p> <p>【授業形態】実習/対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック(口答)を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第10回 四肢への施灸1</p>

	<p>【到達目標】 四肢に対して安全な施灸（半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第11回 四肢への施灸2</p> <p>【到達目標】 四肢に対して安全な施灸（半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第12回 肩背部・背部・腰部への施灸の復習</p> <p>【到達目標】 肩背部・背部・腰部へ安全な施灸（半米粒大紫雲膏灸、米粒大8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第13回 腰部、腹部、四肢への施灸の復習</p> <p>【到達目標】 腰部、腹部、四肢へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>【到達目標】 基礎きゅう技術学実習で習得した人体各部位へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 学生ごとの習熟状況を判断してフィードバック（口答）を行う 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>第15回 人体への施灸の評価</p> <p>【到達目標】 人体各部位へ安全な施灸（米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～14回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバック（口答）を行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸（予習30分：復習30分）の課題を出すので、授業毎に1枚必ず提出すること。授業資料は事前にグーグルクラスルームに公開するので、予習を行ってください。
教科書	『 凶解 鍼灸臨床手技マニュアル 』 尾崎 昭弘著 （医歯薬出版株式会社）
参考書	『 鍼灸医療安全ガイドライン 』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 （医歯薬出版株式会社） 『 はりきゅう実技 基礎編 第2版 』 教科書執筆小委員会（医道の日本社）
成績評価	出席日数（4/5以上）を満たし、施灸用紙の課題提出をすべて行ったものに対して評価を実施する。評価は施灸用紙（35壮/5分）と人体への施灸（大豆大知熱灸、米粒大8分灸、半米粒大紫雲膏灸）を行う。規定通りの大きさ・熱量で安全な施灸ができていないか、手順や患者（役の学生）への配慮が適切か、設定した時間内で手際よく施灸ができていないかを総合的に判断し、秀・優・良・可・不可で評価する。安全に実習を行えない者、実習態度（私語やルールを守れない等）が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藤井健介 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : k_fujii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 大場美穂 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : オフィスアワー : 随時
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	福井整形外科と現在明治国際医療大学附属鍼灸センターの経験を基に「入門きゅう技術学実習」を行います。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5 科目ナンバー：SS-2-AM9-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	2	必修
担当教員			
廣 正基、鶴 浩幸			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	本科目では、鍼灸師が診断や治療の際に使用する経絡や経穴を学習します。「経絡経穴学」は鍼灸学の重要な柱の一つです。1年次では「経絡経穴学」の内、経絡と経穴の概要、督脈、任脈、手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経までを学びます。経絡と経穴の概要および解剖学的要点を踏まえて経穴の名称と部位を理解することを目標とします。		
授業計画	第1講	ガイダンス 経穴の紹介 [到達目標] 1. 経穴の名称を知る。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p2-9を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 *アクティブラーニングとしてディスカッションを行う。	
	第2講	経絡と経穴の概要と骨度法 [到達目標] 1. 経絡と経穴の概要が説明できる。 2. 骨度法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p2-9を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。	
	第3講	第1・2講のまとめ [到達目標] 1. 第1・2講の内容が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p2-9を事前に読んでおく。 2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。 ※第1・2講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。	
	第4講	督脈① 背部 [到達目標] 1. 督脈の流注・取穴法（背部）が説明できる。 2. 督脈（背部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p26-33を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。	
	第5講	督脈② 頭頸部 [到達目標] 1. 督脈の流注・取穴法（頭頸部）が説明できる。 2. 督脈（頭頸部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p26-39を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。	
	第6講	任脈① 腹部 [到達目標] 1. 任脈の流注・取穴法（腹部）が説明できる。 2. 任脈（腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p40-47を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。	
	第7講	任脈② 胸部 [到達目標] 1. 任脈の流注・取穴法（胸部）が説明できる。 2. 任脈（胸部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p40-51を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。	
	第8講	第4-7講のまとめ [到達目標] 1. 第4-7講の内容が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p26-51を事前に読んでおく。 2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。	

第9講	<p>※第4-7講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>手の太陰肺経① 上腕部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の太陰肺経の流注・取穴法（上腕部）が説明できる。</li> <li>2. 手の太陰肺経（上腕部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p52-55を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第10講	<p>手の太陰肺経② 前腕部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の太陰肺経の流注・取穴法（前腕部）が説明できる。</li> <li>2. 手の太陰肺経（前腕部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p52-59を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第11講	<p>手の陽明大腸経① 前腕部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の陽明大腸経の流注・取穴法（前腕部）が説明できる。</li> <li>2. 手の陽明大腸経（前腕部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p60-67を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第12講	<p>手の陽明大腸経② 上腕・頭頸部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の陽明大腸経の流注・取穴法（上腕・頭頸部）が説明できる。</li> <li>2. 手の陽明大腸経（上腕・頭頸部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p60-71を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第13講	<p>第9-12講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第9-12講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p52-71を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>※第9-12講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第14講	<p>前半の総括（評価を含む）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1-13講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第1-13講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>*理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第15講	<p>要穴①</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床でよく用いる要穴が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p10-15を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>*アクティブラーニングとして要穴の位置を学生同士で確認する。</p>
第16講	<p>前期まとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1-14講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第1-14講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：授業の内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第17講	<p>足の陽明胃経① 頭頸部・胸腹部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足の陽明胃経の流注・取穴法（頭頸部・胸腹部）が説明できる。</li> <li>2. 足の陽明胃経（頭頸部・胸腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p72-85を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第18講	<p>足の陽明胃経② 下肢</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足の陽明胃経の流注・取穴法（下肢）が説明できる。</li> <li>2. 足の陽明胃経（下肢）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p72-91を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第19講	<p>足の太陰脾経① 下肢</p>

	<p>[到達目標]  1. 足の太陰脾経の流注・取穴法（下肢）が説明できる。  2. 足の太陰脾経（下肢）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p92-99を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第20講 足の太陰脾経② 胸腹部</p>
	<p>[到達目標]  1. 足の太陰脾経の流注・取穴法（胸腹部）が説明できる。  2. 足の太陰脾経（胸腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p92-103を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第21講 第17-20講のまとめ</p>
	<p>[到達目標]  1. 第17-20講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p72-103を事前に読んでおく。  2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>※第17-20講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第22講 手の少陰心経</p>
	<p>[到達目標]  1. 手の少陰心経の流注・取穴法が説明できる。  2. 手の少陰心経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p104-109を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第23講 手の太陽小腸経</p>
	<p>[到達目標]  1. 手の太陽小腸経の流注・取穴法が説明できる。  2. 手の太陽小腸経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p110-119を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第24講 第22-23講のまとめ</p>
	<p>[到達目標]  1. 第22-23講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p104-119を事前に読んでおく。  2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>※第22-23講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第25講 足の太陽膀胱経① 背部（第一行線）</p>
	<p>[到達目標]  1. 足の太陽膀胱経の流注・取穴法（背部（第一行線））が説明できる。  2. 足の太陽膀胱経（背部（第一行線））の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p120、126-135を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第26講 足の太陽膀胱経② 背部（第二行線）</p>
	<p>[到達目標]  1. 足の太陽膀胱経の流注・取穴法（背部（第二行線））が説明できる。  2. 足の太陽膀胱経（背部（第二行線））の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p120、126-135、138-143を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第27講 第25-26講のまとめ</p>
	<p>[到達目標]  1. 第25-26講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：教科書p120、126-135、138-143を事前に読んでおく。  2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>※第25-26講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第28講 後期まとめ</p>
	<p>[到達目標]  1. 第17-27講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]  1. 予習：第17-27講の内容を復習しておく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第29講 総括（評価を含む）</p>
	<p>[到達目標]  1. 第17-28講の内容が説明できる。</p>

	<p>[授業時間外学習]</p> <p>1. 予習：第17-28講の内容を復習しておく。</p> <p>2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>*理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>要穴②</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 臨床でよく用いる要穴が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1. 予習：教科書p10-15を事前に読んでおく。</p> <p>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>*アクティブラーニングとして要穴の位置を学生同士で確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行うこと。</p> <p>講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと（30分）。</p> <p>授業内容を学習用動画をGoogle Classroomに公開するので、配布プリントやノートにまとめて復習を行うこと（30分）。</p>
教科書	<p>「新版 経絡経穴概論」（社）東洋療法学校協会編 医道の日本社</p> <p>配布プリント</p>
参考書	<p>「鍼灸学〔経穴篇〕改訂版」日中共同編集 東洋学術出版</p>
成績評価	<p>1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。</p> <p>2. 評価：授業内小テスト（計30%）と中間試験と期末試験結果の平均（70%）を総合して100%で評価する。</p> <p>3. 単位認定：評価点が60%以上の者に評価を認定する。</p> <p>*小テストの成績不良の場合は、別に設定する必ず補講に参加すること。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：廣 正基          教員室：鍼灸センター2階教員室          メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：火～金</p> <p>担当教員：鶴 浩幸          教員室：鍼灸センター2階教員室          メールアドレス：h_tsuru@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員：大場美穂          教員室：鍼灸センター2階教員室          メールアドレス：m_ohba@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>廣 正基          本学附属鍼灸センター、附属京都駅前鍼灸センター、附属病院、附属統合医療センター、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院などでの実務経験（35年）をもとに指導を行う。</p> <p>鶴 浩幸          本学附属鍼灸センター、附属統合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、クリニカ・ツチヤ（ペインクリニック、ポルトガル）、Sport Lisboa e Benfica（SLB、ポルトガル）、などでの実務経験（24年）をもとに指導を行う。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】          【この授業の科目ナンバー：SS-1-AM12-RS-L-1】</p>
	<p>この授業は経絡経穴学実習Ⅰ（1年生通年開講）、経絡経穴学Ⅱ（2年生通年開講）、経絡経穴学実習Ⅱ（2年生通年開講）、臨床経穴学（3年生後期開講）の4科目と教育内容が関連しています。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
廣 正基、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では、鍼灸師が診断や治療の際に使用する経絡や経穴を学習します。「経絡経穴学 I」で学習した内容を踏まえて、実際に人体で経穴の部位を学びます。経穴の所属経脈と部位を理解し、取穴する技術を身に付けることを目標とします。
授業計画	<p>第1講 骨度法</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨度法が説明できる。</li> <li>2. 骨度法に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p9と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第2講 督脈</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 督脈の走行が説明できる。</li> <li>2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p26-39と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第3講 任脈</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 任脈の走行が説明できる。</li> <li>2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p40-51と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第4講 手の太陰肺経</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の太陰肺経の走行が説明できる。</li> <li>2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p52-59と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第5講 手の陽明大腸経</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手の陽明大腸経の走行が説明できる。</li> <li>2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p60-71と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第6講 第1-5講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1-5講の内容が説明できる。</li> <li>2. 第1-5講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第1-5講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol> <p>第7講 前半総括（評価含む）</p> <p>[到達目標]</p>

	<p>1. 第1-6講の内容が説明できる。  2. 第1-6講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：第1-6講の内容を復習しておく。  2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。  *理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第8講	<p>要穴  [到達目標]  1. 臨床でよく用いる要穴が説明できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：教科書p10-15を事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>
第9講	<p>足の陽明胃経  [到達目標]  1. 足の陽明胃経の走行が説明できる。  2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：教科書p72-91と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第10講	<p>足の太陰脾経  [到達目標]  1. 足の太陰脾経の走行が説明できる。  2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：教科書p92-103と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第11講	<p>第9-10講のまとめ  [到達目標]  1. 第9-10講の内容が説明できる。  2. 第9-10講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：第9-10講の内容を復習しておく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第12講	<p>手の少陰心経・手の太陽小腸経  [到達目標]  1. 手の少陰心経・手の太陽小腸経の走行が説明できる。  2. 重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：教科書p104-119と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第13講	<p>足の太陽膀胱経  [到達目標]  1. 足の太陽膀胱経の走行が説明できる。  2. 背部の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：教科書p120-149と経絡経穴学 I で配布したプリントを事前に読んでおく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第14講	<p>第12-13講のまとめ  [到達目標]  1. 第12-13講の内容が説明できる。  2. 第12-13講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。  [授業時間外学習]  1. 予習：第12-13講の内容を復習しておく。  2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。  [授業形態] アクティブラーニング  1. 教員のデモンストレーション  2. 学生同士でトレーニング</p>
第15講	<p>後半総括（評価を含む）  [到達目標]  1. 第9-14講の内容が説明できる。  2. 第9-14講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。  [授業時間外学習]</p>



	<p>1. 予習：第9-14講の内容を復習しておく。  2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。  *理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと（30分）。授業内容を学習用動画をGoogleクラスルームに公開するので、配布プリントやノートにまとめて復習を行うこと（30分）。
教科書	「新版 経絡経穴概論」（社）東洋療法学校協会編 医道の日本社 配布プリント（経絡経穴学Ⅰも共通）
参考書	「鍼灸学〔経穴篇〕改訂版」日中共同編集 東洋学術出版
成績評価	<p>1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。  2. 評価：中間試験と期末試験結果を平均して100%で評価する。  3. 単位認定：評価点が60%以上の者に評価を認定する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：廣 正基  教員室：鍼灸センター2階教員室  メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：火～金</p> <p>担当教員：藤井 健介  教員室：鍼灸センター2階教員室  メールアドレス：k_fujii@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>廣 正基  本学附属鍼灸センター、附属京都駅前鍼灸センター、附属病院、附属統合医療センター、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院などでの実務経験（35年）をもとに指導を行う。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】  【この授業の科目ナンバー：SS-2-AM14-RS-P-1】</p>
	この授業は経絡経穴学Ⅰ（1年生通年開講）、経絡経穴学Ⅱ（2年生通年開講）、経絡経穴学実習Ⅱ（2年生通年開講）、臨床経穴学（3年生後期開講）の4科目と教育内容が関連しています。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
鶴 浩幸、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習 AL：対話および実習	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本科目では、鍼灸触察解剖として体表から特定の骨、筋肉、血管、神経等の触察ができるように実技によって学習する。具体的には、鍼灸臨床で重要かつ必要な骨、筋肉、血管、神経等を精選し、それらの組織が確実に触察できるように実習を通して触察技術を習得する。鍼灸臨床は体表を診察・治療の場とすることから、体表からみた局所解剖の知識と触察は、臨床技術を向上させる上での基礎となることを理解させる。
授業計画	<p>1回目 身体の部位の名称1 身体の部位の名称や関節の動き、触察方法を理解する。特に、臨床で必要となる骨指標を中心に理解する。</p> <p>2回目 身体の部位の名称2 身体の部位の名称や関節の動き、触察方法を理解する。特に、臨床で必要となる動脈拍動部を中心に理解する。</p> <p>3回目 頭部・顔面・頸部 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する。</p> <p>4回目 復習1（アクティブラーニング） 関節の動き、骨指標を理解する。また、頭部・顔面・頸部のフィードバックを行った後に、アクティブラーニングにて学習する。</p> <p>5回目 上肢帯・上肢1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>6回目 上肢帯・上肢2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>7回目 体幹（胸腹部） 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>8回目 復習2（アクティブラーニング）および中間評価 第1回から8回までのフィードバックを行った後、アクティブラーニングにて学習する。その後、中間評価を行う。</p> <p>9回目 体幹（背部） 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>10回目 下肢1 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>11回目 下肢2 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>12回目 下肢3 1. 参考書・解剖学の本を参考に、実際の筋を触察するとともにペンで印を付ける。また、主要筋の作用・起始・停止を理解する。 2. わからない触察法を講義前にチェックし、講義中に確認する</p> <p>13回目 復習3（アクティブラーニング） 第1回から12回までの復習と評価への対策を理解する。</p> <p>14回目 復習4（アクティブラーニング） 第1回から12回までの復習と評価への対策を理解する。</p> <p>15回目 期末評価 本科目の期末評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術」にて次回実習分を準備学習（30分） 「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術」にて既修得点を復習（30分）
教科書	・改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 上肢 青木隆明 監修メジカルビュー社 ・改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触察技術 下肢・体幹 青木隆明 監修メジカルビュー社

	・「触察解剖学」の配布資料
参考書	「改訂版 ボディ・ナビゲーション」 医道の日本社 「ID触診術」 三輪書店 「骨格筋の形と触察法」 大峰閣
成績評価	1. 授業回数の4/5以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価は授業内中間評価および授業内期末実技試験にて総合的に判断して行う（60点以上が合格）。なお、評価は期末実技試験により重きを置く。 3. 再試の対象となった場合には補講などを実施することがあるので、単位認定者の指示に従うこと。
担当教員の基本情報	担当教員 : 鶴 浩幸 教員室 : 附属病院2階鍼灸教員室 メールアドレス: h_tsuru@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時  担当教員 : 藤井 健介 教員室 : 附属病院2階鍼灸教員室 メールアドレス: k_fujii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時
備考	1. 実務経験 鶴 浩幸: 25年の教員経験に加えて、本学附属鍼灸センター、附属統合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、クリニカ・ツチャ（ペイン・クリニック、ポルトガル）、Sport Lisboa e Benfica（スポーツ・クリニック、SLB、ポルトガル）、ERISA大学（ポルトガル）、米国M. C. O. M. などでの実務経験（25年）をもとに指導を行う。  藤井 健介: 福井整形外科勤務を経て、現在は本学附属鍼灸センターで鍼灸臨床業務に従事する。  本授業ではアクティブラーニングがあります。  2. 科目ナンバー SS-2-AM17-RS-S-1  3. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1
	本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。 授業資料の一部はGoogle Classroomに公開します。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1	1	必修
担当教員			
廣 正基、田口 玲奈、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	1年次から臨床現場を体験することにより、医療人として必要な環境整備や現代社会・現代医療における鍼灸師の役割を理解し、将来の自分像をイメージするきっかけを作ること为目标とする。また、患者とコミュニケーションをとることを目標とする。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 【到達目標】 1. 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。 2. 鍼灸センターにおける鍼灸臨床の全体像を理解し、鍼灸師としての仕事をイメージできる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>2, 3回目 臨床実習 (第1クール) 【到達目標】 1. 鍼灸センターの概要および、鍼灸臨床全体の流れを理解する。 2. 清潔に手洗いができる。 3. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。 4. 患者対応が適切にできる。 5. 鍼灸センターにおける鍼灸臨床の全体像を理解し、鍼灸師としての仕事をイメージできる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>4, 5回目 臨床実習 (第2クール) 【到達目標】 1. 鍼灸臨床全体の流れを理解する。 2. 清潔に手洗いができる。 3. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。 4. 患者対応が適切にできる。 5. 患者とコミュニケーションを取り、インタビューを実施することができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>6, 7回目 実技実習 【到達目標】 1. 臨床実習で行った患者のインタビューについて振り返り、各自、まとめることができる。 2. まとめたインタビューを発表し(グループ学習)、患者のニーズを具体的に述べるができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(グループワーク実習)</p> <p>8～13回目 臨床実習 (第3クール) 【到達目標】 1. 患者対応が適切にできる 2. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。 3. 患者とコミュニケーションを取り、インタビューを実施することができる。 4. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート(患者情報)をまとめることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>14～17回目 臨床実習 (第4クール) 【到達目標】 1. 患者対応が適切にできる。 2. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。 3. 経絡経穴学や東洋医学概論、解剖学(触察解剖含む)、生理学で学んだ知識を患者に応用できる。 4. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート(患者情報)をまとめることができる。</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>18～21回目 臨床実習 (第5クール) 【到達目標】 1. 患者対応が適切にできる。 2. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。 3. 経絡経穴学や東洋医学概論、解剖学(触察解剖含む)、生理学で学んだ知識を患者に応用できる。 4. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート(患者情報)をまとめることができる。</p>

	<p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p> <p>22, 23回目 臨床実習 (第6クール)</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 環境整備(ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等)が適切にできる。</li> <li>3. 経絡経穴や東洋医学概論、解剖学(触察解剖含む)、生理学で学んだ知識を患者に応用できる。</li> <li>4. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート(患者情報)をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング(実習)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。</li> <li>・ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。</li> <li>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。</li> <li>・調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。本実習における予習・復習(60分)</li> <li>・アクティブラーニングとして、実習後振り返りを行い、インタビューをまとめる。</li> </ul>
教科書	指定無し
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著 (医歯薬出版社)</li> <li>・「鍼灸医療安全対策マニュアル」 (医歯薬出版社)</li> <li>・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会 (医道の日本社)</li> <li>・「新版 東洋医学概論」東洋療法学校協会 (医道の日本社)</li> <li>・「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」東洋療法学校協会 (南江堂)</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版」 (文光堂)</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版」 (文光堂)</li> <li>・「いちばんやさしい痛みの治療がわかる本」 (医道の日本社)</li> </ul>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価(60%)およびポートフォリオ評価(40%)で評価する(60点以上を合格とする)。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣正基 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～金</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 藤井健介 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : k_fujii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>実習担当教員 月 : 和辻、鶴、谷口 火 : 伊藤、藤井、辰巳 水 : 山崎、田口辰、辰巳 木 : 吉田、齊藤、辰巳 金 : 田口玲、廣、辰巳</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院、京都駅前鍼灸院、統合医療センター、さららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり。</li> <li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・グループワークにて実習で学んだ内容及び患者のニーズについて議論し、その内容を発表する。発表内容に関してフィードバックする。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4、○-3</li> <li>・科目ナンバー:SS-1-AM45-RS-P-1</li> </ul>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>健康とは心身共に健やかで活気に満ちた状態であり、複雑な現代社会で生活を送るために、健康は基本的に自分で管理し守るものである。近年、社会人の健康管理への関心も高く、健康に関する情報が錯綜する今、健康を維持・増進するための正しい知識を身に付け、自分で健康づくりの施策ができるようその概要について論じる。この授業は、健康の三原則（栄養・運動・休養）について学び、健康と栄養のかかわりを理解し、健康に関連する生活習慣病を予防するための身体活動の質と量を、講義の中で実践する体力測定から評価する。そこからさらに発展させ、健康づくりと運動プログラミングの要点を修得する。また、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上を本時の中で目指すことを目標とする。</p>		
授業計画	第1講	健康づくりの施策概論（健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェック） [到達目標] 健康と生活習慣病とその予防、メディカルチェックについて理解できる [授業形態] 演習 予習：健康と生活習慣について考える（45分） 復習：健康と生活習慣について説明できるように、学んだことを理解しておく（45分）	
	第2講	健康と飲酒・喫煙 [到達目標] お酒と健康的な付き合い方。喫煙は「百害あって一利なし」を科学的に理解できる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：健康と飲酒・喫煙の影響について考える（45分） 復習：健康と飲酒・喫煙について学んだことを理解しておく（45分）	
	第3講	健康の概念、我が国の現状と健康づくり [到達目標] 健康の概念、我が国の現状と健康づくりについて具体的に説明できる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：健康とは何か考えてくる（45分） 復習：健康と体力の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	
	第4講	健康づくりと運動プログラム [到達目標] 目標設定、運動のプログラミング（運動処方）ができる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：健康づくりとは何か考えてくる（45分） 復習：健康づくりで学んだ内容を日々の生活習慣に取り入れ実践する（45分）	
	第5講	「肥満とやせの評価」 [到達目標] 肥満とやせの判定について関心を持つことができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：BMI とその他の体脂肪量測定方法について調べておく（45分） 復習：肥満とやせの評価で学んだことを理解しておく（45分）	
	第6講	体力の特性 [到達目標] 「行動体力」と「防衛体力」を兼ね備えた基礎体力について考えることができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：体力とは何か考えてくる（45分） 復習：体力について学んだことを理解しておく（45分）	
	第7講	体力測定と体力の評価 [到達目標] 新体力測定と体力の評価について学んだことを理解できる [授業形態] 演習 予習：新体力テストの測定方法とその評価について調べておく（45分） 復習：新体力測定と体力の評価について学んだことを復習しておく（45分）	
	第8講	健康づくりと運動プログラム（運動プログラムの基本的考え方、身体活動指針・指針の具体例） [到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる [授業形態] 演習（グループワークをする） 予習：今まで行ってきたトレーニング内容を振り返り、気をつけていたことをまとめておく（45分） 復習：トレーニング効果について復習しておく（45分）	
	第9講	体力の加齢変化 [到達目標] 体力の発育・発達と、加齢による体力の衰えについて解析できる [授業形態] 演習 予習：体力があるとはどのようなことか、またどのような方法で測定できるか考える（45分） 復習：自分の体力をさまざまな観点から評価してみる（45分）	
	第10講	フィットネスと健康管理（フィットネスと体調、体調チェックの意義と方法） [到達目標] フィットネスと体調について関心を持つことができる [授業形態] 演習（ディスカッションをする） 予習：体調チェックの意義と方法について考えてくる（45分） 復習：体調チェックの意義と方法について具体的に説明できるように学習した内容を見直す（45分）	

	<p>第11講 運動と健康  [到達目標] 運動と健康の関係について具体的に説明できる  [授業形態] 演習 (ディスカッションをする)  予習: 運動は健康に良いといわれているが、科学的な根拠を考えておく (45分)  復習: 健康と運動の関係について具体的に説明できるように学習した内容を見直す (45分)</p> <p>第12講 スポーツに関する医科学的知識「栄養 (食事)・運動・休養」のバランス  [到達目標] 栄養・運動・休養、この順番の重要性について学習した内容を理解できる  [授業形態] 演習  予習: 栄養・運動・休養について考えておく (45分)  復習: 栄養・運動・休養のバランスについて学習した内容を復習しておく (45分)</p> <p>第13講 スポーツに関する医科学的知識 (フィットネスと健康管理)  [到達目標] 体調チェックの意義と方法について理解できる  [授業形態] 演習  予習: 体調チェックについて調べておく (45分)  復習: 体調チェックについて学んだことを復習しておく (45分)</p> <p>第14講 健康づくりと運動プログラム (トレーニングの原理、健康増進のための運動効果)  [到達目標] 健康増進のための運動効果、身体活動指針・指針の具体例について理解できる  [授業形態] 演習  予習: 健康のための運動について調べておく (45分)  復習: 身体活動指針について復習すること (45分)</p> <p>第15講 総括 (定期試験)  [到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる  [授業形態] 演習 (定期試験)  予習: 第1講～第14講をまとめておく (45分)  復習: 定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること (45分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	各講義項目の内容を事前学習 (予習30分) し、講義で学習した内容をまとめておく (復習30分)。自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-5, 技能・表現。
	③ 科目ナンバー : SS-1-HA3-ES-S-0。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	レクリエーションの基本は、指導者と参加者、および参加者同士の心構えを構築することや緊張をほぐすところから始まる。将来、学生が様々な場面でレクリエーションの指導者として(ここでは高齢者を対象者とした場面を想定し)それに適した「あそび」を展開できるように、本時では、先ず「あそび」を体験し、認知したことを更に深めて応用し、レクリエーションの楽しさを実体験する。本授業の目標の一つは、対象者に合わせたねらいと目的がある事を理解することである。即ち、指導者としての視点を育て、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ、課題解決能力の向上へと繋げることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 ガイダンス、体力と生活習慣について (概要：健康寿命の重要性)  [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。  [授業形態] 実習</p> <p>第2講 ウォーミングアップとクールダウン、ストレッチング  [到達目標] ウォーミングアップとクールダウンの重要性について 解説できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第3講 健康づくり運動の実際① ウォーキングとジョギング  [到達目標] ウォーキングとジョギングの方法・重要性について理解し、実践できるようになる。  [授業形態] 実習</p> <p>第4講 健康づくり運動の実際② ウォーキングとジョギング  [到達目標] 生活習慣病の予防と改善のための運動実践を体験し理解できるようにする。  [授業形態] 実習</p> <p>第5講 健康づくり運動の実際③ 健康寿命の重要性 (ウォーキングとジョギング)  [到達目標] 健康寿命の重要性について理解し、説明できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第6講 フィットネスプログラムの実際① 軽スポーツ  [到達目標] レクリエーションスポーツ (軽スポーツ①) 指導できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第7講 フィットネスプログラムの実際②軽スポーツ  [到達目標] レクリエーションスポーツ (軽スポーツ②) 指導できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第8講 フィットネスプログラムの実際③軽スポーツ  [到達目標] レクリエーションスポーツ (軽スポーツ③) できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第9講 健康づくりの運動実践体験① 運動ゲーム  [到達目標] レクリエーションスポーツ (運動ゲーム①) できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第10講 健康づくりの運動実践体験② 運動ゲーム  [到達目標] レクリエーションスポーツ (運動ゲーム②) ができるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第11講 健康づくりの運動実践体験③ 運動ゲーム  [到達目標] レクリエーションスポーツ (運動ゲーム③) ができるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第12講 健康づくりの運動実践体験④ 健康づくりのための運動プログラムの実際  [到達目標] 対象別フィットネスプログラム (中高年のフィットネスプログラム) をグループで考えて、実践できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第13講 健康づくりの運動実践体験⑤ 健康づくりのための運動プログラムの実際  [到達目標] 対象別フィットネスプログラム (高齢者のフィットネスプログラム) をグループで考えて、実践できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第14講 健康づくりの運動実践体験⑥ 運動の効果  [到達目標] 対象別フィットネスプログラム (女性のフィットネスプログラム) をグループで考えて、実践できるようになる。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>第15講 健康づくりの運動実践体験⑦ 運動の効果  [到達目標] 対象別フィットネスプログラム (子どものフィットネスプログラム) をグループで考えて、実践できるようになる。  (実習のまとめ)。 第1講～第14講を 総括。  [授業形態] 実習 (グループワークをする)</p>



授業時間外の学習 (準備学習等)について	各実技タイトルを事前学習(予習35分)し、実技で学習した内容をまとめておく(復習35分)。 資料を集め、自分のルールブックを作成する。 就こうとする職業の専門的視点から見た、「高齢者向け体力づくりトレーニングプログラム」を作成する。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度(探究心の総合評価)30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、体育館シューズ。 ② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。 ③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-5, 技能・表現。 ④ 科目コード : SS-9-HA4-ES-P-0
	④ 科目ナンバー : SS-9-HA4-ES-P-0

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>○医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を理解できるようになる。</p> <p>○医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 体育館に運動・スポーツに適した服装に着替えて室内シューズで集合してください。 ◎医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。オンデマンド授業の説明。</p> <p>2回目 運動療法1(ウォーキング・ジョギング) 体育館に集合してください。 ◎到達目標 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキング・ジョギングを体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>3回目 運動療法2(ボール運動1.) ◎到達目標 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>4回目 運動療法3(ボール運動2) 到達目標 ◎バッティング系(ノックと野球)から筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>5回目 運動療法4(手作り用具使用1) 到達目標 ◎シートウォーキングから健康づくりのための転倒予防運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>6回目 運動療法5(手作り用具使用2) 到達目標 ◎スクエアシートから転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>7回目 運動療法6(ドッジビー・輪投げ) 到達目標 ◎ドッジビー・輪投げを使用して健康づくりのための集団運動を体験理解できる。 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>8回目 運動療法7(マット運動) 到達目標 ◎マット運動から筋力・バランス運動を体験理解できる。 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>9回目 運動療法8(ミニハードル) 到達目標 ◎ミニハードル走からリズムとバランス運動を体験理解できる。 ◎卓球・ソフトバレーボールから健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>10回目 運動療法9(パターゴルフ) 到達目標 ◎パターゴルフから楽しい健康づくりのための運動を体験理解できる。 ◎集団バドミントンから体力づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>11回目 運動療法10(グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフ) 到達目標 ◎グラウンドゴルフ・ターゲットバードゴルフから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>12回目 運動療法11(ノルディックウォーキング) 到達目標 ◎ノルディックウォーキングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p>

	<p>1 3 回目 運動療法12(フロートR・ボルタリング) 到達目標 ◎フロートR(円形・三角形)とボルタリングから健康づくりのための運動を体験理解できる。 ○ソフトバレーボールゲームから楽しい集団健康運動を体験理解できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 4 回目 集団ゲーム1 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク①を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p> <p>1 5 回目 集団ゲーム2 到達目標 ◎ソフトバレーボールゲームから楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワーク②を体験できる。 アクティブラーニングの有無:あり</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	出席状況と授業の取り組み姿勢と態度、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:授業の前後
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部連藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。 【実習中の安全面を考慮し受講人数を制限します。選考については単位認定者が行います。】
	この授業のディプロマポリシーは◎-1
	SS-1-HA-ES-P-0

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義(遠隔:オンデマンド授業)	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、スポーツと社会との関係について、健康論、社会科学等の視点・論点から講義し、スポーツの社会的意義について学習する。また、スポーツと社会との関わりについて具体的な事例をあげ、スポーツ、社会、健康等の観点から考察していく。さらに、現代社会における、諸問題を理解し、ライフスタイルに適した運動・スポーツの必要性を理解し、人間性と教養を身につけ社会に貢献できる良き医療人に求められているコミュニケーション力の向上も目指すことを目標とする。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション、スポーツの歴史と概念          [到達目標] 概念、歴史、スポーツについて理解できる。          [授業形態] 講義          予習：身近にあふれているスポーツとつく言葉を集めてみる。またスポーツの歴史について考える          復習：スポーツの歴史・概念について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第2講	<p>現代社会の特徴から見たスポーツの意義と価値          [到達目標] スポーツの必要性について理解できる。          [授業形態] 講義          予習：なぜ現代社会ではスポーツの必要性が問われているのか考える          復習：スポーツの意義と価値について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第3講	<p>現場・環境に応じたコーチング（スポーツ組織のマネジメント）          [到達目標] スポーツ組織のマネジメントについて考えることができる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツ組織のマネジメントとは何か考えてくる          復習：スポーツ組織のマネジメントについて具体的に説明できるように学習した内容を見直す</p>	
	第4講	<p>総合型地域スポーツクラブの必要性和社会的意義          [到達目標] 地域スポーツクラブの必要性について解析できる。          [授業形態] 講義          予習：なぜ現代社会では地域スポーツクラブの必要性が問われているのか考える          復習：地域スポーツクラブの必要性について説明できるように、学んだことを理解しておく</p>	
	第5講	<p>コーチングを理解（スポーツのインテグリティ）          [到達目標] スポーツのインテグリティについて考えることができる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツのインテグリティとは何か考えてくる          復習：スポーツのインテグリティについて学習した内容を見直す</p>	
	第6講	<p>社会の中のスポーツ          [到達目標] スポーツの産業化、地域生活とスポーツのあり方について解析できる。          [授業形態] 講義          予習：地域生活とスポーツの関係について考える          復習：スポーツの産業化、地域生活とスポーツの関係について学習した内容を見直す</p>	
	第7講	<p>コーチングを理解（スポーツの価値を守るスポーツ権）          [到達目標] スポーツの価値を守るスポーツ権について考えることができる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツの価値を守るスポーツ権の必要性が問われているのか考える          復習：スポーツの価値を守るスポーツ権について学んだことを理解しておく</p>	
	第8講	<p>コーチングを理解（スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任）          [到達目標] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理と責任について理解できる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツ事故における危機管理体制の大切さを考える          復習：スポーツ事故におけるスポーツ指導者の危機管理体制について学んだことを理解しておく</p>	
	第9講	<p>コーチングを理解（スポーツ仲裁）          [到達目標] スポーツ仲裁について解析できる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツ仲裁について考える          復習：スポーツ仲裁について学習内容を理解しておく</p>	
	第10講	<p>コーチングを理解（スポーツ倫理）          [到達目標] スポーツ倫理について考えることができる。          [授業形態] 講義          予習：スポーツ倫理について考える          復習：スポーツ倫理について学習内容を理解しておく</p>	
	第11講	<p>暴力・ハラスメントの根絶          [到達目標] 暴力・ハラスメントの根絶について理解できる。          [授業形態] 講義          予習：暴力・ハラスメントの根絶とは何か考えておく          復習：暴力・ハラスメントの根絶について学習内容を見直す</p>	
	第12講	<p>オリンピックと経済</p>	

	<p>[到達目標] オリンピックと経済の関係について解析できる。  [授業形態] 講義  予習：オリンピックと経済の関係について考えておく  復習：オリンピックと経済の関係について学んだ内容を理解しておく  スポーツの自治（ガバナンス）</p> <p>第13講</p> <p>[到達目標] スポーツの自治について理解できる。  [授業形態] 講義  予習：スポーツガバナンスについて調べておく  復習：スポーツガバナンスについて学習内容を理解しておく  スポーツと法</p> <p>第14講</p> <p>[到達目標] スポーツと法について理解できる。  [授業形態] 講義  予習：スポーツと法について調べておく  復習：スポーツと法について学習内容を理解しておく  総括（定期試験）</p> <p>第15講</p> <p>[到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。  [授業形態] 講義  予習：第1講～第14講をまとめておく  復習：定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習すること</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	前学習（予習30分）し、講義で学習した内容をまとめておく（復習30分）。 自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に随時指定する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験 50%、授業時の小テスト 30%、努力・意欲の度合い 20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 試験終了後、優秀な試験解答例と解説を提示する。
	② この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-3 関心・意欲。
	③ 科目ナンバー：SS-9-HA8-ES-L-0。

講義科目名称： 日本国憲法

授業コード： 4S201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
山谷 真			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。
授業計画	<p>第1講 日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。</p> <p>第2講 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・14条に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第3講 自由権1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第4講 自由権2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第5講 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第6講 国務請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。</p> <p>第7講 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度につき説明できる。</p> <p>第8講 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義や、それがどのような場合に認められるかを指摘できる。</p> <p>第9講 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。</p> <p>第10講 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。</p> <p>第11講 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。</p> <p>第12講 天皇・平和主義その他 [到達目標] 天皇の地位を説明できる（特に明治憲法と日本国憲法における地位の違いについて）。憲法9条の意義について説明できる。</p> <p>第13講 明憲と日憲・法治主義と法の支配・直接民主制・法学概論 [到達目標] 明治憲法と日本国憲法における人権（国民の権利）や統治機構に関する相違点を指摘できる。法治主義と法の支配の意義の違いを説明できる。</p> <p>第14講 医療をめぐる法律問題 [到達目標] 民事法と刑事法の違いを理解した上で、医療事故が発生した場合の法的な問題について、民事責任、刑事責任、行政法上の責任にわけて説明できる。</p> <p>第15講 これまでの振り返り [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	既習事項の確認を行う。
教科書	特になし
参考書	芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第八版』（岩波書店）
成績評価	試験 60%・レポートや毎回の提出物又は発表 30%・授業態度など平常点 10点

担当教員の基本情報	担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	受講生数などをふまえて、シラバス変更の上、ディスカッション等を行う場合もありうる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
竹市 麻奈美			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである「手話言語」を学ぶことを中心に、聴覚障がい者の文化や生活の様子、福祉制度や課題等について理解を深める。</li> <li>・手話言語について必要性を理解し、簡単な日常会話程度の手話技能を段階的に習得する。</li> </ul>		
授業計画	第1講	ガイダンス／【講義】聴覚障害の基礎知識①／【実技】①あいさつ [到達目標] 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法について理解する／基本あいさつの表現を習得する [備考]	
	第2講	【実技】②名前・指文字 [到達目標] 自分の名前やいろいろな名前の表現を習得する [備考]	
	第3講	【実技】③数 [到達目標] 時刻・年齢・日にち等に関わる数字の表現を習得する [備考]	
	第4講	【実技】④家族 [到達目標] 家族に関わる表現を習得する [備考]	
	第5講	【実技】⑤外出 [到達目標] 場所・移動手段等に関わる表現を習得する [備考]	
	第6講	【実技】⑥趣味 [到達目標] 趣味に関わる表現を習得する／気持ち（好き・嫌い・得意・苦手）の表現を習得する [備考]	
	第7講	【講義】手話の基礎知識／【実技】⑦学校 [到達目標] 日本の手話の歴史について理解する／学校に関わる表現を習得する [備考]	
	第8講	【実技】⑧1日 [到達目標] 1日の過ごし方に関わる表現を習得する [備考]	
	第9講	【実技】①～⑧まとめ [到達目標] 今まで学んだ疑問詞を使って会話ができる [備考]	
	第10講	【講義】聴覚障がい者の生活（ろう講師） [到達目標] きこえない人の日常生活における課題とその対応方法について理解を深める [備考]	
	第11講	【講義】聴覚障害の基礎知識②／【実技】⑨体調・病気 [到達目標] 聞こえのサポート、福祉制度における支援を理解する／体調・病気に関わる表現を習得する [備考]	
	第12講	【実技】⑩SNS・インターネット [到達目標] SNS・インターネットに関わる表現を習得する [備考]	
	第13講	【実技】⑪災害 [到達目標] 災害に関する手話を習得し 聴覚障がい者と防災について考える [備考]	
	第14講	【実技】①～⑪まとめ [到達目標] 今まで学んだことを活用して自己紹介ができる／疑問詞を使ってたずね合うことができる [備考]	
	第15講	聴覚障がい者とのフリーディスカッション	



	<p>[到達目標]          今まで学んだ手話表現を会話の中で実践し 自分の意見を伝えたり相手の話を理解したりすることができる          [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	学んだ手話表現については 必ず復習して次回の授業に備える
教科書	授業テーマに応じたスライドを使用
参考書	関連書籍をその都度紹介
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席及び毎回の振り返りレポート 30%</li> <li>・授業内実技課題 50%</li> <li>・指定課題のレポート提出 20%</li> </ul>
担当教員の基本情報	担当教員名 : 竹市麻奈美 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
河合 裕子、村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 医療システムから出力されるデジタルデータの取り扱いを想定し、実際に取得したデータを使って表計算ソフトを利用した四則演算・データ解析・統計学の手法を活用したデータ処理を実践することで、データを正しく判断できる力を養います。また、医療情報の新しい展開として期待されるウェアラブルデバイスなどIoTの現状について、医療情報収集における課題やセキュリティ対策などを踏まえて調査し、今後のデータ活用のあり方を考えます。</p> <p><b>【到達目標】</b> ・医療情報システムから出力されるデータを正しく把握するための統計学の基礎知識を修得する。 ・医療システムについて理解し、診療情報を含めた医療情報の流れなどの仕組みと医療情報のあり方および医療データの利活用について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1講 統計学の概念 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる [備考] 課題あり</p> <p>第2講 統計手法の理解 [到達目標] パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 対応の有無について理解し、判別することができる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題あり</p> <p>第3講 グラフを使った多様な表現方法とデータ処理 [到達目標] グラフで表現できる事項を理解する データの可視化において必要となる「正しいグラフの選択」ができる データ処理上の誤りを指摘することができる 複合グラフの読み取りができる [備考] 課題あり</p> <p>第4講 実務における統計 [到達目標] 推計統計と記述統計の違いを理解する 統計が必要となる場面を想定し、どのような技術を身につける必要があるのかを考察する データをグラフや表で表現することができる データに即した統計的表現を選択することができる [備考] 課題あり</p> <p>第5講 統計処理の実践 [到達目標] 統計用語について説明できる グラフと表および数値の読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる 独力でデータの統計処理を実施できる [備考] 統計領域の理解度テストをする</p> <p>第6講 医療情報システムとデータベース [到達目標] 医療システムの仕組みを理解する 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] レポートあり</p> <p>第7講 IoT技術と医療の新しい展開 [到達目標] 医療用デバイスの意義と問題点について、情報を集めることができる 多岐にわたるデバイスから得られるデータがどのように収集され、活用されているのかを理解する IoTが医療や社会にもたらす変化について考察する [備考] レポートあり</p>

	<p>第8講 医療の産業化とAIの活用</p> <p>[到達目標] 新しい時代の医療とデータの関係について考察する 医療データの社会的な活用状況について調査し、AIの関わりについて知る</p> <p>[備考] レポートあり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめましょう。(120分程度)</li> <li>・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躓き解消に努めるとともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにして下さい。(120分程度)</li> <li>・講義をやむを得ず欠席した場合は必ず欠席した講義内容を確認し、演習問題にチャレンジして下さい。</li> <li>・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めましょう。</li> </ul>
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	評価割合は試験60%、課題40%とします。 試験は選択式の問題を解答し、統計学的な判断力を評価します。評価の詳細は大学メールを通じてフィードバックします。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンターまたは3号館学修支援センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 17:30-20:00 (木曜日以外の平日)</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:40</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3 「科目ナンバー」 : SS-2-LI10-RS-L-1</p> <p>講義資料および課題は授業専用のHPにて提供します(別途指示)。 課題の提出窓口はGoogle Classroomに設置します。 本試験で不合格となった場合には、原則補講や課題を課します。別途指示に従ってください。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>本講座で解説する社会保険制度は、特に医療保険制度と介護保険制度です。その他の制度についても、対比的に取り扱います。一方、職業倫理においては、単に鍼灸師としての心得だけでなく、他の職業者との連携における鍼灸師としての肯定感を持つことにも注目していただきます。</p> <p>加えて、患者との関係における倫理、また社会に対して鍼灸師が有すべき倫理感等についても述べていきます。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーションおよび「倫理とは」 [到達目標] 本講義についてのオリエンテーションを行い、加えて倫理について考えていきます。 [備考]</p> <p>第2講 職業倫理 [到達目標] 鍼灸師における職業倫理について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第3講 日本の社会保障制度 [到達目標] 我が国における社会保障制度について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第4講 療養の給付 [到達目標] 一般的な医療保険制度について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第5講 療養費と鍼灸 [到達目標] 療養費について、総論および鍼灸に関する療養費の制度について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第6講 介護保険と鍼灸師 [到達目標] 介護保険制度に関する鍼灸師の業務について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第7講 その他の社会保障制度① [到達目標] 鍼灸師の業務とかかわりのある社会保障制度について理解していただきます。 [備考]</p> <p>第8講 その他の社会保障制度② [到達目標] 鍼灸師の業務とかかわりのある社会保障制度について理解していただきます。 [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義の後半に行う班発表については、しっかりと調査しレジュメを作成していただきます。
教科書	『はじめての社会保障〔第20版〕：福祉を学ぶ人へ』（有斐閣アルマ） 椋野 美智子（著），田中 耕太郎（著） 2023/3/30  ISBN-10 : 4641222150 ISBN-13 : 978-4641222151
参考書	特になし
成績評価	レポートを課します。課題内容等については講義中に開示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.sk285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-4, ○-3 ナンバリング：SS-1-ME3-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
多田羅 勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	呼吸器・内分泌・泌尿器・生殖器の範囲について苦手意識を持つことなく土台を構築できる様にする。		
授業計画	第1講	呼吸器系 1 [到達目標]鼻道や気管などの範囲について理解する。  [備考]	
	第2講	呼吸器系 2 [到達目標]肺の構造、縦隔の構造などについて理解する。  [備考]	
	第3講	呼吸器系 3・内分泌系 1 [到達目標]呼吸器系の復習を問題演習を通して行なっていく。視床下部や視床など内分泌に関わる部位について理解する。  [備考]	
	第4講	内分泌系 2 [到達目標]甲状腺・副腎皮質など内分泌に関わる部位について理解する。  [備考]	
	第5講	問題演習 [到達目標]内分泌系の問題演習を通して知識の定着を図る。  [備考]	
	第6講	問題演習 [到達目標]呼吸器系・内分泌系の問題演習を通して知識の定着を図る。  [備考]	
	第7講	問題演習 [到達目標]呼吸器系・内分泌系の問題演習を通して知識の定着を図る。  [備考]	
	第8講	中間試験 [到達目標]呼吸器系・内分泌系の範囲で中間試験を行う。  [備考]	
	第9講	泌尿器系 1 [到達目標]腎臓の構造について理解する。  [備考]	
	第10講	泌尿器系2 [到達目標]尿路系・膀胱について理解する。  [備考]	
	第11講	問題演習 [到達目標]泌尿器系の問題演習を通して知識の定着を図る。  [備考]	
	第12講	生殖器系1 [到達目標]男性生殖器について理解する。  [備考]	
	第13講	生殖器系2 [到達目標]女性生殖器について理解する。  [備考]	
	第14講	問題演習 [到達目標]生殖器系の問題演習を通して知識の定着を図る。  [備考]	
	第15講	評価試験 [到達目標]評価試験を行う。	

	[備考]
授業時間外の学習 (準備学習等)について	習った内容に対しての1時間復習をしっかりと行うこと。
教科書	解剖学(医歯薬出版株式会社)
参考書	解剖学的構造と生理学 (VISIBLE BODY)
成績評価	中間試験と期末試験を合算して評価を行う。評価割合は中間50%、期末50%で行う。 中間試験と期末試験の平均で60%以上を合格とする。 講義15コマのうち3/5以上の出席を満たしたもの。 「本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。」
担当教員の基本情報	担当教員名 : 多田羅 勝広 研究室 : 附属病院2階(鍼灸センター横) 鍼灸教員室 メールアドレス : k_tatara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 毎週 火曜日 水曜日 木曜日 随時
備考	1. 実務経験 たたら鍼灸整骨院での鍼灸施術、柔道整復施術。 平成医療学園専門学校、宝塚医療大学、兵庫鍼灸専門学校での非常勤講師としての指導経験をもとに指導を行う。 2. ディプロマポリシーとの関連 : 1-◎ 3. 科目ナンバー : SS-2-MM3-RS-S-1 4. 課題に対してはフィードバックを行う。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	この授業はこれまで学んできた人体の構造（解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の復習を行いつつ、構造と機能の有機的な繋がりを理解することを目標とする。 【授業目標】 ①解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学修した知識の定着を自ら確認する。 ②構造と機能の有機的なつながりを説明できる。 ③構造と機能のつながりを理解した上で、更に臨床医学との関連性を説明できる。
授業計画	<p>第1回 循環器①（血液と循環） [到達目標] 血液の組成と機能・止血と線維素溶解・血管の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第2回 循環器②（血液と循環） [到達目標] 心臓の構造と機能・刺激伝導系・血圧・循環の調整について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第3回 呼吸器①（呼吸器の構造） [到達目標] 呼吸器の構造について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第4回 呼吸器②（呼吸器の機能） [到達目標] 呼吸器の機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第5回 消化器①（口腔から胃までの構造） [到達目標] 消化器（口腔から胃）の構造について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第6回 消化器②（十二指腸から大腸と肝・胆・膵臓の構造） [到達目標] 消化器（十二指腸から大腸と肝・胆・膵臓）の構造について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第7回 消化器③（消化器の機能） [到達目標] 消化器の機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第8回 中枢神経（構造） [到達目標] 中枢神経の構造について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第9回 中枢神経（機能） [到達目標] 中枢神経の機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第10回 内分泌（総論） [到達目標] 内分泌腺の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第11回 内分泌腺（各論） [到達目標] 内分泌腺の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第12回 泌尿器（構造と機能） [到達目標] 泌尿器の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第13回 生殖器（構造と機能） [到達目標] 生殖器の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第14回 感覚器（構造と機能） [到達目標] 感覚器の構造と機能について理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p> <p>第15回 理解度の確認（総合的評価）とフィードバック [到達目標] 本講義で学んだことを理解し、理解した内容を自ら説明することが出来る。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。
教科書	「解剖学」第2版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 河野邦雄・伊藤隆造 他著（医歯薬出版株式会社） 「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会編 内田さえ 原田玲子 他著（医歯薬出版株式会

	社) 授業配布資料（授業資料はGoogle クラウドにアップされていますのでタブレット端末やPCなどを用いて授業を受ける方は活用して下さい。）
参考書	解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用した授業プリント。
成績評価	評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。出席の確認はオンデマンド課題（Googleフォーム）の実施を持って出席とする。課題が未提出の場合は欠席とする。 評価方法：対面による期末評価（100%）にて行う。 単位認定：評価点が60%以上の者に単位を評価する。  ※本試験に合格しなかった者について、担当教員が必要と認めた場合かつ指定された補講（課題含む）を受講した場合のみ、再試験を行うことがあります。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 辰樹 研究室：病院2階鍼灸学系教員室 メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。  【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】 【科目ナンバー：SS-2-MM4-RS-S-1】
	本授業は1年次、2年次前期に学習した内容（解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を基礎として人体の構造と機能の繋がりについて理解を深め、臨床医学の病態の理解につながる科目です。
	本授業は対話（アクティブラーニング）として毎回の授業の終わりに、Googleフォームにてミニツペーパー（コミュニケーションカード）を記載してもらいます。その日に学習した内容で重要だと思った点や印象に残った点、疑問に思った点やよく理解できなかった点について記入してもらいます。その内容については可能な限り当日のうちにメリーによりフィードバックを行います。自分で疑問に思った点を理解したり、自分自身では気づかなかった疑問点などを他人の意見を参考にしてさらなる学修に役立てて下さい。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：生理学とは、本来、ヒトが生きているとはどういうことなのかを示したものであり、生体の正常な機能を学ぶ学問である。この授業では、正常な機能のうち、内分泌の機能、生殖・成長と老化、筋の機能、身体運動の調節機能を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必要なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、種族維持に必要な生殖機能、身体運動や内臓臓器の働きに必要な筋肉の収縮メカニズム、複雑な身体運動を行うために必要な調節メカニズム等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 内分泌(1) 到達目標：ホルモンの定義と分類、分泌調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 130-134），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第2回 内分泌(2) 到達目標：視床下部，下垂体，甲状腺，副甲状腺からのホルモン分泌について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 134-140），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第3回 内分泌(3) 到達目標：膵臓，副腎からのホルモン分泌，血中Ca<sup>2+</sup>濃度調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 141-146, 292），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第4回 内分泌のまとめ 到達目標：第1回～3回までの学習範囲について理解した上で，その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して，解答ができるように準備すること。</p> <p>第5回 生殖・成長と老化(1) 到達目標：性腺からのホルモン分泌，男性生殖器の機能について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 147-150, 152-154），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第6回 生殖・成長と老化(2) 到達目標：性周期，および妊娠と分娩時の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 154-158），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第7回 生殖・成長と老化(3) 到達目標：成長と生理的老化の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 158-162），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第8回 生殖・成長と老化のまとめ 到達目標：第5回～7回までの学習範囲について理解した上で，その範囲の内容を説明できる。 授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり） 備考：課題に対して，解答ができるように準備すること。</p> <p>第9回 筋(1) 到達目標：骨格筋の構造と働き，筋の収縮の仕組みについて説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 218-223），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第10回 筋(2) 到達目標：筋のエネルギー供給の仕組み，心筋と平滑筋の特徴について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 223-226），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第11回 身体運動(1) 到達目標：運動単位，神経筋接合部，筋紡錘と腱受容器について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 228-232），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第12回 身体運動(2) 到達目標：脊髄レベルでの運動の調節，脳幹による運動の調節について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 232-241），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第13回 身体運動(3) 到達目標：小脳，大脳基底核，大脳皮質による運動の調節，および錐体路系と錐体外路系について説明できる。 授業形態：講義（アクティブラーニングなし） 備考：教科書（p. 241-248），並びに配布プリントを熟読すること。</p> <p>第14回 筋と身体運動のまとめ</p>

第15回	<p>到達目標：第9回～13回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。  授業形態：課題に対する解答とそのフィードバック（アクティブラーニングあり）  備考：課題に対して、解答ができるように準備すること。</p> <p>期末試験（60分）＋まとめ（30分）</p> <p>到達目標：第1～14回までの学習範囲について理解した上で、その範囲の内容を説明できる。  授業形態：筆記試験（60分）＋演習（アクティブラーニングあり）（30分）  備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義項目の分野に関して、事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。（予習45分） 各講義後、配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし、それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。（復習45分）
教科書	「生理学（第3版）」 公益社団法人 東洋療法学校協会編、内田さえ、原田玲子 他著（医歯薬出版株式会社）
参考書	※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学（改訂第2版）」 照井直人 編（羊土社） 「マンガでわかる基礎生理学」田中 越郎 監修（オーム社） 「やさしい生理学（改訂第7版）」 彼末一之・能勢博 編集（南江堂） 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集（メジカルビュー社） 「生理学テキスト（第9版）」 大地陸男 著（文光堂） ※必要に応じて、自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学（改訂第2版）」 照井直人 編（羊土社） 「マンガでわかる基礎生理学」田中 越郎 監修（オーム社） 「やさしい生理学（改訂第7版）」 彼末一之・能勢博 編集（南江堂） 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂3版」 岡田隆夫 編集（メジカルビュー社） 「生理学テキスト（第9版）」 大地陸男 著（文光堂）
成績評価	中間試験および期末試験の結果(80%)，各項目ごとに行う小テストの結果（20%）にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：林 知也 研究室：8号館4階林（知）教授室 オフィスアワー：月曜日16:30～17:30
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務経験：あり。大学医学部の生理学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生理学の講義を行う。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1</li> <li>・科目ナンバー：「SS-2-MM9-RS-L-1」</li> <li>・Classroomの活用：授業資料の配布，小テストへのアクセス</li> </ul>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
糸井 マナミ			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	わが国では、近年衛生状態および栄養状態の著しい向上と予防医学・治療医学の進展によって、公衆衛生学上の諸条件は整備されてきている。しかし他方では、環境汚染の拡大や社会的不安の増大など多様な問題が浮かび上がってきている。このような時代に即して、健康な生活を進めるには何が必要か、生活環境を、物理的、化学的、生物学的社会因子として考察し、その中の障害因子と疾病との関わりについて学ぶ。各社会集団における健康をめぐる問題点、健康を守るための社会的なシステムを学ぶ。地域、学校、産業、高齢者、母子など各分野での衛生、保健上の諸問題について理解を深め、衛生行政の仕組み、衛生統計、分野別保健、健康増進、環境衛生について学ぶ。
授業計画	<p>第1回 衛生・公衆衛生の目的と保健統計 [到達目標] 衛生・公衆衛生の目的について理解する。 衛生統計の種類と特徴、我が国の人口統計の現状と問題点について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（確認問題と解答・解説）</p> <p>第2回 疫学 [到達目標] 疫学の意義と主な疫学の方法を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第3回 疾病の予防と健康管理 [到達目標] 予防医学と健康管理について理解する。 健康増進と健康日本21について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第4回 主な疾病の予防1 感染症 [到達目標] 感染症と感染症の予防・対策について理解する。 主な感染症流行とその対策について理解する。 消毒の意義・主な消毒法について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第5回 主な疾病の予防2 生活習慣病 [到達目標] 主な生活習慣病等の疾患とその予防対策について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第6回 環境保健1 人間の環境および環境の把握とその評価 [到達目標] 人間を取り巻く環境、地球環境の現状と問題点について理解する。 環境の把握とその評価方法について理解する。 物理的・化学的・生物的環境因子について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第7回 環境保健2 空気の衛生と水の衛生および廃棄物 [到達目標] 空気・水の衛生と健康への影響について理解する。 廃棄物の現状と問題点を理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第8回 環境保健3 衣食住の衛生および公害と環境の管理 [到達目標] 衣食住と健康への影響について理解する。 公害の歴史と現状および公害による健康被害について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第9回 中間試験、地域保健 [到達目標] 中間試験（試験と解説で約50分）：第1回～8回講義内容（主に小テスト及び確認問題で問われた内容）を理解・修得する。 地域保健の特徴、地域保健行政および地域保健活動について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（中間試験と解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第10回 母子保健と学校保健</p>

	<p>[到達目標] 妊産婦と乳幼児の保健管理の課題について理解する。 母子保健行政の仕組みについて理解する。 学校保健に関わるの現状と課題について理解する。 学校保健行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第11回 産業保健</p> <p>[到達目標] 産業保健に関わる現状と課題について理解する。 労働衛生行政の仕組みについて理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第12回 高齢者の保健</p> <p>[到達目標] 高齢者の保健の現状と課題について理解する。 高齢者の医療保険・介護保険の制度と現状およびその課題について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第13回 精神保健</p> <p>[到達目標] 精神保健に関わる現状と課題について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第14回 保健医療福祉の制度と法規、国際保健</p> <p>[到達目標] 衛生行政の仕組みと組織体系について理解する。 医療制度と医療保障の概要を理解する。 国際保健の組織と日本の国際協力について理解する。 [授業形態] アクティブラーニング有（小テストと解答・解説、確認問題と解答・解説）</p> <p>第15回 期末試験</p> <p>[到達目標] 第9回～14回講義内容（主に小テスト及び確認問題で問われた内容）を理解・修得する。 [授業形態] アクティブラーニング有（試験と解答・解説）</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の前に該当する教科書の部分に目を通して、項目を整理しておくこと。（35分程度）</li> <li>2. 講義の後に講義資料及び該当する教科書の部分を読み返し、指示された課題についてまとめておくこと。</li> <li>3. 確認問題を見直して理解を深めること。（2、3併せて35分程度）</li> <li>4. 分からないことは質問し、繰り返し復習を行うこと。</li> </ol>
教科書	シンプル衛生公衆衛生学2024 監修：小山洋、編集：辻一郎、上島通浩（南江堂）
参考書	「国民衛生の動向」（厚生統計協会） 「衛生試験法・注解」（日本薬学会） 「わかりやすい公衆衛生学（第4版）」（ヌーベルヒロカワ） 「Simple Step 公衆衛生」（海馬書房）
成績評価	中間試験、期末試験および授業時間の最初に前回の講義内容について小テストを実施する。 成績評価は中間試験45%、期末試験45%と小テスト10%で合計100点とし、60点以上を合格とする。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 出席が6割（第1回～第8回：5回以上、第9回～14回：4回以上）に満たないものは中間試験および期末試験の受験を認めない。
担当教員の基本情報	担当教員名：糸井マナミ 研究室：5号館2階 免疫・微生物学教室、1号館2階 教授室 メールアドレス：m_itoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・金曜日12:35-13:20
備考	この科目とディプロマポリシーとの関連：3-◎ 科目ナンバー：SS-1-MM12-RS-L-1
	講義資料、確認問題、小テストはGoogle Classroom で配信する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子、澤谷 友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要]          病理学は、解剖学や生理学などで正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気(疾患)の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。病理学 I では、「病理学と病理診断」「細胞傷害」「先天異常」「循環障害」「炎症」について学びます。          講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために復習プリントを実施します。また、講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。          [到達目標]          臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学と病理診断、細胞傷害①          [到達目標・学習目標]          病理学で学ぶこと・疾病についての基礎知識、内因と外因について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P14～27          [授業形態]          アクティブラーニング有          [備考]          ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。          ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第2回 細胞傷害②          [到達目標・学習目標]          萎縮、低形成、無形成、肥大、過形成、再生、化生を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P50～52          [授業形態]          アクティブラーニング有          小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。          [備考]          ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。          ②講義前には、次の講義(細胞傷害③)範囲の教科書P27～32、P37～38を読み予習しておく。</p> <p>第3回 細胞傷害③          [到達目標・学習目標]          医原病、変性、細胞死とアポトーシス、個体の死、老化について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P27～32、37～38          [授業形態]          アクティブラーニング有          小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。          [備考]          ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。          ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第4回 細胞傷害④          [到達目標・学習目標]          外因(物理的傷害、化学的傷害、電解質異常)について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。P31～37、P73～74          [授業形態]          アクティブラーニング有          小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。          [備考]          ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。          ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第5回 細胞傷害⑤          [到達目標・学習目標]          代謝異常について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P38～44          [授業形態]          アクティブラーニング有          小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。          [備考]          ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。          ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>

第6回	<p>細胞傷害⑥</p> <p>[到達目標・学習目標] 代謝異常、栄養障害について理解し説明できる。教科書P43～49、P170、P249</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第7回	<p>細胞傷害⑦</p> <p>[到達目標・学習目標] 内因(内分泌異常)について理解し説明できる。教科書P305～323</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②次回の中間試験にそなえ、第1回～第7回まで復習する。</p>
第8回	<p>中間試験</p> <p>到達目標・学習目標 第1回～第7回範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。</p> <p>[授業形態] 筆記試験と解答・解説</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第9回	<p>先天異常</p> <p>[到達目標・学習目標] 先天異常について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P53～64</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第10回	<p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] 充血、うっ血、虚血、出血の定義を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P65～75、P150～152</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第11回	<p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 血栓症、塞栓症、梗塞、水腫・浮腫の定義を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P65～75、P138～142</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第12回	<p>循環障害③</p> <p>[到達目標・学習目標] ショック、DIC、高血圧、心肥大、心筋梗塞、心弁膜症、先天性心奇形について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P75、P141～150、P164～166</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、翌週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第13回	<p>炎症①</p> <p>[到達目標・学習目標] 炎症の経過、炎症細胞について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P76～81</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、翌週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考]</p>

	<p>第14回</p> <p>①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>炎症② [到達目標・学習目標] 急性炎症、慢性炎症、創傷治癒、異物処理について理解し説明できる。次週の期末試験で合格点を取る。教科書P81～87 [授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、翌週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー(Forms)に回答する。個別または次回の授業でフィードバックする。 ②次週の期末試験にそなえ、第9回～第14回まで復習する。</p> <p>第15回</p> <p>期末試験 [到達目標・学習目標] 第9回～第14回範囲の試験で合格点を取る。 [授業形態] 筆記試験と解答・解説 [備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。リアクションペーパーに回答する。質問内容は個別にフィードバックする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>講義前は ①講義初めに、前回の範囲の小テストを行うので「復習プリント」を使い、前回の講義内容を理解しておく。 ②事前に次回の講義資料をgoogle classroomに公開するので、予習をしておく。(30分)</p> <p>講義後は ①配布資料、教科書を参考に「復習プリント」を解き、余白またはノートに解説をまとめる。(15分) ②講義の初めにおこなった小テストは次週返却するので、定期試験に備え復習する。(15分)</p> <p>質問がある場合は授業後のリアクションペーパーに記入してください。オフィスアワーで対応します。</p>
教科書	「クイックマスター病理学 第2版」 堤寛 (サイオ出版)
参考書	<p>「病理学概論 第2版」 公益社団法人 東洋療法学校協会 (医歯薬出版株式会社) 「病気がみえるvol1～15」 医療情報科学研究所編集 (メディックメディア) 「疾患ビジュアルブック」 シリーズ落合慈之監修 (学研) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 改訂2版」 清水道生・内藤善哉編集 (メジカルビュー社) 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」 大橋 健一他著 (医学書院) 「こわいもの知らずの病理学講義」 仲野 徹緒 (晶文社) 「解剖 病理学 第3版」 青笹克之総編集 (医歯薬出版) 「病理学概論 改訂第3版」 公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著 (医歯薬出版)</p>
成績評価	<p>筆記試験、小テスト、課題提出で総合評価。合格基準は60%以上。欠席6回以上の学生は期末試験の受験資格がありませんので注意してください。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○澤谷 友香理 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 後藤 涉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>澤谷 友香理 臨床検査技師、細胞検査士(国内・国際)、2級甲類臨床検査士(病理学) 市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>後藤 涉子 臨床検査技師、細胞検査士(国内・国際)、2級甲類臨床検査士(病理学、循環生理学)、博士(医学) 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1 科目ナンバー：SS-2-MM13-RS-S-1</p> <p>授業の進行状況により、講義内容を変更する可能性あり。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
後藤 渉子、澤谷 友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は、解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。病理学Ⅱでは「感染症」「免疫異常・アレルギー」「腫瘍」について学びます。 講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、復習プリントを実施します。また、講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 免疫異常とアレルギー① [到達目標・学習目標] 免疫の基本、アレルギー疾患について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P88～96 [授業形態] アクティブラーニング有 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。（classroomに提出）リアクションペーパー（Forms）に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第2回 免疫異常とアレルギー② [到達目標・学習目標] 臓器移植と拒絶反応、免疫不全症について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P97～100 [授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。（classroomに提出）リアクションペーパー（Forms）に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第3回 免疫異常とアレルギー③ [到達目標・学習目標] 自己免疫疾患、脳死、植物状態について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P100～102、P366 [授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。（classroomに提出）リアクションペーパー（Forms）に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第4回 感染症① [到達目標・学習目標] 感染症とは、病原体の種類、日和見感染、病原体の感染経路について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P103～117 [授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。（classroomに提出）リアクションペーパー（Forms）に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>第5回 感染症② [到達目標・学習目標] 院内感染、ウイルス感染症について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P103～117 [授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。 [備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。（classroomに提出）リアクションペーパー（Forms）に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。</p>



第6回	<p>②講義前には、次回の講義資料をよくを読み予習しておく。  <b>感染症③</b>  [到達目標・学習目標]  細菌・真菌・原虫・蠕虫感染症、プリオンについて理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P103～117  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②次回の中間試験にそなえ、第1回～第6回の復習をする。</p>
第7回	<p>中間試験 (60分)+試験解説  [到達目標・学習目標]  第1回～第6回範囲の試験で合格点を取る。  わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。  [授業形態]  筆記試験と解答・解説  [備考]  ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第8回	<p><b>腫瘍①</b>  [到達目標・学習目標]  腫瘍とは、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P118～121  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②講義前には、次の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第9回	<p><b>腫瘍②</b>  [到達目標・学習目標]  前癌病変、悪性腫瘍の転移様式、腫瘍の悪性度と病期、癌の発生機序について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P121～128  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第10回	<p><b>腫瘍③</b>  [到達目標・学習目標]  癌の発生機序(癌遺伝子と癌抑制遺伝子)、腫瘍と宿主の関係、腫瘍マーカーと腫瘍の診断方法、腫瘍の治療法、がんの統計について理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。教科書P128～134  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第11回	<p><b>顕微鏡実習①</b>  [到達目標・学習目標]  顕微鏡の使い方を修得する。肺結核の病態について理解し説明できる。肺結核の組織像をスケッチし、組織像を理解する。次週の小テストで合格点を取る。教科書P84、201～205  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第12回	<p><b>顕微鏡実習②</b>  [到達目標・学習目標]  糖尿病の病態について理解し説明できる。糖尿病性腎臓の組織像をスケッチし、組織像を理解する。次週の小テストで合格点を取る。教科書P317～323  [授業形態]  アクティブラーニング有  小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。  [備考]  ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。  ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p>
第13回	<p><b>顕微鏡実習③</b>  [到達目標・学習目標]  胃癌の病態について理解し説明できる。胃癌の組織像をスケッチし、組織像を理解する。次週の</p>

	<p>小テストで合格点を取る。教科書P224～227</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②講義前には、次回の講義資料をよく読み予習しておく。</p> <p>顕微鏡実習④</p> <p>[到達目標・学習目標] 乳癌の病態について理解し説明できる。乳癌の組織像をスケッチし、組織像を理解する。次週の学年末試験で合格点を取る。教科書P300～304</p> <p>[授業形態] アクティブラーニング有 小テストは採点后、次週返却。内容をフィードバックする。</p> <p>[備考] ①課題：「復習プリント」の解説をプリント余白またはノートにまとめる。(classroomに提出)リアクションペーパー (Forms) に回答する。個別または次の授業でフィードバックする。 ②次週の学年末試験にそなえ、第8回～第14回までを復習する。</p> <p>第15回 学年末試験</p> <p>[到達目標・学習目標] 第8回～第14回範囲の試験で合格点を取る。</p> <p>[授業形態] 筆記試験と解答・解説</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。リアクションペーパーに回答する。質問内容は個別にフィードバックする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>講義前は ①講義初めに、前回の範囲の小テストを行うので「復習プリント」を使い、前回の講義内容を理解しておく。 ②事前に次回の講義資料をgoogle classroomに公開するので、予習しておく。(30分)</p> <p>講義後は ①配布資料、教科書を参考に「復習プリント」を解き、余白またはノートにまとめる。(15分) ②講義の初めにおこなった小テストは次週返却するので、自分で解説をして定期試験に備えておく。(15分)</p> <p>質問がある場合はメリーに連絡ください。オフィスアワーで対応します。</p>
教科書	「クイックマスター病理学 第2版」 堤寛 (サイオ出版)
参考書	<p>「病理学概論 第2版」公益社団法人 東洋療法学校協会 (医歯薬出版株式会社)</p> <p>「病気がみえるvol1～11」医療情報科学研究所編集 (メディックメディア)</p> <p>「疾患ビジュアルブック」シリーズ落合慈之監修 (学研)</p> <p>「カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 改訂2版」 清水道生・内藤善哉編集 (メジカルビュー社)</p> <p>「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」大橋 健一他著 (医学書院)</p> <p>「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹緒 (晶文社)</p> <p>「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集 (医歯薬出版)</p> <p>「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著 (医歯薬出版)</p>
成績評価	筆記試験80%、残り20%は、スケッチ(4回)、小テスト、課題提出で総合評価。合格基準は60%以上。欠席6回以上の学生は、受験資格がありません。本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○澤谷 友香理 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p> <p>担当教員名 : 後藤 涉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>澤谷 友香理 臨床検査技師、細胞検査士(国内・国際)、2級甲類臨床検査士(病理学) 市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>後藤 涉子 臨床検査技師、細胞検査士(国内・国際)、2級甲類臨床検査士(病理学、循環生理学)、博士(医学) 市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし「病気の原因や成り立ちについて」の講義および実習を行う。</p> <p>この授業とディプロマ・ポリシーとの関連: ◎-1 科目ナンバー: SS-2-MM14-RS-S-1</p> <p>授業の進行状況により、講義内容を変更する可能性あり。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
多田羅 勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	臨床で必要となる医療面接や診断などについての知識が定着することを目標とする。		
授業計画	第1講	診察の概論・診察の方法 [到達目標]医療面接の手順やSOAPなどについて学習する。 [備考]	
	第2講	診察の方法 [到達目標]視診や聴診について学習する。 [備考]	
	第3講	バイタルサイン1 [到達目標]体温や脈拍などについて学習する。 [備考]	
	第4講	バイタルサイン2 [到達目標]体温や脈拍などについて学習する。 [備考]	
	第5講	全身の診察1 [到達目標]顔貌や意識状態について学習する。 [備考]	
	第6講	全身の診察2 [到達目標]発語などについて学習する。 [備考]	
	第7講	全身の診察3 [到達目標]姿勢や歩行について学習する。 [備考]	
	第8講	全身の診察4 [到達目標]発疹や浮腫などについて学習する。 [備考]	
	第9講	問題演習 [到達目標]全身の診察までの範囲を問題演習を通して知識の定着を図る。 [備考]	
	第10講	局所の診察1 [到達目標]頭部～胸郭の異常について学習する。 [備考]	
	第11講	局所診察2 [到達目標]腹部～四肢の異常について学習する。 [備考]	
	第12講	神経系の診察 [到達目標]表在反射や病的反射について学習する。 [備考]	
	第13講	運動機能検査1・救急救命 [到達目標]振戦や運動失調について学習する。 [備考]	
	第14講	運動機能検査2・救急救命 [到達目標]理学検査と救命救急について学習する。 [備考]	
	第15講	判定試験 [到達目標]理学検査と救命救急について学習する。 [備考]	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義後1時間程度、講義資料や教科書などを用いて復習をすること。
教科書	臨床医学総論 (医歯薬出版)
参考書	病気がみえる (medic media)
成績評価	中間試験と期末試験を合算して評価を行う。評価割合は中間50%、期末50%で行う。 中間試験と期末試験の平均で60%以上を合格とする。 講義15コマのうち3/5以上の出席を満たしたものの。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 多田羅 勝広 研究室 : 附属病院2階 (鍼灸センター横) 鍼灸教員室 メールアドレス : k_tatara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 毎週 火曜日 水曜日 木曜日 随時
備考	1. 実務経験 たたら鍼灸整骨院での鍼灸施術、柔道整復施術。 平成医療学園専門学校、宝塚医療大学、兵庫鍼灸専門学校での非常勤講師としての指導経験をもとに指導を行う。 2. ディプロマポリシーとの関連 : 1-① 3. 科目ナンバー : SS-2-MM15-RS-L-1 4. 課題に対してはフィードバックを行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面） 対話	AL：
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、鍼灸臨床を行う上で必要な臨床医学的知識について、身体診察技法や代表的検査方法を中心に学ぶ。</p> <p>授業内容は、頭痛、肩こり、不眠といった鍼灸臨床でもよく遭遇する症状について中心に講義を行う。各症状の定義、概念、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、標準的治療について説明を行う。</p> <p>本科目によって、代表的な症状に対する医療面接や検査をスムーズに適切かつ効果的に行えるようになることを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 頭顔面部の主な症状について 頭痛、顔面痛、歯痛、眼精疲労の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>2回目 耳鼻咽喉部の主な症状について 鼻閉・鼻汁、めまい、耳鳴り、難聴の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>3回目 呼吸器・循環器の主な症状について 咳・痰、息切れ、動機、胸痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>4回目 腹部の主な症状について 腹痛、便秘、下痢、月経異常の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>5回目 骨盤内臓の主な症状について 不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿、浮腫の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>6回目 頸肩部の主な症状について 肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>7回目 腰下肢の主な症状について 腰下肢痛、関節痛、運動麻痺の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>8回目 食欲に関する主な症状について 食欲不振、肥満、やせの定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>9回目 発熱に関する主な症状について 発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>10回目 アレルギー・ショックの主な症状について 発疹、皮膚疾患、ショック、出血傾向、易感染性の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>11回目 その他の主な症状について① 貧血、眼振、口渇、嘔声の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>12回目 その他の主な症状について② 嚥下困難、血痰・喀痰、胸水の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 その後、各症状の共通点と相違点についてワークショップを行う。</p> <p>13回目 その他の主な症状について③ 悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について講義を行う。 加えて、神経系の診察について、ワークショップを含めて学習を行う。</p> <p>14回目 臨床検査法のまとめ 1時間目から13時間目までに各症状で学んだ臨床検査法について、改めてまとめと解説を行う。</p>

	<p>その後、臨床検査法と各症状、疾患との関連についてワークショップを行う。</p> <p>15回目 まとめと評価 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。 評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定された講義の範囲を予習(30分)と講義後に授業の範囲の復習(30分)を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)第2版
参考書	・病気がみえる 他(メディックメディア出版) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%(100点満点中60点以上を合格とする) 3. 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	1. 実務経験 山崎 翼: 本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1、◎-2 3. 科目ナンバー SS-2-MM16-RS-L-1 4. 授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行ってください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	必修
担当教員			
多田羅 勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	国家試験、臨床どちらにも重要な科目であるので疾患について病態病理も含めて理解するのを目標とする。		
授業計画	第1講	感染症 (1) [到達目標] 感染経路、特殊な感染、細菌感染症について理解する。	
	第2講	感染症 (2) [到達目標] ウイルス感染症、性感染症について理解する。 [備考] 次週の講義の最初に10問程度の感染症の範囲の問題演習を行う。	
	第3講	消化器系 (1) [到達目標] 食道疾患について理解する。	
	第4講	消化器系 (2) [到達目標] 胃癌など胃の疾患、潰瘍性大腸炎、クローン病などIBDについて理解する。	
	第5講	消化器疾患 (3) [到達目標] 大腸癌など腸疾患について理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の消化器疾患の問題演習を行う。	
	第6講	肝胆疾患 (1) [到達目標] ウイルス性肝炎、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変などについて理解する。	
	第7講	肝胆疾患 (2) [到達目標] 胆嚢疾患、黄疸、急性膵炎、慢性膵炎について理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の肝胆疾患の問題演習を行う。	
	第8講	呼吸器疾患 (1) [到達目標] 肺炎、肺結核などについて理解する。	
	第9講	呼吸器疾患 (2) [到達目標] 閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺癌などについて理解する。	
	第10講	呼吸器疾患 (3) [到達目標] 気胸、肺MACなどについて理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の呼吸器疾患の問題演習を行う。	
	第11講	腎泌尿器疾患 (1) [到達目標] 糸球体疾患について理解する。	
	第12講	腎泌尿器疾患 (2) [到達目標] ネフローゼ、腎不全などについて理解する。	
	第13講	腎泌尿器疾患 (3) [到達目標] 尿路感染症、結石症、前立腺疾患について理解する。 [備考] 講義の最後に10問程度の腎泌尿器疾患の問題演習を行う。	
	第14講	問題演習 [到達目標] 前期の範囲について問題演習を通して知識の定着を図る。	
	第15講	中間試験、中間試験解説 [到達目標] 中間試験と試験の解説を行う。	
	第16講	内分泌疾患 (1) [到達目標] 下垂体疾患、甲状腺疾患について理解する。	
	第17講	内分泌疾患 (2) [到達目標] 副腎疾患などについて理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の内分泌疾患の問題演習を行う。	
	第18講	代謝疾患 (1) [到達目標] 糖尿病、痛風について理解する。	
	第19講	代謝疾患 (2) [到達目標] ビタミン欠乏症などについて理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の代謝疾患の問題演習を行う。	
	第20講	循環器疾患 (1) [到達目標] 心不全、弁膜症について理解する。	
	第21講	循環器疾患 (2) [到達目標] 狭心症、心筋梗塞について理解する。	
	第22講	循環器疾患 (3) [到達目標] 不整脈、動脈硬化などについて理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の循環器疾患の問題演習を行う。	

	<p>第23講 血液疾患 (1) [到達目標] 貧血について理解する。</p> <p>第24講 血液疾患 (2) [到達目標] 白血病、血友病などについて理解する。 [備考] 次回講義の最初に10問程度の血液疾患の問題演習を行う。</p> <p>第25講 膠原病 (1) [到達目標] リウマチなどについて理解する。</p> <p>第26講 膠原病 (2) [到達目標] SLE、全身性硬化症などについて理解する。</p> <p>第27講 膠原病 (3) [到達目標] ベーチェット病などについて理解する。 [備考] 講義の最後に10問程度の膠原病の問題演習を行う。</p> <p>第28講 問題演習 [到達目標] 後期の範囲について問題演習を通して知識の定着を図る。</p> <p>第29講 問題演習 [到達目標] 後期の範囲について問題演習を通して知識の定着を図る。</p> <p>第30講 まとめ (評価含む) と解説 [到達目標] 期末試験と試験の解説を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	講義後に内容を整理し教科書、プリントを用いて復習する。疾患の病態の理解のためには生理学の知識が必須であるので適宜学習範囲の生理学の復習を行うこと。各単元終了時に行う問題演習はGoogleクラスルームにて回答を行うこと。
教科書	臨床医学各論第2版 (医歯薬出版株式会社)
参考書	特になし
成績評価	中間試験と期末試験を合算して評価を行う。評価割合は中間50%、期末50%で行う。中間試験と期末試験の平均で60%以上を合格とする。講義15コマのうち3/5以上の出席を満たしたもの。「本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。」
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 多田羅 勝広</p> <p>研究室 : 附属病院2階 (鍼灸センター横) 鍼灸教員室</p> <p>メールアドレス : k_tatara@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 毎週火曜日・水曜日・木曜日 随時</p>
備考	<p>1. 実務経験 たたら鍼灸整骨院での鍼灸施術、柔道整復施術。 平成医療学園専門学校、宝塚医療大学、兵庫鍼灸専門学校での非常勤講師としての指導経験をもとに指導を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連 1ー◎</p> <p>3. 科目ナンバー : SS-2-MM17-RS-L-1</p> <p>4. 課題に対してはフィードバックを行う。</p>



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面授業） AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	本科目は国家試験における「臨床医学各論」の領域のうち、整形外科領域における代表疾患を取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの理解を包括的に行い、鑑別を含む検査や代表的症状を学ぶ事により、より臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。			
授業計画	第1回	運動機能検査（運動麻痺、筋肉の異常、関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作、徒手による整形外科的検査法） 【到達目標】 1. 運動麻痺、筋肉の異常、関節可動域検査、徒手筋力検査法、日常生活動作の概要について理解し、説明できる。 2. 徒手による整形外科的検査法の実施方法、検査結果より得られる病態について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 運動機能検査について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。教科書（臨床医学総論）p129 p134, p142 p151 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	第2回	治療法、画像診断、関節炎、可動域の異常 【到達目標】 上記した各項目について概要を理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 治療法、画像診断、関節炎、可動域の異常について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。
	第3回	頸部に生じる疾患（頸部変形性頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、頸部脊柱管狭窄症、頸椎捻挫、頸肩腕症候群、斜頸） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 頸部の構造と機能について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	第4回	肩部に生じる疾患（五十肩、野球肩、石灰性腱炎、腱板断裂、肩峰下インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱炎） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 肩の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。
	第5回	肘に生じる疾患（変形性肘関節症、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、野球肘） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 肘の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	第6回	上肢に生じる疾患（胸郭出口症候群、手根管症候群、ばね指、ドケルバン病、ヘバーデン結節・ブシャール結節） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】 上肢の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。
	第7回	腰部に生じる疾患（腰痛症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部変形性脊椎症、腰部脊柱管狭窄症、脊椎分離症、脊椎分離すべり症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】		

第8回	<p>腰部の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 股に生じる疾患（変形性股関節症、発育性股関節形成不全、ペルテス病）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第9回	<p>股の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 膝に生じる疾患（変形性膝関節症、ジャンパー膝、オスグッド・シュラッター病）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第10回	<p>膝の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 足部に生じる疾患（変形性足関節症、先天性内反足、外反母趾）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第11回	<p>足部の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 脊椎側弯症、脊髄損傷</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第12回	<p>脊椎および脊髄の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 骨代謝性疾患・骨腫瘍（骨粗鬆症、くる病・骨軟化症、転移性骨腫瘍、骨肉腫、骨軟骨腫、ガングリオン）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第13回	<p>骨代謝について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 外傷（筋炎、骨折、脱臼、捻挫）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第14回	<p>炎症、骨折、脱臼、捻挫について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 末梢神経障害（橈骨神経・正中神経・尺骨神経・総腓骨神経・脛骨神経麻痺）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について理解し、説明できる。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
第15回	<p>橈骨神経・正中神経・尺骨神経・総腓骨神経・脛骨神経麻痺について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。 講義内容のまとめ</p> <p>【到達目標】 1回目から14回目までの内容に関して評価を行った後に、評価結果について解説によりフィードバックを行う。 【授業形態】対面授業 【備考】</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>講義前に単元の範囲について予習（30分）と講義後にその範囲の復習（30分）を行ってください。 講義資料等はグーグルクラスルームに公開するので、予習や復習に活用すること。</p>
教科書	<p>臨床医学各論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 臨床医学総論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）</p>
参考書	<p>適宜知らせる。</p>
成績評価	<p>1. 出席基準(3/5以上)を満たした者に対して評価を実施する。 2. 毎回の授業後に行う小テストと筆記試験により成績評価を行います。筆記試験は100点満点中60点以上を合格とし、小テストの結果を加味して秀・優・良・可・不可で評価します。 ※本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従うこと。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：吉田行宏 所属先：附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先：y_yoshida@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー：随時（事前にメリーで連絡してください）
備考	資格：はり師きゅう師、鍼灸学（博士） 実務経験：鍼灸臨床歴21年、教員歴14年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに学習指導を行う。
	アクティブラーニング：質問内容や小テスト・課題の結果について全体もしくは個別にフィードバックを行い理解を深める。
	DPとの関連：①知識・理解-◎、②思考・判断-○ 科目ナンバー：SS-2-MM16-RS-L-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	本科目では神経疾患における代表疾患を取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの理解を包括的に行い、鑑別を含む検査や代表的症状を学ぶ事により、より臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>神経系概論 (1)</p> <p>【到達目標】 神経系の概要について説明できる。</p> <p>【備考】 授業前後には教科書、配布資料に基づいた予習・復習をすること。</p>	
	第2回	<p>神経系概論 (2)</p> <p>【到達目標】 神経系の概要について説明できる。</p> <p>【備考】 授業前後には教科書、配布資料に基づいた予習・復習をすること。</p>	
	第3回	<p>脳血管疾患 (脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、クモ膜下出血)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 脳動脈および脳の機能局在について予習を行うこと。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第4回	<p>感染性疾患 (髄膜炎、神経梅毒、ポリオ)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 脊髄の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第5回	<p>脳・脊髄腫瘍 (脳腫瘍、脊髄腫瘍)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 腫瘍の特徴について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第6回	<p>基底核変性疾患 (パーキンソン病、ハンチントン病、脳性麻痺、ウィルソン病)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 大脳基底核を中心に、錐体外路系の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第7回	<p>その他の変性疾患 (脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 小脳、脳幹の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第8回	<p>認知症性疾患 (認知症)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 脳、脊髄の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第9回	<p>筋・運動ニューロン疾患 (重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症など)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 筋の機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第10回	<p>末梢性神経疾患 (ギランバレー症候群、末梢性顔面神経麻痺など)</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 末梢神経の走行について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第11回	<p>圧迫性および絞扼性ニューロパシー (橈骨神経麻痺～脛骨神経麻痺)</p> <p>【到達目標】</p>	

	<p>上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 末梢神経の走行について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛など）、機能的疾患（頭痛）</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 上記の神経の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 精神科疾患</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 精神疾患について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 心療内科疾患</p> <p>【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。</p> <p>【備考】 心療内科疾患について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>15回目 講義内容のまとめ</p> <p>【到達目標】 1回目から14回目までの内容に関して評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>事前学習として、事前配布された演習問題を回答するだけでは無く、授業時間に問題の解説を指示されても他の学生が理解できるように周辺知識もしっかりと身につけておく。教科書等の関連ページの熟読が必要となる。（予習35分～）</p> <p>教科書・参考書を利用して分からない点は、質問等にて積極的に解決すること。</p> <p>当該授業で演習した内容について、十分に復習し理解するようにする。（復習35分～）</p>
教科書	<p>臨床医学各論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 臨床医学総論 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）</p>
参考書	<p>・病気がみえる</p>
成績評価	<p>講義時間（2回目～14回目）のはじめに行う小テスト(20%)、および15回目の確認評価(80%)を総括して、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。</p> <p>受験資格は、15回の講義に3/5以上（9回以上）の出席を満たした者とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：齊藤真吾 研究室：附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス：s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火・木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。</p>
備考	<p>①実務経験：本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校附属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導する。</p> <p>②課題に対してはフィードバックを行う。</p> <p>③小テストなどの結果をフィードバックするなどのアクティブラーニングを行う。</p> <p>④小テスト、期末試験などの成績が一定の水準に満たない場合は、課題、補習を課すことがあり、必ず出席すること。</p>
	<p>①ディプロマポリシーとの関係：◎-1 ②科目ナンバー：S-2-MM19-RS-L-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
鶴 浩幸			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	本科目では小児疾患、一般外科、麻酔科、婦人科疾患、皮膚科疾患、眼科疾患、耳鼻科疾患などの代表的疾患や加齢現象（サルコペニア、ロコモ、フレイル）などを取り上げる。各疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療などの包括的な理解を通じて代表的疾患を学ぶことにより、臨床に則した疾患の理解を深めることを目的とする。		
授業計画	第1回	一般外科（損傷総論、ショック、外科的感染症、救急処置、心肺蘇生術） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 上記疾患について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第2回	麻酔科（全身麻酔、局所麻酔） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 全身麻酔、局所麻酔について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第3回	復習1 第1回および第2回の授業に関する復習を行う。小テストを行い、その解答、解説を行う。	
	第4回	婦人科疾患（子宮頸癌、子宮体癌、乳癌、更年期障害、月経異常） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 子宮の構造と機能および腫瘍、月経周期などについて予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第5回	皮膚科疾患（接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、じんま疹、円形脱毛症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 皮膚の構造と機能およびアレルギーについて予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第6回	復習2 第4回および第5回の授業に関する復習を行う。小テストを行い、その解答、解説を行う。	
	第7回	小児疾患（夜驚症、夜尿症、脳性麻痺、肘内障、気管支喘息、小児神経症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 小児の特徴について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第8回	眼科疾患・1（結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労、加齢黄斑変性症） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 眼の構造と機能および炎症について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第9回	眼科疾患・2（ぶどう膜炎、ドライアイ、飛蚊症、糖尿病性網膜症、網膜剥離） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 眼の構造と機能および炎症について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第10回	復習3 第7回、第8回、第9回の授業に関する復習を行う。小テストを行い、その解答、解説を行う。	
	第11回	耳鼻科疾患（メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、耳管機能不全） 【到達目標】 上記した疾患の概念、病態生理、症状、診断、治療について説明できる。 【備考】 中耳および内耳、鼻腔および副鼻腔の構造と機能について予習をすること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。	
	第12回	加齢に伴う病態（フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム） 【到達目標】	

	<p>上記した用語の定義や概念、病態、成因、治療などについて説明できる。</p> <p>【備考】 加齢(老化)によって身体に起こる現象について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 復習4</p> <p>【到達目標】 第11回および第12回の授業に関する復習を行う。小テストを行い、その解答、解説を行う。</p> <p>第14回 講義内容のまとめ</p> <p>【到達目標】 本授業内容に関してのまとめ、復習を行う。アクティブラーニングを含む。</p> <p>第15回 筆記評価 本科目の筆記試験を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定された講義の範囲を予習(30分)と講義後に授業の範囲の復習(30分)を行ってください。講義前日には教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	臨床医学各論 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社) 臨床医学総論 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)
参考書	適宜知らせる。
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。</li> <li>2. 筆記試験100% (100点満点中60点以上を合格とする)</li> <li>3. 小テストや授業態度(出席)なども評価の参考とする。</li> <li>4. 再試の対象となった場合には補講などを実施することがあるので、単位認定者の指示に従うこと。</li> </ol>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 鶴 浩幸          教員室 : 附属病院2階鍼灸教員室          メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>本講義は指定された教科書に基づいて行いますので、授業時には必ず教科書を持参して下さい。</p> <p>本講義ではアクティブラーニングがあります。</p> <p>授業資料の一部はGoogleクラスルームに公開します。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-1、○-2】</p>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実務経験 鶴 浩幸 : 25年の教員経験に加えて、本学附属鍼灸センター、附属統合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム(老人保険施設含む)、クリニカ・ツチヤ(ペイン・クリニック、ポルトガル)、Sport Lisboa e Benfica(スポーツ・クリニック、SLB、ポルトガル)、ERISA大学(ポルトガル)、米国M.C.O.M.などでの実務経験(25年)をもとに指導を行う。</li> <li>2. 科目ナンバー SS-2-MM20-RS-L-1</li> <li>3. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2</li> </ol>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
谷口 剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、1年次に学んだ解剖学をベースにヒトの運動ならびにその動きを支える構造・機能の成り立ちに着目し、運動・動きの基礎を理解することで臨床での実践、指導等に应用することを学びます。</p> <p>本授業終了時には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体各部の構造・機能の特徴が説明できる</li> <li>2. ヒトの動きをモルフォロジー・バイオメカニクスそれぞれの観点で観察することができる</li> <li>3. 運動評価・指導に活かすことができる</li> </ol> <p>を期待します。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODダクシヨン</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本授業の概要を理解する</li> <li>2. モルフォロジー・バイオメカニクスの観点を理解する</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODダクシヨン1 (10min) なぜ、機能解剖学を学ぶのか？</li> <li>2. インTRODダクシヨン2 (5min) シラバスの説明</li> <li>3. インTRODダクシヨン3 (10min) ラーニングポートフォリオの作り方</li> <li>4. インTRODダクシヨン4 (5min) プレゼンテーションの説明</li> <li>5. インTRODダクシヨン5 (10min) レポートの説明</li> <li>6. ヒトを観察する1 (10min) モルフォロジー的考察</li> <li>7. ヒトを観察する2 (10min) バイオメカニクスの考察</li> </ol> <p>第2回 身体・運動を支える骨・関節の構造と機能</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の構造と機能について説明できる</li> <li>2. 骨の病態生理について説明できる</li> <li>3. 関節の構造と機能について説明できる</li> <li>4. 関節の病態生理について説明できる</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の構造 (10min)</li> <li>2. 骨の機能 (10min)</li> <li>3. 骨の病態生理 (10min)</li> <li>4. 関節の構造 (10min)</li> <li>5. 関節の機能 (10min)</li> <li>6. 関節の病態生理 (10min)</li> </ol> <p>第3回 運動の動力となる神経・筋の構造と機能</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経の構造と機能について説明できる</li> <li>2. 神経の病態生理について説明できる</li> <li>3. 筋の構造と機能について説明できる</li> <li>4. 筋の病態生理について説明できる</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経の構造 (10min)</li> <li>2. 神経の機能 (10min)</li> <li>3. 神経の病態生理 (10min)</li> <li>4. 筋の構造 (10min)</li> <li>5. 筋の機能 (10min)</li> <li>6. 筋の病態生理 (10min)</li> </ol> <p>第4回 足部・足関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足部・足関節の構造と機能について説明できる</li> <li>2. 足部・足関節の傷害発生機序について説明できる</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足部・足関節を観察してみよう (15min)</li> <li>2. 足部・足関節の構造 (15min)</li> <li>3. 足部・足関節の機能 (15min)</li> <li>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</li> </ol> <p>第5回 膝関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 膝関節の構造と機能について説明できる</li> <li>2. 膝関節の傷害発生機序について説明できる</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p>



第6回	<p>1. 膝関節を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 膝関節の構造 (15min)</p> <p>3. 膝関節の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p> <p>股関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 股関節の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 股関節の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 股関節を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 股関節の構造 (15min)</p> <p>3. 股関節の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第7回	<p>腰椎の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 腰椎の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 腰椎の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 腰椎を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 腰椎の構造 (15min)</p> <p>3. 腰椎の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第8回	<p>肩関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 肩関節の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 肩関節の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 肩関節を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 肩関節の構造 (15min)</p> <p>3. 肩関節の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第9回	<p>頸椎の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 頸椎の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 頸椎の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 頸椎を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 頸椎の構造 (15min)</p> <p>3. 頸椎の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第10回	<p>肘関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 肘関節の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 肘関節の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 肘関節を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 肘関節の構造 (15min)</p> <p>3. 肘関節の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第11回	<p>手部・手関節の機能解剖</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 手部・手関節の構造と機能について説明できる</p> <p>2. 手部・手関節の傷害発生機序について説明できる</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式</p> <p>1. 手部・手関節を観察してみよう (15min)</p> <p>2. 手部・手関節の構造 (15min)</p> <p>3. 手部・手関節の機能 (15min)</p> <p>4. 傷害のメカニズムについて (15min)</p>
第12回	<p>グループ発表 (AL) G1テーマ「姿勢」 / G2テーマ「歩行・走行」</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 姿勢について、観察することができる</p> <p>2. 姿勢の構造・機能が説明できる</p> <p>3. 姿勢評価、姿勢改善指導ができる</p> <p>4. 歩行・走行について、観察することができる</p> <p>5. 歩行・走行の構造・機能が説明できる</p> <p>6. 歩行・走行評価、歩行・走行改善指導ができる</p> <p>【授業形態】 対面形式 ※アクティブラーニングで実施</p> <p>1. グループ発表 (20分)</p> <p>2. 質疑応答 (10分)</p> <p>3. 教員からのポイントレクチャー (15分)</p>
第13回	<p>グループ発表 (AL) G3テーマ「投動作」 / G4テーマ「打動作」</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 投打動作について、観察することができる</p> <p>2. 投打動作の構造・機能が説明できる</p>

	<p>3. 投打動作評価、投打動作改善指導ができる</p> <p><b>【授業形態】</b> 対面形式 ※アクティブラーニングで実施  1. グループ発表 (20分)  2. 質疑応答 (10分)  3. 教員からのポイントレクチャー (15分)</p> <p>第14回 グループ発表 (AL) G5テーマ「跳動作」 / G6テーマ「着地動作」</p> <p><b>【到達目標】</b>  1. 跳・着地動作について、観察することができる  2. 跳・着地動作の構造・機能が説明できる  3. 跳・着地動作評価、跳・着地動作改善指導ができる</p> <p><b>【授業形態】</b> 対面形式 ※アクティブラーニングで実施  1. グループ発表 (20分)  2. 質疑応答 (10分)  3. 教員からのポイントレクチャー (15分)</p> <p>第15回 グループ発表 (AL) G7テーマ「蹴動作」 / G8テーマ「切替動作」</p> <p><b>【到達目標】</b>  1. 蹴・切替動作について、観察することができる  2. 蹴・切替動作の構造・機能が説明できる  3. 蹴・切替動作評価、蹴・切替動作改善指導ができる</p> <p><b>【授業形態】</b> 対面形式 ※アクティブラーニングで実施  1. グループ発表 (20分)  2. 質疑応答 (10分)  3. 教員からのポイントレクチャー (15分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>本授業は、オンデマンド形式です。シラバスを参考にしながら、順番に視聴し、各自のペースで勉強してください。</p> <p>動画はすべてGoogle Classroomにアップします。</p> <p>予習 (10分) シラバスを参考に、解剖学の教科書で復習を行なってください。</p> <p>復習 (10分) 授業内容を振り返りながら、わかったこと、わからなかったことをノートに整理してください。</p> <p>第11回～第15回は、オンラインでグループ発表会を実施します。</p> <p>グループでテーマについて調査を行ない、プレゼン資料をPCで作成して発表に臨んでください。必ず全員が発表できるように各グループで工夫してください。</p>
教科書	オンデマンド動画
参考書	<p>1. Rene Cailliet (著) 萩島秀男 (訳著) 運動器の機能解剖 医歯薬出版株式会社 (2004)</p> <p>2. クルト・マイネル (著) 金子明友 (訳) スポーツ運動学第16刷 大修館書店 (2018)</p> <p>3. 青木隆明 (監修) 林典雄 (執筆) 改訂第2版運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢・下肢・体幹 メジカルビュー社 (2020)</p>
成績評価	<p>●受験資格について  学生便覧にもとづき、3/5以上の出席した者により受験資格を認めます。</p> <p>●成績評価について  成績評価は、以下の3項目においてそれぞれ評価 (100点満点) を行ないます。3項目の合計平均60点以上を取得された者に単位を認定します。</p> <p>1. ラーニングポートフォリオ (100点)  授業 (15回分) でまとめたノートをファイリングして、最終評価時に提出してください。PCでの作成は不可とします。直筆の原本を必ず提出してください。</p> <p>2. プレゼンテーション (100点)  プレゼンテーションルーブリックに基づいて、評価を行ないます。プレゼンテーションは対面で行ないますので、後日日程を調整の上、連絡します。プレゼンテーションの際に質疑応答にてフィードバックも行ないます。</p> <p>3. レポート (100点)  レポートルーブリックに基づいて、評価を行ないます。レポート課題は、グループプレゼンテーションと同様の課題です。発表内容 (口語調) をそのまま印刷する、ルーブリックに基づいた形式でない場合はレポートを受理しません。レポート提出は指定された日時までにGoogle Classroomで提出してください。</p> <p>●補講について  レポート評価のため、補講は実施しません。再提出の場合は、こちらからクラスルームでテーマを指示しますので、その指示に従って指定日時までに作成、再試験の手続きをした証明書とともに提出してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：谷口剛志</p> <p>経歴：はり師きゅう師 (臨床歴26年)、スポーツ健康科学 (修士)</p> <p>たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKA ビーチサッカー (フィジコ)、KALEBITCHフットサル (フィジコ)、ボルトガルクリニックカ土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス (フィジオ)、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに教育指導を行う。</p> <p>所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター</p> <p>連絡先：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p>
備考	<p>ディプロマとの関連 ◎-1 ○-2</p> <p>SS-2-MM22-RS-S-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
鍼灸学科	30時間	講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> リハビリテーションとは“単に「歩く訓練」や「筋力トレーニング」を行うことである”という誤った理解をされることが多い。リハビリテーションとは、多くの職種が協力して患者が社会復帰し、新たな人生の再構築をするための「取り組み」の全てのことを指しており、鍼灸師もその一役を担う重要な職種である。したがって、鍼灸師を目指す諸君はリハビリテーションについて正しい理解をする必要があるとともに、患者が社会復帰するにあたって問題となっている理由を見つけ、それらを解決するための適切な方法を見出す能力を身につける必要がある。そのような背景のもと、授業計画にあるような内容を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①リハビリテーションについて正しい理解ができる。 ②各疾患によって生じる「障害」の理解・分類・解決に導くための考え方を理解できる。 ③各単元の終了時には、アクティブラーニングとしてその単元の内容を含む小テストを用いた課題解決型学習を行い、各単元の学習内容の習熟度を高める。</p>
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション医学・医療：理念，歴史，生活機能分類，4分野 [授業概要] リハビリテーションの理念，歴史，生活機能分類，4分野について学習する。 [到達目標・学習目標] リハビリテーションの理念，歴史，生活機能分類，4分野について理解することができる。</p> <p>第2回 リハビリテーション医学・医療：リハビリテーション医療，医療チーム，地域リハビリテーション [授業概要] リハビリテーション医療，医療チーム，地域リハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] リハビリテーション医療，医療チーム，地域リハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>第3回 運動学：バイオメカニクス，機能解剖学 [授業概要] バイオメカニクス，機能解剖学について学習する。 [到達目標・学習目標] バイオメカニクス，機能解剖学について理解することができる。</p> <p>第4回 運動学：機能解剖学，運動発達 [授業概要] 機能解剖学，運動発達について学習する。 [到達目標・学習目標] 機能解剖学，運動発達について理解することができる。</p> <p>第5回 運動学：姿勢制御，歩行 [授業概要] 姿勢制御，歩行について学習する。 [到達目標・学習目標] 姿勢制御，歩行について理解することができる。</p> <p>第6回 運動学：運動学習，診断・評価学：リハビリテーション診断・評価・診療の流れ [授業概要] 運動学（運動学習），リハビリテーション診断・評価学について学習する。 [到達目標・学習目標] 運動学（運動学習），リハビリテーション診断・評価学について理解することができる。</p> <p>第7回 診断・評価学：検査・測定（総論） [授業概要] 検査・測定の概論について学習する。 [到達目標・学習目標] 検査・測定の概論について理解することができる。</p> <p>第8回 診断・評価学：検査・測定（各論） [授業概要] 各種検査・測定について学習する。について学習する。 [到達目標・学習目標] 各種検査・測定について理解することができる。</p> <p>第9回 治療学：運動療法 [授業概要] 運動療法について学習する。 [到達目標・学習目標] 運動療法について理解することができる。</p> <p>第10回 治療学：物理療法 [授業概要] 物理療法について学習する。 [到達目標・学習目標]</p>

	<p>物理療法について理解することができる。</p> <p>第11回 治療学：作業療法・言語聴覚療法 [授業概要] 作業療法・言語聴覚療法について学習する。 [到達目標・学習目標] 作業療法・言語聴覚療法について理解することができる。</p> <p>第12回 補装具：義肢・装具 [授業概要] 義肢・装具について学習する。 [到達目標] 義肢・装具について理解することができる。</p> <p>第13回 補装具：自助具・福祉用具 [授業概要] 自助具・福祉用具について学習する。 [到達目標] 自助具・福祉用具について理解することができる。</p> <p>第14回 第1回～第13回までのまとめ [授業概要] 第1回～第13回までの講義内容について総まとめの復習を国家試験形式の問題を基に行う。 [到達目標] 第1回～第13回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>第15回 評価・総括 [授業概要] 上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。 [到達目標・学習目標] 評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目と配布資料を予め熟読すること(予習時間45分)。 終了した講義の内容について、教科書の該当する項目の熟読と課題の見直しをすること(復習時間45分)。 解決しない場合は担当教員にメール等で連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「新版リハビリテーション医学」東洋療法学校協会編 安保雅博監修(文光堂)  *各講義開始前に講義資料をGoogle Classroomに掲載する。
参考書	「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 リハビリテーション医学」安保雅博(監修)(羊土社) 「リハビリテーションビジュアルブック」落合慈之(監修)(学研メディカル秀潤社) 「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学」山崎 敦(著)(羊土社)
成績評価	第15回目(筆記試験(本試験))の得点により評価する。 得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 木村篤史 研究室 : 附属病院総合リハビリテーションセンター メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールにて事前連絡の後、随時調整する
備考	①医療機関のリハビリテーションセンターにて理学療法士として27年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連: DP1 ◎ DP2 ○ 科目ナンバー: SS-2-MM23-RS-L-1 ③アクティブラーニングの有無: 有り。具体的には各単元の終了時に小テストを用いた課題解決型学習を通じて、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法: 講義時間内に口頭にて実施する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
木村 篤史			
鍼灸学科	30時間	講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 前期の「リハビリテーション学総論」で学んだ基本的な内容を踏まえた上で、各疾患のリハビリテーションについてそれぞれ学習する。具体的には、各疾患による「障害」、「障害の評価」、「リハビリテーションの具体的な内容」について、実際の症例を動画や写真などを提示しながら講義を進める。</p> <p><b>【到達目標】</b> ①各疾患による「障害」、「障害の評価」、「リハビリテーションの具体的な内容」について理解することができる。 ②各単元の終了時には、アクティブラーニングとしてその単元の内容を含む小テストを用いた課題解決型学習を行い、各単元の学習内容の習熟度を高める。</p>
授業計画	<p>第1回 整形外科疾患：上肢の運動器疾患 [授業概要] 上肢の運動器疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 上肢の運動器疾患のリハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>第2回 整形外科疾患：下肢の運動器疾患 [授業概要] 下肢の運動器疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 下肢の運動器疾患のリハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>第3回 整形外科疾患：下肢・脊椎の運動器疾患 [授業概要] 下肢・脊椎の運動器疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 下肢・脊椎の運動器疾患のリハビリテーションについて理解することができる。</p> <p>第4回 整形外科疾患：脊髄損傷 [授業概要] 脊髄損傷のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 脊髄損傷のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第5回 整形外科疾患：切断 [授業概要] 切断のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 切断のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第6回 整形外科疾患：関節リウマチ・スポーツ傷害 [授業概要] 関節リウマチ・スポーツ傷害のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 関節リウマチ・スポーツ傷害のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第7回 神経疾患：脳血管障害 [授業概要] 脳血管障害のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標] 脳血管障害のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第8回 神経疾患：パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症 [授業概要] パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多系統萎縮症・筋萎縮性側索硬化症のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第9回 神経疾患：末梢神経障害・ポリオ [授業概要] 末梢神経障害・ポリオのリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 末梢神経障害・ポリオのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第10回 内部障害：虚血性心疾患・呼吸器疾患 [授業概要] 虚血性心疾患・呼吸器疾患のリハビリテーションについて学習する。 [到達目標・学習目標] 虚血性心疾患・呼吸器疾患のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第11回 内部障害：糖尿病・腎尿路疾患、がん [授業概要]</p>

	<p>糖尿病・腎尿路疾患，がんのリハビリテーションについて学習する。  [到達目標・学習目標]  糖尿病・腎尿路疾患，がんのリハビリテーションについて理解する。  高齢者に多く見られる疾患：骨粗鬆症・廃用症候群・認知症  [授業概要]  骨粗鬆症・廃用症候群・認知症のリハビリテーションについて学習する。  [到達目標・学習目標]  骨粗鬆症・廃用症候群・認知症のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>小児疾患：脳性麻痺・筋ジストロフィー・二分脊椎  [授業概要]  脳性麻痺・筋ジストロフィー・二分脊椎のリハビリテーションについて学習する。  [到達目標]  脳性麻痺・筋ジストロフィー・二分脊椎のリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第14回</p> <p>第1回～第13回までのまとめ  [授業概要]  第1回～第13回までの講義内容について総まとめの復習を国家試験形式の問題を基に行う。  [到達目標]  第1回～第13回までの講義内容を網羅した国家試験形式の問題の解答を導き出せる。</p> <p>第15回</p> <p>評価・総括  [授業概要]  上記の学習内容の理解度を確認するための評価として筆記試験を実施する。評価実施後に筆記試験の設問に対する解答について解説を行う。  [到達目標・学習目標]  評価として筆記試験を受けることで、これまでの学習内容の到達度を確認することが出来る。また、筆記試験の設問に対する解説を聞くことで、本講の全体的な復習となる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	準備学習として、次の講義に該当する教科書の項目と配布資料を予め熟読すること（予習時間45分）。終了した講義の内容について、教科書の該当する項目の熟読と課題の見直しをすること（復習時間45分）。解決しない場合は担当教員にメール等で連絡し、オフィスアワーに質問すること。
教科書	「新版リハビリテーション医学」東洋療法学校協会編 安保雅博監修（文光堂） *各講義開始前に講義資料をGoogle Classroom に掲載する。
参考書	「PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 リハビリテーション医学」 安保雅博（監修）（羊土社） 「リハビリテーションビジュアルブック」落合慈之（監修）（学研メディカル秀潤社）
成績評価	第15回目の筆記試験（本試験）の得点により評価する。 得点が合格点に達しない場合は追試験を実施する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村篤史 研究室：附属病院総合リハビリテーションセンター メールアドレス：a_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：メールにて事前連絡の後、随時調整する
備考	①医療機関のリハビリテーションセンターにて理学療法士として27年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。 ②この授業とディプロマポリシーとの関連：DP1 ◎ DP2 ○ 科目ナンバー：SS-2-MM24-RS-L-1 ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的には各単元の終了時に小テストを用いた課題解決型学習を通じて、自発的に問題解決に取り組む。 ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義＋対面 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本演習は、1年次に学んだ東洋医学概論Ⅰ、東洋医学概論Ⅱを振り返りながら、鍼灸臨床の現場でその知識を活かす方法を学ぶ。 演習では症例問題等を用い、東洋医学的な視点に立った分析が出来る臨床脳を修得することを到達目標とする。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気血津液の生理から病理の状態が説明できる。</li> <li>2. 各蔵象の生理から病理が説明できる。</li> <li>3. 病因病機を理解する。</li> <li>4. 弁証の流れが説明できる。</li> <li>5. 症状・所見から弁証が想起できる。</li> </ol>
授業計画	<p>1回目 弁証に必要な所見1 五行学説、気血津液の生理・病理 [到達目標] 1, 弁証に必要な所見（五行学説、気血津液の生理・病理）について各々の特徴を理解し、説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 [授業形態] アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>2回目 弁証に必要な所見2 病因（外感病因、内傷病因、病理産物とその他の病因） [到達目標] 1, 弁証に必要な所見（病因）について各々の特徴を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>3回目 弁証に必要な所見3 東洋医学的診察法（舌診、脈診、腹診） [到達目標] 1, 弁証に必要な所見（舌診、脈診、腹診）について各々の特徴を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>4回目 八綱弁証 八綱弁証の進め方と証の決定 [到達目標] 1, 八綱弁証について、各々の特徴的な証を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>5回目 気血津液弁証 気血津液弁証の進め方と証の決定 [到達目標] 1, 気血津液弁証について、各々の特徴的な証を理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>6回目 生理と病理 蔵象 肝・胆・心 [到達目標] 1, 肝・胆・心の生理・病理・証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>7回目 生理と病理 蔵象 小腸・脾・胃 [到達目標] 1, 小腸・脾・胃の生理・病理・証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。 [授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習）</p> <p>8回目 まとめ [到達目標] 1, これまでの前半講義における弁証をまとめる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。</p>

9回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） 生理と病理 蔵象 肺・大腸・腎</p> <p>[到達目標] 1, 肺・大腸・腎の生理・病理・証について、理解し説明できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
10回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） 生理と病理 蔵象 膀胱、五臓の相互関係、五臓の複合病証</p> <p>[到達目標] 1, 膀胱の生理・病理・証について、理解し説明できる。 2, 五臓の相互関係および複合病証について、理解し説明ができる。 3, 症例を通じ、理解を深める。 4, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
11回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） 生理と病理 蔵象 五臓の相互関係、五臓の複合病証</p> <p>[到達目標] 1, 五臓の相互関係および複合病証について、理解し説明ができる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 4, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
12回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） 経絡弁証（肺経、大腸経、胃経、脾経、心経、小腸経、膀胱経）</p> <p>[到達目標] 1, 各経絡（肺経、大腸経、胃経、脾経、心経、小腸経、膀胱経）の症候を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
13回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） 経絡弁証（腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経、督脈、任脈）</p> <p>[到達目標] 1, 各経絡（腎経、心包経、三焦経、胆経、肝経、督脈、任脈）の症候を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
14回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） その他の弁証（六淫弁証、六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証）</p> <p>[到達目標] 1, その他の弁証（六淫弁証、六経弁証、衛気営血弁証、三焦弁証）を理解し弁証できる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, 小テストを行い、フィードバックする。</p>
15回目	<p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） まとめと評価</p> <p>[到達目標] 1, これまでの後半講義における弁証をまとめる。 2, 症例を通じ、理解を深める。 3, これまでの弁証の筆記試験を行う。 4, 試験内容についてフィードバックを行う。</p> <p>[授業形態] 講義形式、アクティブ・ラーニング形式（症例作成を通じた学習） [評価] 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	本演習では、教科書を事前学習テキストとして指定し、授業前までに指定された範囲を必読し、知識の修得を図る。事前にしっかり内容を把握・整理し、疑問点等をまとめておくこと（60分）。
教科書	新版 東洋医学概論 医道の日本
参考書	針灸学 [基礎編] 東洋学術出版社
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施する。 成績は小テスト10%、筆記試験90%で評価し、これらを総合し、60%以上取得した者に対し、単位を認定する。 再本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・火曜日9:00-17:30
備考	1. 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（20年）をもとに実習指導を行う。  2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1、○-2  3. 科目ナンバー SS-2-0M3-RS-S-1



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義＋対面 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鍼灸の科学的研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。</li> <li>・鍼鎮痛の作用機序、各種生体機能（内臓、器官）・運動器系に及ぼす影響の作用機序に関する知識および、鍼灸の治効理論の知識を身に付ける。</li> </ul>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、鍼の基礎知識、刺鍼方法、基本17手技、特殊鍼法 【到達目標】 鍼の形態、刺鍼方法について説明できる。 基本17手技について説明できる。 特殊鍼法について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>2回目 灸の基礎知識、灸術、鍼灸の臨床的応用、適応と禁忌 【到達目標】 灸の基礎知識について説明できる。 灸術の種類について説明できる。 鍼灸の刺激量について説明できる。 鍼灸施術の適応と禁忌について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>3回目 鍼灸施術におけるリスク管理 【到達目標】 気胸の原因・症状・対応・予防について説明できる。 折鍼の原因・対応・予防について説明できる。 出血・内出血の原因・対応・予防について説明できる。 抜鍼困難の原因・対応・予防について説明できる。 脳貧血の原因・対応・予防について説明できる。 臓器への刺鍼リスクについて説明できる。 灸痕化膿の原因・対応・予防について説明できる。 灸あたりの原因・対応・予防について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>4回目 感染症対策 【到達目標】 消毒と滅菌について説明できる。 手指消毒と患部消毒について説明できる。 器具の滅菌について説明できる。 肝炎とエイズなどの感染症に対する対策について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>5回目 鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導 【到達目標】 痛みの受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 内因性発痛物質について説明できる。 痛覚伝導路について説明できる。 関連痛について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>6回目 鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導 【到達目標】 触圧受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 触覚伝導路について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>7回目 灸刺激（温感覚）の受容と伝導 【到達目標】 温受容器・冷受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 温覚伝導路について説明できる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>8回目 鍼鎮痛1 【到達目標】 鍼麻酔の長所と短所について説明できる。</p>

	<p>鍼鎮痛の特徴（内因性鎮痛機構）について説明できる。  下行性疼痛抑制系について説明できる。  内因性モルヒネ様物質について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>9回目  鍼鎮痛2  【到達目標】  ゲートコントロール説について説明できる。  広汎性侵害抑制調節について説明できる。  末梢性鎮痛について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>10回目  鍼灸治効機序と自律神経1  【到達目標】  自律神経について説明できる。  自律神経系の神経伝達物質と受容体について説明できる。  交感神経・副交感神経・内臓求心性神経について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>11回目  鍼灸治効機序と自律神経2、軸索反射  【到達目標】  体性-内臓反射による鍼灸の効果について説明できる。  鍼灸刺激による胃運動の反応について説明できる。  鍼灸刺激による膀胱運動の反応について説明できる。  鍼灸刺激による血圧の反応について説明できる。  軸索反射について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>12回目  鍼灸治効機序と生体防御機構、運動系の調節  【到達目標】  鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。  体性-運動反射（伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射、自原抑制）について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>13回目  鍼灸刺激による内因性発痛物質の遊離、その他の機序  【到達目標】  鍼灸刺激で遊離される内因性発痛物質とその作用について説明できる。  その他入れる  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>14回目  鍼灸治効機序と関連学説  【到達目標】  鍼灸施術とサイバネティックス学説との関連について説明できる。  鍼灸施術とホメオスターシスとの関連について説明できる。  鍼灸施術と汎適応症候群との関連について説明できる。  鍼灸施術と過剰刺激症候群との関連について説明できる。  鍼灸施術と圧発汗反射との関連について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）</p> <p>15回目  鍼灸施術の治療的作用と評価  【到達目標】  鍼灸施術治療的作用について説明できる。  【授業形態】  アクティブ・ラーニング型授業（前半：講義、後半：確認テスト、フィードバック）  【評価】  筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生理学」「解剖学」を良く復習しておくこと（60分）。</li> <li>・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。</li> <li>・課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。</li> </ul>
教科書	・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著（医道の日本社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集（医歯薬出版）</li> <li>・「生理学ー第2版ー」佐藤優子、佐藤昭夫 他著（医歯薬出版）</li> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著（医歯薬出版）</li> <li>・「鍼灸臨床の科学」西條一止、熊澤孝朗監修（医歯薬出版）</li> </ul>
成績評価	評価方法と評価割合（筆記試験95%、受講態度5%） ・出席基準（講義回数5分の3以上の出席が必要）を満たした者について筆記試験を実施する。 ・筆記試験で60%以上を取得できた者に単位を認定する。 ・本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口 玲奈 研究室：鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月・火曜日9：00ー17：30
備考	1, 実務経験 田口玲奈：京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（20年）をもとに指導を行う。 2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-1 3, 科目ナンバー

	SS-2-AM1-RS-S-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義/オンデマンド AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、はり師・きゅう師国家試験対策として位置づけられる。 はり師・きゅう師国家試験の中でも、はり理論・きゅう理論の問題の出題傾向とその対策について考える。 はり理論・きゅう理論の問題を解くための知識を確認し、鍼灸の科学的研究を通して、鍼灸作用に関する基礎医学的知識を身に付ける。</p>		
授業計画	1回目	<p>ガイダンス、はり師・きゅう師国家試験問題の分析、鍼の基礎知識、刺鍼方法 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 過去10年間のはり・きゅう理論国家試験問題（はり理論・きゅう理論）の傾向を分析し、現状を知る。 鍼の形態、刺鍼方法について説明できる。 鍼の形態、刺鍼方法に関する国家試験問題について解説できる。</p>	
	2回目	<p>基本17手技、特殊鍼法、灸の基礎知識、 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 基本17手技について説明できる。 特殊鍼法について説明できる。 灸の基礎知識について説明できる。 基本17手技・特殊鍼法・灸の基礎知識に関する国家試験問題について解説できる。</p>	
	3回目	<p>灸術、鍼灸の臨床的応用、適応と禁忌 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 灸術の種類について説明できる。 鍼灸の刺激量について説明できる。 鍼灸施術の適応と禁忌について説明できる。 灸術の種類・鍼灸の刺激量・鍼灸施術の適応と禁忌に関する国家試験問題について解説できる。</p>	
	4回目	<p>鍼灸施術におけるリスク管理 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 気胸の原因・症状・対応・予防について説明できる。 折鍼の原因・対応・予防について説明できる。 出血・内出血の原因・対応・予防について説明できる。 抜鍼困難の原因・対応・予防について説明できる。 脳貧血の原因・対応・予防について説明できる。 臓器への刺鍼リスクについて説明できる。 灸痕化膿の原因・対応・予防について説明できる。 灸あたりの原因・対応・予防について説明できる。 鍼灸施術におけるリスク管理に関する国家試験問題について解説できる。</p>	
	5回目	<p>感染症対策 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 消毒と滅菌について説明できる。 手指消毒と患部消毒について説明できる。 器具の滅菌について説明できる。 肝炎とエイズなどの感染症に対する対策について説明できる。 感染症対策に関する国家試験問題について解説できる。</p>	
	6回目	<p>鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導 【授業形態】 アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p> <p>【学習目標】 痛みの受容器について説明できる。 求心性神経について説明できる。 内因性発痛物質について説明できる。 痛覚伝導路について説明できる。</p>	

7回目	<p>関連痛について説明できる。          鍼刺激（痛み感覚）の受容と伝導に関する国家試験問題について解説できる。          鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
8回目	<p>【学習目標】          触圧受容器について説明できる。          求心性神経について説明できる。          触覚伝導路について説明できる。          鍼刺激（触圧感覚）の受容と伝導に関する国家試験問題について解説できる。          灸刺激（温感覚）の受容と伝導</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
9回目	<p>【学習目標】          温受容器・冷受容器について説明できる。          求心性神経について説明できる。          温覚伝導路について説明できる。          灸刺激（温感覚）の受容と伝導に関する国家試験問題について解説できる。          鍼灸治効機序と反射</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
10回目	<p>【学習目標】          反射について説明できる。          体性-運動反射（伸張反射、拮抗抑制、屈曲反射、自原抑制）について説明できる。          軸索反射について説明できる。          鍼灸治効機序と反射に関する国家試験問題について解説できる。          鍼灸治効機序と自律神経</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
11回目	<p>【学習目標】          自律神経について説明できる。          自律神経系の神経伝達物質と受容体について説明できる。          交感神経・副交感神経・内蔵求心性神経について説明できる。          体性-内臓反射による鍼灸の効果について説明できる。          鍼灸刺激による胃運動の反応について説明できる。          鍼灸刺激による膀胱運動の反応について説明できる。          鍼灸刺激による血圧の反応について説明できる。          鍼灸治効機序と自律神経に関する国家試験問題について解説できる。          鍼灸治効機序と生体防御機構</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
12回目	<p>【学習目標】          鍼灸刺激で遊離される内因性発痛物質とその作用について説明できる。          鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。          鍼灸治効機序と生体防御機構に関する国家試験問題について解説できる。          鍼鎮痛1</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
13回目	<p>【学習目標】          鍼麻酔の長所と短所について説明できる。          鍼鎮痛の特徴（内因性鎮痛機構）について説明できる。          下行性疼痛抑制系について説明できる。          内因性モルヒネ様物質について説明できる。          鍼鎮痛2</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
14回目	<p>【学習目標】          ゲートコントロール説について説明できる。          広汎性侵害抑制調節について説明できる。          鍼鎮痛に関する国家試験問題について解説できる。          鍼灸治効機序と関連学説</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>
15回目	<p>【学習目標】          鍼灸施術とサイバネティックス学説との関連について説明できる。          鍼灸施術とホメオスタシスとの関連について説明できる。          鍼灸施術と汎適応症候群との関連について説明できる。          鍼灸施術と過剰刺激症候群との関連について説明できる。          鍼灸施術と圧発汗反射との関連について説明できる。          鍼灸治効機序と関連学説に関する国家試験問題について解説できる。          鍼灸施術の治療的作用と評価</p> <p>【授業形態】          アクティブ・ラーニング型授業で行う（課題とフィードバック）</p>

	<p>【学習目標】  鍼灸施術治療的作用について説明できる。  鍼灸施術治療的作用に関する国家試験問題について解説できる。  試験内容についてフィードバックを行う。</p> <p>【評価】  筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生理学」「解剖学」を良く復習しておくこと(60分)。</li> <li>・配布資料を熟読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ質問して解決すること。</li> <li>・課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。</li> </ul>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「はりきゅう理論」教科書執筆小委員会著(医道の日本社)</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鍼灸臨床最新科学ーメカニズムとエビデンスー」川喜田健司、矢野忠 編集(医歯薬出版)</li> <li>・「生理学ー第2版ー」佐藤優子、佐藤昭夫 他著(医歯薬出版)</li> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎昭弘著(医歯薬出版)</li> <li>・「鍼灸臨床の科学」西條一止、熊澤孝朗監修(医歯薬出版)</li> </ul>
成績評価	<p>評価方法と評価割合(筆記試験95%, 受講態度5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席基準(講義回数の5分の3以上の出席が必要)を満たした者について筆記試験を実施する。</li> <li>・筆記試験で60%以上を取得できた者に単位を認定する。</li> <li>・再本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口 玲奈  研究室 : 鍼灸センター2階 教員室  メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月・火曜日9:00-17:30</p>
備考	<p>1, 実務経験  田口玲奈: 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験(20年)をもとに実習指導を行う。</p> <p>2, この授業とディプロマポリシーとの関連  ◎-2, ○-1</p> <p>3, 科目ナンバー  SS-2-AM2-RS-S-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義/オンデマンド AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、鍼灸臨床におけるリスクマネジメント（危機管理）を理解することを目的として、過去に発生したアクシデント（医療事故・過誤、訴訟など）やインシデント（ヒヤリハットなど）事例を取り上げ、学びを深める。また、衛生観念やクリーンニードルテクニック、治療における安全管理の実際にも触れ、対応策・予防策についても学ぶ。</p> <p>本科目ははり師きゅう師国家試験の受験に必要な必須科目として位置づけられている。</p> <p>本科目で得たリスクマネジメントの観点・意識を日頃から心掛けて、実技・実習に臨むこと。</p>
授業計画	<p>第1回目 はりきゅう安全学総論、わが国の鍼灸有害事象事例</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療における危険行為（エラー、違反）</li> <li>2. 医療事故と医療過誤</li> <li>3. ヒューマンエラー</li> <li>4. 国内の有害事象事例</li> <li>5. 国外の有害事象事例</li> <li>6. 鍼の安全性と副作用</li> </ol> <p>第2回目 鍼灸医療事故の事例と対策 ～気胸、折鍼・埋没鍼、感染～</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】 医療訴訟となった事例をもとに、事故の分析と対策を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気胸</li> <li>2. 折鍼・埋没鍼</li> <li>3. 感染</li> </ol> <p>第3回目 鍼灸医療事故の事例と対策 ～出血、神経障害、熱傷～</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】 医療訴訟となった事例をもとに、事故の分析と対策を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出血</li> <li>2. 神経障害</li> <li>3. 熱傷</li> </ol> <p>第4回目 鍼灸医療事故が発生した場合の対処</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の危険度と医療事故のレベル分類</li> <li>2. 事故発生直後の対応</li> <li>3. 死亡または重篤な障害の発生時の報告・連絡</li> <li>4. 死亡または重篤な障害以外の事故の報告・連絡</li> <li>5. 事故の記録</li> <li>6. 患者・家族への説明</li> <li>7. 事故の長期的対応と支援</li> <li>8. 警察への対応</li> <li>9. 弁護士への相談</li> <li>10. 再発の防止</li> </ol> <p>第5回目 鍼灸医療事故の法的解決・保険</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療従事者の法的責任と処分</li> <li>2. 医療事故による紛争の解決方法</li> <li>3. 損害賠償額の算定と支払い義務</li> <li>4. 鍼灸師の賠償責任保険制度</li> </ol> <p>第6回目 インシデントレポート、システムとしての鍼灸医療事故の防止</p> <p>【授業形態】 オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. インシデントレポート</li> <li>2. インフォームドコンセント</li> <li>3. カルテ記載・保存</li> <li>4. ヒューマンエラーの防止</li> <li>5. 医療機器の安全管理</li> <li>6. 環境の整備</li> </ol>

	<p>7. 感染防止          関連療法の安全対策、鍼灸安全性関連文献レビュー  <b>【授業形態】</b>          オンデマンド形式、アクティブラーニング（課題とフィードバック）  <b>【内容】</b>          近年における国内、諸外国からの鍼灸臨床における有害事象症例報告文献を理解し、鍼灸安全教育に反映する。</p> <p>第8回目          まとめと評価  <b>【授業形態】</b>          講義形式  <b>【内容】</b>          これまでの重要事項のまとめ 筆記試験 試験のフィードバック</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を講義前に熟読しておくこと (60分)。
教科書	鍼灸医療安全対策マニュアル 医歯薬出版社 (2010)
参考書	鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版社 (2007) 臨床で知っておきたい鍼灸安全の知識 医道の日本社 (2009) 鍼灸の安全対策サイト 全日本鍼灸学会安全性委員会 <a href="https://safety.jsam.jp/index2.html">https://safety.jsam.jp/index2.html</a>
成績評価	受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5 以上の出席者に対し、評価を実施する。 評価：筆記試験で60%以上を満たした者に単位を認定する。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名：田口玲奈 研究室：附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月・火曜日 9:00～17:30
備考	1, 実務経験 田口玲奈 京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験 (20年) をもとに教育指導を行う。 2, この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-3 3, 科目ナンバー SS-3-AM3-RS-L-1



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
吉田 行宏、大場 美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL:実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>応用はり技術学実習では様々な特殊鍼法を中心に学ぶ。基礎はり技術学実習で学んだ身体各部位への刺鍼技術を復習する。</p> <p>刺鍼に際しての注意点（刺入深度、角度など）や、鍼による過誤や副作用について理解した上で、特殊鍼法と安全・衛生的な鍼技術の修得を目標とする。</p> <p>基本的な鍼技術法に加えて、特殊鍼法を安全・衛生的な鍼技術で行うことができるようになる。また鍼灸臨床の素養として、鍼技術を行うための身なりと用具を整え、誠実な態度で実習を行い、実習の準備や後片付けを身につけることができるようになる。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンスおよび身体刺鍼を行う。          [到達目標] 本科目の趣旨を理解し、自身の下肢前面・外側への刺鍼における注意点を理解し、安全かつ衛生的な手技によって刺入できる。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：基礎はり技術学の内容を確認する。復習：下肢経穴の取穴や下肢への刺鍼の流れを確認する。</p> <p>2回目 クリーンニードル・テクニックを学ぶ          [到達目標] 無菌的な清潔操作による刺鍼技術として、クリーンニードル・テクニックの必要性を理解し習得できるようにする。          鍼体を直接に触れずに行う刺鍼技術を習得できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：クリーンニードル・テクニックの種類を予習する。復習：クリーンニードル・テクニックの刺鍼の流れを確認する。</p> <p>3回目 鍼通電を学ぶ          [到達目標] 低周波鍼通電刺激の手順と安全管理、および通電器の使用方法を理解し、安全に操作できるようにする。          その上で、四肢や腰背への鍼通電の技術を習得できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：鍼通電について、教科書による予習を行う。復習：鍼通電について、刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>4回目 鍼通電を学ぶ          [到達目標] 低周波鍼通電刺激の手順と安全管理、および通電器の使用方法を理解し、安全に操作できるようにする。          その上で、四肢や腰背への鍼通電の技術を習得できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：鍼通電について、教科書による予習を行う。復習：鍼通電について、刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>5回目 皮内鍼と円皮鍼を学ぶ          [到達目標] 皮内鍼・円皮鍼の歴史、方法、種類などの基本を理解する。皮内鍼・円皮鍼による圧痛部への施術法を習得できるようにする。          皮内鍼・円皮鍼の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：皮内鍼・円皮鍼について教科書で予習する。復習：皮内鍼・円皮鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>6回目 小児鍼を学ぶ          [到達目標] 小児鍼の理論と手法を理解する。小児鍼の手技として接触鍼法と摩擦鍼法の手順を理解し習得できるようにする。          小児鍼の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：小児鍼について教科書で予習する。復習：小児鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>7回目 耳鍼療法を学ぶ          [到達目標] 耳鍼療法の理論と手法を理解する。耳鍼療法を実際に行い、その手順を理解し習得できるようにする。          耳鍼療法の扱い方、注意事項や安全対策を理解し、活用できるようにする。          [備考] 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。          予習：小耳鍼療法について教科書で予習する。復習：耳鍼療法について刺鍼の流れとを確認する。</p> <p>8回目 灸頭鍼を学ぶ          [到達目標] 灸頭鍼の理論と手法を理解する。灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得でき</p>

	<p>るようにする。 灸頭鍼の扱い方、注意事項や安全対策について理解し、活用できるようになる。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：灸頭鍼について教科書で予習する。復習：灸頭鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p>
9回目	<p>灸頭鍼を学ぶ 〔到達目標〕 灸頭鍼の理論と手法を理解する。灸頭鍼を実際に行い、その手順を理解し習得できるようにする。 灸頭鍼の扱い方、注意事項や安全対策について理解し、活用できるようになる。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 灸頭鍼について、教科書および配布資料による予習と復習をすること。</p>
10回目	<p>頭皮鍼（通電含む）、顔面鍼 〔到達目標〕 頭皮鍼（通電含む）、顔面鍼の理論と手法を理解する。頭皮鍼と顔面鍼の手順を理解し習得できるようにする。 頭皮鍼と顔面鍼の扱い方、注意事項や安全対策について理解し、活用できるようにする。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：頭皮鍼と顔面鍼について教科書で予習する。復習：頭皮鍼と顔面鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p>
11回目	<p>一般鍼技術の再確認、応用鍼技術の復習 〔到達目標〕 これまで習得した特殊鍼法と一般刺鍼の復習を行なう。他者への刺鍼練習を行い、安全な刺鍼技術を習得できるようにする。 鍼技術の課題を与えて時間内に安全に終わることができるかを練習する。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：特殊鍼法と一般刺鍼を教科書で予習する。復習：特殊鍼法と一般刺鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p>
12回目	<p>一般鍼技術の再確認、応用鍼技術の復習 2 〔到達目標〕 これまで習得した特殊鍼法と一般刺鍼の復習を行なう。他者への刺鍼練習を行い、安全な刺鍼技術を習得できるようにする。 鍼技術の課題を与えて時間内に安全に終わることができるかを練習する。 〔備考〕 鍼技術を行うため準備（身なりと用具を整え）、誠実な態度で実習が行う。また後片付けができる。 予習：特殊鍼法と一般刺鍼を教科書で予習する。復習：特殊鍼法と一般刺鍼について刺鍼の流れとを確認する。</p>
13回目	<p>見極めの評価と応用鍼技術の復習 1 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。 〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p>
14回目	<p>見極めの評価と応用鍼技術の復習 2 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。 〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p>
15回目	<p>見極めの評価と応用鍼技術の復習 3 〔到達目標〕 安全かつ衛生的に、指示された特殊鍼法の技術と一般刺鍼技術が一定の水準に到達しているかを評価する。 特殊鍼法実技の総復習を行い、その手順を理解し習得する。 〔備考〕 見極め実技評価に参加しない者は、応用はり技術学などの配布資料で復習し、はり技術学の重要事項を暗記する。 また教科書を用いての総合的な復習を行うこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』を用いて関連項目の予習(30分)と復習(30分)を行うとともに、自己による技術トレーニングをしていただきたい。 資料や実技に関する動画をグーグルクラスルームに公開するので、予習や復習に活用すること。</p>
教科書	<p>『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎 昭弘著 (医歯薬出版株式会社)</p>
参考書	<p>『鍼灸医療安全ガイドライン』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 (医歯薬出版株式会社)</p>
成績評価	<p>出席日数(4/5以上)を満たしものに対して評価を実施する。 評価は人体への刺鍼(鍼通電、灸頭鍼)を行い、秀・優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度(私語やルールを守れない等)が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従うこと。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏、大場美穂 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp, m_oba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメリー等で連絡してください)</p>
備考	<p>実習の場合は必ず白衣、名札、施灸道具を持って来ること。白衣を忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。服装は鍼施術を行うに適したものであること。</p>
	<p>附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング：授業内に自己練習として、刺鍼練習台や自らの手足を用いた刺鍼の練習、片手挿管</p>

	の練習を行う。 DP：◎-5
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4 科目ナンバー：SS-2-AM7-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
吉田 行宏、大場 美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は入門きゅう技術学実習、基礎きゅう技術学実習で学んだ知識と技術を基に、患者への灸治療を想定した直接灸と間接灸の技術習得と、安全で効果的かつスピーディーな施灸技術の習得を目標とする。具体的には、人体に対する米粒大(八分灸、紫雲膏灸)、半米粒大(紫雲膏灸)、糸状灸(透熱灸)、大豆大(知熱灸)などの様々な灸法を学生同士で実施する。</p>
授業計画	<p>1回目 糸状灸1  <b>【到達目標】</b>  糸状灸が作成できる。  糸状灸でちりげの灸、逆子の灸ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>2回目 糸状灸2  <b>【到達目標】</b> 糸状灸で関節部への施灸（関節痛&amp;捻挫に対する施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>3回目 知熱灸1  <b>【到達目標】</b> 大豆大の知熱灸で肩背部と足部への施灸（冷えに対する施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>4回目 知熱灸2  <b>【到達目標】</b> 大豆大の知熱灸で肩背部と足部への施灸（冷えに対する施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>5回目 糸状灸と知熱灸1  <b>【到達目標】</b> 糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（肩こりに対する施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>6回目 糸状灸と知熱灸2  <b>【到達目標】</b> 糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（肩こりに対する施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>7回目 糸状灸と知熱灸3  <b>【到達目標】</b> 糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（全身調整のための施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>8回目 糸状灸と知熱灸4  <b>【到達目標】</b> 糸状灸と知熱灸で肩背部への施灸（全身調整のための施灸）ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>9回目 糸状灸と知熱灸5  <b>【到達目標】</b> 糸状灸と知熱灸で四肢への施灸ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>10回目 焦灼灸  <b>【到達目標】</b>  焦灼灸が理解できる。  焦灼灸の施灸ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。  <b>【備考】</b> 施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>11回目 熱緩和法 1  <b>【到達目標】</b>  熱緩和法が理解できる。  灸点紙等を用いた熱緩和法ができる。  <b>【授業形態】</b> 実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。</p>

	<p>【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>12回目 熱緩和法2 到達目標】 熱緩和法が理解できる。 灸点紙等を用いた熱緩和法ができる。また電子温灸器を用いて、温熱刺激を体験できる。 【授業形態】実習／対面、学生ごとの習熟状況を判断してフィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙2枚を提出すること。</p> <p>13回目 人体への施灸の総復習及び評価1 【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>14回目 人体への施灸の総復習及び評価2 【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p> <p>15回目 人体への施灸の総復習及び評価3 【到達目標】 人体各部位へ臨床に即した安全で効果的な施灸（糸状灸、米粒大、紫雲膏、8分灸、大豆大知熱灸）ができる。 【授業形態】実習／対面、1～11回の授業で習得した基本的な灸の技術の評価し、フィードバックを行う。 【備考】施灸についてテキストによる予習と復習を行うこと。授業前に施灸用紙1枚を提出すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	施灸用紙を用いた直接灸の課題(2枚)と『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』を用いて関連項目の予習(30分)と復習(30分)を行い、技術トレーニングをしていただきたい。 資料や実技に関する動画をグーグルクラスルームに公開するので、予習や復習に活用すること。
教科書	『図解 鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎 昭弘著 (医歯薬出版株式会社)
参考書	『鍼灸医療安全ガイドライン』 尾崎昭弘・坂本歩・鍼灸安全性委員会編 (医歯薬出版株式会社) 『はりきゅう実技 基礎編 第2版』 教科書執筆小委員会 (医道の日本社)
成績評価	出席日数(4/5以上)を満たし、施灸用紙の課題提出をすべて行ったものに対して評価を実施する。 評価は施灸用紙(40壮/5分)と人体への施灸(糸状灸、大豆大知熱灸、米粒大8分灸、半米粒大紫雲膏灸)を行い、秀・優・良・可・不可で評価する。 安全に実習を行えない者、実習態度(私語やルールを守れない等)が著しく悪い者に対しては単位を認めないことがある。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従うこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 吉田行宏、大場美穂 研究室 : 鍼灸センター2階 教授室、教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp, m_oba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメリー等で連絡してください)
備考	実習時は必ず白衣、名札、鍼灸道具を持って来ること。 白衣、名札を3回忘れた場合は実習に参加できないことがあるので留意すること。 服装は施灸を行うに適したものであること。 サンダルは認めない。 授業開始までに所定の準備をすること。
	担当者は附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。
	アクティブラーニング：施灸手技が適切に行えているのかを担当教員が評価しフィードバックする。また、場合によっては動画で提出し、適切に行えているのかをフィードバックする。
	DPとの関連：◎-5、○-3、○-4 科目ナンバー：SS-2-AM10-RS-P-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
齊藤 真吾、藤井健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本実習は、筋・神経の走行、治療対象となる主要部位・経穴を理解し、安全で適切なはりきゅう施術が実施出来る技術を修得することを目的としている。また、臨床実習前の評価の一部となる。</p> <p>目標 1. 筋の走行を理解すること 2. 神経の走行を理解すること 3. 主要部位・経穴を理解すること 4. 安全で適切なはりきゅう技術を修得すること</p>
授業計画	<p>第1回 授業の概要、腰方形筋・脊柱起立筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第2回 大殿筋・中殿筋・小殿筋・梨状筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第3回 大腿四頭筋、大腿筋膜張筋・内転筋・前脛骨筋・腓骨筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第4回 ハムストリングス・腓腹筋・ヒラメ筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第5回 棘上筋・棘下筋・広背筋・大円筋・小円筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第6回 大胸筋・小胸筋・三角筋・胸鎖乳突筋・斜角筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第7回 板状筋・僧房筋・肩甲挙筋・菱形筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第8回 咬筋・側頭筋・外側翼突筋 【到達目標】 1. 筋の走行を理解し、触診できる。 2. 支配神経を理解する。 3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。 【授業形態】アクティブ・ラーニング</p>

	<p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>大後頭神経・表情筋</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>長短橈側手根伸筋・回外筋・総指伸筋・上腕三頭筋</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>上腕二頭筋・円回内筋・腕橈骨筋</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 筋の走行を理解し、触診できる。</p> <p>2. 支配神経を理解する。</p> <p>3. 筋上の主要部位・経穴を理解し、安全にはり・きゅうができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>治効理論に基づいた治療 I</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 鍼灸の治効理論を理解する。</p> <p>2. 治効理論に基づいた刺激ができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>治効理論に基づいた治療 II</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 鍼灸の治効理論を理解する。</p> <p>2. 治効理論に基づいた刺激ができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>まとめ</p> <p>【到達目標】</p> <p>これまで学んだ内容を振り返り、各項目の主要部位について安全に鍼を行なうことができる。</p> <p>【授業形態】アクティブ・ラーニング</p> <p>学生同士でトレーニング</p> <p>15回目</p> <p>到達度の確認</p> <p>実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習 (15分)</p> <p>シラバスをもとに、指定教科書の内容に目を通しておいてください。</p> <p>復習 (15分)</p> <p>授業で配布するプリントをもとに、内容の振り返りをしてください。毎時間、フィードバックとして、授業の前半に前回の復習を行ないます。</p>
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI」 矢野 忠編 (文光堂)
参考書	解剖学 (医歯薬出版株式会社) 経絡経穴学 (医道の日本社)
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>評価：後期末実技試験(100%)で評価します。</p> <p>*授業初回時に「実技ルーブリック」をお渡しします。</p> <p>追再試験：追再試験を実施する際に、課題、補習を行う場合は、必ず指示に従うこと。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名</p> <p>○齊藤真吾</p> <p>所属：鍼灸学部鍼灸学講座、附属病院2階鍼灸教員室</p> <p>メールアドレス：s_saito@tch.meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：火・金曜日</p> <p>○藤井健介</p> <p>所属：鍼灸学部鍼灸学講座、附属病院2階鍼灸教員室</p> <p>メールアドレス：k_fujii@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：月・木曜日</p>
備考	<p>1. 実務経験</p> <p>齊藤真吾 はり師きゅう師、鍼灸学(博士)、附属鍼灸センターでの治療</p> <p>藤井健介 はり師きゅう師、鍼灸学(修士)、附属鍼灸センターでの治療</p>
	<p>ディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-1</p> <p>科目ナンバー：SS-3-AM11-RS-P-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	2	必修
担当教員			
廣 正基			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、1年次に学習した「経絡経穴学Ⅰ」および「経絡経穴学実習Ⅰ」に引き続き、「経絡経穴学」内の足の少陰腎経、手の厥陰心包経、手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足の厥陰肝経、奇経八脈、奇穴、要穴を学びます。 上記経脈に所属する経穴および奇穴の名称と部位を解剖学的要点を踏まえて理解し、取穴する技術を身に付けることを目標とします。</p>		
授業計画	第1講	<p>十四経脈の概要と1年次の復習 [到達目標] 1. 経絡と経穴の概要が説明できる。 2. 正経十二経と督脈・任脈の流注が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p2-9を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第2講	<p>足の太陽膀胱経① 頭顔面部 [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の流注・取穴法（頭顔面部）が説明できる。 2. 足の太陽膀胱経（頭顔面部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p120-125を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第3講	<p>足の太陽膀胱経② 下肢 [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の流注・取穴法（下肢）が説明できる。 2. 足の太陽膀胱経（下肢）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p120、136、137、144-149を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第4講	<p>足の少陰腎経① 下肢 [到達目標] 1. 足の少陰腎経の流注・取穴法（下肢）が説明できる。 2. 足の少陰腎経（下肢）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p150-155を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第5講	<p>足の少陰腎経② 胸腹部 [到達目標] 1. 足の少陰腎経の流注・取穴法（胸腹部）が説明できる。 2. 足の少陰腎経（胸腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p150-163を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第6講	<p>第2-5講のまとめ [到達目標] 1. 第2-5講の内容が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p120-163を事前に読んでおく。 2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。 ※第2-5講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>	
	第7講	<p>手の厥陰心包経 [到達目標] 1. 手の厥陰心包経の流注・取穴法が説明できる。 2. 手の厥陰心包経の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p164-169を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>	
	第8講	<p>手の少陽三焦経① 前腕</p>	



	<p>[到達目標] 1. 手の少陽三焦経の流注・取穴法（前腕）が説明できる。 2. 手の少陽三焦経（前腕）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p170-175を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第9講 手の少陽三焦経② 上腕・頭頸部</p>
	<p>[到達目標] 1. 手の少陽三焦経の流注・取穴法（上腕・頭頸部）が説明できる。 2. 手の少陽三焦経（上腕・頭頸部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p170-181を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第10講 第7-9講のまとめ</p>
	<p>[到達目標] 1. 第7-9講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p164-181を事前に読んでおく。 2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>※第7-9講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第11講 足の少陽胆経① 頭部・胸腹部</p>
	<p>[到達目標] 1. 足の少陽胆経の流注・取穴法（頭部・胸腹部）が説明できる。 2. 足の少陽胆経（頭部・胸腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p182-195を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第12講 足の少陽胆経② 下肢</p>
	<p>[到達目標] 1. 足の少陽胆経の流注・取穴法（下肢）が説明できる。 2. 足の少陽胆経（下肢）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p182-201を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第13講 第11-12講のまとめ</p>
	<p>[到達目標] 1. 第11-12講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p182-201を事前に読んでおく。 2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>※第11-12講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第14講 前半の総括（評価を含む）</p>
	<p>[到達目標] 1. 第2-13講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：第2-13講の内容を復習しておく。 2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>*理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第15講 要穴の概要</p>
	<p>[到達目標] 1. 臨床でよく用いる要穴が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p10-15を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>*アクティブラーニングとして要穴の位置を学生同士で確認する。</p> <p>第16講 前期まとめ</p>
	<p>[到達目標] 1. 第1-14講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：第1-14講の内容を復習しておく。 2. 復習：授業の内容を配布プリントやノートにまとめる。</p> <p>第17講 足の厥陰肝経① 下腿</p>
	<p>[到達目標] 1. 足の少陽胆経の流注・取穴法（下腿）が説明できる。 2. 足の少陽胆経（下腿）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習] 1. 予習：教科書p202-207を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>

第18講	<p>足の厥陰肝経② 大腿・胸腹部</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足の少陽胆経の流注・取穴法（大腿・胸腹部）が説明できる。</li> <li>2. 足の少陽胆経（大腿・胸腹部）の経穴を取穴するのに必要な解剖学的部位や基準点・骨度法の寸法が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p202-209を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第19講	<p>第17-18講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第17-18講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p202-209を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>※第17-18講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第20講	<p>奇経八脈と奇穴①</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奇経八脈の概要が説明できる。</li> <li>2. 頭頸部・腹部の奇穴の取り方と主治が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p212-219を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第21講	<p>奇穴②（背部・上肢・下肢）と経穴の組合せ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 背部・上肢・下肢の奇穴の取り方と主治が説明できる。</li> <li>2. よく知られている経穴の組合せに使用される経穴と主治が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p220-229を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第22講	<p>第20-21講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第20-21講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p212-229を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>※第20-21講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第23講	<p>要穴①（原穴・郄穴・絡穴）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原穴・郄穴・絡穴の概要が説明できる。</li> <li>2. 原穴・郄穴・絡穴である経穴の部位が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p10-11を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第24講	<p>要穴②（募穴・背部俞穴）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 募穴・背部俞穴の概要が説明できる。</li> <li>2. 募穴・背部俞穴である経穴の部位が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p11-12を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第25講	<p>第23-24講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第23-24講の内容が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p10-12を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：小テストの内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>※第23-24講に学習した内容について小テストを行い、小テストの内容はアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
第26講	<p>要穴③（五俞穴Ⅰ）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五俞穴の概要が説明できる。</li> <li>2. 五俞穴である経穴の部位が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p12-13を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第27講	<p>要穴④（五俞穴Ⅱ）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五俞穴の概要が説明できる。</li> <li>2. 五俞穴である経穴の部位が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p12-13を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>
第28講	<p>要穴⑤（その他）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四総穴・八会穴・八脈交会穴・下合穴の概要が説明できる。</li> <li>2. 四総穴・八会穴・八脈交会穴・下合穴である経穴の部位が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p13-15を事前に読んでおく。</li> </ol>

	<p>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 後半の総括（評価を含む）</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 第17-28講の内容が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1. 予習：第17-28講の内容を復習しておく。 2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。 *理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第30講 経絡・経穴の現代的研究</p> <p>[到達目標]</p> <p>1. 経絡・経穴の現代的研究の概要が説明できる。 2. 経絡・経穴の現代的研究である経穴の部位が説明できる。</p> <p>[授業時間外学習]</p> <p>1. 予習：教科書p232-235を事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと（30分）。 授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行うこと。 授業内容を学習用動画をGoogle Classroomに公開するので、配布プリントやノートにまとめて復習を行うこと（30分）。
教科書	「新版 経絡経穴概論」（社）東洋療法学校協会編 医道の日本社 配布プリント
参考書	「鍼灸学〔経穴篇〕改訂版」日中共同編集 東洋学術出版
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 評価：授業内小テスト（計30%、全6回各5%）と中間試験と期末試験結果の平均（70%）を総合して100%で評価する。 3. 単位認定：評価点が60%以上の者に評価を認定する。 *小テストの成績不良の場合は、別に設定する必ず補講に参加すること。
担当教員の基本情報	<p>担当教員：廣 正基 教員室：鍼灸センター2階教員室 メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火～金</p> <p>担当教員：大場美穂 教員室：鍼灸センター2階教員室 メールアドレス：m_ohba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>廣 正基 本学附属鍼灸センター、附属京都駅前鍼灸センター、附属病院、附属統合医療センター、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院などでの実務経験（35年）をもとに指導を行う。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】 【この授業の科目ナンバー：SS-1-AM13-RS-L-1】</p>
	この授業は経絡経穴学実習Ⅰ（1年生通年開講）、経絡経穴学Ⅱ（2年生通年開講）、経絡経穴学実習Ⅱ（2年生通年開講）、臨床経穴学（3年生後期開講）の4科目と教育内容が関連しています。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
廣 正基、大場美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では、鍼灸師が診断や治療の際に使用する経絡や経穴を学習します。「経絡経穴学Ⅱ」で学習した内容を踏まえて、実際に人体で経穴の部位を学びます。経穴の所属経脈と部位を理解し、取穴する技術を身に付けることを目標とします。
授業計画	<p>第1講 足の太陽膀胱経 [到達目標] 1. 足の太陽膀胱経の走行が説明できる。 2. 足の太陽膀胱経の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p120-149と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第2講 足の少陰腎経 [到達目標] 1. 足の少陰腎経の走行が説明できる。 2. 足の少陰腎経の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p150-163と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第3講 第2-3講のまとめ [到達目標] 1. 第2-3講の内容が説明できる。 2. 第2-3講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：第2-3講の内容を復習しておく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第4講 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経 [到達目標] 1. 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の走行が説明できる。 2. 手の厥陰心包経・手の少陽三焦経の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p164-181と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第5講 足の少陽胆経 [到達目標] 1. 足の少陽胆経の走行が説明できる。 2. 足の少陽胆経の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：教科書p182-201と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第6講 第4-5講のまとめ [到達目標] 1. 第4-5講の内容が説明できる。 2. 第4-5講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。 [授業時間外学習] 1. 予習：第4-5講の内容を復習しておく。 2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。 [授業形態] アクティブラーニング 1. 教員のデモンストレーション 2. 学生同士でトレーニング</p> <p>第7講 前半総括（評価含む）</p>

	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第1-6講の内容が説明できる。</li> <li>2. 第1-6講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第1-6講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>*理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>要穴の概要</p>
第8講	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床でよく用いる要穴が説明できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p10-15を事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第9講	<p>足の厥陰肝経</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足の厥陰肝経の走行が説明できる。</li> <li>2. 足の厥陰肝経の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p202-209と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第10講	<p>奇穴</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 奇穴の重要経穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p216-229と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第11講	<p>第9-10講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第9-10講の内容が説明できる。</li> <li>2. 第9-10講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第9-10講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第12講	<p>要穴①</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五要穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p10-12と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第13講	<p>要穴②</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五兪穴の取穴および取穴に必要な解剖学的特徴を触察できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：教科書p11-12と経絡経穴学Ⅱで配布したプリントを事前に読んでおく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第14講	<p>第12-13講のまとめ</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第12-13講の内容が説明できる。</li> <li>2. 第12-13講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第12-13講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：授業内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol> <p>[授業形態] アクティブラーニング</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員のデモンストレーション</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> </ol>
第15講	<p>後半総括（評価含む）</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第9-14講の内容が説明できる。</li> <li>2. 第9-14講の重要経穴を解剖学的特徴を踏まえて取穴できる。</li> </ol> <p>[授業時間外学習]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習：第9-14講の内容を復習しておく。</li> <li>2. 復習：試験の内容を配布プリントやノートにまとめる。</li> </ol>

	*理解度の評価を行った後に、評価内容についてはアクティブラーニングとしてフィードバックを行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義の前日までに授業計画に記載されている授業範囲の教科書の該当箇所を読むこと(30分)。 授業内容を学習用動画をGoogle Classroomに公開するので、配布プリントやノートにまとめて復習を行うこと(30分)。
教科書	「新版 経絡経穴概論」(社)東洋療法学校協会編 医道の日本社 配布プリント(経絡経穴学Ⅱも共通)
参考書	「鍼灸学〔経穴篇〕改訂版」日中共同編集 東洋学術出版
成績評価	1.出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2.評価:中間試験と期末試験結果を平均して100%で評価する。 3.単位認定:評価点が60%以上の者に評価を認定する。
担当教員の基本情報	担当教員 : 廣 正基 教員室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火~金  担当教員 : 大場美穂 教員室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_ohba@meiji-u.ac.jp
備考	廣 正基 本学附属鍼灸センター、附属京都駅前鍼灸センター、附属病院、附属統合医療センター、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム(老人保険施設含む)、京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院などでの実務経験(35年)をもとに指導を行う。  【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連:◎-1】 【この授業の科目ナンバー:SS-2-AM15-RS-P-1】
	この授業は経絡経穴学実習Ⅰ(1年生通年開講)、経絡経穴学Ⅱ(2年生通年開講)、経絡経穴学実習Ⅱ(2年生通年開講)、臨床経穴学(3年生後期開講)の4科目と教育内容が関連しています。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
谷口 剛志、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本演習は1年次に学んだ東洋医学概論の中で、東洋医学の診察法である四診について実技を交えながら修得します。</p> <p>それぞれの四診の特徴を掴み、臨床で活用できるよう、みんなで学んでいきましょう。</p> <p>本演習後には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 四診の特徴について説明できる</li> <li>2. 四診の視点でヒトの状態を診ることができる</li> <li>3. 四診を活用して、ヒトの状態を評価することができる</li> </ol> <p>ことを期待します。</p>
授業計画	<p>第1回 望んで診る1 望診 【到達目標】望診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第2回 望んで診る2 舌診 【到達目標】望診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第3回 耳や鼻の感覚で診る 聞診 【到達目標】聞診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第4回 問うて診る 問診 【到達目標】問診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第5回 触って診る1 脈診 【到達目標】脈診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第6回 触って診る2 脈診 【到達目標】脈診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第7回 触って診る3 腹診 【到達目標】腹診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第8回 触って診る4 募穴診 【到達目標】募穴診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第9回 触って診る5 五行穴診 【到達目標】五行穴診を用いて情報を収集・分析することができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第10回 触って診る6 五要穴診</p>

	<p>【到達目標】 五要穴診を用いて情報を収集・分析することができる</p> <p>【授業形態】 AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第11回 四診合参1</p> <p>【到達目標】 四診を用いて情報を収集・分析・弁証することができる</p> <p>【授業形態】 AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第12回 四診合参2</p> <p>【到達目標】 四診を用いて情報を収集・分析・弁証することができる</p> <p>【授業形態】 AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員からのレクチャー（デモンストレーション含む）</p> <p>第13回 まとめ</p> <p>第1回～第12回の内容を総復習します。</p> <p>第14回 総合1</p> <p>後期末実技試験で実施します</p> <p>第15回 総合2</p> <p>後期末実技試験で実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（30分）</p> <p>シラバスをもとに、指定教科書の内容に目を通しておいください。</p> <p>復習（30分）</p> <p>授業で配布した資料をもとに、授業内容を振り返ってください。</p>
教科書	編：公益社団法人東洋療法学校協会 著：教科書小委員会 新版東洋医学概論（2015）
参考書	針灸舌診アトラス：診断基礎と臨床の実際 緑書房 よくわかる経絡治療脈診ワークブック 医道の日本社
成績評価	<p>受験資格：学生便覧にもとづき、3/5以上の出席を満たした者に本科目の受験資格を認めます。</p> <p>成績評価：後期末実技試験（100%）で60%以上取得した者に単位を認定します。</p> <p>補講：対象者は追再試験までに実施します。必ず参加してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>○谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士） 臨床歴26年 たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ポルトガルクリニカ土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、CF Belenenses、明治国際医療大学附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターでの実務経験をもとに実習指導を行う。 オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p> <p>○山崎翼 はり師・きゅう師、鍼灸学（博士） 附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実技指導を行う。 オフィスアワー：火曜日14:00-17:00</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎-2 ○-1 SS-3-AM18-RS-S-1



英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
鶴 浩幸、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：実習	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸臨床（現代医学的病態把握）で必要となる身体診察の方法やその検査が持つ意味を理解し、正確に行えるようになることを目的とする。また、医療人として必要な心構えや医療倫理を深め、治療家としてのスキルを磨く。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実際の診療に必要な身体診察をスムーズに行える技能を修得する。</li> <li>2. 身体診察の方法を理解し、正確に行う技術を身につける。</li> <li>3. 診察結果を判定し、臨床的意味を理解する。</li> <li>4. 診察の結果を適切にカルテに記載できる。</li> <li>5. 患者に対して、インフォームドコンセントや結果の説明が行える。</li> <li>6. 実際の臨床で利用できるような臨床脳が育つ。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・反射1 オリエンテーション・反射1 深部腱反射(上腕二頭筋反射、三頭筋反射、腕橈骨筋反射、膝蓋腱反射、アキレス腱反射、筋クローヌス、増強法)が出来る。 ②病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。</li> <li>2 反射2 各種の表在反射(腹壁反射)や病的反射(ホフマン、トレムナー、バビンスキー反射など)が出来る。 各反射の導入、評価、表記が正しく出来る。</li> <li>3 筋力検査1 筋力検査(上腕二頭筋、上腕三頭筋、腕橈骨筋、大腿四頭筋、前脛骨筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。 反射の小テストとフィードバック</li> <li>4 筋力検査2 筋力検査(長母指伸筋、長母指屈筋、腸腰筋、股関節筋伸展筋、中殿筋など)が出来る。 各筋力テストの導入、評価、表記が正しく出来る。</li> <li>5 関節可動域1 関節可動域(肩関節、肘関節、前腕)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。 筋力検査の小テストとフィードバック</li> <li>6 関節可動域2 関節可動域(股関節、膝関節)が測定出来る。 各関節可動域の導入、評価、表記が正しく出来る。</li> <li>7 感覚検査 皮膚の神経分布、表在感覚、深部感覚、複合感覚の検査が出来る。 具体的には、 ①C4からTH1、L2からS1のデルマトーム領域を示すことが出来る。 ②感覚検査(触覚検査、痛覚検査)が出来る。</li> <li>8 これまでの復習(アクティブラーニング) ペアにてアクティブラーニング型で以下の項目について学修する。 反射、筋力検査、関節可動域、感覚検査の導入、評価、表記の仕方を再度確認する。 関節可動域、感覚検査の小テストとフィードバック</li> <li>9 血圧測定 触診法、聴診法が出来る。</li> <li>10 身体計測 ①上肢長が測定出来る。②下肢長(棘下長、転子顆長)が測定出来る。③上肢・下肢の周径が測定出来る。</li> <li>11 1. 腹診、聴診、打診 2. 脳神経 1. 腹診(肝臓・腎臓など)、聴診(肺音・心音)、打診が出来る。 2. 脳神経の評価やバレー徴候など検査が測定できる。 血圧測定、身体計測の小テストとフィードバック</li> <li>12 実技評価1(アクティブラーニング) これまでに行ってきた以下の項目について学習、復習する。反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正しく行えるかを確認する。</li> <li>13 実技評価2(アクティブラーニング) これまでに行ってきた以下の項目について学習、復習する。反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測に関する実技が正しく行えるかを確認する。</li> <li>14 筆記評価 反射、筋力検査、関節可動域、デルマトーム、感覚検査、血圧測定、身体計測、腹診・聴診・打診、脳神経に関する知識の修得が出来ているかを確認する。</li> </ol>

	15 実技試験 本科目の実技試験を行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	配布資料による復習 (30分) 次回の授業を教科書 (鍼灸療法技術ガイド) にて予習 (30分)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布した授業プリント</li> <li>・鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版、文光堂</li> <li>・鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版、文光堂</li> </ul>
参考書	<p>基礎編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)</li> </ul> <p>応用編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベイツ診察法 (MEDSI)</li> <li>・徒手筋力検査法 (協同医書出版)</li> </ul>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 5分の4以上の出席を満たした者について評価を実施する。</li> <li>2. 評価は筆記試験および実技試験の両方を行う (筆記試験および実技試験が各60点以上で合格)。</li> <li>3. 再試の対象となった場合には補講などを実施することがあるので、単位認定者の指示に従うこと。</li> </ol>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 鶴 浩幸      教員室 : 附属病院2階鍼灸教員室      メールアドレス: h_tsuru@meiji-u.ac.jp      オフィスアワー: 随時</p> <p>担当教員 : 藤井 健介      教員室 : 附属病院2階鍼灸教員室      メールアドレス: k_fujii@meiji-u.ac.jp      オフィスアワー: 随時</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実務経験              鶴 浩幸: 25年の教員経験に加えて、本学附属鍼灸センター、附属総合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム (老人保険施設含む)、クリニカ・ツチヤ (ペイン・クリニック、ポルトガル)、Sport Lisboa e Benfica (スポーツ・クリニック、SLB、ポルトガル)、ERISA大学 (ポルトガル)、米国M. C. O. M. などでの実務経験 (25年) をもとに指導を行う。               藤井 健介: 福井整形外科勤務を経て、現在は本学附属鍼灸センターで鍼灸臨床業務に従事する。               本授業にはアクティブラーニングがあります。              授業資料の一部はグーグルクラスルームに公開します。</li> <li>2. 科目ナンバー              SS-3-AM20-RS-P-1</li> <li>3. ディプロマポリシーとの関連              ◎-2、○-1</li> </ol>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
山崎 翼、田口 玲奈			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、患者に適切な医療（鍼灸治療を含め）を提供するための技術として、面接技法（医療面接）について実習し技術を習得する。</p> <p>授業内容は、学生同士によるワークショップやロールプレイなどのアクティブ・ラーニングを主として行い、主な問診事項（現病歴、既往歴、家族歴、個人歴、現症など）や面接技術（言語的・非言語的コミュニケーション、患者との対面法など）、関連する書類の作成方法（カルテ記載法、紹介状作成法など）について内容、技術を習得する。</p> <p>本科目では、基礎医学、現代医学、鍼灸医学などを基礎とし、実際の診療に則した問診や医療面接の方法をスムーズに適切かつ効果的に行える技能を修得することを到達目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 ガイダンス：コミュニケーションとは、問診と医療面接の違い ワークショップを通じて ・鍼灸師に必要な臨床能力が理解・説明できる。 ・コミュニケーションが理解・説明できる。 ・問診と医療面接の違いが理解・説明できる。</p> <p>2回目 ワークショップ：医療面接の目的、初診患者への問診事項の学習 ワークショップを通じて ・医療面接の目的が理解・説明できる。 ・初診患者に必要な情報が理解・説明できる。（主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症、OPQRST、VINDICATEが説明できる）</p> <p>3回目 ロールプレイ：初診患者への面接 ロールプレイを通じて ・初診時の医療面接が実践できる。</p> <p>4回目 ロールプレイ：環境設定と診療の流れ ロールプレイを通じて ・医療面接を行う環境設定や患者との位置関係などの面接技法が理解・説明できる。</p> <p>5回目 ロールプレイ：面接技法の理解① ロールプレイを通じて ・質問法、傾聴、共感、態度、面接技法が理解・説明できる。 ・良好な患者－鍼灸師関係が説明できる。</p> <p>6回目 ロールプレイ：面接技法の理解② ロールプレイを通じて ・質問法、傾聴、共感、態度、面接技法が理解・説明できる。 ・良好な患者－鍼灸師関係、面接技法が実践できる。</p> <p>7回目 ロールプレイ：非言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーションの意味や意義を理解・説明できる。 ・非言語的コミュニケーションを実践できる。</p> <p>8回目 ロールプレイ：初診患者のカルテ作成 ロールプレイを通じて ・初診患者の問診を問題なく行うことができる。 ・初診患者のカルテ作成を速やかに行うことができる。</p> <p>9回目 ロールプレイ：再診患者の問診とSOAP形式のカルテ記載方法 ロールプレイを通じて ・再診患者の問診事項について理解・説明ができる。 ・医療面接で得た情報について、SOAP形式でカルテを記載することができる。</p> <p>10回目 ワークショップ：鍼灸治療に関する説明と同意 ワークショップを通じて、 ・鍼灸治療の初診患者に対する説明と、患者から同意を得るまでの過程、方法について理解・説明ができる。</p> <p>11回目 ワークショップ：診療情報提供書の作成方法 ワークショップを通じて ・診療情報提供書について理解し、正確に作成することができる。</p> <p>12回目 ワークショップ：クレーム対応 ワークショップを通じて、予想されるクレームについて理解・説明ができる。 また、最低限の対処方法について理解できる。</p> <p>13回目 これまでの復習とまとめ 講義の内容を総まとめし、復習とまとめを行う。</p> <p>14回目 医療面接のまとめと評価① 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p> <p>15回目 医療面接のまとめと評価② 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。併せて評価を実施する。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業中に学習した面接技法なコミュニケーション技術について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	プリントを配布する。
参考書	・診療科目別 正しい診療録の書き方 安部好文 他 (朝倉書店) ・授業で配布したプリントなど
成績評価	授業の4/5以上の出席日数を満たした者を対象として実技試験を行う。 評価は筆記試験・実技試験の結果を総合して行う。 なお、評価の結果に関しては全体に向けてフィードバックを行うとともに、内容が不十分であると判断された学生に対しては個別にフィードバックを行う。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山崎 翼、田口玲奈 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp、r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	1. 実務経験 山崎 翼： 本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 田口玲奈： 本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。 2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-2、○-1 3. 科目ナンバー SS-2-AM21-RS-P-1 4. 授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行ってください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2	1	必修
担当教員			
廣 正基、田口 玲奈、吉田 行宏、多田羅 勝広、大場 美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本実習は1年次に実施したはり・きゅう臨床実習Ⅰを更に発展させ、授業で学んだ現代医学的・東洋医学的な知識と技術を実際の鍼灸臨床の現場で実践することを目標とする。さらに、医療人として必要な環境整備や現代社会・現代医療における鍼灸師の役割を理解し、鍼灸師としての将来像をより明確にする。		
授業計画	1～3回目	<p>ガイダンス、実習前実技</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。</li> <li>2. 临床上、頻用する重要経穴・筋上の経穴の位置を把握し、取穴することができる。</li> <li>3. 舌診の基本的事項について実践できる。</li> <li>4. 脈診（六祖脈、六部定位）の基本的事項について実践できる。</li> <li>5. 原穴診の基本的事項について実践できる。</li> <li>6. 頻用する経穴への刺鍼・施灸ができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	4, 5回目	<p>臨床実習（第1クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 環境整備（ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等）が適切にできる。</li> <li>3. 解剖学的部位を把握した触察が適切にできる。</li> <li>4. 経絡・経穴を適切にとることができる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	6, 7回目	<p>臨床実習（第2クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 環境整備（ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等）が適切にできる。</li> <li>3. 解剖学的部位を把握した触察が適切にできる。</li> <li>4. 経絡・経穴を適切にとることができる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	8～13回目	<p>臨床実習（第3クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 環境整備（ベッドメイキング、ごみ処理、ワゴンの準備・後片付け等）が適切にできる。</li> <li>3. 解剖学的部位を把握した触察が適切にできる。</li> <li>4. 経絡・経穴を適切にとることができる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	14, 15回目	<p>臨床実習（第4クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 医療面接が適切にできる。</li> <li>3. 必要な現代医学的所見、東洋医学的所見（四診を含む）を考え、実践することができる。</li> <li>4. 病態（特に運動器）をある程度、想起できる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	16, 17回目	<p>臨床実習（第5クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 医療面接が適切にできる。</li> <li>3. 必要な現代医学的所見、東洋医学的所見（四診を含む）を考え、実践することができる。</li> <li>4. 病態（特に運動器）をある程度、想起できる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	
	18, 19回目	<p>臨床実習（第6クール）</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>	

	<p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 医療面接が適切にできる。</li> <li>3. 必要な現代医学的所見、東洋医学的所見（四診を含む）を考え、実践することができる。</li> <li>4. 病態(特に運動器)をある程度、想起できる。</li> <li>5. 患者や教員からの情報をもとに症例レポート(患者情報)をまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング（実習）</p> <p>20, 21回目 まとめ</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの臨床実習を振り返る。</li> <li>2. 医療面接が適切にできる。</li> <li>3. 必要な現代医学的所見、東洋医学的所見（四診を含む）が考えられ、実践することができる。</li> <li>4. 基本的な疾病、症状に対して、医療面接から検査までスムーズに行うことができる。</li> <li>5. カルテのまとめ方について復習し、適切に記載できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング（実習）</p> <p>22, 23回目 臨床実習（第7クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者対応が適切にできる。</li> <li>2. 医療面接が適切にできる。</li> <li>3. 必要な現代医学的所見、東洋医学的所見（四診を含む）が考えられ、実践することができる。</li> <li>4. 基本的な疾病、症状に対して、医療面接から検査までスムーズに行うことができる。</li> <li>5. 患者情報をSOAP形式でまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング（実習）</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。</li> <li>・ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。</li> <li>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。</li> <li>・調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。本実習における予習・復習（60分）</li> </ul>
<p>教科書</p>	<p>指定無し</p>
<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社）</li> <li>・「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版社）</li> <li>・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」東洋療法学校協会（南江堂）</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版」（文光堂）</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版」（文光堂）</li> <li>・「いちばんやさしい痛みの治療がわかる本」（医道の日本社）</li> </ul>
<p>成績評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価（60%）、ポートフォリオ（40%）で評価する（60点以上を合格とする）。</li> </ul>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～金</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 吉田 行宏 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 多田羅 勝広 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : k_tatara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大場 美穂 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_ohba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>実習担当教員 月 : 和辻、鶴、谷口 火 : 伊藤、藤井、辰巳 水 : 山崎、田口辰、辰巳 木 : 吉田、齊藤、辰巳 金 : 田口玲、廣、辰巳</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院、京都駅前鍼灸院、統合医療センター、きららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li><li>・アクティブラーニングとして、実習後振り返りを行い、患者情報をまとめる。</li><li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 :◎-4、○-1, 2, 5</li><li>・科目ナンバー:SS-2-AM46-RS-P-1</li></ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
齊藤 昌久			
配当学科：鍼灸学部 鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義講義（遠隔、オンデマンド方式）	
添付ファイル			
シラバス2023_スポーツ心理学_鍼灸.xlsx		シラバス：スポーツ心理学_鍼灸学科	

授業目標	<p><b>授業概要】</b>          スポーツ心理学では、グループワークなどのアクティブラーニング手法を用いて、コーチングの基本である次のことについて理解を深めます。          ①「より良い人間関係の構築」するのに必要な知識やスキル          ②自分自身を知り客観的に見つめることのできる知識やスキル          ③スポーツが個人の人格形成に及ぼす効果          ④個人の性格や環境などがスポーツの選択やパフォーマンスに影響すること          ⑤スポーツへの動機づけの具体的な方法に関すること          ⑥コーチング評価の原理・原則から具体的な方法論に関すること。          毎回授業の終わりに課題・小テスト（Googleフォーム）を実施します。課題・小テストには、授業開始時に設定したその日の個人の授業到達目標、その到達率と気づきを記入してもらいます。  <b>【授業目標】</b>          授業内容を十分に理解し、実践知識として臨床・教育・スポーツなどのコーチング現場で、有効活用できることを目標とします。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、スポーツ、コーチング、心理学、スポーツ心理学とは  <b>【到達目標】</b>          1) スポーツ心理学について概説できる。          2) スポーツの心理的効果について説明できる。          32) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>          授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。  <b>【備考】</b>（予習項目）          スポーツ、心理。 教科書（リファレンスブック）第1章 1（p.2～4）を熟読。</p> <p>第2講 対他者力を磨こう！-1：コミュニケーション・リーダーシップ・プレゼンテーションスキル  <b>【到達目標】</b>          16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。          31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。          32) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>          授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。  <b>【備考】</b>（予習項目）          コミュニケーションスキル、リーダーシップスキル、プレゼンテーションスキル。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～3（p.33～45）を熟読。</p> <p>第3講 対他者力を磨こう！-2：チームビルディング  <b>【到達目標】</b>          18) チームビルディングについて説明できる。          32) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>          授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。  <b>【備考】</b>（予習項目）          ファシリテーションスキル、チームビルディング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 4～5（p.45～55）を熟読。</p> <p>第4講 対自己力を磨こう！：コーチの学び、セルフマネジメント  <b>【到達目標】</b>          13) スポーツが個人の人間形成（自己概念、ライフスキル獲得）に及ぼす影響が概説できる。          23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。          24) ストレスマネジメントについて説明できる。  <b>【授業形態】</b>          授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。  <b>【備考】</b>（予習項目）          コーチの学び、セルフマネジメント、思考法・伝達法。教科書（リファレンスブック）第1章 5.（p.56～70）を熟読。</p> <p>第5講 レビュー-1：対他者力・対自己力を磨こう  <b>【到達目標】</b>          16) スポーツにおける集団要因（リーダーシップ・チームワーク）が説明できる。          17) コーチング計画がたてられ、説明ができる。          18) チームビルディングについて説明できる。          23) ストレス、ストレッサーについて説明できる。          24) ストレスマネジメントについて説明できる。          31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。  <b>【授業形態】</b>          授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次の授業で行います。  <b>【備考】</b>（予習項目）</p>



第6講	<p>教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～5（p.33～70）と、資料（H0）をを熟読。 心のトレーニング-1：行動としてのスポーツ、動機づけ</p> <p>【到達目標】</p> <p>6) 内発的動機づけと外発的動機づけの違いが説明できる。 7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 19) バーンアウトについて説明できる。 20) 運動の参加継続について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 行動としてのスポーツ、動機づけ。教科書（リファレンスブック）第2章 4. 1～2（p.203～211）を熟読。</p>
第7講	<p>心のトレーニング-2：運動感覚、運動学習、フィードバック、心理サポート・集中力</p> <p>【到達目標】</p> <p>10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、フィードバック。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第8講	<p>心のトレーニング-3：目標達成ツール等</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） マンダラート、マインドマップ。 Web等で調べておくこと。</p>
第9講	<p>レビュー-3：動機づけ、フィードバック、目標達成ツール</p> <p>【到達目標】</p> <p>7) 動機づけや目標設定について説明できる。 8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 10-1) モデリング（観察学習）や言語的指導について説明できる。 10-2) 効率的なフィードバックの与え方について説明できる 11) 運動学習の制御について説明できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。 33) わかりやすい発表ができる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 運動感覚、運動学習、動機づけ、目標達成ツール。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 1～2（p.203～211）7～10（p.217～225）を熟読。</p>
第10講	<p>心のトレーニング-4：イメージトレーニング、あがり・プレッシャー・スランプ</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 29) させる理論・実際・課題が説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 11～12（p.225～231）を熟読。</p>
第11講	<p>心のトレーニング-5：性格/自己概念、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>5) 自己決定理論の構成要素が説明できる。 15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。 27) 基本的な心理スキル構造について説明できる。 32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】（予習項目） 性格・自己概念、心理的コンディショニング。教科書（リファレンスブック）第1章 4. 13～14（p.231～236）を熟読。</p>
第12講	<p>レビュー-4：イメージトレーニング、心理的コンディショニング</p> <p>【到達目標】</p> <p>8) コーチングをつうじてスポーツ活動への動機づけを高める方法が説明できる。 14) パーソナリティの特徴について説明できる。 14-2) 情動（緊張・不安）の状態が説明できる。</p>

	<p>15) 個人の性格や環境などがスポーツの選択・パフォーマンスへの影響することが概説できる。</p> <p>29) させる理論・実際・課題が説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) わかりやすい発表ができる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) イメージトレーニング、スランプ、サイキングアップ、セルフトーク、心理的コンディショニング。 教科書(リファレンスブック)第1章 4. 11~14 (p. 225~236)、ハンドアウトを熟読。 マンダラート、マインドマップについては、Web等で調べておくこと。</p> <p>第13講 スポーツ・運動における行動変容-1</p> <p>【到達目標】 20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) セルフエフィカシー、行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第14講 スポーツ・運動における行動変容-2</p> <p>20) 運動の参加継続について説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。</p> <p>【備考】 (予習項目) 行動変容、行動変容ステージ。 Web等で調べておくこと。</p> <p>第15講 レビュー-5：行動変容と、これまでの授業内容の総合的な復習(質問に答えて)と練習問題</p> <p>【到達目標】 21-1) セルフエフィカシーについて説明できる。</p> <p>21-2) 行動変容について説明できる</p> <p>21-3) 行動変容ステージが説明できる。</p> <p>31) 様々なコミュニケーションスキルや五感を用いて他人の理解・意見交換を行うことができる。</p> <p>32) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p>【授業形態】 授業形態：遠隔、オンデマンド方式。 フィードバックは、次回の授業で行います。 授業内容で理解のできなかった項目、疑問点を抜き出しておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書(リファレンスブック)は、各講義項目の該当ページを前もって熟読する(予習35分)。理解できない箇所(事柄)があれば、参考書を熟読するか、課題・小テストのコメント(フリートーク)に記入する。次回の授業でフィードバックします。</li> <li>・講義資料(ハンドアウト)は、講義ノートと共に必ず整理してください。授業の復習は、必ず確実にしてください。不明な点があれば次回の講義で発言するか、コメント(フリートーク)に記入してください(記憶に焼き付けられようように)(復習35分)。</li> <li>・ハンドアウトやオンデマンドコンテンツは、ClassRoom(Googleドライブ)にアップする。ハンドアウト等は紙での(印刷物)配布は行いません。</li> </ul>
教科書	「Reference Book」(リファレンスブック)公益財団法人日本スポーツ協会(JSP0) [この本はJSP0のスポーツライセンス関連科目で共通のテキストとして使用されます。]
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「勝負脳の鍛え方」林 成之著(講談社現代新書)(902円)</li> <li>2) 「スラムダンク勝利学」辻 秀一著(集英社インターナショナル)(1000円+税)</li> <li>3) 「まんがでわかる ドラッカーのリーダーシップ論」藤屋伸二(監修)(宝島社)(917円+税)</li> </ol>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①出席：毎回の課題・小テストの解答・提出を出席とします。出席、遅刻・早退の取扱は「学生便覧」に準じます。</li> <li>②評価：100点法により行います。</li> <li>③合格点：評価点が60点以上を合格とします。</li> <li>④評価点の算出・内訳：課題・小テスト 80%、 その他(課題等の提出状況、遅れた場合は減点) 20%</li> <li>⑤アセスメントとフィードバック： アセスメント；課題・小テスト結果、提出状況等 フィードバック課題・小テスト結果公表(個別)、コメントの質疑応答(動画・Melly等)による双方向にて行う。</li> </ol>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 齊藤 昌久</p> <p>研究室 : 8号館4階 齊藤(スポーツ運動科学)研究室</p> <p>メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 月・火・木曜日 16:30~17:30</p>
備考	<p>授業とディプロマ・ポリシーとの関係： ◎-1. 知識・理解、○-2. 思考・判断と5. 技能・表現</p> <p>科目ナンバー：「SS-2-HA09-ES-L-0」</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
吉田 行宏、齊藤 昌久			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 「スポーツ医学 基礎」では、グッドコーチに求められる医・科学的知識（トレーニング科学、スポーツ医・科学）を学修する。その目的は、コーチング（スポーツ・運動指導）対象者のスポーツ活動を円滑に進めるために、また彼らのパフォーマンスの向上・改善が円滑・効率的に進めるために必要な知識を学修することである。また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p> <p>なお、この科目は、2年後期に開設される「スポーツ医学応用」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学部は、「スポーツプログラマー」、保健医療学部は、「スポーツプログラマー」と「ジュニアスポーツ指導員」を取得するための科目である。</p> <p><b>【授業目標】</b> スポーツ医・科学的知識の習得を目標とする。具体的には、スポーツ外傷と障害の予防、救急処置、アンチ・ドーピング、アスリートの健康管理、スポーツによる精神障害と対策、およびトレーニングの基本的考え方・理論体系（スポーツパフォーマンス構造論）である。</p>
授業計画	<p>1回目 （担当：吉田行宏）ガイダンス、スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康、アスリートの健康管理 <b>【到達目標】</b> 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学基礎」の概要を理解する。 2. スポーツと健康について理解し説明できる。 3. アスリートの健康管理について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP262-269までを熟読しておくこと。</p> <p>2回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：アスリートの内科的障害と対策 <b>【到達目標】</b> アスリートの内科的障害とその対策について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP269-276までを熟読しておくこと。</p> <p>3回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：女性アスリートの障害と対策、スポーツにおける精神障害と対策 <b>【到達目標】</b> 女性アスリートの障害とその対策について理解し説明できる。 スポーツにおける精神障害とその対策について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP276-282までを熟読しておくこと。</p> <p>4回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：外傷、障害の予防 <b>【到達目標】</b> スポーツで起こる外傷・障害とその予防について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP282-292までを熟読しておくこと。</p> <p>5回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：コンディショニングの手法 <b>【到達目標】</b> コンディショニングの手法について理解し説明できる。 <b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式) <b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP292-297までを熟読しておくこと。</p> <p>6回目 （担当：吉田行宏）スポーツに関する医学的知識：救急処置(救急蘇生法)、救急処置(外科的応急処置) <b>【到達目標】</b> 救急蘇生法について理解し説明できる。</p>

7回目	<p>外科的応急処置について理解し説明できる。  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)  <b>【備考】</b>  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP297-310までを熟読しておくこと。  (担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツパフォーマンス構造論  <b>【到達目標】</b>  1) 自らがコーチングしているスポーツ種目のパフォーマンスがどのようなものであるかについて、明確な階層構造的要因として(設計図のように)理解・説明ができ、活用できる。  2) 目指すパフォーマンスをどこに設定するか、またそのための課題は何かについて、時間資源を考慮しながら設定することができる。  3) 設定課題を解決するためのトレーニング手段を選択し、それら数種類を組み合わせるトレーニング方法を設定することができる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。  <b>【備考】</b>(予習項目)  スポーツトレーニングサイクル、スポーツパフォーマンス構造論。リファレンスブック：p. 132-139。</p>
8回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系-1、スポーツトレーニングの基本設計図  <b>【到達目標】</b>  ・目標設定(SMART)が説明できる。  ・SWOT分析が説明でき、AWOT分析表を書くことができる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。  <b>【備考】</b>(予習項目)  リファレンスブック熟読：p. 132-139。SWOT、SMARTをWEBで調べて情報を得ておく。</p>
9回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツと健康  <b>【到達目標】</b>  21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。  21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。  21-01) 体力が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。  21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。  <b>【備考】</b>(予習項目)  健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。リファレンスブック熟読：p. 262-265。</p>
10回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：アスリートの健康管理  <b>【到達目標】</b>  21-01) 運動が身体の健康に深く関わっていることが説明できる。  ・スポーツへの「オーバートレーニング」「睡眠」の関わりについて説明できる。  21-02) スポーツ活動・運動が身体に及ぼす様々な効果について説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。  <b>【備考】</b>(予習項目)  健康の定義、WHOが示す身体活動のガイドライン、生活習慣病他。教科書熟読：p. 262-265。</p>
11回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツに関する医学的知識：スポーツによる精神障害と対策  <b>【到達目標】</b>  ・スポーツによる精神障害が説明できる。  ・主な精神障害の一般的疾患について説明できる。  ・スポーツによる主な精神障害の一般的疾患とその対策が説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  <b>【授業形態】</b>  オンデマンド方式。随時(単元終了後)小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする(双方向授業、アクティブラーニング)。  <b>【備考】</b>(予習項目)  オーバートレーニング症候群、精神障害の一般的疾患。教科書熟読：p. 278-282。</p>
12回目	<p>(担当：齊藤昌久) グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-1  <b>【到達目標】</b>  15) 技術トレーニングの課題は、技術の理論的理解、能力に応じた技術のモデル化、技術の改善や最適化、新しい技術の創造などにあることが説明できる。  16) 技術を観察・分析・評価する方法には、定量的なバイオメカニクス的方法と、定性的な質的観察法(自己観察、他者観察)などの方法が説明できる。  42) 必要な課題を自ら発見できる。  ・スキルトレーニングの特性・方法について説明できる。  ・必要な課題を自ら発見できる  <b>【授業形態】</b>  オンライン授業(オンデマンド方式)。フィードバックは、授業終了後の課題・小テストから、次の授業等(双方向授業、アクティブラーニング)で行う。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p>

	<p><b>【備考】</b>（予習項目） スキルとスポーツ技術・技能、スキルトレーニングの時期・手段・方法。教科書（リファレンスブック）熟読：p.192-196。 （担当：齊藤昌久）グッドコーチに求められる医科学的知識：スキルトレーニング-2</p> <p><b>【到達目標】</b> 21) コーチング対象者に必要とされる技術トレーニングの目標と課題、具体的な手段や方法を選択し、トレーニングを計画し、説明できる。 ・スキル向上のメカニズムが説明できる。 ・「錯視」について説明できる 42) 必要な課題を自ら発見できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド方式。随時（単元終了後）小テストを行い、理解状況を把握する。小テストにコメントを書いてもらい、次の授業でフィードバックする（双方向授業、アクティブラーニング）。ゲストスピーカーが担当する場合がある。</p> <p><b>【備考】</b>（予習項目） スキル向上のメカニズム、スキルトレーニングの効果 教科書熟読：p.196-197。 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング①：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割</p> <p><b>【到達目標】</b> アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p><b>【到達目標】</b> アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p><b>【備考】</b> 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p> <p>15回目 （担当：吉田行宏）アンチ・ドーピング②：アンチドーピングとは一スポーツ指導者の役割</p> <p><b>【到達目標】</b> アンチドーピングについて理解し説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p><b>【備考】</b> アンチ・ドーピングに関わる専門家をゲストスピーカーとし、その現状について授業を行う。リファレンスブックP311-321までを熟読しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること（予習30分）。理解できない事柄（事項）があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。</li> <li>・配付資料（ハンドアウト）は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること（復習30分）。</li> </ul>
教科書	「Reference Book」（リファレンスブック） 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック： アセスメント：小テスト結果 フィードバック：小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項 ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。 ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。 例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピー提出」、「課題と明らかに異なる内容で提出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉田行宏 研究室：附属鍼灸センター2F 教員室 メールアドレス：y_yoshida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日 16:30-17:30</p> <p>担当教員名：齊藤 昌久 研究室：8号館4階 齊藤（スポーツ運動科学）研究室 メールアドレス：ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月・火・木曜日 16:30～17:30</p>
備考	<p>実務経験： 吉田行宏：資格（はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員）、鍼灸臨床歴20年、教員歴11年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。</p> <p>齊藤昌久：前任校（大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ～2021年3月まで）では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室に在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。</p>
	<p>アクティブラーニング： 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。</p>
	<p>ディプロマ・ポリシーとの関係；◎-5. 技能・表現、○-1. 知識・理解 科目ナンバー：「SS-2-HA11-ES-L-0」</p>
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
齊藤 昌久、吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（オンデマンド）AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b> 「スポーツ医学応用」では以下の内容を学修する。 ①公認スポーツ指導者養成講習会共通科目：現場・環境に応じたコーチングー1. コーチング環境の特徴、3. スポーツ組織のマネジメント、4. 障がい者とスポーツ ②公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際ー3) 女性のフィットネスプログラム、4) 障がい者のフィットネスプログラム ③JATAC-AT：発育発達論 なお、この科目は、2年前期に開設される「スポーツ医学基礎」とともに、JATAC-ATCや健康運動実践指導者、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者のフィットネス資格を取得するために必要な単位を習得する。鍼灸学科と柔道整復学科は、JATAC-ATC、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員、救急救命学科は保健医療学部は、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員を取得するために必要な科目である。</p> <p><b>【授業目標】</b> その目的は、ジュニアや中高年、女性、障がい者のスポーツを円滑かつ効果的に実践するために、必要な知識を学修することである。 また、授業内容に関連した問題を解き、質疑応答形式でその解説を行うなどして双方向型授業（アクティブラーニング）を目指す。</p>
授業計画	<p>1回目      ガイダンス、コーチング環境の特徴：.ジュニア期のコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. ガイダンスにて本科目「スポーツ医学応用」の概要を理解する。 2. ジュニア期のコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP322-324までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>2回目      コーチング環境の特徴：年齢区分からみたコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 年齢区分からみたコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP324-326までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>3回目      コーチング環境の特徴：トレーニングの至適年齢、遺伝の影響、運動部活動でのコーチングの留意点（担当：吉田行宏） [到達目標] 1. トレーニングの至適年齢について理解し説明できる。 2. 遺伝の影響について理解し説明できる。 3. 運動部活動でのコーチングの留意点について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP326-331までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>4回目      コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点1（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動と老化(老化循環促進説、加齢変化、運動が心身に及ぼす影響)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP331-333までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p> <p>5回目      コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点2（担当：吉田行宏） [到達目標] 運動プログラム(運動プログラムの目標設定、中高年者に適した運動方法)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンス</p>

6 回目	<p>ブックP333-336までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。 コーチング環境の特徴：中高年者へのコーチング(運動指導)の留意点3 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 運動プログラム(有疾患者に対する留意点、運動プログラムの一例、指導の際の注意点)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP336-338までを熟読しておくこと。 JATAC-AT：発育発達論を含む。</p>
7 回目	<p>コーチング環境の特徴：性別の考慮1 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(月経の基礎知識、女性アスリート三主徴、コンディションに影響を与える月経随伴症状、月経随伴症状への対策法、妊娠・出産から競技復帰まで～マタニティ期のスポーツ)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP338-342までを熟読しておくこと。 公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。</p>
8 回目	<p>コーチング環境の特徴：性別の考慮2 (担当：吉田行宏)</p> <p>[到達目標] 性別の考慮(女性アスリートのフィジカルトレーニング、性別の考慮/性的マイノリティ(LGBT)に対するコーチングの留意点、多様な文化的背景を考慮したコーチング)について理解し説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にリファレンスブックP342-354までを熟読しておくこと。 公認スポーツプログラマー：Ⅱ. フィットネスプログラムの実際-3) 女性のフィットネスプログラムを含む。</p>
9 回目	<p>(担当：齊藤昌久) スポーツ組織のマネジメント:1. スポーツ組織の特性、2. スポーツ組織のマネジメントのポイント (キーワード：目的、補完)、3. スポーツクラブ・スポーツ少年団・総合型クラブ、</p> <p>[到達目標] ・スポーツ組織が社会において価値のある存在として認められ存続していくため、組織のマネジメントに関する基本的な考え方と手法を理解し、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
1 0 回目	<p>テキスト (リファレンスブック) を熟読のこと ; p. 364-372。 ハンドアウト (配付資料) も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) スポーツ組織のマネジメント：4. スポーツ指導者に求められるマネジメント、5. スポーツ組織の特性</p> <p>[到達目標] ・総合型地域クラブにおける課題やコーチング現場における特徴を理解し、説明できる。 ・スポーツ少年団における課題やコーチング現場における特徴を理解し、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
1 1 回目	<p>テキスト (リファレンスブック) を熟読のこと ; p. 372-. 384。 ハンドアウト (配付資料) も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がいの理解とスポーツ</p> <p>[到達目標] ・障がいの概要 (定義や種別) とその特性を理解し、説明できる。 ・障がいに応じたコーチング上の留意点やルール・用具などの工夫、配慮することにより誰でもスポーツが親しめることの理解を深め、説明できる。 [授業形態] オンライン授業(オンデマンド方式) [備考] 学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p>
1 2 回目	<p>テキスト (リファレンスブック) を熟読のこと ; p. 385-388。 ハンドアウト (配付資料) があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。 (担当：齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ：障がい者にとってのスポーツ (現状と課題) (ゲストスピーカーを予定)</p>

	<p>[到達目標]  ・障がい者にとってのスポーツの現状と課題の理解を深め、説明できる。  ・障がい者のスポーツの歴史・現状・指導現場での組織体制・その取組を理解し、コーチングに活かすことができる。</p> <p>[授業形態]  オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>[備考]  学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>テキスト (リファレンスブック) を熟読のこと ; p. 388-390。  ハンドアウト (配付資料) があれば精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。</p> <p>1 3 回目 (担当: 齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ: 障がい者のフィットネスプログラム-1 (ゲストスピーカーを予定)</p> <p>[到達目標]  ・障がい (身体、知的、精神) 分類、障がい分類別のスポーツコーチングの留意点の理解を深め、コーチングに活かすことができる。  ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。</p> <p>[授業形態]  オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>[備考]  学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>テキスト (リファレンスブック) を再度熟読のこと ; p. 385-390。  ハンドアウト (配付資料) も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。</p> <p>1 4 回目 (担当: 齊藤昌久) 4. 障がい者とスポーツ: 障がい者のフィットネスプログラム-2</p> <p>[到達目標]  ・コーチング対象者の障がい特性に応じ、「できること」や「障がいを補った動き」を伸ばしていく視点に立ち、適切なコーチングができる。  ・障がい者のスポーツ指導者の育成や(公財)日本障がい者スポーツ協会のビジョンを理解し、コーチングに活かすことができる。</p> <p>[授業形態]  オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>[備考]  学修確認練習問題を実施する (Googleフォーム)。練習問題のフィードバックは問題が送信されたときに自動的にします。</p> <p>テキスト (リファレンスブック) を熟読のこと ; p. 390-393。  ハンドアウト (配付資料) も精読してください。わからない部分があれば必ず調べてください。それでもわからなければ質問して、解決してください (質問の解答が遅れることもあります)。</p> <p>15回目 (担当: 吉田行宏) スポーツ現場におけるトレーナー活動</p> <p>[到達目標]  スポーツにおいてアスリートを支えるトレーナーの活動内容について理解し説明できる。</p> <p>[授業形態]  オンライン授業(オンデマンド方式)</p> <p>[備考]  小テストを実施する。小テストは次回講義までにフィードバックを行う。事前にインターネット等でトレーナーに関する情報を収集しておくこと。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は、各講義項目の該当ページを熟読すること (予習35分)。理解できない事柄 (事項) があれば、メモをとり、参考書を熟読するか、授業での質疑応答は積極的な参加を求めます。</li> <li>・配付資料 (ハンドアウト) は、講義ノートとともに必ず整理すること。授業の復習は、記憶に焼き付けられるように、必ず、確実にすること (復習35分)。</li> <li>・試験は、基本的に授業を行った範囲から出題する。しかし、関連する科目や授業外の内容も出題する場合があります。</li> </ul>
教科書	「Reference Book」 (リファレンスブック) 公益財団法人日本スポーツ協会
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点: 各回の講義終了後に実施する小テストを集計して評価し、全講義回数(15回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が9割以上を秀、8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック:  アセスメント; 小テスト結果  フィードバック: 小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項  ①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。  ②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。  例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピー提出」、「課題と明らかに異なる内容で提出」、「自分の意見ではなくAIを使用している」など。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 吉田行宏  研究室 : 附属鍼灸センター2F 教員室  メールアドレス : y_yoshida@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時 (要Mellyでの事前連絡)</p> <p>担当教員名 : 齊藤 昌久  研究室 : 8号館4階 齊藤 (スポーツ運動科学) 研究室</p>



	メールアドレス : ma_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月・火・木曜日 16:30~17:30
備考	ディプロマ・ポリシーとの関係 ; ◎-5. 技能・表現、○-1. 知識・理解 科目ナンバー : 「SS-2-HA12-ES-L-0」
	実務経験 ; 吉田行宏 : 資格 (はり師・きゅう師、博士(鍼灸学)、日本赤十字社救急法指導員)、鍼灸臨床歴20年、教員歴12年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験を基に学習指導を行う。 齊藤昌久 : 前任校 (大阪医科薬科大学、旧 大阪医科大学 ~2021年3月まで) では、非常勤講師として「スポーツ健康科学」の実技・講義、専任で生理学教室に在籍中「生理学」の講義とリハビリテーション医学教室在籍中は「運動生理学とCPR」の講義を受け持っていた。
	アクティブラーニング ; 小テスト結果及びその内容のフィードバックは、必要に応じて全体もしくは個別に対して行う。 メリーを用いた質疑への返答は原則的にオフィスアワー時間に行う。
	授業動画及び課題等はGoogle Classroomに公開します。

講義科目名称： 医療人のための英語Ⅰ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
鶴 浩幸			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習 AL：講義（オンライン・オンデマンド）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この科目は、英語の基礎を学びなおすことにより、英語についての基礎的な理解を深めるとともに、医療現場における基礎的な英語表現を学びます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]本科目の学習内容、目標、授業の流れを理解する。 [備考]本科目を受講するにあたっての授業の流れ、注意点などについて説明します。学習前英語チェック問題を行います。	
	第2講	英文法基礎：文・文型 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第3講	英文法基礎：疑問詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第4講	英文法基礎：比較 応用としての医療英語：医療現場での表現① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第5講	英文法基礎：比較と復習 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第6講	英文法基礎：時制1 応用としての医療英語：医療現場での表現② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第7講	英文法基礎：時制2と復習 応用としての医療英語：医療現場での表現③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第8講	英文法基礎：不定詞 応用としての医療英語：医療現場での表現④ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第9講	英文法基礎：関係詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第10講	英文法基礎：助動詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第11講	英文法基礎：関係詞の復習と法① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第12講	法②と総合まとめ①（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]本講およびこれまでに行われた授業（文型・疑問詞など）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]本授業およびこれまでの授業ごとに単語と英語表現を習得および復習していきましょう。	
	第13講	総合まとめ②（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]これまでの授業内容（比較・時制・不定詞）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]これまでの授業ごとに単語や英語表現を復習していきましょう。	
	第14講	総合まとめ③（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]これまでの授業内容（関係詞・助動詞・法など）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]これまでの授業ごとに単語や英語表現を復習していきましょう。	

	<p>第15講 人体各部位に関する英語</p> <p>[到達目標] 人体各部位に関する英語を学ぶ。  [授業形態] オンデマンド形式。  [備考] 人体各部位の英語名を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、オンデマンド形式で行われます。理解が難しいところは各自で再確認し、質問がある場合はメリーを介して教員（鶴）に問い合わせをしてください。</li> <li>・授業を通じて単語、英語表現を習得できるように心がけてください（授業の後に30分くらい復習することをおすすめします）。</li> </ul>
教科書	参考資料については、必要に応じてメリーに添付する予定です。
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	<p>授業の視聴、毎回の課題提出、総合まとめ①・②・③の課題、などを通じて最終評価を出します。</p> <p>毎回の授業においてGoogleフォームを用いた課題を実施します。</p> <p>課題は選択式のみならず、状況に応じた英作文作成など、アクティブラーニングを踏まえた記述問題も含まれます。</p> <p>授業出席（課題提出）・各課題の提出：約6-7%（合計：約70%）・総合まとめの課題：約30%を目安とします。</p>
担当教員の基本情報	<p>鶴 浩幸</p> <p>研究室：附属鍼灸センター 2階の教員室</p> <p>h_tsuru@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>1. 実務経験</p> <p>鶴 浩幸：25年の教員経験に加えて、本学附属鍼灸センター、附属統合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、クリニカ・ツチヤ（ペイン・クリニック、ポルトガル）、Sport Lisboa e Benfica（スポーツ・クリニック、SLB、ポルトガル）、ERISA大学（ポルトガル）、米国M. C. O. M. などでの実務経験（25年）をもとに指導を行う。</p> <p>本授業ではアクティブラーニングがあります。</p> <p>2. 科目ナンバー</p> <p>SS-2-LI3-ES-S-1</p> <p>3. ディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-4</p>
	レポートやテストの提出はGoogleクラスルームで受け付けます。

講義科目名称： 医療人のための英語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
鶴 浩幸			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習 AL：講義（オンライン・オンデマンド）	Google Classroomを活用
添付ファイル			

授業目標	この科目は、英語の基礎を学びなおすことにより、英語についての基礎的な理解を深めるとともに、医療現場における基礎的な英語表現を学びます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]本科目の学習内容、目標、授業の流れを理解する。 [備考]本科目を受講するにあたっての授業の流れ、注意点などについて説明します。学習前英語チェック問題を行います。	
	第2講	英文法基礎：文・文型 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第3講	英文法基礎：疑問詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第4講	英文法基礎：比較 応用としての医療英語：医療現場での表現① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第5講	英文法基礎：比較と復習 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第6講	英文法基礎：時制1 応用としての医療英語：医療現場での表現② [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第7講	英文法基礎：時制2と復習 応用としての医療英語：医療現場での表現③ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第8講	英文法基礎：不定詞 応用としての医療英語：医療現場での表現④ [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説、医療状況会話に関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第9講	英文法基礎：関係詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第10講	英文法基礎：助動詞 [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第11講	英文法基礎：関係詞の復習と法① [到達目標]本講で扱われている単語、文法、会話表現を習得する。 [授業形態]オンデマンド形式で、文法解説などに関する授業を行う。 [備考]授業ごとに単語と英語表現を習得していきましょう。	
	第12講	法②と総合まとめ①（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]本講およびこれまでに行われた授業（文型・疑問詞など）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]本授業およびこれまでの授業ごとに単語と英語表現を習得および復習していきましょう。	
	第13講	総合まとめ②（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]これまでの授業内容（比較・時制・不定詞）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]これまでの授業ごとに単語や英語表現を復習していきましょう。	
	第14講	総合まとめ③（アクティブ・ラーニングを含む） [到達目標]これまでの授業内容（関係詞・助動詞・法など）を復習し、課題に取り組む。 [授業形態]オンデマンド形式およびアクティブラーニング。 [備考]これまでの授業ごとに単語や英語表現を復習していきましょう。	

	<p>第15講 人体各部に関する英語</p> <p>[到達目標] 人体各部に関する英語を学ぶ。          [授業形態] オンデマンド形式。          [備考] 人体各部位の英語名を習得していきましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・授業は、オンデマンド形式で行われます。理解が難しいところは各自で再確認し、質問がある場合はメリーを介して教員（鶴）に問い合わせをしてください。</p> <p>・授業を通じて単語、英語表現を習得できるように心がけてください（授業の後に30分くらい復習することをおすすめします）。</p>
教科書	参考資料については、必要に応じてメリーに添付する予定です。
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	<p>授業の視聴、毎回の課題提出、総合まとめ①・②・③の課題、などを通じて最終評価を出します。</p> <p>毎回の授業においてGoogleフォームを用いた課題を実施します。</p> <p>課題は選択式のみならず、状況に応じた英作文作成など、アクティブラーニングを踏まえた記述問題も含まれます。</p> <p>授業出席（課題提出）・各課題の提出：約6-7%（合計：約70%）・総合まとめの課題：約30%を目安とします。</p>
担当教員の基本情報	<p>鶴 浩幸          研究室：附属鍼灸センター 2階の教員室          h_tsuru@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>1. 実務経験          鶴 浩幸：25年の教員経験に加えて、本学附属鍼灸センター、附属統合医療センター、附属病院、附属京都駅前鍼灸院、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、クリニカ・ツチヤ（ペイン・クリニック、ポルトガル）、Sport Lisboa e Benfica（スポーツ・クリニック、SLB、ポルトガル）、ERISA大学（ポルトガル）、米国M. C. O. M. などでの実務経験（25年）をもとに指導を行う。</p> <p>本授業ではアクティブラーニングがあります。</p> <p>2. 科目ナンバー          SS-2-LI3-ES-S-1</p> <p>3. ディプロマポリシーとの関連          ◎-4</p>
	レポートやテストの提出はGoogleクラスルームで受け付けます。

講義科目名称： 関係法規

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
坂部 昌明			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>この講義は、東洋療法試験研修財団が提示するはり師、きゅう師国家試験出題基準に準拠した内容を中心に構成されています。この講義の目的は次の3点です。</p> <p>① 国家試験出題基準相当のはり師、きゅう師に必要な法令等知識を獲得すること。          ② 療養費について説明することができ、適正に手続きができるようになること。          ③ 国家試験には出題されないが、はり師、きゅう師として知っておくべき法令等知識を獲得すること。</p>		
授業計画	第1講	免許・業・要件 [到達目標] 免許とは何か、免許取得の要件を概説できる。 [備考]	
	第2講	申請・免許証 [到達目標] 免許の申請方法、免許証について概説できる。 [備考]	
	第3講	再免許 [到達目標] 免許を失う時、再免許について概説できる。 [備考]	
	第4講	業務 [到達目標] はり師、きゅう師の業務範囲を概説できる。 [備考]	
	第5講	禁忌事項 [到達目標] はり師、きゅう師の施術上の禁忌事項を概説できる。 [備考]	
	第6講	開業・開設 [到達目標] 施術を始める時の手続きについて概説できる。 [備考]	
	第7講	罰則 [到達目標] 罰則内容を把握している。 [備考]	
	第8講	医療関係法規Ⅰ [到達目標] 医療施設および、医療関連職種について概説できる。 [備考]	
	第9講	医療関係法規Ⅱ [到達目標] 衛生等に関する法規について概説できる。 [備考]	
	第10講	社会福祉関係法規Ⅰ [到達目標] 高齢者医療、障害者福祉について概説できる。 [備考]	
	第11講	社会福祉関係法規Ⅱ [到達目標] 保険制度について概説できる。 [備考]	
	第12講	療養費Ⅰ [到達目標] 療養費の仕組みを概説できる。 [備考]	
	第13講	療養費Ⅱ [到達目標] 受領委任の仕組みを概説できる。 [備考]	
	第14講	療養費Ⅲ [到達目標] 受領委任の仕組みを概説できる。	

	<p>[備考] 第15講 まとめ [到達目標] 日本の現状、国際情勢等について解説します。 [備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	しっかりと復習をするようにしてください。この講義の内容は、国家試験に直結するのみならず、社会に出ても常に関係してきます。必ず、すべて抑えてください。
教科書	<p>「関係法規（第7版）」前田和彦著（医歯薬出版株式会社）社団法人東洋療法学校協会編 ※ 必ず購入してください（昨年教科書でも大丈夫です） 最新年度版『療養費の支給基準』社会保険研究所</p>
参考書	特になし
成績評価	最後にレポートをまとめていただきます。 レポートの内容、評価基準等については講義の中で提示します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 坂部昌明（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : info.sk285@gmail.com オフィスアワー : メールでの質問を歓迎します。2、3日後には返信します。</p>
備考	<p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-4, ○-3 ナンバリング : SS-2-ME2-RS-L-1</p>

講義科目名称： 鍼灸師のための解剖学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
齊藤 真吾			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義、AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	はり師・きゅう師に必要な知識を総合的に理解するために、既に学習した解剖学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの内容を、演習問題を通して再確認しつつ、他の教科（特に臨床医学総論）との関連性も踏まえながら人体の構造について総合的な理解を深める。 はり師・きゅう師国家試験合格に必要と考えられる知識を確実に習得することが目標である。		
授業計画	1回目	解剖総論、人体の構成 [到達目標]本講義の目的、概要、国家試験に向けての計画について理解できる。 [備考] 演習課題を用いた講義の進め方（予習・復習）や、小テスト・評価について説明する。人体の構成の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。	
	2回目	循環器系1 心臓・血管系（動脈・静脈） [到達目標]心臓、血管系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	3回目	循環器系2 胎児循環・リンパ系 [到達目標]胎児循環、リンパ系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	4回目	呼吸器系総論 [到達目標]呼吸器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	5回目	消化器系総論 1 [到達目標]消化器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	6回目	消化器系総論 2 [到達目標]消化器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	7回目	泌尿器総論 [到達目標]泌尿の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	8回目	生殖器系総論 [到達目標]生殖器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	9回目	内分泌器系総論 [到達目標]内分泌系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	10回目	神経系1 [到達目標]神経系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	11回目	神経系2 [到達目標]神経系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	12回目	神経系3 [到達目標]神経系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	13回目	感覚器系総論 [到達目標]感覚器系の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	
	14回目	総まとめ [到達目標]解剖学の過去問が7割程度取れることを目標とする。過去問の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。 [備考]前回の範囲の小テストを行う。	



	15回目 まとめと評価 [到達目標] これまでの内容をまとめ、併せて確認のための評価を行う。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前学習として、事前配布された演習問題を回答するだけでは無く、授業時間に問題の解説を指示されても他の学生が理解できるように周辺知識もしっかりと身につけておく。教科書等の関連ページの熟読が必要となる。(予習35分～) 教科書・参考書を利用して分からない点は、質問等にて積極的に解決すること。 当該授業で演習した内容について、十分に復習し理解するようにする。(復習35分～)
教科書	・解剖学 第2版 (医歯薬出版株式会社)
参考書	・カラー 人体解剖学 ・からだが見える人体の構造と機能
成績評価	講義時間(2回目～14回目)のはじめに行う小テスト(20%)、および15回目の確認評価(80%)を総括して、合計で60%以上の点数を取得した場合のみ合格とする。 受験資格は、14回の講義に3/5以上(9回以上)の出席を満たした者とする。 追再試験に際して、課題や補習を行う場合は、必ず指示に従うこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 齊藤真吾 研究室 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 メールアドレス : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火・金曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。
備考	①実務経験: 本学附属鍼灸センター、平成医療学園専門学校附属治療院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに指導する。 ②ディプロマポリシーとの関係: ◎-1 ③科目ナンバー: SS-3-MM5-ES-L-1 ④課題に対してはフィードバックを行う。 ⑤小テストなどの結果をフィードバックするなどのアクティブラーニングを行う。 ⑥小テスト、期末試験などの成績が一定の水準に満たない場合は、課題、補習を課すことがあり、必ず出席すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業目標】</b></p> <p>①これまで学修してきた生理学の知識の定着を自ら確認する。          ②鍼灸師に必要とされる生理学の知識を説明できる。          ③生理学の知識を深めるとともに臨床医学との関連性を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 生理学の基礎、血液          [到達目] 細胞の構造と働き、体液の組成と働き、物質の移動、血液の組成と働き、止血機構について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第2回 循環          [到達目標] 心臓の構造と働き、血圧、循環調節について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第3回 呼吸          [到達目標] 呼吸器の構造と働き、ガス交換、呼吸運動と呼吸調節について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第4回 消化と吸収          [到達目標] 消化器の構造と働き、消化と吸収、肝臓について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第5回 代謝・体温          [到達目標] エネルギー代謝、三大栄養素、体温、産熱と放熱、体温調節について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第6回 排泄          [到達目標] 腎臓の働き、体液量の調節、蓄尿と排尿について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第7回 中間評価          [到達目標] 第1回～第6回の内容について形成的評価として中間評価を行う。          [備考] 評価後に理解度を確認するためにアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第8回 内分泌・生殖・成長          [到達目標] ホルモンの特徴、ホルモンの種類と働き、生殖器、妊娠、成長と老化について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第9回 神経          [到達目標] ニューロンの構造と働き、神経の分類（中枢、末梢）、反射、自律神経について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第10回 神経          [到達目標] ニューロンの構造と働き、神経の分類（中枢、末梢）、反射、自律神経について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第11回 筋肉          [到達目標] 骨格筋の構造と働き、筋収縮の仕組み、心筋と平滑筋について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第12回 身体の運動          [到達目標] 骨格筋の神経支配、運動の調節について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第13回 感覚          [到達目標] 感覚の一般的性質（体性感覚、内臓感覚、痛覚）、特殊感覚について理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第14回 生体の防御機構・ホメオスタシスと生体リズム</p>

	<p>[到達目標] 防御機構に働く組織と因子、免疫反応の分類、炎症とアレルギー、ホメオスタシスについて理解する。</p> <p>[備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第15回 まとめ（評価を含む）</p> <p>[到達目標] 第1~14回で学んだ内容について理解する。</p> <p>[備考] 1~14回の内容の理解度を確認するために評価を実施し、その後に評価に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	「生理学（第3版）」東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）（価格4,800円+税） 授業配布資料（授業資料はGoogle クラウドにアップされていますのでタブレット端末やPCなどを用いて授業を受ける方は活用して下さい。）
参考書	鍼灸国家意見攻略テキスト（上巻）（明治東洋医学院専門学校編）（価格3,000円）
成績評価	<p>評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。</p> <p>評価方法：中間試験（50%）+期末評価（50%）にて行う。</p> <p>単位認定：中間試験と期末試験の合計の評価点が60%以上の者に単位を評価する。</p> <p>※本試験に合格しなかった者について、担当教員が必要と認めた場合かつ指定された補講（課題含む）を受講した場合のみ、再試験を行うことがあります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田口 辰樹</p> <p>研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室</p> <p>メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>本授業は対話（アクティブラーニング）として毎回の授業の終わりに、ミニツツペーパー（コミュニケーションカード）を用い、その日に学習した内容で重要だと思った点や印象に残った点、疑問に思った点やよく理解できなかった点について記載してもらいます。その内容については可能な限り当日のうちにメリーによりフィードバックを行います。自分で疑問に思った点を理解したり、自分自身では気づかなかった疑問点などを他人の意見を参考にしてさらなる学修に役立てて下さい。</p> <p>実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。</p> <p>この講義は1年次に学習した生理学Ⅰ、Ⅱの内容を問題演習を基本として総復習するための科目です。本講義で学習した内容は鍼灸総合演習Ⅰにも関連する内容でもある。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1】 【科目ナンバー：SS-3-MM10-ES-L-1】</p>

講義科目名称： 鍼灸師のための臨床医学各論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
多田羅 勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	
授業計画	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	
教科書	
参考書	
成績評価	
担当教員の基本情報	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業目標】</b></p> <p>①これまで学修してきた東洋医学概論の知識の定着を自ら確認する。  ②臨床現場で東洋医学的施術を行うために必要な臓腑の生理作用について説明できる。  ③東洋医学概論の知識を深めるとともに東洋医学臨床論との関連性を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 東洋医学の基礎・陰陽学説・五行学説  [到達目標] 東洋医学の思想・陰陽論、五行論について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第2回 生理と病理（精・気・血・津液）  [到達目標] 精・気・血・津液について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第3回 生理と病理（蔵象学説）  [到達目標] 臓腑の概要について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第4回 生理と病理①（臓腑）  [到達目標] 臓腑の生理と病理について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第5回 生理と病理②（臓腑）  [到達目標] 腑の生理と病理について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第6回 生理と病理（奇恒の腑）・経絡論  [到達目標] 奇恒の腑の生理と病理・経絡について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第7回 まとめ（形成的評価を含む）  [到達目標] 第1~6回で学んだ内容について理解する。  [備考] 1~6回の内容の理解度を確認するために評価を実施し、その後に評価に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第8回 病理と病証（八綱病証）  [到達目標] 八綱病証について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第9回 病理と病証①（臓腑病証）  [到達目標] 臓腑病証について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第10回 病理と病証②（臓腑病証）  [到達目標] 臓腑病証について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第11回 病理と病証（経絡病証）  [到達目標]  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第12回 東洋医学的診察法と証の立て方①  [到達目標] 四診法と証の立て方について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第13回 東洋医学的診察法と証の立て方②  [到達目標] 四診法と証の立て方について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第14回 治療法  [到達目標] 鍼灸治療の原則、治療の法則、補瀉、刺法について理解する。  [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第15回 まとめ（評価を含む）</p>

	<p>[到達目標] 1~14回までに学習した内容を理解する。          [備考] はじめに知識の確認として講義を行った後に、理解度を確認するために課題を実施し、その後に課題に対するアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	<p>「東洋医学概論（第3版）」東洋療法学校協会編（医道の日本社）（価格5,200円+税）</p> <p>授業配布資料（授業資料はGoogle クラウドにアップされていますのでタブレット端末やPCなどを用いて授業を受ける方は活用して下さい。）</p>
参考書	鍼灸国家試験攻略テキスト（明治東洋医学院専門学校）（価格3,000円）
成績評価	<p>評価対象：出席基準を満たした者を評価対象とする。          評価方法：中間評価（50%）と期末評価（50%）にて行う。          単位認定：評価点（中間と期末評価の合計）が60%以上の者に単位を評価する。</p> <p>※本試験に合格しなかった者について、担当教員が必要と認めた場合かつ指定された補講（課題含む）を受講した場合のみ、再試験を行うことがあります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：田口 辰樹          研究室：鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室          メールアドレス：t_taguchi@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：随時（ただし金曜日は除く）</p>
備考	<p>本授業は対話（アクティブラーニング）として毎回の授業の終わりに、ミニツツペーパー（コミュニケーションカード）を用い、その日に学習した内容で重要だと思った点や印象に残った点、疑問に思った点やよく理解できなかった点について記載してもらいます。その内容については可能な限り当日のうちにメリーによりフィードバックを行います。自分で疑問に思った点を理解したり、自分自身では気づかなかった疑問点などを他人の意見を参考にしてさらなる学修に役立てて下さい。</p> <p>実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。</p> <p>この講義は1年次に学習した東洋医学概論、伝統はり・きゅう診断学、伝統はり・きゅう診断学演習で学んだ内容を問題演習を基本として総復習するための科目です。本講義で学習した内容は鍼灸総合演習Ⅰにも関連する内容でもある。</p> <p>【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-1、○-2】          【科目ナンバー：SS-3-0M4-ES-L-1】</p>

講義科目名称： 臨床経穴学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
大場 美穂			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>目標1：はり師・きゅう師に必要な経絡経穴の知識を習得する</p> <p>目標2：他の教科（特に東洋医学臨床論）との関連性も踏まえながら総合的な知識を習得する</p> <p>目標3：はり師・きゅう師国家試験合格に必要なと考えられる知識を確実に習得する</p>
授業計画	<p>1回目 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の経穴名が分かる  [到達目標] 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の経穴名が分かる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>2回目 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の取穴  [到達目標] 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の経穴名が分かり、取穴できる。  [備考] 前回の範囲の小テストを行う。過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>3回目 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の取穴  [到達目標] 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の経穴名が分かり、取穴できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>4回目 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の取穴  [到達目標] 五要穴、五愈穴、四総穴、八脈交会穴、八総穴、下合穴の経穴名が分かり、取穴できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>5回目 経絡の意義  [到達目標] 正経十二経脈の接続・流注の概要、奇経八脈の概要、十二経筋が説明できる。  [備考] 2・3・4回目の授業範囲の小テストを行う。過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>6回目 骨度法、組み合わせ穴  [到達目標] 全身の骨度法、六つ灸・中風七穴・小児斜差の灸・脚気八処の穴が説明できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>7回目 奇穴①  [到達目標] 奇穴の取穴・主治が説明できる。  [備考] 5・6回目の授業範囲の小テストを行う。過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>8回目 奇穴②  [到達目標] 奇穴の取穴・主治が説明できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>9回目 胸腹部・上背腰殿部の経穴  [到達目標] 下肢の経穴が説明できる。  [備考] 7・8回目の授業範囲の小テストを行う。過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>10回目 顔面部・上肢の経穴  [到達目標] 顔面部・上肢の経穴が説明できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>11回目 下肢の経穴  [到達目標] 下肢の経穴が説明できる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>12回目 演習問題  [到達目標] 過去の国家試験問題の解説ができる。  [備考] 9・10・11回目の授業範囲の小テストを行う。過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>13回目 演習問題  [到達目標] 過去の国家試験問題の解説ができる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>14回目 演習問題  [到達目標] 過去の国家試験問題の解説ができる。  [備考] 過去問題の解説作りの際に学生間でティーチングとコーチングを行う。</p> <p>15回目 期末試験  [到達目標] これまでの内容をまとめ、伏せて確認のための評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	当該授業で演習した内容について十分に復習し、理解するようにすること（復習35分～）。教科書・参考書を利用して分からない点は、質問等にて積極的に解決すること。
教科書	経絡経穴概論 第2版（株式会社医道の日本）

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリント</li> <li>・配布アプリ</li> </ul>
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。</li> <li>2. 評価：授業内小テスト（計30%、全6回各5%）と期末試験結果（70%）を総合して100%で評価する。</li> <li>3. 単位認定：評価点が60%以上の者に評価を認定する。</li> <li>4. 授業態度・意欲によって減点する。</li> </ol> <p>*小テストの成績不良の場合は、別に設定する必ず補講に参加すること。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員：大場美穂          教員室：鍼灸センター2階教員室          メールアドレス：m_ohba@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>大場 美穂          本学附属鍼灸センター、常葉大学、鍼灸院での実務経験をもとに指導する。</p>



講義科目名称： 東洋医学治療法実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
谷口 剛志、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本実習は主要な症候に対し、四診を用いて分析し、弁証を立て、治療穴を選び、安全で適切なはりきゅう施術の知識・技術を身につけることを目的としています。</p> <p>目標 1. 症候パターンを理解すること 2. 症候に応じた治療穴を理解すること 3. 安全で適切なはりきゅう技術を修得すること</p>
授業計画	<p>第1回 手技と手法 【到達目標】 1. 補瀉の違いを理解する 2. 刺鍼補瀉を修得する 3. 施灸補瀉を修得する 【授業内容】AL 1. 教員による導入説明 2. 教員によるデモンストレーション 3. 学生同士のトレーニング 4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>第2回 治療穴とその応用 ～経絡治療～ 【到達目標】 1. 本治と標治を理解する 2. 五行穴の運用を理解し、活用できる 3. 難経六十九難にもとづく配穴特性を理解する 4. 証に応じた配穴パターンを理解する 【授業内容】AL 1. 教員による導入説明 2. 教員によるデモンストレーション 3. 学生同士のトレーニング 4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>第3回 治療穴とその応用 ～奇経治療～ 【到達目標】 1. 奇経治療の特性を理解する 2. 証に応じた配穴パターンを理解する 【授業内容】AL 1. 教員による導入説明 2. 教員によるデモンストレーション 3. 学生同士のトレーニング 4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>第4回 治療穴とその応用 ～主客原絡法～ 【到達目標】 1. 主客原絡法の特性を理解する 2. 証に応じた配穴パターンを理解する 【授業内容】AL 1. 教員による導入説明 2. 教員によるデモンストレーション 3. 学生同士のトレーニング 4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>第5回 主要症候（頭痛） 【到達目標】 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 【授業内容】AL 1. 教員による導入説明 2. 教員によるデモンストレーション 3. 学生同士のトレーニング 4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>第6回 主要症候（関節痛） 【到達目標】 1. 病因病機を理解する。 2. 証分類を理解する。 3. 治療穴および取穴を理解する。 4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。 【授業内容】AL</p>

第7回	<p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p> <p>主要症候（肝系統）</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第8回	<p>主要症候（心系統）</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第9回	<p>主要症候（脾系統）</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第10回	<p>主要症候（肺系統）</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第11回	<p>主要症候（腎系統）</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第12回	<p>女性特有の症候</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>
第13回	<p>小児特有の症候</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 病因病機を理解する。  2. 証分類を理解する。  3. 治療穴および取穴を理解する。  4. 証に合った最適なはりきゅう施術を身につける。</p> <p>【授業内容】AL</p> <p>1. 教員による導入説明  2. 教員によるデモンストレーション  3. 学生同士のトレーニング  4. 症例（過去問）を提示し、シミュレーション</p>

	<p>第14回 総合1 実技試験を実施します</p> <p>第15回 総合2 実技試験を実施します</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習 (30分) シラバスを参考にしながら、授業内容を理解しておいてください。</p> <p>復習 (30分) 授業で学んだ経穴の特性、位置を触りながら覚え、はりきゅう手技を練習してください。</p>
教科書	新版東洋医学臨床論 (はりきゅう編) 公益社団法人東洋療法学校協会編教科書小委員会著
参考書	<p>図解 臨床鍼灸処方の実際 病名・病症から配穴を導く 国際中医学研究会編 緑書房 4,800円</p> <p>鍼灸学【臨床編】日中共同編集 東洋学術出版社 7,800円</p>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>評価：前期末実技試験(100%)で評価します。</p> <p>補講：対象者は追再試験までに補講を実施しますので、必ず参加してください。</p>
担当教員の基本情報	<p>○谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学(修士) 臨床歴26年 たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ボルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、CF Belenenses、明治国際医療大学附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターでの実務経験をもとに実習指導を行う。 オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p> <p>○藤井健介 はり師・きゅう師、柔道整復師 附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターの実務経験をもとに実技指導を行う。 オフィスアワー：水曜日14:00-17:00</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー2 ○ー1・5 SS-3-AM19-RS-P-1

講義科目名称： 臨床病態学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、全身の症候、皮膚、呼吸器、循環器、消化器、血液、泌尿器、神経などの各領域における主症状と代表疾患を取り上げるとともに、その診察方法についても学修する。 本科目を通して、鍼灸師に必要な診察技術や診察方法、代表的な血液・生化学検査までを理解し、自らが病態把握をできるようにすることを目的に指導を行う。</p>
授業計画	<p>第1回 全身の症候 【到達目標】 発熱、めまい、ショック、浮腫、チアノーゼの定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第2回 皮膚・外表、感覚器 【到達目標】 発疹、黄疸、発汗異常、難聴の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第3回 呼吸器・心臓・血管、消化器 【到達目標】 咳嗽、呼吸困難、胸痛、急性腹症、吐血、下血、下痢の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第4回 血液、造血器、免疫 【到達目標】 貧血、出血傾向の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第5回 泌尿・生殖器、心理・精神機能 【到達目標】 尿量異常、下部尿路症状、月経異常、認知機能障害、統合失調症の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第6回 神経・運動器、医療面接 【到達目標】 頭痛の定義、病態生理、原因疾患、臨床症状、検査と鑑別、治療について理解する。加えて、医療面接について復習し理解を深める。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第7回 まとめと中間評価 【到達目標】 1～7時間目までの授業内容についてまとめと復習を行い理解を深める。 その後、中間評価を行い、フィードバックを行う。</p> <p>第8回 視診① 【到達目標】 各視診所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第9回 視診② 【到達目標】 各視診所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第10回 打診、聴診、触診 【到達目標】 打診、聴診、触診の所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第11回 身体計測、生命徴候 【到達目標】 身体計測、生命兆候について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第12回 神経系の検査 【到達目標】 感覚検査、反射検査、脳神経検査などの神経系の検査所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第13回 運動機能検査 【到達目標】 理学検査を中心に運動機能検査の各所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p>

	<p>第14回 検体検査、生理学的検査、救命処置 【到達目標】 検体検査、生理学的検査の各異常所見と原因疾患、臨床症状について理解する。 小テストを実施し、結果に基づいて授業内容の重要な点についてフィードバックを行う。</p> <p>第15回 まとめと評価 【到達目標】 講義の内容を総まとめし、復習と整理を行う。その後、期末評価を実施する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	指定された講義の範囲を予習(30分)と講義後に授業の範囲の復習(30分)を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	1. 鍼灸国家試験攻略テキスト(明治東洋医学院専門学校) 2. 講義プリント
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%(100点満点中60点以上を合格とする。なお、中間試験と期末試験の平均点で評価する。) 3. 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山崎 翼          研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室          メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。</p>
備考	<p>1. 実務経験 山崎 翼: 本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-2 ○-1</p> <p>3. 科目ナンバー SS-3-AM22-ES-L-1</p> <p>4. 授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行ってください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
田口 辰樹			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業目標】</b></p> <p>①鍼灸臨床で遭遇する主要な症候のうち内科系および心身医学系の症候について概要を説明できる。  ②症候の原因疾患、症候別の診察法について西洋および東洋の両面から説明ができる。  ③症候別に鍼灸治療の適否の鑑別、鍼灸治療の方法について説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 東洋医学概論の復習①  [到達目標] 臨床はり・きゅう学Ⅰを学ぶ上で必要な東洋医学概論の知識（陰陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を復習する。  [備考] 予習として東洋医学概論の教科書（陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を読んで理解しておくこと。</p> <p>第2回 東洋医学概論の復習②  [到達目標] 臨床はり・きゅう学Ⅰを学ぶ上で必要な東洋医学概論の知識（陰陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を復習する。  [備考] 予習として東洋医学概論の教科書（陽学説・五行学説・蔵象学説・病因病機）を読んで理解しておくこと。</p> <p>第3回 腹痛  [到達目標] 腹痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 9~19 を読んでおくこと。</p> <p>第4回 腹痛をきたす疾患（FD、IBS、急性胃粘膜病変）  [到達目標] FD、IBS、急性胃粘膜病変の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 801、802、815 を読んでおくこと。</p> <p>第5回 食欲不振・食欲不振を来す疾患  [到達目標] 食欲不振を起こす病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 2~7 を読んでおくこと。</p> <p>第6回 悪心と嘔吐・悪心嘔吐を来す疾患  [到達目標] 悪心と嘔吐の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習のために教科書 p 20~26 を読んでおくこと。</p> <p>第7回 便通異常  [到達目標] 便通異常（便秘と下痢）の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 27~44 を読んでおくこと。</p> <p>第8回 便通異常（便秘と下痢）を来す疾患（過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病）  [到達目標] 過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎、クローン病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 20~26 を読んでおくこと。</p> <p>第9回 歯痛  [到達目標] 歯痛の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 995~999 を読んでおくこと。</p> <p>第10回 顎関節症  [到達目標] 顎関節症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 995~999 を読んでおくこと。</p> <p>第11回 呼吸困難  [到達目標] 呼吸困難の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 53~61 を読んでおくこと。</p> <p>第12回 呼吸困難をきたす疾患（気管支喘息、COPD）  [到達目標] 気管支喘息、COPDの病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  [備考] 予習として教科書 p 45~52 を読んでおくこと。</p> <p>第13回 まとめ（形成的評価）  [到達目標] 1~12回までのすべての内容についての評価を行う。  [備考] 対面により理解度の評価を行った後に、評価内容についてアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p> <p>第14回 咳嗽・咳嗽を来す疾患  [到達目標] 咳嗽の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明で</p>

	<p>きる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 9`19を読んでおくこと。</p> <p>第15回 胸痛  <b>【到達目標】</b> 胸痛の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 85`90を読んでおくこと。</p> <p>第16回 胸痛をきたす疾患（狭心症、心筋梗塞）  <b>【到達目標】</b> 狭心症、心筋梗塞の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 85`90、p 770`778</p> <p>第17回 動悸・動悸を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 動悸の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 62~70を読んでおくこと</p> <p>第18回 血圧異常・血圧異常を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 血圧異常の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 71`83を読んでおくこと。</p> <p>第19回 冷え症・冷え症を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 冷え症の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 431~438を読んでおくこと。</p> <p>第20回 肥満・肥満を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 肥満の病態生理を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 442~450を読んでおくこと。</p> <p>第21回 睡眠障害・睡眠障害を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 睡眠障害（不眠症）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 392`402を読んでおくこと。</p> <p>第22回 うつ状態（うつ病）  <b>【到達目標】</b> うつ病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 418`430を読んでおくこと。</p> <p>第23回 かゆみ・かゆみを来す疾患（アトピー性皮膚炎）  <b>【到達目標】</b> かゆみ（アトピー性皮膚炎）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 471`480を読んでおくこと。</p> <p>第24回 脱毛・脱毛を来す疾患（円形脱毛症、AGA）  <b>【到達目標】</b> 脱毛（円形脱毛症、AGA）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 459`470を読んでおくこと。</p> <p>第25回 疲労と倦怠感・疲労と倦怠感を来す疾患  <b>【到達目標】</b> の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として事前配布資料を読んでおくこと。</p> <p>第26回 発熱・発熱を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 発熱の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として事前配布資料を読んでおくこと。</p> <p>第27回 糖尿病  <b>【到達目標】</b> 糖尿病の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 822`830を読んでおくこと。</p> <p>第28回 自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性強皮症、シェーグレン症候群）  <b>【到達目標】</b> 自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性強皮症、シェーグレン症候群）の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として教科書 p 868~909を読んでおくこと。</p> <p>第29回 発疹・発疹を来す疾患  <b>【到達目標】</b> 発疹の病態を理解した上で、鍼灸臨床に必要な診察と鍼灸治療について説明できる。また、病態に応じて鍼灸治療の適・不適を判断できる。  <b>【備考】</b> 予習として事前配布資料を読んでおくこと。</p> <p>第30回 まとめ（評価を含む）  <b>【到達目標】</b> 1~30回までのすべての内容についての評価を行う。  <b>【備考】</b> 対面により理解度の評価を行った後に、評価内容についてアクティブラーニングとして対話（フィードバック）を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」 公益社団法人東洋療法学校協会編 医道の日本社（価格6,700円+税） 授業配布資料（授業資料はGoogle クラブルームにアップされていますのでタブレット端末やPCなどを用いて授業を受ける方は活用して下さい。）

参考書	『鍼灸療法技術ガイドI・II』 矢野 忠編 文光堂 『鍼灸学 臨床編』 天津中医学院+学校法人後藤学園編 東洋学術出版社 『病気がみえる①消化器、②循環器、③代謝・内分泌、④呼吸器』 医療情報科学研究所 メディックメディア
成績評価	評価対象：基準を満たした者を評価対象とする。 評価方法：中間評価（50%）と期末評価（50%）にて行う。 単位認定：評価点（中間と期末評価の合計）が60%以上の者に単位を評価する。60%未満の者には再評価を行うことがある。  ※本試験に合格しなかった者について、担当教員が必要と認めた場合かつ指定された補講（課題含む）を受講した場合のみ、再試験を行うことがあります。  出席確認：授業の初めに出席の確認を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田口 辰樹 研究室 : 鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_taguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	実務経験内容 : 教育機関の附属鍼灸センター、医院の附属鍼灸施術所で鍼灸臨床業務に従事していた。その実務経験に基づいて本講義の授業を行う。  この講義は、1年次で学んだ基礎医学（解剖、生理学）の知識に基づいて、2年次で学んだ臨床医学の知識と鍼灸学の知識を結びつけ鍼灸臨床に応用するための知識を学ぶ科目である。  【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-2、○-1】 【科目ナンバー：SS-3-AM23-ES-L-1】



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
谷口 剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：60時間	授業形態：講義 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標 本科目は、運動器に生じる主要な症候に対し、西洋医学的・東洋医学的な視点から評価を行ない、それぞれの症状に合わせた最適な治療を行ない、安全で適切なはりきゅう施術が実施出来ると共に、施術後にライフスタイルアドバイスやトレーニングの指導が出来る知識を修得することを目標としています。 なお、本科目内容は、臨床はりきゅう学実習Ⅱ（運動器・スポーツ系）の授業内容となります。</p> <p>修得 1. 現代医学的・東洋医学的な視点で、運動器各部位の評価が出来ること 2. 疾患や症状に応じた最適な治療が選択できること 3. 安全で適切なはりきゅう施術が行なえること 4. ライフスタイルアドバイス、トレーニング指導が出来ること</p>
授業計画	<p>第1回 身体を支える土台 Part1 ～足部・足関節～ 【到達目標】 1. てこの原理が理解できる 2. 足部・足関節の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第2回 身体を支える土台 Part2 ～足部・足関節～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第3回 上下の圧力に耐える Part1 ～下腿部～ 【到達目標】 1. 重心について理解できる 2. 下腿部の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第4回 上下の圧力に耐える Part2 ～下腿部～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第5回 不安定な構造で動きを支持する Part1 ～膝関節～ 【到達目標】 1. 関節の基本的な構造と機能が理解できる 2. 膝関節の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第6回 不安定な構造で動きを支持する Part2 ～膝関節～ 【到達目標】 1. 関節の基本的な構造と機能が理解できる 2. 膝関節の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p>

第7回	不安定な構造で動きを支持する Part3 ～膝関節～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第8回	大きな推進力を生む Part1 ～大腿部～ 【到達目標】 1. 筋の基本的な構造と機能が理解できる 2. 大腿部の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第9回	大きな推進力を生む Part2 ～大腿部～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第10回	現代人が忘れてしまった動き Part1 ～股関節～ 【到達目標】 1. 関節の形態による可動域の特徴が理解できる 2. 大腿部の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 4. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第11回	現代人が忘れてしまった動き Part2 ～股関節～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第12回	神のうなずき Part1 ～骨盤～ 【到達目標】 1. 関節内運動の特徴が理解できる 2. 骨盤の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第13回	神のうなずき Part2 ～骨盤～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第14回	身体の要 Part1 ～脊椎（腰椎）～ 【到達目標】 1. 脊椎ユニットの構造・機能が理解できる 2. 腰椎の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第15回	身体の要 Part2 ～脊椎（腰椎）～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション

第16回	3. 教員からのレクチャー 前半総合 第1回～第15回までの範囲について、筆記試験を実施します。
第17回	深呼吸 Part1 ～脊椎（胸椎）～ 【到達目標】 1. 脊椎ユニットの構造・機能が理解できる 2. 胸椎の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第18回	深呼吸 Part2 ～脊椎（胸椎）～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第19回	文明の利器がもたらす問題 Part1 ～脊椎（頸椎）～ 【到達目標】 1. 脊椎ユニットの構造・機能が理解できる 2. 頸椎の構造・機能が理解できる 3. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第20回	文明の利器がもたらす問題 Part2 ～脊椎（頸椎）～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第21回	自由の象徴 Part1 ～肩関節～ 【到達目標】 1. Shoulder complexが理解できる 2. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第22回	自由の象徴 Part2 ～肩関節～ 【到達目標】 1. Throwing phaseが理解できる 2. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第23回	自由の象徴 Part3 ～肩関節～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第24回	運動の交差点 Part1 ～肘関節～ 【到達目標】 1. 肘関節の構造・機能が理解できる 2. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー
第25回	運動の交差点 Part2 ～肘関節～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション

	<p>第26回 3. 教員からのレクチャー ヒト進化の象徴 Part1 ～手関節・手部～ 【到達目標】 1. 手関節・手部の構造・機能が理解できる 2. 疾患の特徴が理解できる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第27回 ヒト進化の象徴 Part2 ～手関節・手部～ 【到達目標】 1. 評価（徒手検査、経絡経穴）が理解できる 2. 治療（鍼灸治療、その他）が理解できる 3. 指導（トレーニング、ライフスタイルアドバイス）が理解できる 【授業形態】 1. 課題提示 2. ディスカッション 3. 教員からのレクチャー</p> <p>第28回 総合1 症例問題を中心に、SOAPによる情報整理、病態把握のフレームワーク、患者・選手へのフィードバックなど、鍼灸臨床に必要な情報について学ぶ 【到達目標】 1. SOAPの分類ができる 2. 病態把握のフレームワークを活用できる 3. フィードバックができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. SOAP分類 3. 病態把握 4. フィードバック</p> <p>第29回 総合2 症例問題を中心に、SOAPによる情報整理、病態把握のフレームワーク、患者・選手へのフィードバックなど、鍼灸臨床に必要な情報について学ぶ 【到達目標】 1. SOAPの分類ができる 2. 病態把握のフレームワークを活用できる 3. フィードバックができる 【授業形態】AL 1. 課題提示 2. SOAP分類 3. 病態把握 4. フィードバック</p> <p>第30回 後半総合 第17回～第29回までの範囲について、筆記試験を実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	予習（30分）シラバスをもとに、指定教科書の内容に目を通しておいてください。 復習（30分）授業内容の振り返りをしてください。
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI・II」 矢野 忠（編）（文光堂）
参考書	「運動器疾患の治療 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸」（医歯薬出版） 「アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学」（文光堂） 「THE SPORTS MEDICINE BIBLE」
成績評価	受験資格：学生便覧にもとづき、総授業時間数の3/5以上の出席により期末試験の受験資格を認めます。 成績評価：ノートテイキング（形式：筆記 点数配分0/100） 中間試験（形式：筆記 点数配分0/100） 期末試験（形式：筆記 点数配分0/100） 提出物ならびに各試験において、それぞれ平均60%以上を取得された方に単位を認定します。
担当教員の基本情報	担当教員：谷口剛志 実務経験（臨床歴：26年）はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士） たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカー（フィジコ）、KALEBITCHフットサル（フィジコ）、ボルトガルクリニックカ土屋、SLペンフィカ（フィジオ）、ペンフィカフットボールキャンパス（フィジオ）、FCバルセロナフットサル、FCボルトクリニックドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターでの実務経験をもとに教育指導を行う。 所 属：附属病院2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター メールアドレス：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください
備考	ディプロマポリシーとの関連 ○-1、○-2 SS-3-AM24-ES-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では、耳鼻科領域、眼科領域、泌尿・生殖器領域、産婦人科領域、脳神経外科領域、疼痛領域における主症状と代表疾患を取り上げる。現代医学と東洋医学の両側面における病態・生理と、その基本的な鑑別手法を修得するよう指導する。そして、各回の授業で主題となる症状および疾患に関する鍼灸治療の基本的な知識と技術を修得できるように指導する。</p>		
授業計画	第1回	<p>眼科疾患（眼精疲労）</p> <p>【到達目標】 眼精疲労の現代医学的な病態について説明できる。 眼精疲労の東洋医学的な病態について説明できる。 眼精疲労の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 眼精疲労をきたす疾患について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第2回	<p>耳鼻科疾患①（鼻閉・鼻汁）</p> <p>【到達目標】 鼻閉・鼻汁の現代医学的な病態について説明できる。 鼻閉・鼻汁の東洋医学的な病態について説明できる。 鼻閉・鼻汁の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 鼻の主な構造と機能、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第3回	<p>耳鼻科疾患②（めまい・耳鳴り・難聴）</p> <p>【到達目標】 めまい・耳鳴り・難聴の現代医学的な病態について説明できる。 めまい・耳鳴り・難聴の東洋医学的な病態について説明できる。 めまい・耳鳴り・難聴の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 めまい・耳鳴り・難聴をきたす疾患について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第4回	<p>月経異常（月経困難症・月経不順）</p> <p>【到達目標】 月経困難症・月経不順の現代医学的な病態について説明できる。 月経困難症・月経不順の東洋医学的な病態について説明できる。 月経困難症・月経不順の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 月経異常の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第5回	<p>更年期障害</p> <p>【到達目標】 更年期障害の現代医学的な病態について説明できる。 更年期障害の東洋医学的な病態について説明できる。 更年期障害の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 更年期障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第6回	<p>骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわり</p> <p>【到達目標】 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの現代医学的な病態について説明できる。 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの東洋医学的な病態について説明できる。 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】 骨盤位・乳汁分泌不全、帯下、不妊、つわりの概要について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	第7回	<p>講義内容のまとめ①</p> <p>【到達目標】 1回目から6回目までの内容に関してまとめと評価を行った後、評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>	
	第8回	<p>泌尿器疾患①（排尿障害：神経因性膀胱、前立腺肥大、過活動性膀胱）</p> <p>【到達目標】</p>	

	<p>排尿障害の現代医学的な病態について説明できる。          排尿障害の東洋医学的な病態について説明できる。          排尿障害の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          排尿障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第9回 泌尿器疾患②（勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎）</p> <p>【到達目標】          勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の現代医学的な病態について説明できる。          勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の東洋医学的な病態について説明できる。          勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          勃起障害、夜尿症、慢性前立腺炎・慢性膀胱炎の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第10回 神経痛（三叉神経痛、肋間神経痛）</p> <p>【到達目標】          神経痛の現代医学的な病態について説明できる。          神経痛の東洋医学的な病態について説明できる。          神経痛の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          三叉神経痛、肋間神経痛の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第11回 頭痛（緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛、後頭神経痛）</p> <p>【到達目標】          頭痛の現代医学的な病態について説明できる。          頭痛の東洋医学的な病態について説明できる。          頭痛の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛、後頭神経痛の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第12回 顔面神経麻痺（ベル麻痺、ラムゼイハント症候群、聴神経鞘腫）</p> <p>【到達目標】          顔面神経麻痺の現代医学的な病態について説明できる。          顔面神経麻痺の東洋医学的な病態について説明できる。          顔面神経麻痺の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第13回 脳血管障害（脳卒中後遺症、運動麻痺）</p> <p>【到達目標】          脳血管障害の現代医学的な病態について説明できる。          脳血管障害の東洋医学的な病態について説明できる。          脳血管障害の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          脳血管障害の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第14回 パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症</p> <p>【到達目標】          パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の現代医学的な病態について説明できる。          パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の東洋医学的な病態について説明できる。          パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の鍼灸治療について理解する。併せて、現代医学と東洋医学の関連性についてワークショップを行う。</p> <p>【備考】          パーキンソン病・パーキンソン症候群、認知症の病態について予習すること。また、授業後には教科書、配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>第15回 講義内容のまとめ②</p> <p>【到達目標】          1回目から14回目までの内容に関して評価を行った後に評価結果について解説によりフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に教科書を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	1. 新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）南江堂 2. 講義プリント
参考書	適宜知らせる。
成績評価	1. 出席基準を満たした者に期末試験を実施する。 2. 筆記試験100%（100点満点中60点以上を合格とする） 3. 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属病院2階鍼灸学部教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日、水曜日、木曜日に対応可。事前にメールなどで日時を確認してください。

備考	<p>1. 実務経験 山崎 翼：本学附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-2 ○-1</p> <p>3. 科目ナンバー SS-3-AM25-ES-L-1</p> <p>4. 授業資料は事前にGoogle Classroomに公開するので、予習を行ってください。</p>

講義科目名称： 東洋医学臨床論Ⅳ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
谷口 剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、東洋医学臨床論（現代・東洋）の国家試験対策授業となります。東洋医学臨床論は、国家試験の中でも大きなウェイト（毎年約24問出題 13.3%）を占めており、国家試験の合格を左右する非常に重要な科目となります。</p> <p>本授業では、特に運動器系を中心に過去問をベースに問題演習を行ない、想起練習を行なっていきます。全員がしっかり修得できるよう、みんなで力を合わせてやっていきましょう。</p>
授業計画	<p>第1回      インTRODクシヨン                      1. シラバスの説明                      2. 東洋医学臨床論の傾向と対策                          ・ 出題数、出題傾向                      3. 国家試験問題の構造を知る                          ・ taxonomy                          ・ 東洋医学臨床論の問題構造</p> <p>第2回      東洋医学臨床論を攻略する前に                      様々な学習方法について学ぶ                          ・ Active recall                          ・ Production effect                          ・ Protégé effect                          ・ Active recallの実践                          ・ 得意、不得意分野の整理</p> <p>第3回      東洋医学臨床論Ⅱ（前期）の復習                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第4回      徒手検査に関する問題を攻略                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第5回      要穴・流注に関する問題を攻略                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第6回      神経・経穴に関する問題を攻略                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第7回      筋肉・経穴に関する問題を攻略                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第8回      局所治療穴に関する問題を攻略                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第9回      前半総合                      第2回～第8回までの範囲を筆記試験（四肢択一問題）で実施します。</p> <p>第10回     東洋医学系に関する問題を攻略1                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第11回     東洋医学系に関する問題を攻略2                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第12回     現代医学系に関する問題を攻略1                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p> <p>第13回     現代医学系に関する問題を攻略2                      1. アクティブリコール                      2. 過去問題演習                      3. 問題解説</p>



	<p>第14回 現代医学系に関する問題を攻略3 1. アクティブリコール 2. 過去問題演習 3. 問題解説</p> <p>第15回 後半総合 第10回～第14回までの範囲を筆記試験（四肢択一問題）で実施します。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（30分） シラバスを参考に教科書の中から問題を解くうえで重要になるキーワードをノートテイキングしておくこと</p> <p>復習（30分） 問題演習の中で特に間違えた部分の見直しをしておくこと</p>
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会編 新版東洋医学臨床論（はりきゅう編）南江堂（2022）
参考書	<p>1. 2025第23回～第32回徹底攻略！国家試験過去問題集はり師きゅう師用 医道の日本社（2024）</p> <p>2. 鍼灸国家試験攻略テキスト（上下巻） 明治東洋医学院専門学校（2024）</p>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧にもとづき、総授業時間数の3/5以上の出席により期末試験の受験資格を認めます。</p> <p>成績評価：前半総合（形式：筆記試験 点数配分0/100）、後半総合（形式：筆記試験、点数配分0/100） 前半・後半の各試験において、それぞれ平均60%以上を取得された方に単位を認定します。</p>
担当教員の基本情報	<p>○谷口剛志 はり師きゅう師、スポーツ健康科学（修士） 臨床歴26年 たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ボルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCボルトクニカドラゴン、CF Belenenses、明治国際医療大学附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターでの実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p>
備考	<p>ディプロマとの関連 ○-1 ◎-2 SS-3-AM26-ES-L-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
福田 文彦、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、基礎医学、臨床医学(主に内科系)、東洋医学臨床論 I で学習した内容について、面接、診察による病態の把握及び鍼灸治療の方法について実習し技術を修得する。</p> <p>授業内容は、学生同士によるシミュレーションにより主として内科系の主要症候(食欲不振、便秘異常、呼吸困難、冷え性、肥満、睡眠障害、疲労倦怠、糖尿病性末梢神経障害など)に対する面接、身体診察、鍼灸治療の内容、技術を修得する。さらに養生の概念から養生灸、美容鍼、肩こりに対して面接、身体診察、鍼灸治療の内容、技術を修得する。また、鍼技術学、灸技術学、現代医学的鍼灸診察法実習、伝統鍼灸診断学応用実習の復習を行うことにより基礎的な技術、知識を身につける。</p> <p>本科目では、内科系の主要症候に対する診察技術(触診、打診、聴診)を身につけて、鍼灸治療の適否を判断した上で適切で安全な鍼灸施術を行う技術を修得する到達目標としている。</p>
授業計画	<p>第1回 腹部症状への診察・便秘への鍼灸治療 腹部の聴診により腸管運動音(グル音)が聴診でき、異常音が説明できる。 腹部の打診により鼓音が打診できる。 腹部の触診が模倣できる。 便秘に対する現代医学的理論に基づく鍼灸治療ができる。</p> <p>第2回 食欲不振への鍼灸治療 食欲不振への鍼灸治療の適否が説明できる。 食欲不振に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 食欲不振への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第3回 悪心・嘔吐への鍼灸治療 悪心・嘔吐への鍼灸治療の適否が説明できる。 悪心・嘔吐に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 悪心・嘔吐への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第4回 胸部症状(呼吸困難：喘息、COPD)への診察・鍼灸治療 胸部の聴診が模倣できる。 胸部の打診が模倣できる。 呼吸困難に対する現代医学的理論に基づく鍼灸治療ができる。</p> <p>第5回 胸部症状(呼吸困難：喘息、COPD)への鍼灸治療 呼吸困難への鍼灸治療の適否が説明できる。 呼吸困難に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 呼吸困難への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第6回 胸部症状(循環器疾患：高血圧)への診察・高血圧への鍼灸治療 胸部の聴診が模倣できる。 血圧測定ができる。 高血圧に対する現代医学的理論に基づく鍼灸治療ができる。</p> <p>第7回 冷え性への鍼灸治療 冷え性への鍼灸治療の適否が説明できる。 冷え性に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 冷え性への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第8回 代謝・内分泌疾患(肥満)への診察・肥満への鍼灸治療 肥満の診察が模倣できる。 食欲減退を目的とした耳鍼治療が実施できる。</p> <p>第9回 代謝・内分泌疾患(肥満)への鍼灸治療 肥満への鍼灸治療の適否が説明できる。 肥満に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 肥満への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第10回 代謝・内分泌疾患(糖尿病性神経障害)への診察・鍼灸治療 糖尿病性末梢神経障害への診察が模倣できる。 糖尿病性末梢神経障害への鍼灸治療の適否が説明できる。 糖尿病性末梢神経障害に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 糖尿病性末梢神経障害への現代医学理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第11回 睡眠障害(不眠症)への鍼灸治療 不眠症への鍼灸治療の適否が説明できる。 不眠症に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 不眠症への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第12回 精神障害(うつ病)への鍼灸治療 うつ病への鍼灸治療の適否が説明できる。 うつ病に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 うつ病への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p> <p>第13回 疲労倦怠への診察・鍼灸治療 疲労倦怠への鍼灸治療の適否が説明できる。 疲労倦怠に対する基本的な鍼灸治療が説明できる。 疲労倦怠への東洋医学的理論に基づく鍼灸治療が実施できる。</p>

	<p>第14回 全体のまとめ① 1-13回目までの内容について到達度を確認する。 到達度を確認した後、アクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p> <p>第15回 全体のまとめ② 1-13回目までの内容について到達度を確認する。 到達度を確認した後、アクティブラーニングとしてフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業中に習得した身体診察について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。鍼灸治療については、学生同士での復習を禁止します。鍼灸治療の復習については、教員が指定した時間に実施します。不明な点は実習中に教員に再確認してください。
教科書	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』東洋療法学校協会編 医道の日本社 『鍼灸療法技術ガイドⅡ』 矢野 忠編 文光堂 『鍼灸療法技術ガイドⅠ』 矢野 忠編 文光堂 授業で配布した資料は実技用の標準テキストとする。
参考書	『診察と手技がみえる1』 古谷伸之 メディックメディア
成績評価	評価対象：授業の4/5以上の出席日数を満たした者とする。 評価方法：実技試験により行う。 試験は診察法および鍼灸施術を中心とした実技試験とする。 単位認定：実技試験が60%以上の者に単位を認定する。 出席確認：授業の初めに出席確認を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 福田文彦、山崎 翼 研究室 : 鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス : f_fukuda@meiji-u.ac.jp、t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 事前にメールで日時を確認してください。
備考	実務経験 福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 山崎 翼：附属鍼灸センター勤務、桂川鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。  【この科目とディプロマポリシーとの関連：◎-1、○-2】

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
谷口 剛志、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習 AL:実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>授業目標</b> 本実習は、運動器に生じる主要な症候に対し、西洋医学的・東洋医学的な視点から評価を行ない、それぞれの症状に合わせた最適な治療を行ない、安全で適切なはりきゅう施術が実施出来ると共に、施術後にライフスタイルアドバイスやトレーニングの指導が出来る技術を修得することを目標としています。なお、本実習内容は東洋医学臨床論実習Ⅱの講義内容を反映しながら進めていきます。</p> <p><b>修得</b> 1. 現代医学的・東洋医学的な視点で、運動器各部位の評価が出来ること 2. 疾患や症状に応じた最適な治療が選択できること 3. 安全で適切なはりきゅう施術が行なえること 4. ライフスタイルアドバイスやトレーニングの指導が出来ること</p>
授業計画	<p>第1回 導入</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. アライメント・ファンクショナル評価に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 2. 改善・予防を目的としたトレーニング指導ができる。 3. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p><b>【授業形態】AL</b> 1. 課題検討 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員のデモンストレーション</p> <p>第2回 足部・足関節の鍼灸診療</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。 2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 3. 疾患・症状に応じた指導を行える。 4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1. 徒手検査 2. 鍼灸治療 3. Tr指導</p> <p><b>【授業形態】AL</b> 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員のデモンストレーション</p> <p>第3回 下腿部の鍼灸診療</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。 2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 3. 疾患・症状に応じた指導を行える。 4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1. 徒手検査 2. 鍼灸治療 3. Tr指導</p> <p><b>【授業形態】AL</b> 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員のデモンストレーション</p> <p>第4回 膝関節の鍼灸診療</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。 2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。 3. 疾患・症状に応じた指導を行える。 4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1. 徒手検査 2. 鍼灸治療 3. Tr指導</p> <p><b>【授業形態】AL</b> 1. 課題提示 2. 学生同士でトレーニング 3. 教員のデモンストレーション</p> <p>第5回 大腿部の鍼灸診療</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p>

	<p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p> <p>【授業形態】AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員のデモンストレーション</p>
第6回	<p>股関節の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p> <p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p> <p>【授業形態】AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員のデモンストレーション</p>
第7回	<p>骨盤の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p> <p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p> <p>【授業形態】AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員のデモンストレーション</p>
第8回	<p>前半総合1</p> <p>第2回～第7回までの範囲で実技試験を実施します。</p>
第9回	<p>前半総合2</p> <p>第2回～第7回までの範囲で実技試験を実施します。</p>
第10回	<p>腰部の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p> <p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p> <p>【授業形態】AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員のデモンストレーション</p>
第11回	<p>頸部の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p> <p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p> <p>【授業形態】AL</p> <p>1. 課題提示</p> <p>2. 学生同士でトレーニング</p> <p>3. 教員のデモンストレーション</p>
第12回	<p>肩関節の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</p> <p>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</p> <p>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</p> <p>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</p> <p>【授業内容】</p> <p>1. 徒手検査</p> <p>2. 鍼灸治療</p> <p>3. Tr指導</p>

	<p>【授業形態】AL</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題提示</li> <li>2. 学生同士でトレーニング</li> <li>3. 教員のデモンストレーション</li> </ol> <p>第13回 肘関節・手関節・手部の鍼灸診療</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 徒手検査などを用いて疾患の評価が行なえる。</li> <li>2. 疾患・症状に応じた鍼灸治療を安全に実施できる。</li> <li>3. 疾患・症状に応じた指導を行える。</li> <li>4. 症例問題から情報を読み取り、適否の判断、必要な手段を選択することができる。</li> </ol> <p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 徒手検査</li> <li>2. 鍼灸治療</li> <li>3. Tr指導</li> </ol> <p>第14回 後半総合1</p> <p>第15回 後半総合2</p> <p>第10回～第13回までの範囲で実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習 (30分) シラバスをもとに、指定教科書の内容に目を通しておいください。</p> <p>復習 (30分) 授業で配布するプリントをもとに、内容の振り返りをしてください。</p>
教科書	「図解鍼灸療法技術ガイドI・II」 矢野 忠 (編) (文光堂)
参考書	スポーツ東洋療法ハンドブック 東洋療法学校協会 編 (医道の日本社)
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の4/5 以上を出席した者に対し、受験資格を認めます。</p> <p>成績評価：前半総合 (形式：実技、0/100)、後半総合 (形式：実技、0/100) で試験を実施します。 各試験において、それぞれ60%以上を取得出来た者に対し、単位を認定します。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名 : 谷口剛志 (臨床歴26年)</p> <p>経歴 : はり師きゅう師、スポーツ健康科学 (修士)</p> <p>たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカー (フィジコ)、KALEBITCHフットサル (フィジコ)、ボルトガルクリニック土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス (フィジオ)、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>所属先 : 鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター</p> <p>連絡先 : t_taniguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時 ※メリーで連絡ください</p> <p>○藤井健介 はり師・きゅう師、柔道整復師 附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターの実務経験をもとに実技指導を行う。 オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p>
備考	<p>ディプロマポリシーとの関連：◎-5、○-2、○-1</p> <p>SS-3-AM28-RS-P-1</p>

講義科目名称： 東洋医学臨床論実習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田口 玲奈、鶴 浩幸			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習/対面 AL:実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目は、東洋医学臨床論Ⅲで学んだ疼痛領域、産婦人科領域、耳鼻科領域、眼科領域、口腔歯科領域、皮膚科領域、脳神経領域における主症状と代表疾患を取り上げ、東洋医学と西洋医学の特色を充分理解し、現代医学と鍼灸医学の両面から患者を把握し、適切で有効的な鍼灸治療が行える能力を養う事を目的としている。これらの領域の鍼灸治療に必要な基本的な診察方法および治療技術までを修得する。</p>		
授業計画	1回目	<p>眼精疲労に対する鍼灸治療 (到達目標) 1, 眼精疲労に対する適切な鍼灸治療ができる。 2, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだ眼精疲労の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	2回目	<p>耳鳴、難聴、眩暈に対する鍼灸治療 (到達目標) 1, 平衡機能検査法や音叉による聴力検査法を実施できる。 2, 耳鳴、難聴、眩暈に対する適切な鍼灸治療ができる。 3, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだ耳鳴、難聴、眩暈の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	3回目	<p>アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎に対する鍼灸治療 (到達目標) 1, アレルギー性鼻炎や副鼻腔炎に対する適切な鍼灸治療ができる。 2, 基本的な東洋医学的治療方針を立てることができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだアレルギー性鼻炎、副鼻腔炎の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	4回目	<p>顔面神経麻痺に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 顔面神経麻痺の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだ顔面神経麻痺の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	5回目	<p>月経困難症に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 月経困難症の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだ月経困難症の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	6回目	<p>更年期障害に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 更年期障害の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 {授業形態} アクティブ・ラーニング (実習) {備考} 講義で学んだ更年期障害の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>	
	7回目	<p>骨盤位・乳汁分泌不足に対する鍼灸治療 {到達目標} 1, 骨盤位、乳汁分泌不足の病態を東洋医学的に解釈できる。 2, 弁証に従った治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。 3, 骨盤位に対し、至陰穴への灸技術を習得する。乳汁分泌不足に対し、少沢穴への灸技術を習得する。</p>	

	<p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ骨盤位・乳汁分泌不足の病態を予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p> <p>末梢循環障害 (閉塞性動脈硬化症) に対する鍼灸治療</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 末梢循環障害 (閉塞性動脈硬化症) の診察法を習得する。</p> <p>2. 末梢循環障害 (閉塞性動脈硬化症) の鍼灸治療の方法を理解し修得する。</p> <p>3. 下肢への鍼通電 (筋肉パルス) を適切かつ安全に行うための刺鍼技術を修得する。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>末梢循環障害 (閉塞性動脈硬化症) の病態を予習すること。授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
8回目	
9回目	<p>頭痛に対する鍼灸治療</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 頭痛の病態を東洋医学的に解釈できる。</p> <p>2. 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ頭痛の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
10回目	<p>顎関節症、歯痛に対する鍼灸治療</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 顎関節の診察ができる。</p> <p>2. 顎関節症、歯痛の病態を東洋医学的に解釈できる。</p> <p>3. 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ顎関節症、歯痛の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
11回目	<p>神経痛 (肋間神経痛、三叉神経痛) に対する鍼灸治療</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 神経痛 (肋間神経痛、三叉神経痛) の病態を東洋医学的に解釈できる。</p> <p>2. 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ神経痛 (肋間神経痛、三叉神経痛) の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
12回目	<p>脳血管障害に対する鍼灸治療</p> <p>(到達目標)</p> <p>1. 脳神経外科領域の検査法について、理解し、行うことができる。</p> <p>2. 脳血管障害の病態を東洋医学的に解釈できる。</p> <p>3. 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ脳神経外科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
13回目	<p>皮膚科領域に対する鍼灸治療</p> <p>{到達目標}</p> <p>1. 皮膚科の病態を東洋医学的に解釈できる。</p> <p>2. 西洋・東洋医学的な視点から治療計画が立案でき、適切な鍼灸治療を行うことができる。</p> <p>{授業形態}</p> <p>アクティブ・ラーニング (実習)</p> <p>{備考}</p> <p>講義で学んだ皮膚科領域の病態について予習すること。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること。</p>
14回目	<p>まとめ、実技試験 1</p> <p>{到達目標}</p> <p>1回目から13回目の内容に関して復習 (実習) とまとめの評価として実技試験を行う。フィードバックを行う。</p>
15回目	<p>まとめ、実技試験 2</p> <p>{到達目標}</p> <p>1回目から13回目の内容に関して復習 (実習) とまとめの評価として実技試験を行う。フィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>これまでに学んだ、基礎・臨床医学および鍼灸学の内容を広く復習し、授業に参加されたい。また、授業後には配布資料に基づいた復習をすること (60分)。</p>
教科書	<p>『図解 鍼灸療法技術ガイド II』 矢野 忠ら編 (文光堂)</p> <p>配布プリントなど。</p>
参考書	<p>『新版 経絡経穴概論』 日本理療科教員連盟・(社) 東洋療法学校協会編、医道の日本社</p> <p>『新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)』 教科書執筆小委員会著、医道の日本社</p>
成績評価	<p>・出席基準 (実習実施回数の5分の4以上の出席が必要) を満たした者について実技試験を実施する。</p> <p>・評価は実技試験にて行う (60点以上を合格とする)。</p>



	<p>・評価は本科目のルーブリックに基づき行う（講義時に配布）。</p> <p>①疾病の基礎知識・治療方針：東洋医学臨床論Ⅲで学んだ疾病・症状について説明ができ、鍼灸施術の正しい治療方針をたてることができる。</p> <p>②疾病の診察技術：東洋医学臨床論Ⅲで学んだ疾病・症状について診察ができ、適切な検査や疾病の鑑別を行うことができる。</p> <p>③刺鍼・施灸技術：東洋医学臨床論Ⅲで学んだ疾病・症状について治療方法を選択し、適切に鍼灸施術を行うことができる。</p> <p>・再本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 田口玲奈  研究室 : 鍼灸センター2階 教員室  メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 月・火曜9:00~17:30</p> <p>担当教員名 : 鶴 浩幸  研究室 : 鍼灸センター2階 教員室  メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>1, 実務経験  田口玲奈  京都桂川鍼灸院への勤務経験、附属鍼灸センターでの実務経験（20年）をもとに実習指導を行う。</p> <p>鶴 浩幸  附属鍼灸センター、はぎの里特別養護老人ホーム（老人保険施設含む）、附属統合医療センター、附属京都駅前鍼灸院、クリニック・ツチャ（ポルトガル）、Sport Lisboa e Benfica（SLB、ポルトガル）、などでの実務経験（25年）をもとに実習指導を行う。</p> <p>2, この授業とディプロマポリシーとの関連  ◎-2、○-1、5</p> <p>3, 科目ナンバー : SS-3-AM29-RS-P-1</p>

講義科目名称： スポーツはり・きゅう学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
吉田 行宏			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：演習 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	スポーツやアスリートに関わるために、鍼灸師が必要な知識と技術、トレーナーとしてはり師・きゅう師の資格を持つ意義を理解することを目標とします。さらに、鍼灸師として対応することのある子どもや女性のスポーツ、健康の維持増進や趣味として行う多様なスポーツに対応できる知識と技術を修得することを目標とします。		
授業計画	1回目	ガイダンス、メディカルチェックとリスクマネジメント 【到達目標】アスリートに必要な整形外科的・内科的メディカルチェックと、リスクマネジメント、アンチドーピングについて理解し、説明することができる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	2回目	成長期とスポーツ 【到達目標】成長期のスポーツで起こるケガや問題点について理解し、説明することができる。子どものスポーツの意味やケガの予防、健康感の育成について考え、説明することができる。 【授業形態】オンデマンド授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	3回目	女性とスポーツ 【到達目標】女性アスリートの特徴を理解し、鍼灸師が関わる場合の注意点や男性アスリートと異なる点について理解し、説明することができる。 【授業形態】オンデマンド授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	4回目	アイシングとテーピング 【到達目標】成長期のスポーツで起こるケガや問題点について理解し、説明することができる。子どものスポーツの意味やケガの予防、健康感の育成について考え、説明することができる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	5回目	スポーツはり・きゅうとトレーニング 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるトレーニングについて、その理論を理解し、実践できる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	6回目	スポーツ傷害の診方 【到達目標】スポーツ傷害の診方や治療に対する考え方について理解し、説明することができる。 【授業形態】オンデマンド授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	7回目	スポーツはり・きゅうとストレッチ① 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるストレッチについて、その理論を理解し、説明することができる。鍼灸師が行える内容について実践できる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	8回目	スポーツはり・きゅうとストレッチ② 【到達目標】スポーツに必要な鍼灸師が行えるストレッチを実践できる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	9回目	アスレティックリハビリテーション① 【到達目標】アスリートがケガから復帰する際のアスレティックリハビリテーションについて理解し、説明することができる。 【授業形態】オンデマンド授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	10回目	アスレティックリハビリテーション② 【到達目標】アスリートがケガから復帰する際のアスレティックリハビリテーションについて理解し、説明することができる。鍼灸師が行える内容について実践できる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	11回目	コンディションとコンディショニング① 【到達目標】コンディションとコンディショニングについて理解し、説明することができる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	12回目	コンディションとコンディショニング② 【到達目標】コンディションとコンディショニングについて理解し、説明することができる。 【授業形態】対面授業 【備考】小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。	
	13回目	コンディションとコンディショニング③	

	<p>【到達目標】 はり・きゅうを用いたコンディショニングについて理解し、説明することができる。</p> <p>【授業形態】 対面授業</p> <p>【備考】 小テストを実施します。小テストは次回フィードバックします。</p> <p>14回目 スポーツはり・きゅうと国家試験</p> <p>【到達目標】 国家試験におけるスポーツに関連した問題をの傾向を理解し、説明することができる。</p> <p>【授業形態】 対面授業</p> <p>【備考】 小テストを実施します。小テストは授業時間後にフィードバックします。</p> <p>15回目 健康スポーツ・まとめ</p> <p>【到達目標】 鍼灸師としてスポーツを通じた健康について理解し、説明することができる。</p> <p>スポーツはり・きゅう学で学んだ内容を理解し、説明できる。</p> <p>【授業形態】 対面授業</p> <p>【備考】 小テストを実施します。小テストは授業時間後にフィードバックします。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>スポーツニュースや実際の試合などを積極的に見て、各種スポーツの競技概要や日本や世界のスポーツ界の現状について把握してください。</p> <p>講義前に単元の内容について参考書等を用いた予習(30分)を行うこと。</p> <p>講義中に触れる重要ポイントについては、自分の知識・技術となるよう復習(30分)を行うこと。</p>
教科書	配布資料
参考書	鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法(医道の日本社)
成績評価	<p>授業回数のうち3/5以上の出席(小テストもしくは課題等の提出含む)を単位の条件とします。</p> <p>成績評価は①毎回の授業後に実施する課題もしくは小テストの点数、②授業内で実施する課題や実技への取り組みを総合的に評価(優・良・可・不可)する。</p> <p>課題もしくは小テストの内容が「他人の内容のコピペ」、「課題と明らかに異なる内容」、「自分の意見ではなくAIを使用している」等が認められた場合は点数は0とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：吉田行宏</p> <p>所属先：附属鍼灸センター2階鍼灸教員室</p> <p>連絡先：y_yoshida@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：随時(事前にメリーで連絡してください)</p>
備考	<p>資格：はり師きゅう師、鍼灸学(博士)</p> <p>実務経験：鍼灸臨床歴21年、教員歴14年、なか整形外科リハビリテーション部、SECカーボン(株)野球部トレーナー、鈴鹿8時間耐久ロードレーストレーナー、北嵯峨高校高校女子バレーボール部トレーナー、明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに学習指導を行う。</p>
	<p>アクティブラーニング：講義内容(例：ストレッチ、トレーニング等)を自らがを行い、他者に指導することで理解を深める。質問内容や小テスト・課題の結果について全体もしくは個別にフィードバックを行い理解を深める。</p>
	<p>ディプロマポリシーとの関連</p> <p>①知識・理解-○</p> <p>②思考・判断-○</p> <p>⑤技能・表現-◎</p> <p>科目ナンバー</p> <p>SS-3-AM30-RS-S-1</p>

講義科目名称： 高齢者はり・きゅう学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	演習	(遠隔授業：オンデマンド)
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：高齢者に特有な疾患の病態の概要と鍼灸治療方法を呈示する。また高齢社会に対応出来る学習を行う。</p> <p>到達目標：高齢者に特有な疾患の概要と鍼灸治療方法を理解することができる。虚弱な高齢者を対象とした、鍼灸師に可能なケア方法を修得する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 高齢者の特徴 ガイダンス：本科目の教育の概要と単位習得の成績評価の方法を説明する。超高齢社会について、高齢者の健康、高齢者の疾病の特徴、高齢者の愁訴を説明することができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第2回 ガイダンス 高齢者に対する鍼灸治療の特徴 高齢者に対する鍼灸治療施術時の注意点と特徴を説明することができる。高齢者の鍼灸治療について、触診や徒手検査を説明することができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第3回 フレイル、サルコペニアと鍼灸診療 フレイル、サルコペニアを説明することができ、各々の病態を評価、判定できる。また、これらの病態の予防と改善を目的とした運動療法や生活指導を実践できる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第4回 高齢者の呼吸器疾患の鍼灸診療 慢性閉塞性肺疾患 高齢者の代表的な呼吸器疾患であるCOPDについて説明することができ、病態に従った鍼灸治療ができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別ができる。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導ができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第5回 高齢者の循環器疾患の鍼灸診療1 動悸・胸痛 高齢者の代表的な循環器疾患の症状(動悸・胸痛)について説明することができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる生活指導ができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第6回 高齢者の循環器疾患の鍼灸診療2 高血圧 高齢者の代表的な循環器疾患の高血圧について説明することができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導ができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第7回 高齢者の泌尿器疾患の鍼灸診療 頻尿 高齢者の代表的な泌尿器疾患である過活動膀胱について説明することができる。鍼灸治療の適応となる症状の鑑別ができる。また、鍼灸治療時に併用できる生活指導ができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第8回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療1 耳鳴り・難聴 高齢者の代表的な感覚器疾患の耳鳴りと難聴について、主な難聴の病態や症状、評価方法を説明することができる。鍼灸治療に適応した耳鳴りの病態や弁証分類を説明することができる。他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第9回 高齢者の感覚器疾患の鍼灸診療2 眼精疲労・ドライアイ 高齢者に特徴的な感覚器疾患を理解する。主に眼精疲労・ドライアイなどを取り上げる。病態や症状、評価方法を説明することができる。病態や症状に加えて、他に注意すべき疾患との鑑別点や鍼灸治療に併用する生活指導などについて説明することができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第10回 高齢者の中枢神経疾患の鍼灸診療 パーキンソン病 高齢者の代表的な中枢疾患であるパーキンソン病の鑑別が説明することができ、鍼灸治療が出来る。また、鍼灸治療時に併用できる徒手・運動療法を説明することができる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p> <p>第11回 高齢者の中枢疾患の鍼灸 認知症 高齢者の代表的な中枢疾患である認知症を取り上げ、その鑑別するための評価方法を応用できる。配布資料を見直し(復習)、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL(グーグルフォームによる課題 小テストを行う)</p>

	<p>第12回 高齢者の口腔機能低下の鍼灸診療 オーラルフレイル 高齢者の口腔機能低下に伴うドライマウス・嚥下機能を評価し、唾液の分泌減少・誤嚥の改善を目的とした鍼灸治療を説明することができる。また、鍼灸治療時に併用できる運動療法や生活指導ができる。 配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL（-googleフォームによる課題 小テストを行う）</p> <p>第13回 介護保険制度について 介護保険と介護保険制度についての概要を説明することができる。また要支援・要介護の違い、介護保険の利用サービスについて説明できる。 全体の配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL（-googleフォームによる課題 小テストを行う）</p> <p>第14回 鍼灸臨床における高齢者の対応（まとめ） 講義全体を通して、鍼灸臨床における高齢者の対応についてまとめることができる。 全体の配布資料を見直し（復習）、分からない点があれば質問する。 【授業形態】オンデマンド講義、AL（-googleフォームによる課題 小テストを行う）</p> <p>第15回 評価・振り返り 本講義全体に対する設問評価もしくはレポート評価 講義の見直し復習、分からない点を調べる。 【授業形態】講義、AL（-googleフォームによる課題 小テストを行う）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	本科目での教育内容には臨床各論、解剖学、経絡経穴学などの内容も含まれるため、関連する事項については確認すること。特に、診療に関連する解剖学的構造について、疾患の概念、症状、診断基準について、あるいは鍼灸の治療部位となる経穴について復習しておくこと。授業毎に1時間程度を予習と復習時間にあてる。
教科書	配布プリントにより授業を受ける。
参考書	『鍼灸療法技術ガイドⅡ』 矢野 忠 主編（文光堂） 『高齢鍼灸学』 松本 勲ら（医歯薬出版株式会社） 『老年病のとりえかた』 大内尉義（文光堂） 『老年症候群の診かた』 鳥羽研二（メディカルビュー）
成績評価	規定の出席回数を評価試験の受験資格とする。 筆記試験の60点以上を単位認定の基準とする（就学態度20%、筆記試験70%、その他10%で評価する） フィードバックは、小テストと課題を行い、翌週に回答率の低い設問や課題について解説を行う。 最終評価の課題もしくは評価に必要なレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すため、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 教員室 : 附属鍼灸センター2階 教授室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木曜日 15:40～17:20
備考	附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センターにて実務経験あり。 授業とディプロマポリシーとの関連：◎-3、○-1 科目ナンバー「SS-3-AM-ES-L-1」

講義科目名称： 最新はり・きゅう学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義、アクティブ ラーニングを活用	
添付ファイル			

授業目標	最新はり・きゅう学は、基礎医学、臨床医学、基礎はり・きゅう学、臨床はり・きゅう学をさらに発展させる科目である。医学・医療、はり・きゅう学は日進月歩である。はり師・きゅう師養成施設卒業後は、これら日進月歩の最新の知見を自ら収集し、自ら理解する力が必要である。はり師・きゅう師に必要な最新の知見は、動物・ヒトを対象とした基礎研究、症例報告、症例集積、比較試験など臨床研究、論文をさらに分析したメタナリシス、予防・診断・治療・予後予測などまとめ診療ガイドラインがある。 本授業では、最新のはり・きゅう学を学ぶことにより、現時点でのはり・きゅうのエビデンスを理解するとともに最新の知見を理解することは生涯必要であることを理解する。
授業計画	<p>第1回 最新の知見を学ぶとは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究とは何か説明できる</li> <li>・研究の種類が説明できる</li> </ul> <p>第2回 トランスレーショナルリサーチ：自律神経</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律神経機能に関する鍼灸研究が説明できる</li> <li>・基礎研究の結果が、どのように臨床に応用されるか説明できる</li> </ul> <p>第3回 トランスレーショナルリサーチ：疼痛</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疼痛に関する鍼灸研究が説明できる</li> <li>・基礎研究の結果が、どのように臨床に応用されるか説明できる</li> </ul> <p>第4回 最新の臨床研究を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドライン、システマティックレビューが説明できる</li> <li>・鍼灸治療が掲載されているガイドライン、システマティックレビューが説明できる</li> </ul> <p>第5回 患者教育を考える：プラセボ効果・信頼関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鍼灸刺激と鍼灸治療の違いが説明できる</li> <li>・信頼関係による治療効果が説明できる</li> <li>・正しい患者教育による治療効果が説明できる</li> </ul> <p>第6回 新たな領域を考える：慢性疼痛</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性疼痛について説明できる</li> <li>・慢性疼痛に対して鍼灸師にできることが説明できる</li> </ul> <p>第7回 新たな領域を考える：養生と鍼灸治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の医療が説明できる</li> <li>・新しい視点での鍼灸師の役割が説明できる</li> <li>・養生について説明できる</li> </ul> <p>第8回 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業中に習得した内容について、授業毎に1時間程度の復習を行うこと。
教科書	配布する資料を中心に授業を行う。
参考書	配布する資料を中心に授業を行う。
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象としてレポート提出を認める。 レポートは60点以上を合格とする。
担当教員の基本情報	本授業は、オンデマンド形式で実施する。質問等については、Mellyもしくはメールにて福田までご質問ください。 f_fukuda@tch.meiji-u.ac.jp
備考	実務経験 福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 【この科目とディプロマポリシーとの関連：◎3関心・意欲、○2思考・判断】

講義科目名称： 統合医療

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
小野 直哉			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>統合医療とは、近代医療と共に伝統医療や相補・代替医療を併用する医療として、2000年前後に米国で提唱された医療である。統合医療は、近代医療のパラダイム（枠組）や成果を重視しつつも、それを同時に相対化し、人間の尊厳を保障するために、患者を含む生活者の疾病治療や予防、健康増進を支援し、持続可能な社会に於けるエコロジカル（環境に優しい）で、エコノミカル（経済的）で、エシカル（倫理的）なエコ・ヘルス・ケアを実現するための医療や社会に於ける手段であり、且つ「考え方」（コンセプト）であり、未来へ向けた過渡期の医療及び社会的機能概念であり、各国によって多様である。統合医療には、狭義の統合医療である「医療モデル」と広義の統合医療である「社会モデル」がある。「医療モデル」は、主として病院や診療所での、患者を中心とした疾病の治療が目的である。「社会モデル」は、主として日常の生活の場での、生活者を中心とした疾病予防や健康増進が目的である。「医療モデル」と「社会モデル」は、補完し合いながら有機的な繋がりの中で機能し、患者を含めた生活者を癒し、人間の尊厳を保障し、地域コミュニティーや経済・産業の活性化に寄与するとされている。</p> <p>本授業では、統合医療を理解するために必要な学問分野、統合医療が台頭してきた社会背景、統合医療を構成する近代医療と伝統医療や相補・代替医療の特徴、統合医療の「医療モデル」と「社会モデル」、多職種・多様者連携による統合医療、統合医療に係る情報リテラシー（読み解き方）、災害時における統合医療の利活用、海外の統合医療の利活用等に付いて理解を深める。また、超少子高齢・人口減少・独身社会の日本では、患者の治療から生活者の支援へと、必要とされるニーズが変化し、医療と介護、福祉の境界を越えた社会保障の在り方が必要となっている。それらを解決する手がかりを統合医療を通じて提供することも本授業の目的である。</p>
授業計画	<p>第1講 インTRODクシヨン：統合医療と学問分野 【到達目標】 ①本授業全体の進め方を把握し、本授業において統合医療とはどのような医療なのかを理解するために必要な学問（学術・科学）の種類（人文科学・社会科学・自然科学）、学術的方法論（定量的・定性的研究等）の概要を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を志向する際に必要となる学問の意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第2講 統合医療と社会背景① 【到達目標】 ①統合医療が台頭してきた背景となる社会と医療の過去・現在・未来の変化を社会科学的データ（人口動態等）を基に把握し、国内外の社会の変化に伴う医療ニーズの変化と違いを把握し、理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を学ぶに当たり、鍼灸師が置かれている社会と医療の現状を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第3講 統合医療と社会背景② 【到達目標】 ①統合医療が台頭してきた背景となる社会と医療の過去・現在・未来の変化を社会科学的データ（人口動態等）を基に把握し、国内外の社会の変化に伴う医療ニーズの変化と違いを把握し、理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を学ぶに当たり、鍼灸師が置かれている社会と医療の現状を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第4講 近代医療の特徴 【到達目標】 ①統合医療の一部を構成する近代医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療の一部を構成する近代医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第5講 伝統医療と相補（補完）・代替医療の特徴 【到達目標】 ①統合医療の一部を構成する伝統医療と相補（補完）・代替医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療の一部を構成する伝統医療と相補（補完）・代替医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第6講 統合医療の特徴 【到達目標】 ①近代医療と伝統医療や相補（補完）・代替医療で構成される統合医療とはどのような医療なのか、その特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>第7講 「医療モデル」と「社会モデル」としての統合医療 【到達目標】 ①狭義の統合医療である「医療モデル」と広義の統合医療である「社会モデル」とはどのようなモデルなのか、それらの特徴を理解する。 ②鍼灸師として、統合医療の「医療モデル」と「社会モデル」を学ぶことの意味、目的を理解する。</p>

<p>第8講</p> <p>第9講</p> <p>第10講</p> <p>第11講</p> <p>第12講</p> <p>第13講</p> <p>第14講</p> <p>第15講</p>	<p>③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。 多職種・多様者連携と統合医療</p> <p><b>【到達目標】</b> ①統合医療の実践（臨床や社会実装）で必要不可欠な多職種・多様者連携の課題（信念対立など）を理解する。 ②鍼灸師として、多職種・多様者連携による統合医療を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>災害と統合医療</p> <p><b>【到達目標】</b> ①統合医療の実践（臨床や社会実装）として、災害時の統合医療の利活用の状況と課題を、国内外の事例を交え理解する。 ②鍼灸師として、災害時の統合医療の利活用の意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>統合医療の情報リテラシー</p> <p><b>【到達目標】</b> ①統合医療の情報を読み解く（リテラシー）ために必要な、学術・メディア・インターネットの情報を批判的吟味するための基礎知識を理解する。 ②鍼灸師に必要な「根拠に基づく医療」（EBM）と「物語りと対話に基づく医療」（NBM）等に繋がる基礎知識を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>統合医療の海外事例①米国</p> <p><b>【到達目標】</b> ①米国における統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、米国における統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>統合医療の海外事例②アジア諸国-1</p> <p><b>【到達目標】</b> ①アジア諸国における統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、アジア諸国における統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>統合医療の海外事例③アジア諸国-2</p> <p><b>【到達目標】</b> ①アジア諸国における統合医療の利活用を通じて、伝統医療の医療・文化・知的資源化と国際標準化の状況を理解する。 ②鍼灸師として、アジア諸国における伝統医療の資源化と国際標準化の現状を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>統合医療の海外事例③キューバ</p> <p><b>【到達目標】</b> ①キューバにおける統合医療の利活用を通じて、統合医療の実践（臨床や社会実装）や調査研究状況を理解する。 ②鍼灸師として、キューバにおける統合医療の利活用を学ぶことの意味、目的を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p> <p>持続可能な社会と統合医療：総括・質疑応答</p> <p><b>【到達目標】</b> ①持続可能な社会における統合医療の意義と可能性を理解し、本授業全体を通しての総括と質疑応答を行う。 ②鍼灸師として、持続可能な社会における統合医療と統合医療における鍼灸の意義と可能性を理解する。 ③シラバスの説明及び講義の全体像を理解する。</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>プリント配布をしますので、授業の事前事後に一読して受講して下さい。 受講生の人数や授業形式（対面やリモートなど）による授業の進捗状況により、授業内容や講義の順番を調整する場合があります。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習適時）し、講義で学習した内容をまとめて下さい（復習適時）。</p>
<p>教科書</p>	<p>プリント教材</p>
<p>参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>長谷川敏彦. 「変わる人生・社会・ケア—研究実験国家日本の挑戦」, 『講座スピリチュアル学 第2巻 スピリチュアリティと医療・健康』, ビンゴネットプレス, 2014.</li> <li>小野直哉. 「健康を取り巻く世界と日本の諸問題」, 社会鍼灸学研究 2015, 通巻10号, 2016.</li> <li>広井良典. 「人口減少社会のデザイン」, 東洋経済新報社, 2019.</li> <li>広井良典. 「ポスト資本主義—科学・人間・社会の未来—」, 岩波書店, 2015.</li> <li>小野直哉. 「世界の統合医療の現状②—欧米諸国（米国, 英国, フランス, ドイツ, スウェーデン）—」, 鍼灸OSAKA, 108号, Vol. 28-4, pp 81-90, 2013. 3.</li> <li>小野直哉. 「世界の統合医療の現状①—アジア諸国とキューバ」, 鍼灸OSAKA, 通巻104号, Vol. 27-4, pp 49-66, 2012. 3.</li> <li>「社会鍼灸学と鍼灸社会学」, 鍼灸OSAKA 118号, 森ノ宮医療学園出版部, 2015.</li> <li>中山健夫. 「健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待」, 丸善出版, 2014</li> <li>小野直哉. 「第1部 総論Ⅲ 世界の統合医療の現状」, 『医学・看護・福祉原論』, ビンゴ・ネット・プレス, 2019.</li> <li>諫山憲司, 小野直哉, 柴山慧. 「持続的かつレジリエントな社会へ向けてわが国の災害医療対策」, 日本集団災害医学会誌, 2016.</li> <li>岡本拓也. 「わかりやすい構造構成理論—緩和ケアの本質を解く」, 青海社, 2012.</li> <li>京極真. 「医療関係者のための信念対立解明アプローチ: コミュニケーション・スキル入門」, 誠信書房, 2011.</li> <li>猪飼周平. 「病院の世紀の理論」, 有斐閣, 2010.</li> </ol>



	14. NHKスペシャル「新・映像の世紀」(DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016. 15. NHKスペシャル「映像の世紀」デジタルリマスター版(DVD or Blu-ray), NHKエンタープライズ, 2016.
成績評価	① 出席(出席レポート:各講義内容のまとめ・感想・質問)状況、最終評価レポートの内容により評価する。 ② 出席(出席レポート:各講義内容のまとめ・感想・質問)日数6割以上を最終評価レポート提出資格とする。 ③ 事情により、最終評価レポート提出資格を満たせない場合は、教務を通じて、事前に講師に相談すること。 ④ 最終評価レポートの評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 ⑤ 最終評価レポートの評価が60点以下の者は、追再試験を実施する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小野直哉(非常勤講師) 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : 708ono@gmail.com オフィスアワー : 当日の講義終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ○-5, ○-3 ナンバリング: SS-2-AM33-RS-S-1

講義科目名称： 基礎養生学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：オンデマンド（講義・AL：対話）	
添付ファイル			

授業目標	健康とは何かという視点から人の身体を見つめ直すと共に、健康管理に必要なセルフケアやセルフコンディショニングを東洋医学の健康観であると養生と絡めながら学習する。特に、セルフケアやセルフコンディショニングは統合医療の領域と重なるところも多く、統合医療の視点を取り入れた新しい健康管理としての養生を習得するとともに、近年注目されているウェアラブルデバイスを用いた健康管理など、未来型の健康管理を学習することを目的とする。
授業計画	<p>概論1 健康とは？ 健康とは何かについて考えると共に、その健康をどのように測定するのかについて考える。 また、自分自身の健康状態を測定する</p> <p>概論2 西洋医学的な予防と東洋医学的な養生 予防と養生の違いについて理解すると共に、養生に必要な5要素について学ぶ</p> <p>概論3 自分の体調を知ろう 自分の体調をアプリ「YOMOGI」で調べて、評価をしよう。また、その結果を見踏まえて、自己分析をし、それぞれの項目の意味を考えてみよう。</p> <p>概論4 未病状態を知るための検査を知ろう 未病状態をするための検査として、どのようなものがあるのかを調べ、その検査の意味について医学的に考えてみよう。</p> <p>概論5 体調管理のこれから アプリやウェアラブルデバイスを用いた体調管理法について学び、その意味についてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論6 緩める ストレッチ、マッサージ、アロマセラピー、ハーブ、温泉療法、森林浴などの身体を緩めるためのケアを学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論7 温める お風呂やお灸、カイロなど温めるための方法を調べ、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論8 整える 睡眠リズム、便通リズム、生活リズムなど、リズムを整える方法を学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論9 補う 食事や栄養、思考など、補う方法を学び、その違いについてレポートにまとめてみよう。</p> <p>概論10 鍛える 太極拳・ヨガ・気功・ホメオパシーなど、運動系やその他に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、レポートにまとめよう。</p> <p>概論11 季節を意識した養生生活1 春と夏の季節の特徴をまとめ、その季節に必要な養生について学ぶとともに、レポートにまとめよう。</p> <p>概論12 季節を意識した養生生活2 秋と冬の季節の特徴をまとめ、その季節に必要な養生について学ぶとともに、レポートにまとめよう。</p> <p>概論13 健康と養生1 健康を広めるにはどのような取り組みが必要かを考える。</p> <p>概論14 健康と養生2 健康を広めるためには、近代技術をどのように活用するのかを考える。</p> <p>概論15 健康と養生3 健康と地域の関わり合いについて考える（アクティブラーニング）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回講義ごとに動画を配信しますので、関連する内容（参考資料など）について授業前・授業後にそれぞれ30分間程度予習復習をしてください。
教科書	動画教材
参考書	「今日からはじめる養生学」伊藤和憲 集英社インターナショナル 「慢性痛は自分で治せる」伊藤和憲 KKベストセラーズ 「統合医療」今西二郎 Kinpodo
成績評価	受動的な講義形式と、学生自らが調査・討論を行う講義からなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とする。 出席の毎回の提出課題で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とするため、テストはない。 なお、レポート評価（70%）、出席および平常評価（30%）とする。

	ただし、本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (会議臨床のため、火・木・金曜日以外) 職務履歴 : 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。
備考	DPとの関係 : 3 : 関心意欲-○、5 : 技能表示-◎  SS-2-AM34-RS-L-1
	講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します。レポートはグーグルクラスルームで受け付けます。 その後、フィードバックを行います。

講義科目名称： 鍼灸総合演習 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	3	選択
担当教員			
齊藤真吾、鶴浩幸、山崎翼、多田羅勝広、糸井マナミ、澤谷友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	授業形態：演習	AL
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本講義は、はり師きゅう師の国家試験に合格するだけでなく、将来はり師きゅう師として、あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることを目的としています。</p> <p>目標 1. 人体の構造と機能を理解すること 2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につけること 3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につけること</p>
授業計画	<p>第1・2回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第3・4回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第5・6回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第7・8回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第9・10回 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>第11・12回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第13・14回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第15・16回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第17・18回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第19・20回 はりきゅう理論（担当：齊藤真吾） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第21・22回 公衆衛生（担当：糸井マナミ） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>

第23・24回	<p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第25・26回	<p>模擬試験</p> <p>病理学（担当：澤谷）</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第27・28回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>病理学（担当：澤谷）</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第29・30回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第31・32回	<p>模擬試験</p> <p>解剖学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第33・34回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>生理学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第35・36回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第37・38回	<p>模擬試験</p> <p>解剖学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第39・40回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>生理学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第41・42回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第43・44回	<p>模擬試験</p> <p>はりきゅう理論</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第45・46回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第47・48回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第49・50回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>病理学</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
	<p>問題演習とフィードバック</p>

	<p>第51・52 病理学 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第53・54回 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>【授業形態】 模擬試験</p> <p>第55・56回 解剖学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第57・58回 生理学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第59・60回 まとめ（評価含む） 【到達目標】 これまで学んできたこと</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行なってください。 事前学習（予習 所要時間30分） 授業内容に関連する領域の教科書を読む。 事後学習（復習 所要時間30分） 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。</p>
教科書	「鍼灸国家試験攻略テキスト」（上下巻）2024 明治東洋医学院専門学校 2,000円
参考書	<p>公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>解剖学</li> <li>生理学</li> <li>臨床医学総論</li> <li>臨床医学各論</li> <li>東洋医学概論</li> <li>経絡経穴概論</li> <li>東洋医学臨床論</li> </ol> <p>「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Vol.1 消化器</li> <li>Vol.2 循環器</li> <li>Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌</li> <li>Vol.4 呼吸器</li> <li>Vol.5 血液</li> <li>Vol.6 免疫・膠原病・感染症</li> <li>Vol.7 脳・神経</li> <li>Vol.8 腎・泌尿器</li> <li>Vol.9 婦人科・乳腺外科</li> <li>Vol.11 運動器・整形外科</li> <li>Vol.12 眼科</li> </ol>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験対策模擬試験 : 全てを必須受験とする。</li> <li>2. 期末試験（100%） : 期末試験として後期末に評価試験を満点を100%として実施する。</li> <li>3. 追再試験 : 期末試験に不合格となった者、あるいは期末試験を受験しなかった者に実施する。</li> </ol> <p>【評価基準】 実施される模擬試験を全て受験して、期末試験の評価点が60%以上取得出来た者に対して単位を評価する。</p> <p>「本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。」</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名 : 齊藤真吾 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 鶴浩幸 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : h_turu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 澤谷 友香理 所属先 : 附属病院2階病理部</p>

	<p>連絡先 : y_kotani@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 月-金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>1. 実務経験          齊藤真吾 : はり師きゅう師、鍼灸学 (博士)          鶴浩幸 : はり師きゅう師、鍼灸学 (博士)          明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>澤谷 友香理 : 臨床検査技師、細胞検査士 (国内・国際)、2級甲類臨床検査士 (病理学)          市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし本授業の講義を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連          ◎-1</p> <p>3. 科目ナンバー          SS-3-AM36-ES-S-1</p>
	<p>授業計画については現段階でのものである。授業担当者と担当コマ数に変更となる場合がある。なお変更がある場合には授業において別途指示をする。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3	2	必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、鶴 浩幸、谷口剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目では基礎医学、臨床医学、鍼灸診断学、臨床鍼灸学に続く鍼灸臨床科目の総仕上げとして、附属鍼灸センターにおいて臨床実習を行う。まずは、患者さんとの良好な信頼関係を構築するための過程を理解し、必要な基本行為が実践できることを目標とする。次いで、実地臨床の体験を通じて鍼灸臨床の実際における初歩的・基本的事項を学習し、診察から治療までの一連の過程を理解し、基本的な診察・治療が実践できることを目標とする。</p>			
授業計画	1～4回	<p>ガイダンス、実習前実技、臨床実習前実技試験</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。</li> <li>2. 症例を用いた医療面接、理学検査、東洋医学的病態把握を実践できる（実習前実技）。</li> <li>3. 症例に応じた鍼灸施術を考え、実践できる（実習前実技）。</li> <li>4. 臨床実習前実技評価を行い、フィードバックを行う。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>	5～8回	<p>臨床実習（第1クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はり・きゅう臨床実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を踏まえて、診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。</li> <li>2. 患者とコミュニケーションを取ることができ、医療面接に取り組むことができる。</li> <li>3. 解剖学的部位を把握した触察を適切に行うことができる。</li> <li>4. 臨床に必要な重要経穴を教員の指導の元で取穴することができる。</li> <li>5. 現代医学的検査を行うことができる。</li> <li>6. 四診の概要を理解し、東洋医学的所見をとることができる。</li> <li>7. 症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>
	9～12回	<p>カンファレンス（第1クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。</li> <li>2. まとめたSOAPを発表し（グループ学習）、理解を深める。</li> <li>3. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療などについて議論し合い（グループ学習）、臨床の流れを組み立てることができる。</li> <li>4. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>	13～16回	<p>臨床実習（第2クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はり・きゅう臨床実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を踏まえて、診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。</li> <li>2. 患者とコミュニケーションを取ることができ、医療面接に取り組むことができる。</li> <li>3. 解剖学的部位を把握した触察を適切に行うことができる。</li> <li>4. 臨床に必要な重要経穴を教員の指導の元で取穴することができる。</li> <li>5. 現代医学的検査を行うことができる。</li> <li>6. 四診の概要を理解し、東洋医学的所見をとることができる。</li> <li>7. 症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>
	17～20回	<p>カンファレンス（第2クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。</li> <li>2. まとめたSOAPを発表し（グループ学習）、理解を深める。</li> <li>3. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療などについて議論し合い（グループ学習）、臨床の流れを組み立てることができる。</li> <li>4. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>	21～24回	<p>臨床実習（第3クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はり・きゅう臨床実習Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を踏まえて、診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。</li> <li>2. 患者とコミュニケーションを取ることができ、医療面接に取り組むことができる。</li> </ol>



	<p>3. 解剖学的部位を把握した触察を適切に行うことができる。</p> <p>4. 臨床に必要な重要経穴を教員の指導の元で取穴することができる。</p> <p>5. 現代医学的検査を行うことができる。</p> <p>6. 四診の概要を理解し、東洋医学的所見をとることができる。</p> <p>7. 症例レポート（患者情報）をまとめることができる。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) カンファレンス（第3クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。</li> <li>2. まとめたSOAPを発表し（グループ学習）、理解を深める。</li> <li>3. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療などについて議論し合い（グループ学習）、臨床の流れを組み立てることができる。</li> <li>4. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) 臨床実習（第4クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な運動器疾患について、理解し、現代医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>2. 東洋医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>3. 教員の指導の元、安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。</li> <li>4. 患者情報をSOAPでまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) カンファレンス(第4クール)</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。</li> <li>2. まとめたSOAPを発表し（グループ学習）、理解を深める。</li> <li>3. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療などについて議論し合い（グループ学習）、臨床の流れを組み立てることができる。</li> <li>4. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) 臨床実習（第5クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な運動器疾患について、理解し、現代医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>2. 東洋医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>3. 教員の指導の元、安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。</li> <li>4. 患者情報をSOAPでまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) カンファレンス(第5クール)</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。</li> <li>2. まとめたSOAPを発表し（グループ学習）、理解を深める。</li> <li>3. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療などについて議論し合い（グループ学習）、臨床の流れを組み立てることができる。</li> <li>4. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習) 臨床実習（第6クール）</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な運動器疾患について、理解し、現代医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>2. 東洋医学的所見から病態を考えることができる。</li> <li>3. 教員の指導の元、安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。</li> <li>4. 患者情報をSOAPでまとめることができる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング(実習)</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<p>・実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。</p> <p>・ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。</p> <p>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。</p> <p>・調べたい内容について指定した参考書の内容では足りない場合、オフィスアワーを活用して質問してください。代替参考書を教示します。本実習における予習・復習（60分）</p>
<p>教科書</p>	<p>特に無し</p>
<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社）</li> <li>・「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版社）</li> <li>・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」東洋療法学校協会（南江堂）</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版」（文光堂）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版」(文光堂)</li> <li>・「いちばんやさしい痛みの治療がわかる本」(医道の日本社)</li> </ul>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価(40%)およびポートフォリオ評価(40%)、臨床実習前実技評価(20%)で評価する(60点以上を合格とする)。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣 正基  研究室 : 鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 火～金</p> <p>担当教員名 : 田口 玲奈  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 鶴 浩幸  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : h_tsuru@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 谷口 剛志  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : t_taniguchi@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p> <p>実習担当教員  月 : 和辻、鶴、谷口  火 : 伊藤、藤井、辰巳  水 : 山崎、田口辰、辰巳  木 : 吉田、齊藤、辰巳  金 : 廣、田口玲、辰巳</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院、京都駅前鍼灸院、統合医療センター・きららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり。</li> <li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・アクティブラーニングとして、実習後振り返りを行い、担当患者の特徴をまとめる。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4、○-1, 2, 5</li> <li>・科目ナンバー : SS-3-AM47-RS-P-1</li> </ul>

講義科目名称： 生活習慣病とその予防

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	1	選択
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	生活習慣病への対策は現在重要な課題のひとつである。本科目では、生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について学習する。学習目標は、将来臨床で活躍するための臨床感覚と資格試験に必要な知識の習得である。
授業計画	<p>1回目 生活習慣病概論 生活習慣病の発症メカニズム、臨床所見、合併症、治療管理法、予防方法について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 高血圧 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>3回目 脂質異常症 脂質異常症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>4回目 慢性腎臓病（CKD） 慢性腎臓病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>5回目 糖尿病 糖尿病の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>6回目 メタボリック症候群 メタボリック症候群の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う）</p> <p>7回目 高尿酸血症 高尿酸血症の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、その概要を説明できる。アクティブ・ラーニング有（症例を提示し、当該症例の病態と治療、患者指導についてディスカッションを行う） 単位取得にかかる試験を実施する。</p> <p>8回目 まとめと筆記試験 前半にまとめの講義を行い、後半に筆記試験による成績評価を行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義時間中に知識の習得、定着を目指す点は参考書での復習や教員に質問するように。講義で学修した内容をまとめて下さい（予習90分、復習90分）。
教科書	特に指定の教科書はない。
参考書	特に指定の参考書はない。
成績評価	学期末に試験を行い評価する。評価方法（試験100%）。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	担当教員名：浅沼博司 役職：臨床医学講座教授、附属病院 病院長（併）内科部長 病院長室：病院2階 オフィスアワー：火曜午後 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「生活習慣病とその予防」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、健康運動実践指導者の資格取得を目標とする。エアロビックダンスは、若い人を中心に子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる健康づくり運動として人気である。エアロビックダンスの特性を理解した上で、エアロビックダンスの基本的な技術を習得し、リズムに乗って仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として実践を中心とした授業を展開する。また、グループ指導能力の修得を通し、人間性と教養を身につけ医療人に求められているコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。さらに、自身のからだを知り、健康に対して意識を高めることで健康維持と体力向上のための橋掛かりとなることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス  [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。  [授業形態] 講義と実習  エアロビックダンスとは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 エアロビックダンスの特性と効果  [到達目標] リズミカルな全身運動の構成ポイントについて理解し、課題運動ができるようになる。  [授業形態] 講義と実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 エアロビックダンスの基本姿勢と動作  [到達目標] エアロビックダンスの基本姿勢やテンポ、動作を習得できる。  [授業形態] 実習  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 基本：ローインパクト①  [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンができるようになる。  [授業形態] 実習  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 基本：ローインパクト②  [到達目標] 基本姿勢でウォームアップの目的と内容（ステップ名）の説明を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 基本：ローインパクト③  [到達目標] メインエクササイズの目的、強度調整、プログラミングを習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 基本：ローインパクト④  [到達目標] 筋コンディショニングの目的、内容を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 基本：ローインパクト⑤  [到達目標] クールダウンの目的、内容、プログラミングを習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 チームエアロビックダンス①  [到達目標] グループワーク練習で規定の課題運動ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 チームエアロビックダンス②  [到達目標] 64カウントの規定ルーティーンのカンパニオン方法を習得できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 チームエアロビックダンス③  [到達目標] グループワークでルーティーン練習ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 応用：プログラム作成①  [到達目標] グループ練習でコンビネーション作成ができる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 応用：プログラム作成②  [到達目標] エアロビックダンスにおける心拍数とステップの関係を理解できる。  [授業形態] 実習（グループワークをする）  実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第14講 グループ指導</p>

	<p>[到達目標] (実習のまとめ)。 第1講～第13講を 総括した 実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習 (グループワークをする)</p> <p>実習内容を事前学習し (予習35分)、実習で体得した内容を図解でまとめる (復習35分)。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、エアロビックダンスの要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。 プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」 (公財) 健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度 (探究心の総合評価) 30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 村川増代 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。
備考	① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。
	② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連 : ◎-5。
	④ 科目ナンバー : SS-9-HA6-ES-P-0。

講義科目名称： トレーニング論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともに スポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する知識と理解を深めることを目標とする。
授業計画	<p>第1講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系① 「体力の概論・体力要素」          [到達目標]          体力の概念・体力要素についての理解ができる。          予習:体力の概念・体力の要素とはどういうものなのか調べてみる。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第2講 スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系② 「トレーニングの原理・原則」          [到達目標]          原理・原則を学習することにより、トレーニングの意味と目的を理解することができる。          予習:トレーニングの原理・原則を調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第3講 体力測定理論と方法          [到達目標]          体力測定の必要性と正確性のある測定方法を理解することができる。          予習:体力測定について事前に調べ、授業時の理解速度を高める努力をしておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第4講 体力測定結果の処理について          [到達目標]          体力測定の結果処理、また科学的に理解し、活用度を高めることができる。          予習:体力テスト総合評価基準表・体力年齢評価表を調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第5講 運動プログラムの基本的な考え方・目標設定          [到達目標]          競技力を向上させるための体力要素別トレーニングを理解する。          予習:体力要素別トレーニングについて調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第6講 ウォーミングアップとクーリングダウン 全身持久力について          [到達目標]          ウォーミングアップとクーリングダウンの必要性と処方を理解することができる。          予習:ウォーミングアップとクーリングダウンについて調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第7講 全身持久力トレーニング          [到達目標]          呼吸機能・循環機能・末梢の筋機能の総合的な能力について理解することができる。          予習:全身持久力と健康の関連性について調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第8講 筋持久力系のトレーニング          [到達目標]          同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングを科学的に理解することができる。          予習:筋持久力トレーニングについて調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第9講 柔軟性・調整力を高めるトレーニング          [到達目標]          柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントが理解できる。          予習:柔軟性について調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第10講 筋力トレーニング① (正しいトレーニングを実施するための負荷設定)          [到達目標]          正しいトレーニングを実施するための負荷設定を科学的に理解することができる。          予習:筋力トレーニング・負荷設定について調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第11講 筋力トレーニング② (効果的に行うための順序)          [到達目標]          効果的に行うためのトレーニング順序を理解する。          予習:筋力トレーニングの順序について調べておく。(120分)          復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第12講 トレーニングプログラムを作成するための要点① (目的に応じたプログラム作成)          [到達目標]          目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;①&gt;</p>

	<p>予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分)  復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)  トレーニングプログラムを作成するための要点②(目的に応じたプログラム作成)</p> <p>[到達目標]  目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;②&gt;  予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分)  復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)  トレーニングプログラムを作成するための要点③(目的に応じたプログラム作成)</p> <p>[到達目標]  目的に応じたトレーニングプログラム作成のために&lt;③&gt;  予習:トレーニングプログラムについて調べておく。(120分)  復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し、理解する。(120分)</p> <p>第15講  総括(定期試験)  [到達目標]  講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。  予習:第1講～第14講をまとめて理解できる。(120分)  復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習すること。(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	自学自習の課題は授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業時に資料を配布する。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館教員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー SS-9-HA13-ES-L-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-5(技能・表現) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。

講義科目名称： トレーニング実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>「人間の持つ機能は全て、使わなければ退化、使い過ぎれば委縮、適度に使えば発達する。」これは、ウィリアム・ルー（ドイツ）の言葉である。トレーニングにおける理論と方法論を科学的にとらえるとともにスポーツ競技力向上や健康増進等、目的に応じた処方に関する内容を運動・実践することにより学習することを目標とする。 また、安全かつ効果的なトレーニングプログラム作成（目的に応じたプログラム作成）できるようにする。</p>		
授業計画	第1講	<p>安全なトレーニングのために。 [到達目標] 安全にトレーニングを実施するための知識を深めながら実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第2講	<p>体力測定（新体力テスト）の実際① [到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第3講	<p>体力測定（新体力テスト・その他の体力テスト）の実際② [到達目標] 体力測定の安全で正しい実施方法を理解するとともに、計測方法を実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第4講	<p>ウォーミングアップとクーリングダウン [到達目標] 安全かつ効果的な運動効果を得るための正しい実施方法と考え方を実践を通して学習できる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第5講	<p>柔軟性・調整力を高めるトレーニングについて [到達目標] 柔軟性向上、バランス、敏捷性向上のための重要ポイントの理解と実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第6講	<p>全身持久力（身体組成）を高めるトレーニング [到達目標] 全身持久力の鍵となるのは酸素摂取能力である。呼吸循環器系能力と代謝能力について学習し、負荷パターンによるトレーニング分類の理解と実践学習ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第7講	<p>筋持久力トレーニングを高めるトレーニング [到達目標] 同じ動作の繰り返しが要求される場面で発揮される筋持久力トレーニングの理解と実践ができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第8講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング① [到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第9講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング② [到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため、事前準備運動をしておくこと。（30分） 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。（30分）</p>	
	第10講	<p>レジスタンス・エクササイズ トレーニング③</p>	



	<p>第11講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと。(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) レジスタンス・エクササイズ トレーニング④</p> <p>第12講</p> <p>[到達目標] 安全かつ効果的なトレーニング処方を科学的に考察し理解するとともに実践学習することができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)①</p> <p>第13講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)②</p> <p>第14講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)③</p> <p>第15講</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分) トレーニングプログラムを作成・実践(目的に応じたプログラム作成・実践)④</p> <p>[到達目標] 目的に応じたトレーニングプログラム作成に関する知識を身に付けるとともに、適切なプログラムを実際に作成することにより実践力を身に付けることができる。 予習：けが防止、また安全かつ効果的なトレーニング実践のため事前準備運動をしておくこと(30分) 復習：授業で経験したこと、またそのポイントを整理すること。(30分)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	自学自習の課題は、授業の進行をふまえ、その都度、指示する。
教科書	授業毎に配布する資料をもとに実施。
参考書	授業時に随時指定する。
成績評価	プログラム作成テスト50%、授業時の努力・意欲の度合い50%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 研究室 : 体育館職員室 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー SS-9-HA14-ES-P-0 ②服装は運動に適した服装、体育館シューズを準備する。 ③水分補給は各自で準備し、体調管理に努める。 ④貴重品については自己管理を徹底する。 ⑤この授業のディプロマポリシーとの関係 ◎-5 (技能・表現)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
三浦 重則			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	スポーツ全般に関する認識を深め、各世代におけるスポーツ技術向上への手順や方法を身につけ、将来、指導的立場となった場合には、各世代毎の各種の指導プログラムが作成できる資質を備えることを目標とする。		
授業計画	1回目	<p>スポーツとは：概念とその歴史について</p> <p>[到達目標] 「スポーツ」を正しく理解して指導に当たる重要性を認識することができる。 予習：シラバスを通して第1講～第15講までの内容を把握する。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	2回目	<p>運動と健康</p> <p>[到達目標] 健康と運動実践、必要とされる指導者のあるべき姿を理解することができる。 予習：それぞれが「理想とする指導者像」を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	3回目	<p>スポーツプログラマーの役割と、フィットネス・エクササイズ・体力等の基本的な理念について</p> <p>[到達目標] スポーツプログラマーとしての基本的な事項を正しく理解できる。 予習：「スポーツプログラマー」の在り方を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	4回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（1）</p> <p>[到達目標] 体力とは？体力の分類と各トレーニング実施上の留意事項を理解することができる。 予習：「体力」区分とトレーニング法を整理しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	5回目	<p>フィットネス・エクササイズの理論と実際について（2）</p> <p>[到達目標] マシントレーニング、ヘルスエクササイズの目的や方法を理解することができる。 予習：マシントレーニングとはどういうものか事前に調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	6回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（1）</p> <p>[到達目標] 体調のチェックの重要性・意義が理解できる。 予習：体調チェックの具体的な内容を十分理解しておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	7回目	<p>フィットネス・エクササイズと健康管理について（2）</p> <p>[到達目標] 準備・整理運動の重要性とその効果や内容を理解することができる。 予習：準備・整理運動について調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	8回目	<p>フィットネス・プログラムの実際（1）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供1＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	9回目	<p>フィットネスプログラムの実際（2）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜子供2＞ 予習：子どものフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	10回目	<p>フィットネスプログラムの実際（3）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜中年＞＜高齢者1＞ 予習：中・高齢者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	11回目	<p>フィットネスプログラムの実際（4）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜高齢者2＞＜女性1＞ 予習：女性のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	
	12回目	<p>フィットネスプログラムの実際（5）</p> <p>[到達目標] フィットネスプログラム作成上の留意事項を理解することができる。＜女性2＞＜障がい者＞ 予習：障がい者のフィットネスプログラム作成ポイントを調べておく。(120分) 復習：授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p>	

	<p>13回目 スポーツ相談の実際 [到達目標] スポーツ相談の意義・留意点等を理解することができる。 予習:スポーツ相談の留意事項を調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p> <p>14回目 体力測定と評価 [到達目標] 体力測定の方法と結果処理、個々の体力の課題や対応法を知ることができる。 予習:体力測定結果の処理方法について調べておく。(120分) 復習:授業で学習したことのポイントを適切に整理し理解する。(120分)</p> <p>第15講 総括(定期試験) 到達目標] 講義のまとめ・第1講～第14講をまとめて理解できる。 予習:第1講～第14講をまとめて理解しておく。(120分) 復習:定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照し全体を復習する(120分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	テキストを中心として、「授業の内容等」に関連の深い以下の分野の本を読むこと ・発育発達学 ・運動生理学 ・身体運動学
教科書	毎時プリント配布。
参考書	財団法人 日本スポーツ協会；公認スポーツプログラマー専門科目テキスト
成績評価	出席状況や受講態度、試験により、総合的に評価する。 定期試験60%、授業時の小テスト20%、努力・意欲の度合い20%で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 三浦 重則 オフィスアワー : 講義終了後 メールアドレス : s_miura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業前後に質問等を受け付ける。
備考	①科目ナンバー SS-9-HA15-ES-L-0 ②この授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-5(技能・表現) ③アクティブラーニング(課題を主体的に解決する力(思考・判断)を育てる内容を実施。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：オンデマンド（講義・AL対話）	
添付ファイル			

授業目標	<p>将来の夢を実現するために何が必要かを考え、夢をかなえるために必要な情報を整理・学習することができる。</p> <p>特に、キャリアデザインの立て方、その各種必要な情報の整理、さらには就職等にあたり、履歴書の書き方、先方へのアポイントの取り方、面接の受け方、見学・面接後の対応が行えるようになる。</p> <p>なお、講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します（一部対面あり）。レポートはグループクラスルームで受け付け、その後フィードバックを行います。</p>
授業計画	<p>1回目      キャリアデザインって何？</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              キャリアデザインとは何かを理解し、自身の将来像を想像できる。</p> <p>              [備考]</p> <p>              自身の将来像を、夢と現実を考えながら想像してみる。</p> <p>2回目      就職合同説明会とは</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              合同説明会の役割や周りなどが理解できる</p> <p>              [備考]</p> <p>              合同説明会に参加する際の具体的なイメージを考える</p> <p>              （学外講師のオンデマンド教材）</p> <p>3回目      キャリア形成：医療を考える</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              医療の役割や変化が理解できる</p> <p>              [備考]</p> <p>              医療の中の鍼灸の役割を考える</p> <p>4回目      キャリア形成：鍼灸を考える</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              鍼灸・整骨院の役割の変化が理解できる</p> <p>              [備考]</p> <p>              鍼灸院の役割を考える</p> <p>5回目      キャリア形成：鍼灸のブランディングを考える</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              鍼灸のブランドイメージが理解できる</p> <p>              [備考]</p> <p>              鍼灸のブランディングを具体的に考える</p> <p>6回目      キャリア形成：未来の鍼灸を想像する</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              鍼灸の未来が想像できる。</p> <p>              [備考]</p> <p>              鍼灸の未来を具体的に考える。</p> <p>7回目      自己分析・他者分析</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              自分自身を自己評価や他人評価することで客観的に観察できる。</p> <p>              [備考]</p> <p>              自分の長所や短所を知り、自分の将来を参考にする。</p> <p>第8回      キャリアデザインを再考しよう</p> <p>              [到達目標]</p> <p>              理想の医療や鍼灸師、さらには自分増を知ったうえで、現段階での履歴書やキャリアプランを作成することができる。</p> <p>              [備考]</p> <p>              実際の就職活動をイメージしよう</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	それぞれのテーマについて30分程度関連の分野の書籍、資料、インターネットを調べ、知識を深めておく。 また、授業後は30分程度、授業を行った内容を復習し、質問があるときは次回の授業の際に行う。
教科書	PLCMET GUIDE 2020 (各自持参) 配布資料
参考書	「鍼灸マッサージ治療院開業ベーシックマニュアル」医道の日本 「大学生のためのキャリア講義」山本直人 インデックスコミュニケーション
成績評価	オンデマンド講義形式を見てクラスルームの課題(レポート)を行い、その内容で成績を判断する。  なお、出席日数は、3/5以上を受験資格とする。 評価はレポートと出席で判断を行い、レポート60%、出席40%とする。 点数は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。  なお、本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 質問等がある場合はメールの上、事前予約をお願いします。
備考	DPとの関係: 3: 関心・意欲-○ 4: 態度・人間性-◎
	実務経験 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに教授する。
	注意事項 本講義は学外の講師にお願いする部分もあるため、講義の順番や時間に変更になる場合があります。その際は事前に連絡を行うので、各自確認を行うようにしてください。

講義科目名称： データ解析法

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴・村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とする。		
授業計画	第1回	<p>ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習</p> <p>[到達目標] 表計算ソフトの基本操作を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第2回	<p>さまざまなグラフ①・度数分布</p> <p>[到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第3回	<p>さまざまなグラフ②・ヒストグラム</p> <p>[到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第4回	<p>さまざまなグラフ③・散布図</p> <p>[到達目標] 散布図の意味を理解する データを散布図として表現することができる データの相関について学ぶ 代表値の比較と個別データの分布の比較について、意味の違いを理解する 散布図で表現される意味を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第5回	<p>関数の応用と図表の読み取り</p> <p>[到達目標] 箱ひげ図の意味を理解する 積み上げ棒グラフの意味を理解する データを目的に合ったグラフとして表現することができる</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第6回	<p>復習と演習①</p> <p>[到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など、必要に応じたグラフを選択して作成することができる</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第7回	<p>中間試験・データまとめ方について</p> <p>第1回～第6回に学習した内容に準じたデータ解析操作の理解度を確認する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第8回	<p>データの視覚化① 基本統計量(データの代表値)</p> <p>[到達目標] データの代表値について理解する 代表値を示す値の意味を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第9回	<p>データの視覚化② 基本統計量(データのばらつき)</p> <p>[到達目標] データのばらつきについて理解する ばらつきを示す値の意味を理解する</p> <p>[備考] 課題提出あり</p>	
	第10回	<p>データの視覚化③ 基本統計量(その他)と正規分布</p> <p>[到達目標] 基本統計量のその他の値について理解する 正規分布について理解する</p>	

	<p>第11回 [備考] 課題提出あり 外部データの取り扱い [到達目標] 外部データを表計算ソフトで扱う方法を理解する ファイル形式について理解する 文字コードについて理解する</p> <p>第12回 [備考] 課題提出あり 大量データの処理① データ収集と整理 [到達目標] 表計算ソフトの機能を復習する 関数を正しく活用することができるかを確認する</p> <p>第13回 [備考] 課題提出あり 大量データの処理② 整理後の集計 [到達目標] 表計算ソフトによるデータ集計方法を体験する</p> <p>第14回 [備考] 課題提出あり 復習と演習② 第7回～第13回に学習した内容に準じたデータ解析操作の理解度を確認する</p> <p>第15回 [備考] 課題提出あり 総合演習と解説 第7回・第14回の演習内容を踏まえた解説を行う</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておくこと（130分程度）。</li> <li>・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにしておくこと。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めること（130分程度）。</li> <li>・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておくこと。</li> </ul>
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	試験90%、課題10% 選択式および記述式の問題により、総合的にデータ処理能力の到達度を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p> <p>担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p>
備考	<p>講義の資料、小テストや課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 <a href="https://classroom.google.com">https://classroom.google.com</a> 「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-2, ○-1</p>

講義科目名称： 医療情報学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
渡邊 康晴・村瀬 智一			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：講義(対面形式)	
添付ファイル			

授業目標	『EBM(evidence-based Medicine)：根拠に基づく医療』が求められる現代、鍼灸師にとっての『医療情報』という言葉は「患者さんが病院で受けた検査結果」という他人事ではなく、日々の治療記録の蓄積が鍼灸治療の価値を更に高めるための貴重な財産です。 本講義では、地域のチーム医療の一員として『医療情報』が指す言葉を理解するとともに、臨床の鍼灸師としての価値を高めるための『医療情報』や独立開業権を持つ経営者として知っておきたいIT関連知識の習得を目指します。		
授業計画	第1講	ガイダンス・医療情報と鍼灸 [到達目標] 医療情報の概略を説明できる 鍼灸師が医療情報を扱う理由を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第2講	医療情報について①・医療情報システム [到達目標] チーム医療の一員として病院やクリニックで使用される医療情報システムの内容について説明できる 鍼灸分野で医療情報の収集が重要である理由を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第3講	医療情報について②・個人情報保護法と関連ガイドライン [到達目標] 事業者や治療者として重要な個人情報の取り扱い方法について説明できる 医療情報システムの安全管理のガイドラインの概要を説明できる [備考] 確認テストあり	
	第4講	医療情報について③・医療情報の標準化・電子カルテ [到達目標] 医療情報の標準化とコード化の必要性を説明できる 電子カルテの必要条件を説明できる。自分が利用する立場になった場合の選択肢を考えられる [備考] 確認テストあり	
	第5講	医療情報について④・情報セキュリティ [到達目標] セキュリティに関する攻撃の概要とそれに対する自衛手段を説明できる。 [備考] 確認テストあり	
	第6講	医療情報について⑤・IoTとデータベース [到達目標] IoTについての基本情報を説明できる。 データベースについて説明できる。 [備考] 確認テストあり	
	第7講	プログラミング体験① HTML入門 [到達目標] HTMLについて説明できる。 [備考] 確認テストあり	
	第8講	プログラミング体験② CSS入門 [到達目標] CSS について説明できる。 [備考] 確認テストあり	
	第9講	プログラミング体験③ JavaScript入門 [到達目標] JavaScriptについて説明できる。 [備考] 確認テストあり	
	第10講	到達度試験[医療情報]・データベース体験 [到達目標] 医療情報についての理解度を確認する Excel や Google スプレッドシートを使った簡易なデータベースの作り方とサービスの違いを説明できる [備考]	



	<p>第11講 確認テストあり 医療統計入門①・帰無仮説と対立仮説 [到達目標] 基本的な統計用語について説明できる 仮説検定の概念を理解する [備考]</p> <p>第12講 確認テストあり 医療統計入門②・パラメトリック検定 [到達目標] 正規分布に基づく推定の事例を選択できる 適切な検定手法を選択できる [備考]</p> <p>第13講 確認テストあり 医療統計入門③・ノンパラメトリック検定 [到達目標] 正規分布に基づかない推定の事例を選択できる 適切な検定手法を選択できる [備考]</p> <p>第14講 確認テストあり 到達度試験[医療統計]、クラウドサービスのメリット・デメリット 医療統計分野の到達度試験を行う。 [到達目標] クラウドサービスのメリット・デメリットを説明できる</p> <p>第15講 到達度試験解説、プログラミング・総括 各分野の到達度試験の解説とプログラミング課題の総括を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習：各科の講義までに、関連テーマに関する情報をインターネットなどを使って調べる(50分)。 復習：各科の講義で知り得た情報を整理する(50分)。
教科書	指定なし
参考書	適宜講義の中で紹介する。
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 医療情報(50%)、プログラミング課題(30%)、医療統計(20%)で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報 担当教員名 : ○ 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p> <p>担当教員名 : 渡邊 康晴 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : nabe@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:30</p>
備考	<p>講義の資料、小テストや課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 <a href="https://classroom.google.com">https://classroom.google.com</a></p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-2, ○-1</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
智原 栄一、諫山 憲司			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：ブレンディッド型	
添付ファイル			

授業目標	医療機関に搬送される前の傷病者をどのように評価・判断し、次の医療機関への「引き継ぎ」をスムーズにする能力を学修することを目標とする。 鍼灸師が知っておいた方がよい一次救命処置の知識や技術を中心に修得し、鍼灸を活用した実践的な応急・救急法を導き出す柔軟な思考力を養うことを目指す。		
授業計画	1回	<p>授業ガイダンス 災害鍼灸を含めた医療機関外での傷病者の発生・手当・搬送について 応急手当・救急法の重要性・必要性 [到達目標] 応急手当・救急法の重要性・必要性を理解する。 授業形態：アクティブラーニング有 予習：シラバスをよく読み、授業目的、授業内容、到達目標、授業形態などを確認する。 参考書・インターネット等を活用し、誰もが実施可能な応急手当について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	2回	<p>生命のリスクとしての意識消失・呼吸停止・心停止 [到達目標] 意識消失が生体にどのようなリスクとなるのか、呼吸停止や心停止がどのように生命の危機期につながるのか、時間的な猶予はどの程度なのか病態生理について理解し、現場におけるAEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 アクティブラーニング無し 予習：参考書・インターネット等を活用し、意識消失・呼吸停止・心停止を調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	3回	<p>心停止の予防と心肺蘇生法 [到達目標] 心停止の予防、心停止の早期認識と通報について理解する。呼吸停止・心停止の病態生理について理解する AEDを含む心肺蘇生法の必要性を理解し、正しく実施できる。 アクティブラーニング有 (心肺蘇生法実施後フィードバックを行う。) 予習：参考書・インターネット等を活用し、心肺蘇生法を調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	4回	<p>気道異物除去・止血法 [到達目標] 気道異物除去、止血法について理解する。 授業形態：アクティブラーニング有 (気道異物除去・止血法の実施後フィードバックを行う。) 予習：参考書・インターネット等を活用し、気道異物除去・止血法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	5回	<p>傷病者管理法・搬送方法とKP(紙芝居プレゼンテーション)法 [到達目標] 傷病者管理法、搬送の方法について理解し、正しく実施できる。 KP法の基本について理解する。 授業形態：アクティブラーニング有 (傷病者管理法・搬送方法実施後フィードバックを行う。) 予習：3回での講義・実技をもとに救急実習室において、心肺蘇生法の訓練を行う(イメージする)。(30分) インターネット等を活用し、KP法について調べる。(20分) 復習：指導を受けた内容を再度確認し実施する。(10分)</p>	
	6回	<p>災害鍼灸を含めた医療機関外での傷病者の手当・管理・搬送①発表 [到達目標] 災害鍼灸を含めた医療機関外での傷病者の手当・管理・搬送を提示できる。 授業形態：アクティブラーニング有 (KP法等を活用した発表後、フィードバックを行う。) 予習：参考書、インターネット等を活用し、KP法について調べる。(30分) 復習：講義で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	7回	<p>災害鍼灸を含めた医療機関外での傷病者の手当・管理・搬送②発表 [到達目標] 災害鍼灸を含めた医療機関外での傷病者の手当・管理・搬送を提示できる。 授業形態：アクティブラーニング有 (KP法等を活用した発表後、フィードバックを行う。) 予習：これまで行った講義・実技・発表のまとめを行う。(30分) 復習：講義全体で学習した内容をまとめる。(30分)</p>	
	8回	<p>シナリオトレーニングと総合討論 [到達目標] 想定を組み合わせ、災害鍼灸・心肺蘇生法を含めた応急・救急法が実施できる。</p>	

	<p>授業形態：アクティブラーニング有  (傷病者を助けるために、周りのものと協力し、行動する。)  予習：参考書・インターネット等を活用し、応急・救急法のシナリオトレーニングについて調べる。(30分)  復習：これまでで学習した内容をまとめる。(30分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各種参考書をもとに自主学習(復習120分、予習120分)
教科書	「救急講習テキスト」Basic Life Support ガイドライン2020 : 京都市情報館 デジタルブック <a href="https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/book_cmsfiles/553/book.html">https://www.city.kyoto.lg.jp/digitalbook/book_cmsfiles/553/book.html</a>
参考書	よくわかるみんなの救急(大修館書店) 応急手当講習テキスト(東京法令出版)
成績評価	リアクションペーパー：20点 議論(授業中の発言・発表内容)：30点 成果物：40点 授業参加姿勢：10点 合計100点とする。 授業への出席と積極的な授業参加姿勢およびリアクションペーパーの内容を中心に、授業中の発言・発表内容などを加味して総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 諫山憲司、智原栄一 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : k_isayama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業終了後1時間
備考	諫山憲司：消防官としての実務経験に基づき授業を行う。 専門領域：統合医療、救急救命学、死生学、生命倫理など 経験及び知識、専門領域をもとに講義、実技を行う。 智原栄一：麻酔科医師として長年病院勤務実績と医学部客員教授の経歴を元に指導する
	授業とディプロマポリシーとの関係 ◎-2 科目ナンバー：

講義科目名称： 薬理学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
石原 安信			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べる学問です。各臓器の生理・疾患を説いた後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 総論・薬理学の概念、末梢神経系作用薬：、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 [到達目標] 薬理学の概念を説明できる。末梢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第2講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 1:麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 2:パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第4講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 心臓・血管作用薬:高血圧、心不全、狭心症、不整脈の治療薬 [到達目標] 心臓・血管に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第5講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 ホルモン・内分泌系作用薬:糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬 [到達目標] ホルモン・生殖器系に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第6講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗炎症薬・呼吸器系作用薬:抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬、消化器系作用薬:胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬 [到達目標] 炎症の機序とその治療に使われる薬の作用・副作用を説明できる。呼吸器、消化器に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第7講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬 [到達目標] 感染症・悪性腫瘍の発症機序とその治療に使われる薬の作用・副作用・作用メカニズムを説明できる。</p> <p>第8講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 まとめ(評価含む)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集ヌーベル・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	特になし
成績評価	期末試験、授業態度により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。 分からないことかあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
担当教員の基本情報	担当教員名 :石原 安信 研究室 :6号館1階非常勤講師室

	メールアドレス: オフィスアワー:随時
備考	
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎- , ○-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
東 孝至			
鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・演習	
添付ファイル			

授業目標	1) 対象者の日常生活を支える援助技術の基礎を理解することができる。 2) 対象者の身体状況を考慮した具体的な援助技術を体験することができる。
授業計画	<p>1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基本原則と心構え</li> <li>・介護保険制度の概要</li> </ul> <p>1) 介護の基本原則を理解し、心構えについて考えることができる。 2) 介護保険制度の概要が理解できる。 3) 社会資源・介護用品等について知ることができる。 【授業形態】講義とディスカッション</p> <p>2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽な姿勢</li> <li>・体位に関する基礎知識</li> <li>・ボディメカニクスの概念</li> <li>・褥瘡について</li> <li>・臥床者の体位変換・座位保持</li> </ul> <p>1) 姿勢・体位に関する基礎的知識を理解し、安全・安楽に向けての基本的な援助技術を体験する。 【授業形態】技術演習</p> <p>3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する基礎知識</li> <li>・病室環境とベッドメイキングの基本技術</li> </ul> <p>1) 快適な生活環境調整の必要性を理解し、ベッドメイキングの基本技術を体験する。 【授業形態】技術演習</p> <p>4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助技術の基本（歩行介助・杖歩行・車いす介助・移乗）</li> </ul> <p>1) 介護を必要とする対象を体験的に理解できる。 2) 援助技術の基本を体験し理解する。 【授業形態】技術演習</p> <p>5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養と食事に関する基礎知識</li> <li>・食生活援助における留意点</li> <li>・嚥下障害、視力障害を持つ人の食事介助</li> <li>・口腔ケア</li> </ul> <p>1) 栄養と食生活に関する基礎的知識を理解し、食事の援助技術を体験する。 【授業形態】技術演習</p> <p>6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類着脱の介助</li> <li>・排泄の介助</li> <li>・介護者の健康管理</li> </ul> <p>1) 衣類着脱の介助、排泄の介助を体験する。 2) 事例を通して緊急時に対応を考える。 3) 介護者の健康管理について考える。 【授業形態】技術演習</p> <p>7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション技術</li> </ul> <p>1) コミュニケーションの取り方の基本がわかる。 2) 介護を必要とする人とのコミュニケーションの取り方について理解できる。 【授業形態】講義とディスカッション</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	参考書等を参考に、各講義のタイトルに関連した内容について事前学習し、講義・演習で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。
教科書	授業時間中に資料を配布する。
参考書	「介護職員実務者研修テキスト 第4巻「生活支援技術I・II」介護職員実務者研修テキスト作成委員会編集（財）長寿社会開発センター
成績評価	・講義・演習態度：70点 ・課題レポート「高齢者や障害のある方への援助についての考察および社会資源の活用について」：30点以上の合計点で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：東 孝至、その他</p> <p>担当教員名：東 孝至（科目責任者） 研究室：10号館（看護学部棟）7階 709号室 メールアドレス：t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定なし 事前にメールでアポを取ってください。</p>
備考	<p>・各教員は、臨床での看護師としての実務経験をもとに、介護技術の授業を進める。 ・単元は講義と学内演習連続で構成しているためジャージ着用で受講してください。</p> <p>「この授業とディプロマポリシーとの関係」◎-3、○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
伊藤 和憲、萬代 綾子、北村 真			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	オンデマンド（講義・AL：対話）	
添付ファイル			

授業目標	<p>運動器疾患の画像診断としては、単純X線写真が広く普及している。詳細な画像診断にはCT、MRIが用いられている。しかしながら、機器の価格、検査料ともに高額であり、検査の待ち時間の長さや被曝の問題から短期間での繰り返し検査ができないのが現状である。近年、著しい技術開発により超音波画像診断装置がデジタル化され、高周波プローブが出現したことによって、CT、MRIを上回る高分解能画像が簡便に得られるようになってきた。さらに、本機器の特徴であるリアルタイム性を応用することで、運動器の損傷状態、動態、血流、組織弾性の評価が可能となってきた。本講では、柔道整復領域に普及しつつある超音波画像診断の有用性について、他の画像（単純X線画像、MRI画像など）と対比しながら教授する。</p> <p>なお、講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します。レポートはグーグルクラスルームで受け付けます。</p>		
授業計画	第1回	<p>放射線科領域の画像診断①</p> <p>【到達目標】 放射線科領域における画像診断の意義を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：北村真</p>	
	第2回	<p>放射線科領域の画像診断②</p> <p>【到達目標】 放射線科領域における画像診断の意義を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：北村真</p>	
	第3回	<p>脳神経外科領域の画像診断①</p> <p>【到達目標】 脳外科領域における画像診断の意義を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：萬代綾子</p>	
	第4回	<p>脳神経外科領域の画像診断②</p> <p>【到達目標】 脳外科領域における画像診断の意義を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：萬代綾子</p>	
	第5回	<p>疾患と画像①</p> <p>鍼灸臨床で遭遇する病態（内科疾患）の画像所見を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：伊藤和憲</p>	
	第6回	<p>疾患と画像②</p> <p>鍼灸臨床で遭遇する病態（脳疾患）の画像所見を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：伊藤和憲</p>	
	第7回	<p>疾患と画像③</p> <p>鍼灸臨床で遭遇する病態（整形外科）の画像所見を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】 担当：伊藤和憲</p>	
	第8回	<p>疾患と画像④</p> <p>鍼灸臨床で遭遇する病態（その他）の画像所見を理解できる。</p> <p>【授業形態】 オンデマンドで実施する。</p> <p>【備考】</p>	

	担当：伊藤和憲
授業時間外の学習 (準備学習等)について	毎回講義ごとに動画を配信しますので、関連する内容(参考資料など)について授業前・授業後にそれぞれ30分間程度予習復習をしてください。
教科書	なし
参考書	なし
成績評価	<p>出席が3/5以上の者を対象に評価を実施する。</p> <p>①合格点：各回の講義終了後に実施する課題・小テストを集計して評価し、全講義回数(7回)の合計点が満点の6割以上を合格とする。</p> <p>②評価点が8割以上を優、7割以上を良、6割以上を可とする。</p> <p>③アセスメントとフィードバック：  フィードバック：小テスト結果の発表、メリーを用いた質疑応答を行う。</p> <p>※成績評価における注意事項</p> <p>①課題提出の締め切り日時を過ぎた場合は「出席」にはならず、その単元の小テストの点数は0点となります。</p> <p>②提出物の内容によっては出席扱いにならず、小テストの点数も0点となります。  例「氏名のみで内容が無いまま提出」、「他人の内容をコピー提出」、「課題と明らかに異なる内容で提出」など。</p> <p>なお、本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。  最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：北村 真  研究室：附属病院1F放射線科技師控室  オフィスアワー：鍼灸学科教員を通して受付</p> <p>教員名：萬代綾子  研究室：附属2F医局  オフィスアワー：鍼灸学科教員を通して受付</p> <p>教員名：伊藤和憲  メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp  研究室：鍼灸センター2F教授室  オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>参考資料および配付資料に準じて、学習項目の予習を行うこと。</p> <p>授業内容をまとめた予習・復習ノートを作成し、理解・実践に役立てられるよう工夫すること。</p> <p>ノートの提出義務はありませんが、チェックや指導を行う場合があります。</p>
	<p>本科目におけるDPの位置づけ</p> <p>②思考・判断 - ◎</p>



講義科目名称： 医療機関実習A

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	講義形態：実習（対面）、オンデマンド（遠隔）	
添付ファイル			

授業目標	本実習の目標は、鍼灸臨床に必要な基本的な医学知識のほか、医療に関する幅広い知識を習得することにある。また、実際の臨床現場で学修することにより医療人としての自覚を養い、実習によって得た知識を、鍼灸臨床に活用できるようにすることを目標とする。さらに、現代西洋医学的な診察や治療の流れについて理解を深めるとともに、最新の医療情報や技術についても学習し、各診療科での医療従事者の役割、チーム医療の在り方を学ぶ。		
授業計画	1回目	ガイダンス 【到達目標】 1. 医療機関実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。 2. 身なりや接遇、基本的な衛生操作、感染対策について理解できる。	
	2～11回目	各症状の臨床診断に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】 1. 胸痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 2. 腹痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 3. 頭痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 4. 呼吸器症状、呼吸困難に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 5. めまいに対する臨床診断のプロセスを説明できる。 6. 疲労感に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 7. 腰痛に対する臨床診断のプロセスを説明できる。 8. 課題1：感度、特異度、陽性尤度比、陰性尤度比について説明できる。 9. 課題2：痛みの臨床診断で用いる「OPQRSTUV」について説明できる。 10. 課題3：腹痛の部位ごとの頻度と重大性について説明できる。 11. 課題4：一次性および二次性頭痛、頭痛のRed flag signについて説明できる。 12. 課題5：上気道および下気道感染症、呼吸器感染のRed flag signについて説明できる。 13. 課題6：めまいの原因や頻度、重大性、めまいのRed flag signについて説明できる。 14. 課題7：疲労感の原因、疲労感のRed flag signについて説明できる。 15. 課題8：呼吸困難と呼吸不全の違いについて説明できる。 16. 課題9：腰痛の頻度と重大性の高い腰痛とその鑑別、疲労感のRed flag signについて説明できる。	
	12～16回目	リハビリテーション医学に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】 1. 脳卒中のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。 2. 脳卒中の回復期リハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。 3. 疼痛のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。 4. 運動器のリハビリテーションについて、その役割、方法について説明できる。 5. 課題1：脳卒中の原因疾患、評価について説明できる。 6. 課題2：回復期リハビリテーションにおけるそれぞれの職種の役割について説明できる。 7. 課題3：疼痛のメカニズム、慢性疼痛患者に接する際の注意点、慢性疼痛に対する評価について説明できる。 8. 課題4：運動療法の具体的方法とその評価、腰痛の運動療法について説明できる。 9. 課題5：肩関節周囲炎および変形性膝関節症のリハビリについて説明できる。	
	17, 18回目	放射線科に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】 1. 放射線科の施設について説明できる。 2. 放射線科の検査内容について説明できる。 3. 課題1：放射線の人体への影響と、X線やCT検査による被爆について説明できる。 4. 課題2：レントゲン（X線）、MRI、CTの特徴について説明できる。	
	19～29回目	各科外来でみる疾患、臨床検査および病理検査に関するオンデマンド動画学習・課題 【到達目標】 1. 整形外科外来で診る主要な疾患について説明できる。 2. 外科外来で診る主要な疾患について説明できる。 3. 歯科外来で診る主要な疾患について説明できる。 4. 泌尿器科外来で診る主要な疾患について説明できる。	

	<p>5. 臨床検査の内容および検査方法について説明できる。</p> <p>6. 病理検査の内容および検査方法について説明できる。</p> <p>7. 総合リハビリテーションセンターの役割について説明できる。</p> <p>8. 課題1：骨折や捻挫の固定に使用する素材とそれぞれの特徴について説明できる。</p> <p>9. 課題2：関節内注射の適応と注意点について説明できる。</p> <p>10. 課題3：顎関節症の原因・症状・治療方法および顎関節症、顎関節脱臼、下顎骨折の鑑別について説明できる。</p> <p>11. 課題4：血液検査、尿検査の検査項目と正常値について説明できる。</p> <p>12. 課題5：前立腺がんの診断について説明できる。</p> <p>13. 課題6：下部尿路障害の3つの疾患(前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱)の病因とその症状について説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> オンデマンド、課題</p> <p>30～35回目 内科・整形外科・脳神経外科外来での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>2. 外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>3. 脳神経外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>4. 課題：各診療科で診た症状・疾患に対してそれぞれの病態・原因・西洋医学的治療について説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p> <p>36～41回目 外科、泌尿器科、皮膚科外来での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>2. 泌尿器科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>3. 皮膚科外来診察において、医師の行う診療について全体の流れ、検査、処方、治療について説明できる。</li> <li>4. 課題：各診療科で診た症状・疾患に対してそれぞれの病態・原因・西洋医学的治療について説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p> <p>42～45回目 リハビリテーション、臨床検査、放射線科などの検査系統での実習</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションにおける全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>2. 臨床検査における全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>3. 放射線科における全体の流れ、対象、内容を説明できる。</li> <li>4. 課題：実習で得た知識を今後鍼灸師としてどのように活かしていくか具体的に説明できる。</li> </ol> <p><b>【授業形態】</b> 実習</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生までに学習した内容について、現代西洋医学を中心に復習を行う。</li> <li>・なお、実習で得た知識についてもレポート課題を通して復習する。</li> <li>・本実習における予習・復習(60分)</li> </ul>
教科書	指定なし。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生までの学習に使用した全ての配布資料。</li> <li>・病気がみえるシリーズ(メディックメディア社)</li> </ul>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価(60%)およびレポート課題(40%)で評価する(60点以上を合格とする)。</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜～金曜</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・桂川鍼灸院・きららの湯若狭鍼灸院・附属病院にて実務経験あり</li> <li>・アクティブラーニングとして、実習後に振り返りを行う。</li> <li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2</li> </ul>

講義科目名称： 漢方医学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	日常生活における漢方的知識の理解と応用を図る。 漢方医学の全体の概念を把握する。		
授業計画	第1講	現代医学と漢方医学 [到達目標] 現代医学と東洋医学の違いを把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第2講	伝統医学の歴史 [到達目標] 日本・中国各々の伝統医学の歴史を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第3講	漢方の疾病概念：三陽三陰 [到達目標] 三陽三陰の概念を把握する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第4講	漢方の疾病概念：気・血・水 [到達目標] 気・血・水を使つての病態把握を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第5講	疾病概念としての五行説 [到達目標] 五行説を理解する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第6講	漢方医学の診断法 [到達目標] 漢方医学の診断法を解説する。 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第7講	漢方薬の使い方① [到達目標] 漢方エキス剤を中心に漢方薬の説明 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
	第8講	漢方薬の使い方② [到達目標] 漢方エキス剤を中心に漢方薬の説明 [備考] 上記の授業内容について、あらかじめ図書館で内容を把握すること。	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各自希望のテーマがあれば個別に指導		
教科書	「KANPO STUDY NOTEBOOK」(株)ツムラ ※配布		
参考書	基本がわかる漢方医学講義 羊土社 ¥2420 ※購入は自由		
成績評価	レポートによる総合的な判定とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 田中邦雄 研究室 : 6号館非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業の前後に対応		
備考	明治国際医療大学附属病院、京都府立医科大学で漢方内科診療に従事 日本東洋医学会評議員指導医		
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	2	選択必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	本科目では基礎医学、臨床医学、鍼灸診断学、臨床鍼灸学に続く鍼灸臨床科目の総仕上げとして、附属鍼灸センターにおいて臨床実習を行う。また、実地臨床の体験を通じて、鍼灸臨床の診察から治療までの一連の過程を理解し、基本的な診察・治療方法を自ら考え、実践できることを目標とする。		
授業計画	1～4回目	ガイダンス、実習前実技 【到達目標】 1. 実習に必要な心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。 2. 症例を用いた医療面接、理学検査、東洋医学的病態把握ができる（実習前実技）。 3. 症例に応じた鍼灸施術を考え、実践できる（実習前実技）。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）	
	5～12回目	臨床実習（第1クール） 【到達目標】 1. はり・きゅう臨床実習Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を踏まえて、診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。 2. 患者と会話を行うことコミュニケーションを取り、医療面接を適切に行うことができる。 3. 解剖学的部位を把握した触察を病態と関連づけて適切に行うことができる。 4. 臨床に必要な経穴を教員の指導の元で取穴することができる。 5. 症状に応じた現代医学的検査が選択でき、適切に行うことができる。 6. 四診を理解し、東洋医学的所見をとることができる。 7. 患者情報をSOAPでまとめることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）	
	13～20回目	臨床実習（第2クール） 【到達目標】 1. はり・きゅう臨床実習Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を踏まえて、診察から治療までの臨床的な流れを説明できる。 2. 患者と会話を行うことコミュニケーションを取り、医療面接に取り組むことができる。 3. 解剖学的部位を把握した触察を病態と関連づけて適切に行うことができる。 4. 臨床に必要な経穴を教員の指導の元で取穴することができる。 5. 症状に応じた現代医学的検査が選択でき、適切に行うことができる。 6. 四診を理解し、東洋医学的所見をとることができる。 7. 患者情報をSOAPでまとめることができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）	
	21～28回目	臨床実習（第3クール） 【到達目標】 1. 解剖学的部位を把握した触察を病態と関連づけて適切に行うことができる。 2. 臨床に必要な経穴を教員の指導の元で取穴することができる。 3. 症状に応じた現代医学的検査が選択でき、適切に行うことができる。 6. 基本的な運動器疾患について理解し、現代医学的所見から病態を考えることができる。 7. 東洋医学的所見から病態を考えることができる。 8. 患者情報をSOAPでまとめることができる。 9. 教員の指導の元、安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）	
	29, 30回目	カンファレンス 【到達目標】 1. 症例レポート（患者情報）に基づき、SOAPをまとめることができる。 2. まとめたSOAPを発表し、症例の病態や所見、鍼灸治療について説明できる（症例検討）。 【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）	
	31～34回目	臨床実習（第4クール） 【到達目標】 1. 運動器疾患およびその他の疾患について理解し、現代医学的および東洋医学的所見から病態を説明できる。 2. 疾患の鑑別、鍼灸施術の適否を考えることができる。 3. 自ら治療方針を考え、具体的な配穴と鍼灸施術の方法を考えることができる。 4. 安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。 5. 病態に応じた日常における生活指導やアドバイスを実践できる。 6. スムーズにSOAP形式でカルテの記載ができる。	

	<p>35～38回目</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習） 臨床実習（第5クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器疾患およびその他の疾患について理解し、現代医学的および東洋医学的所見から病態を説明できる。</li> <li>2. 疾患の鑑別、鍼灸施術の適否を考えることができる。</li> <li>3. 自ら治療方針を考え、具体的な配穴と鍼灸施術の方法を考えることができる。</li> <li>4. 安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。</li> <li>5. 病態に応じた日常における生活指導やアドバイスを実践できる。</li> <li>6. スムーズにSOAP形式でカルテの記載ができる。</li> </ol> <p>39～42回目</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習） 臨床実習（第6クール）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器疾患およびその他の疾患について理解し、現代医学的および東洋医学的所見から病態を説明できる。</li> <li>2. 疾患の鑑別、鍼灸施術の適否を考えることができる。</li> <li>3. 自ら治療方針を考え、具体的な配穴と鍼灸施術の方法を考えることができる。</li> <li>4. 安全かつ適切に鍼灸施術を行い、治療効果を評価することができる。</li> <li>5. 病態に応じた日常における生活指導やアドバイスを実践できる。</li> <li>6. スムーズにSOAP形式でカルテの記載ができる。</li> </ol> <p>43, 44回目</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習） カンファレンス</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定の疾患に対する医療面接、鑑別、検査法、鍼灸治療について説明し、臨床の流れを組み立てることができる（グループ学習）。</li> <li>2. 特定の疾患に対する検査法、鍼灸治療を行うことができる。</li> </ol> <p>45回目</p> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習） まとめ、評価</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本実習の総括として、ポートフォリオのまとめを行う。</li> <li>1. 症例に応じた医療面接、検査法、鍼灸治療について自ら考え、実践することができる。</li> <li>2. 症例に応じた実技評価を行い、フィードバックを行う。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の開始にあたり、個人評価ツールとしてのパーソナルポートフォリオとなるファイルを配布します。</li> <li>・ガイダンス終了後、速やかにポートフォリオに実習簿をファイリングしてください。</li> <li>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめた用紙をポートフォリオにファイリングしてください。</li> <li>・鍼灸センターに来院する患者に多い疾患を事前に予習し(30分)、実際に実習で担当した患者の疾患について復習(30分)しておくこと。</li> <li>・予習及び復習した内容はポートフォリオに入れること。</li> </ul>
<p>教科書</p>	<p>指定無し</p>
<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著（医歯薬出版社）</li> <li>・「鍼灸医療安全対策マニュアル」（医歯薬出版社）</li> <li>・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）</li> <li>・「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」東洋療法学校協会（南江堂）</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版」（文光堂）</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版」（文光堂）</li> <li>・「いちばんやさしい痛みの治療がわかる本」（医道の日本社）</li> </ul>
<p>成績評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・臨床実習内評価（40%）およびOSCE（30%）、ポートフォリオ（30%）で評価する（60点以上を合格とする）。</li> <li>・OSCEは、技能及び態度などが一定の基準に到達しているかを客観的に評価するための試験であり、模擬患者が参画するシミュレーションテストで行う。</li> </ul>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～金</p> <p>担当教員名 : 田口玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>実習担当教員</p>

	月：和辻、鶴、谷口 火：伊藤、藤井、辰巳 水：山崎、田口辰、辰巳 木：吉田、齊藤、辰巳 金：田口玲、廣、辰巳
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院、京都駅前鍼灸院、統合医療センター・きららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり。</li> <li>・ 実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・ アクティブラーニングとして、実習後振り返りを行い、担当患者の特徴をまとめる。</li> <li>・ この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-4、○-1,2,5</li> </ul>

講義科目名称： はり・きゅう高齢者ケア実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習+対面/遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	特別養護老人ホーム、ケアハウス、老人保健施設およびデイサービス、デイケアにおける実習を通して、様々な心身の障害を持つ高齢者に触れ、適切に対応できる知識と技能を身につけることを目標とする。また、業務の見学や補助を通して、当該施設の業務内容や高齢者ケアの重要性について理解する。さらに、入所中の高齢者とのコミュニケーションに努め、高齢者の心身状態などを理解し、これからの高齢者ケアに鍼灸がどのように関わることができるか考察する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者施設における実習の心構え、実習の日程、実習の目標を説明できる。</li> <li>2. 高齢者施設における注意点及び実習の具体的方法について理解し、実習に向けた準備を行う。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>2～5回目 オンデマンド動画による授業 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の心身の特徴および介護の基本を説明できる。</li> <li>2. 高齢者における多職種連携と社会資源および多職種連携からの支援の動画を視聴し、多職種連携を円滑に進めるために何が必要か、鍼灸師はどのように関わることができるか説明できる。</li> <li>3. 認知症について動画を視聴し、認知症に対する薬物療法と非薬物療法について説明できる。</li> <li>4. 食事の介助について動画を視聴し、高齢者の食事介助の際の注意点について説明できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド</p> <p>6～9回目 オンデマンド動画による授業 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設である高齢者施設の特徴を説明できる。</li> <li>2. 認知症の方とコミュニケーションをとる上での注意点について説明できる。</li> <li>3. 高齢者の心身の特徴に関する動画を視聴し、加齢による運動器の変化について説明できる。</li> <li>4. 加齢による消化器系および腎機能、呼吸器、循環器の変化について説明できる。</li> </ol> <p>【授業形態】 オンデマンド</p> <p>10, 11回目 介護・介助実習の準備 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機能訓練指導員とその役割について調べ、説明できる（グループ学習）。</li> <li>2. 高齢者施設での手指による認知・運動機能を高める作業について調べ、実践のための準備を行う（グループ学習）。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p> <p>12～23回目 介護・介助実習(高齢者施設) 【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者施設での業務の見学や補助を通して、当該施設の業務内容や高齢者ケアの重要性について説明できる。</li> <li>2. 入所中の高齢者とのコミュニケーションに努め、高齢者の心身状態を理解する。</li> <li>3. 送迎・移動介助、配膳・食事補助、機能訓練の見学・補助など介護の基本を実践できる。</li> <li>4. 高齢者施設での手指による認知・運動機能を高める作業を実践し、残された機能と個人差について考察することができる。</li> </ol> <p>【授業形態】 アクティブ・ラーニング（実習）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に入るまでに高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておくこと。さらに、高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習し、理解しておくこと。</li> <li>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめてください。</li> <li>・実習中に観察できたADL動作を踏まえ、自身が考え、行った認知・運動機能を高める作業や実際に行われた機能訓練について考察し、レポート提出すること。</li> <li>・本実習における予習・復習（60分） 予習：前日までに実習する高齢者施設がどのような施設であるかを理解しておく。 復習：高齢者の心身の特徴および介護の基本を復習する。実習後は、担当した高齢者の心身の状態について復習する。</li> </ul>
教科書	指定無し

参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高齢鍼灸学」 (医歯薬出版)</li> <li>・「在宅医療のための訪問鍼灸ガイドブック」 (医歯薬出版)</li> </ul>
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</li> <li>・クラスルームに提出した課題、実習日誌の記載内容、実習出席日数、実習後のレポート提出で総合的に評価する (60点以上を合格とする。)</li> </ul>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣 正基  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 火～金</p> <p>担当教員名 : 田口 玲奈  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 山崎 翼  研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室  メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : 随時</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター・京都桂川鍼灸院・きららの湯若狭鍼灸院・京都駅前鍼灸院、はぎの里介護老人保健施設にて鍼灸治療の実務経験あり。</li> <li>・アクティブラーニングとして、実習後に振り返りを行う。</li> <li>・実習後振り返りについて必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4、○-5</li> </ul>



講義科目名称： はり・きゅう学外臨床実習A

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）+遠隔（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本実習では学外（京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院）での研修および福祉-医療連携下で、地域での健康サポートを行う。</p> <p>京都桂川鍼灸院、きららの湯若狭鍼灸院での研修では、医療人としての協調性と責任感を養い、社会に適応していくための態度と能力を高めることが目標となる。また、京都桂川鍼灸院では、これまで治療中心であった鍼灸とは異なり、予防にも目を向けた新しいタイプの鍼灸治療について学ぶことを目標とする。きららの湯若狭鍼灸院では、温泉のぬくもり（湯治の効果）と鍼灸治療の相乗効果を目指し、リラクゼーションや予防にも目を向けた新しいタイプの鍼灸治療について学ぶことを目標とする。</p> <p>地域での健康サポートにおいては、地域に出向き、学生による健康講座を開催し、高齢者をはじめ市民の健康維持・増進のサポートを実践する。</p>		
授業計画	1回目	<p>ガイダンス</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 本実習の概要について説明できる。</p>	
	2回目	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>オンデマンド動画による授業</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 学外臨床実習施設と学内施設の違いを説明できる。</p> <p>2. 京都桂川鍼灸院では、予防にも目を向けた新しいタイプの鍼灸治療について学び、説明できる。</p> <p>3. きららの湯若狭鍼灸院では、湯治の効果と鍼灸治療の相乗効果を目指し、リラクゼーションや予防にも目を向けた新しいタイプの鍼灸治療について学び、説明できる。</p>	
	3, 4回目	<p>【授業形態】</p> <p>オンデマンド</p> <p>学外臨床実習施設での実習</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 学外臨床実習施設と学内施設の違いを説明できる。</p> <p>2. 学外臨床実習施設のコンセプトについて説明できる。</p> <p>3. 学外臨床実習施設での受付システム、患者対応、臨床の流れについて説明できる。</p>	
	5～8回目	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>健康講座の準備実習</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 教員の指導のもと、学生自らが健康講座のテーマ選出、内容の吟味を行い、健康予防に対する内容を作成する。</p> <p>2. 健康講座の流れをシミュレーションできる。</p> <p>3. 健康講座の実施において、注意すべき事項を説明できる。</p>	
	9, 10回目	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>地域での健康講座実施 実習1</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 地域のコミュニティへの参加により健康サポーター活動を実施する。</p> <p>2. 健康の維持増進（ロコモ予防、認知症予防等）、養生の実践のための講座を学生が主体となって開催し、地域住民の健康を総合的に支える。</p> <p>3. 講座開催後、振り返りを行う。</p>	
	11, 12回目	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>地域での健康講座実施 実習2</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 地域のコミュニティへの参加により健康サポーター活動を実施する。</p> <p>2. 健康の維持増進（ロコモ予防、認知症予防等）、養生の実践のための講座を学生が主体となって開催し、地域住民の健康を総合的に支える。</p> <p>3. 講座開催後、振り返りを行う。</p>	
	13, 14回目	<p>【授業形態】</p> <p>アクティブ・ラーニング（対面）</p> <p>地域での健康講座実施 実習3</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. 地域のコミュニティへの参加により健康サポーター活動を実施する。</p>	

	<p>2. 健康の維持増進(ロコモ予防、認知症予防等)、養生の実践のための講座を学生が主体となって開催し、地域住民の健康を総合的に支える。</p> <p>3. 講座開催後、振り返りを行う。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p> <p>15, 16回目 地域での健康講座実施 実習4</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 地域のコミュニティへの参加により健康サポーター活動を実施する。</p> <p>2. 健康の維持増進(ロコモ予防、認知症予防等)、養生の実践のための講座を学生が主体となって開催し、地域住民の健康を総合的に支える。</p> <p>3. 講座開催後、振り返りを行う。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p> <p>17, 18回目 地域での健康講座実施 実習5</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 地域のコミュニティへの参加により健康サポーター活動を実施する。</p> <p>2. 健康の維持増進(ロコモ予防、認知症予防等)、養生の実践のための講座を学生が主体となって開催し、地域住民の健康を総合的に支える。</p> <p>3. 講座開催後、振り返りを行う。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p> <p>19回目 鍼灸体験・健康相談の準備実習</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 地域における健康相談の流れをシミュレーションできる。</p> <p>2. 地域における鍼灸体験の流れをシミュレーションできる。</p> <p>3. 鍼灸体験の実施において、注意すべき事項を説明できる。</p> <p>4. 鍼灸体験の実施において、同意書を説明できる。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p> <p>健康相談を実施し、高齢者が抱える身体の不調について説明できる。 教員の指導のもと、学生自らが健康講座のテーマ選出、内容の吟味を行い、健康予防に対する内容を作成する。</p> <p>3. 健康講座の実施において、注意すべき事項を説明できる。</p> <p>地域において、一人ひとりの健康相談を実施し、高齢者が抱える身体の不調について説明できる。 、はり・きゅう体験を通じて地域住民の健康を総合的に支える</p> <p>鍼灸体験・健康相談の実施 実習1</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 地域において健康相談を実施し、高齢者が抱える身体の不調について説明できる。</p> <p>2. 鍼灸体験・健康相談を通じて地域住民とコミュニケーションをとることができる。</p> <p>3. 鍼灸体験・健康相談を通じて地域住民の健康を総合的に支えることができる。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p> <p>22, 23回目 鍼灸体験・健康相談の実施 実習2</p> <p><b>【到達目標】</b> 1. 地域において健康相談を実施し、高齢者が抱える身体の不調について説明できる。</p> <p>2. 鍼灸体験・健康相談を通じて地域住民とコミュニケーションをとることができる。</p> <p>3. 鍼灸体験・健康相談を通じて地域住民の健康を総合的に支えることができる。</p> <p><b>【授業形態】</b> アクティブ・ラーニング (対面)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>・実習内容によっては課題を課すことがあります。その際は参考書を元に調べ、調べた内容をまとめてください。</p> <p>・鍼灸体験・健康相談で経験した内容から、これからの高齢者ケアに鍼灸師がどのように関われるか自身が考え、課題提出すること。</p> <p>・本実習における予習・復習(60分) 予習：前日までに高齢者特有の心身の特徴について理解しておく。 復習：実際の高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者ケアに鍼灸師がどのように関われるか考察すること。</p>
教科書	学外鍼灸臨床実習 実習簿 (配布プリント)
参考書	<p>1～4年次までにおこなった全ての講義資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図解 鍼灸臨床手技マニュアル」尾崎 昭弘 著 (医歯薬出版社)</li> <li>・「鍼灸医療安全対策マニュアル」 (医歯薬出版社)</li> <li>・「新版 経絡経穴概論」東洋療法学校協会 (医道の日本社)</li> <li>・「新版 東洋医学概論」東洋療法学校協会 (医道の日本社)</li> <li>・「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」東洋療法学校協会 (南江堂)</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 第2版」 (文光堂)</li> <li>・「図解 鍼灸療法技術ガイドⅡ 第2版」 (文光堂)</li> <li>・「いちばんやさしい痛みの治療がわかる本」 (医道の日本社)</li> </ul>
成績評価	<p>・出席が4/5以上の者に評価を実施する。</p> <p>・授業態度(20%)および出席状況(30%)、実習後の課題(50%)で評価する(60点以上を合格とする)。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 廣 正基 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室</p>

	メールアドレス : m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～金  担当教員名 : 田口 玲奈 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時  担当教員名 : 山崎 翼 研究室 : 附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス : t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時  その他 : 実習を引率する鍼灸学系担当教員
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属鍼灸センター・京都桂川鍼灸院・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・きららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり</li> <li>・アクティブ・ラーニングとして、実習後振り返りを行う。</li> <li>・振り返りや課題について必要に応じてフィードバックする。</li> <li>・この授業とディプロマポリシーとの関連 : ◎-4、○-5</li> </ul>

講義科目名称： はり・きゅうインターンシップ実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
廣 正基、田口玲奈、山崎 翼			
配当学科：鍼灸学科	時間数：45時間	講義形態：実習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>学外における鍼灸治療院を見学し、その事を通して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療院の経営方針</li> <li>・治療院の経営理念</li> <li>・鍼灸治療の技術</li> <li>・接遇における配慮</li> <li>・会計システム</li> </ul> <p>等について学び、総合的な臨床力の向上を図ることを目標とする。</p>
授業計画	<p>1回目 実習ガイダンス インターン実習を行うにあたってのガイダンスを行う。 身なりや接遇、基本的な衛生操作などについて、改めて説明を行う。</p> <p>2～11回目 学外インターン実習（前期） 前期においては、実習先における接遇や医療面接など、鍼灸診療のサポートを中心として行う。 実際の臨床現場におけるさまざまな注意点や配慮が必要な点について学習し、今後の臨床に活用することを目標とする。</p> <p>12～23回目 学外インターン実習（後期） 後期においては、実習先における接遇や医療面接に加え、理学検査や触察、鍼灸治療のサポートを行う。 実際の臨床現場における鍼灸診療について体験することを通して、今後の臨床に活用することを目標とする。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	3年生までに学習した講義ならびに実習に関する資料を用いて、接遇、医療面接、理学検査、鍼灸技術について復習をしておく。 本実習における予習・復習（60分）
教科書	鍼灸診療コアテキスト（本学出版）
参考書	4年生までに学習した全ての教材 病気がみえるシリーズ（メディック・メディア）
成績評価	<p>出席が4/5以上の者に評価を実施する。</p> <p>評価方法と評価割合（実習90%、実習簿の作成10%） 実習の評価に関しては、実習中の生活、臨床技術をもって評価する。 評価方法は専用記録用紙（電子媒体）に引率教員が行う。 評価割合は実習の態度、生活面、協調性、臨床技術について総合的に行い、評価点が60～69点を可、70～79点を良、80点以上を優とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：廣 正基 研究室：附属鍼灸センター2F メールアドレス：m_hiro@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火～金</p> <p>担当教員名：田口玲奈 研究室：附属鍼灸センター2階教員室 メールアドレス：r_sekido@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：山崎 翼 研究室：附属鍼灸センター2F メールアドレス：t_yamazaki@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>その他：実習を引率する鍼灸学系担当教員</p>
備考	<p>附属鍼灸センター・京都桂川鍼灸院・京都駅前鍼灸院・統合医療センター・きららの湯若狭鍼灸院にて実務経験あり アクティブラーニングとして、担当患者について問診から治療までについて振り返りおよび今後の課題についてまとめる。 振り返り、課題について必要に応じてフィードバックする。 DP：◎-4、○-5</p>

講義科目名称： 症例報告、研究の方法と発表

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：オンデマンド（講義・AL対話）	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸治療の効果を人に伝える際にはきちんとした手順を取ることが大切です。特に鍼灸の効果は体験しないと実感しにくいことから、体験しなくてもある程度理解してもらうためには、きちんとした報告や研究が大切です。そこで、本講義では、鍼灸治療の研究・報告に必要な知識を学習し、自分の力で将来報告できるような力を身につけます。なお、講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します。レポートはグーグルクラスルームで受け付けます。		
授業計画	第1回	症例報告・研究はなぜ必要 症例報告や研究の意味、その位置づけなどを勉強し、それぞれの研究にはどのような意味があるのかを動画を用いて学習し、問いに答える。	
	第2回	症例報告に必要な知識を持つ 症例報告を何故行うのか、そしてその報告にはどのようなルールがあるのかなどについて動画で学習し、問題に答える	
	第3回	研究・臨床報告に必要なこと 症例報告や研究を行う際に必要なルール、倫理や書類手続きについて動画を用いて学習し、問いに答える。また、倫理学習（eAPRIN）を行い、その結果をフィードバックする（アクティブラーニング）。	
	第4回	患者を評価しよう 患者や被験者を評価する方法を大まかに動画を用いて学習し、問いに答える。	
	第5回	痛みの評価を学習しよう 痛みの評価について、その種類や役割を動画を用いて学習し、問いに答える。 なお、自分でも評価を行い、どの程度の痛みがあるのかを知る	
	第6回	心理的な評価を学習しよう 心理的の評価について、その種類や役割を動画を用いて学習し、問いに答える。 なお、自分でも評価を行い、どの程度の心理的状態にあるのかを知る	
	第7回	ビックデータを考える データをため、活用するビックデータの仕組みとその役割について学び、今後の医療の可能性を模索する。	
	第8回	これから時代に必要な新たな評価 これからの時代に必要な新たな評価方法や評価基準を学習する。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回講義ごとに動画を配信しますので、関連する内容（参考資料など）について授業前・授業後にそれぞれ30分間程度予習復習をしてください。		
教科書	指定なし		
参考書	リサーチクエッションの作り方（NPO法人健康医療評価研究機構） 臨床研究の道標（NPO法人健康医療評価研究機構）		
成績評価	オンデマンド講義からなるが、課題によっては自由に意見を述べることのできるアクティブラーニングを取り入れる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、クラスルームの課題（レポート）をもって出席とする。 なお、課題については、教員が確認し、必要に応じてフィードバックを行う。 また、期限を超えてレポートを提出したものは遅刻とする。  評価はレポートと出席で行い、レポートとを60%、出席を40%とする。 なお、成績は60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。  本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。		
担当教員の基本情報	担当教員名：伊藤和憲 研究室：鍼灸センター2階教授室 メールアドレス：k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：水曜日の12:30～13:30		
備考	DPとの関係： 2：思考・判断-○ 5：技能・表現-◎		
	職務経歴 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに、機序における鍼灸治療を教授する。		

講義科目名称： はり・きゅう師に必要な看護学・リハビリテーション学 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
木村 篤史、深田 實江子			
鍼灸学科	15時間	演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p><b>【授業概要】</b>          ・看護の本質・歴史・対象・家族・倫理・法律などを学ぶことにより看護活動の実際を理解することができる。          ・2年次に学習したリハビリテーション学を基盤に主要な病態に対する医学的リハビリテーションの実際を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b>          ・看護師や保健師、助産師、リハビリ専門職種などの職業理解と、医療における各職種の役割等が理解できる。          ・はり・きゅう師が取得可能な「機能訓練指導員」にとって必要なリハビリテーション知識と技術について理解できる。</p>
授業計画	<p>1回目 看護の本質、看護の変遷  <b>【到達目標】</b>          ・看護とは何か、看護の本質について考えることができる          ・疾患中心からヘルスプロモーションへ、施設内看護から地域基盤の看護へと変化する看護と、継続の必要性がわかる  <b>【授業形態】</b> 講義形式+ディスカッション</p> <p>2回目 看護の対象、個人、家族、地域  <b>【到達目標】</b>          ・総合対としての人間についての理解が出来る          ・健康とウェルネス、健康の概念について理解することが出来る          ・家族とその機能について知り、家庭の価値について理解することが出来る          ・地域を基盤に展開される看護について学ぶことが出来る  <b>【授業形態】</b> 講義形式+グループワーク</p> <p>3回目 看護における倫理・法律  <b>【到達目標】</b>          ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる          ・保健師助産師看護師法について理解し、看護師・保健師・助産師について理解を深めることが出来る  <b>【授業形態】</b> 講義形式+ディスカッション</p> <p>4回目 ナイチンゲールから看護の本質を学ぶ  <b>【到達目標】</b>          ・「病気は回復過程である」を通して看護の本質と実際を理解することができる          ・看護についての課題に答えることができる  <b>【授業形態】</b> 講義形式+ディスカッション</p> <p>5回目 脳卒中に対する医学的リハビリテーションの実際  <b>【到達目標】</b>          ・脳卒中患者に対する医学的リハビリテーションについて理解することができる。  <b>【授業形態】</b> 講義形式+グループワーク</p> <p>6回目 サルコペニア・フレイル・摂食嚥下障害に対する医学的リハビリテーションの実際  <b>【到達目標】</b>          ・サルコペニア・フレイル・摂食嚥下障害に対する診断基準や医学的リハビリテーションの実際について理解することができる。  <b>【授業形態】</b> 講義形式+グループワーク</p> <p>7回目 運動器疾患・ロコモティブシンドロームに対する医学的リハビリテーションの実際  <b>【到達目標】</b>          ・運動器疾患に対する医学的リハビリテーションやロコモティブシンドロームの診断基準、対応について理解することができる。  <b>【授業形態】</b> 講義形式+グループワーク</p> <p>8回目 在宅生活に必要な道具（装具、歩行補助具、車いすなど）と住環境、制度の実際  <b>【到達目標】</b>          ・在宅生活に必要な住環境整備や介護保険制度について理解することができる。  <b>【授業形態】</b> 講義形式+グループワーク</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>準備学習として該当する教科書の項目と配布資料を熟読すること（予習時間120分）。          終了した講義の内容について教科書の項目と配布資料を熟読すること（復習時間120分）。          各講義内で課題を提示するので講義終了後にレポート作成を行い、期限を守りレポートを提出すること。なお提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	<p>特になし          ※必要に応じて講義資料をGoogle Classroomに掲載する。</p>
参考書	<p>・「看護学原論 改訂第3版」南江堂          ・「対訳 看護覚え書」うぶすな書院          ・「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PT・OTのための臨床実習で役立つリハビリテーション基本手技（PT版）」 診断と治療社</li> <li>・「PT・OTのための臨床実習で役立つリハビリテーション基本手技（OT版）」 診断と治療社</li> </ul>
成績評価	・提出されたレポートで100%評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 實江子  研究室 : 6号館1階非常勤講師室  オフィスアワー : 講義終了後に相談すること</p> <p>担当教員名 : 木村 篤史  研究室 : 附属病院総合リハビリテーションセンター  メールアドレス : a_kimura@meiji-u.ac.jp  オフィスアワー : メールにて事前連絡の後、随時調整する。</p>
備考	<p>①実務経験  深田 實江子：京大病院の循環器内科勤務と市中病院の訪問看護ステーション勤務。その実務経験と26年間の看護教育経験をもとに看護学概論の授業を行う。  木村 篤史：医療機関のリハビリテーションセンターにて理学療法士として27年間の実務経験を有する。その実務経験を基にリハビリテーション医学に関する内容について授業を進める。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→◎-3  ③アクティブラーニングの有無：有り。具体的にはグループディスカッションなどを通じて自発的な課題解決を促す。  ④課題に対するフィードバックの方法：講義時間内に口頭にて実施する。</p>

講義科目名称： はりきゅう柔整論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習（オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	鍼灸に携わる大学生として、柔道整復師についての有用な知見を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション．柔道整復師について 【到達目標】 ・柔道整復師の概要について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第2回	骨の損傷 【到達目標】 ・骨の損傷について説明できる。 ・骨粗鬆症について説明できる。 ・骨損傷に加わる力について説明できる。 ・骨折時に現れる固有の症状について説明できる 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第3回	骨の損傷例（上腕骨の骨折） 【到達目標】 ・上腕骨の骨折について説明できる。 ・上腕骨の固定法について説明できる。 ・骨折の癒合日数について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第4回	脱臼の定義 【到達目標】 ・脱臼の定義について説明できる． P. 58 ・脱臼の発生頻度について説明できる． P. 58 ・脱臼の症状について説明できる P. 63 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第5回	脱臼の例（肩の脱臼） 【到達目標】 ・肩関節脱臼について説明できる。 ・肩関節脱臼の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第6回	脱臼の例（肘の脱臼） 【到達目標】 ・肘関節脱臼について説明できる。 ・肘関節脱臼の固定法について説明できる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第7回	試験及びまとめ 到達目標】 ・全体的な概要を説明できる。 【授業形態】 ・対面形式で行う．日時は別途指定する。 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
	第8回	総括 到達目標】 ・講義全体を振り返り、柔道整復学を説明することができる。 【授業形態】 ・確認問題（正誤問題）またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	種々の問題を自力で解けるようになるために参考書を用いた予習（130分）と講義内容の復習（130分）を行う。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	柔道整復学・理論編（改訂第6版）		
成績評価	1回の試験により成績を評価する。  本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。		



担当教員の基本情報	担当教員名 : ○赤澤 淳 研究室 : 5号館3階 メールアドレス : j_akazawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい.
備考	この講義とディプロマポリシーとの関連「◎-1」 科目コード「-」
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴（20～50分程度）と課題（30～80分程度）で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。
	「課題の提出は-googleクラスルームで受け付けます」

講義科目名称： はり・きゅう師に必要な栄養学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
桑原 彩			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	社会においては、はり・きゅう師の求められる知識は専門知識に限らない。更に専門性を高める一助となるよう、基礎的な栄養学の知識を習得し活用できるようになる。		
授業計画	第1講	オリエンテーション及び栄養の基礎(糖質・脂質) [到達目標] 日本人の食生活の変遷を踏まえ、健康増進と疾病予防のための栄養学の全体像を把握する。 エネルギー源となる糖質、脂質の特徴について学び、適切な摂取方法を理解する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第2講	栄養素の基本(タンパク質・ビタミン・ミネラルについて) [到達目標] 各栄養素の特徴について学び、適切な摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第3講	食事バランスガイド・ライフステージ別の栄養 [到達目標] 食事バランスガイドの活用方法を理解する。各ライフステージに必要な栄養について学び、適切な摂取方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第4講	水分補給と熱中症 [到達目標] 正しい水分補給の方法を学び、熱中症への対策ができるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第5講	ウエイトコントロールと行動変容 [到達目標] 減量、増量について正しい方法を理解し、アドバイスできるようになる。行動変容の理論を活用できるようになる。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第6講	試合期の食事・サプリメントについて [到達目標] アスリートへ試合前の食事アドバイスができるようになる。サプリメントの正しい活用方法を把握する。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第7講	障害予防、疾病対策のための食事 [到達目標] 障害、疾病の予防及び罹患時対策のために必要な栄養素について学ぶ。 [授業形態] 講義終了後にGoogleフォームに解答し講義の重点を理解する。 [必要な準備] 配布(配信)した資料を用いて予習、復習する。(30分)	
	第8講	まとめ(評価含む) [到達目標] 指定されたテーマに対する栄養指導案を作成できるようになる。 [授業形態] グループディスカッション(アセスメント)を行い、作成した指導案について発表する。 [必要な準備] 第1～7講の内容を復習する。(60分)	
授業時間外の学習(準備学習等)について	復習：配布(配信)された資料とともに講義内容を復習する。Googleフォームに解答し、講義の重点を理解する。(30分)		
教科書	指定なし。		
参考書	「栄養の基本がわかる図解辞典」 中村丁次著 成美堂出版 「スポーツ栄養学」 田中紀子、平野直美編 化学同人 「高齢者の栄養ケア」 田村佳奈美編 メディカ出版		
成績評価	出席基準に達した者に対し、レポート提出にて評価する。(平常点20%、レポート80%)		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 桑原 彩 メールアドレス : a_kuwabara@meiji-u.ac.jp		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1		

講義科目名称： 患者教育とコーチング

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習、アクティブ ラーニングを活用	
添付ファイル			

授業目標	本授業では、鍼灸治療に必要な患者教育に焦点をあて、カウンセリング、コーチングについて理解することを授業目標とする。		
授業計画	1時間目	患者教育、コーチング、カンセリングとは① ・患者教育、コーチング、カウンセリングについて説明できる ・患者教育が必要な社会背景について説明できる	
	2時間目	患者教育、コーチング、カンセリングとは② ・患者教育、コーチング、カウンセリングについて説明できる ・患者教育が必要な社会背景について説明できる	
	3時間目	コーチングとは ・コーチングとカウンセリングの違いについて説明できる ・コーチの役割について説明できる	
	4時間目	患者教育とは ・患者教育、コーチングに必要な面接技法が説明できる	
	5時間目	患者教育・コーチングの技法① ・患者教育、コーチングに必要な面接技法が説明できる	
	6時間目	患者教育・コーチングの技法② ・目標達成の3つのステップが説明できる。	
	7時間目	患者教育・コーチングの技法② ・サポートの必要性が説明できる。	
	8時間目	まとめ	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	本授業内容について授業後は復習してください。		
教科書	授業に関する資料は、配布します。		
参考書	特に指定はありません。		
成績評価	授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象としてレポート提出を認める。 レポートは60点以上を合格とする。		
担当教員の基本情報	本授業は、オンデマンド形式で実施する。質問等については、Mellyもしくはメールにて福田までご質問ください。 f_fukuda@tch.meiji-u.ac.jp		
備考	実務経験 福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。 【この科目とディプロマポリシーとの関連：◎3関心・意欲、○2思考・判断		

講義科目名称： 鍼灸経営論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
山崎 翼			
鍼灸学科	15時間	授業形態：講義（対面） 対話	AL：
添付ファイル			

授業目標	<p>鍼灸治療院の開業ならびに経営に関して、必要な基本事項について学習し、これからの経営方法についての理解を深める。</p> <p>そのために必要な知識について、授業内調査や発表などのアクティブラーニングを通して理解を深める。</p> <p>&lt;基本事項&gt;</p> <p>1) 経営理念、目標設定の重要性</p> <p>2) 鍼灸院の開設（立地条件、競合院調査、マーケティング）</p> <p>3) 鍼灸院の外観・内装・看板</p> <p>4) 鍼灸院の宣伝・競合について</p> <p>5) まとめ</p>
授業計画	<p>1回目 マーケティングに関する用語の学習 キャズム、レッド（ブルー）オーション、プロダクトアウト、チャネル戦略、機会損失などのマーケティングに関する用語について理解を深め、基本的な知識を身につける。</p> <p>2回目 販売戦略について モノ売り、コト売り、トキ売りなど、さまざまな販売戦略について学習する。 講義内において、POPを自主作成し、理解を深める。</p> <p>3回目 広報戦略について 一般的な広報戦略について学習した上で、それを鍼灸院経営に活用する方策について理解を深める（広告制限と回避方策など）。</p> <p>4回目 一次情報の取得について マーケティングにおいて重要な、一次情報の取得について理解を深める。 具体的な内容として、D2C、B2B、B2C、ポイントビジネスと貨幣価値について解説する。</p> <p>5回目 従業員の雇用と管理について 従業員の雇用と管理の方法について理解を深める。 マイルストーンを利用した目標管理とPDCAサイクルとの関連などについて解説する。</p> <p>6回目 リコメンドビジネスと人工知能の活用 鍼灸院経営におけるIT技術の活用について解説し、理解を深める。 合わせて、リコメンドビジネスについても解説する。</p> <p>7回目 正常化バイアスと未来予測とトレンド 経営において最も重要な変化について学ぶとともに、それを阻害する正常化バイアスとトレンド変化について理解を深める。</p> <p>8回目 治療院の開院と経営戦略のまとめ 実際の治療院の開院と経営戦略についてワークショップを行い、授業内でプレゼンテーションを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布された資料（授業スライド）の内容を参考に、指定された講義の範囲を予習（30分）と講義後に授業の範囲の復習（30分）を行ってください。原則として毎回講義前に前回の概要を話します。講義前日に配布資料を見直して、不明な点は講義時間の後で教員に質問してください。
教科書	自作プリント
参考書	「鍼灸院経営のすべて」出端昭男（医道の日本社） 「治療院経営Q&A」目黒章布（医道の日本社）
成績評価	1. 出席基準をみたした者を対象に、レポートの内容を総合して評価する。（平常点20%、レポート評価80%） 2. 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。 3. 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名：山崎 翼 研究室：鍼灸センター 2階 教員室 オフィスアワー 木曜日16：40～
備考	1. 実務経験 附属鍼灸センター、京都桂川鍼灸院にて鍼灸治療を担当。その実務経験を基に講義を行う。
	2. ディプロマ・ポリシーとの関連 ◎-1
	3. 授業資料は事前にグーグルクラスルームに公開するので、予習を行ってください。

講義科目名称： 社会鍼灸学

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
矢野 忠			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習 AL：対話	
添付ファイル			

授業目標	<p>社会鍼灸学は、社会における鍼灸医療の存在意義と役割を学ぶ授業科目です。社会鍼灸学と表裏関係にある学問分野が医療社会学、鍼灸について言えば「鍼灸社会学」と言うこととなります。</p> <p>本授業では医療社会学の視点を踏まえて社会における鍼灸学の役割とその存在意義について討論し、社会における鍼灸医療の可能性について考え、鍼灸療法の未来の地平を拓く視点を培う。</p>		
授業計画	第1講	<p>社会鍼灸学序論</p> <p>[到達目標] 社会鍼灸学とは何か、医療社会学との関係、医学と医療、疾病と病気、病気と患者などについて、どのような視点で捉えるのかをみんなで議論し、鍼灸学の意義について考える。</p>	
	第2講	<p>健康と病気</p> <p>[到達目標] 健康とは何か、多様な健康観について紹介し、みんなで健康とはなにかについて討論し、鍼灸医療の役割について考える。</p>	
	第3講	<p>健康格差について</p> <p>[到達目標] 社会と健康の関係を「健康格差」の視点から</p>	
	第4講	<p>ストレス社会</p> <p>[到達目標] ストレス社会における鍼灸医療の役割について、みんなで討論し、鍼灸医療の意義と特徴について考える。</p>	
	第5講	<p>健康経営</p> <p>[到達目標] 社会が健全に成長するには労働者が健康でなければならない。それを支える視点が「健康経営」である。健康経営についてみんなで討論し、鍼灸医療の役割について考える。</p>	
	第6講	<p>性差医療</p> <p>[到達目標] 医療の多様性として「性差医療」が注目されている。性差医療、特にレディース鍼灸について学修するとともに「性差医療」について、みんなで討論し、鍼灸医療の役割について考える。</p>	
	第7講	<p>超高齢社会</p> <p>[到達目標] 超高齢社会の医療についてみんなで討論し、高齢者に対する鍼灸医療、特にフレイルと自立に対する役割について考える。</p>	
	第8講	<p>鍼灸医療の進むべき道 グループ発表 アクティブラーニング</p> <p>[到達目標] 鍼灸医療の特性を踏まえて、鍼灸医療の進むべき道について、みんなで討論し、自分なりの道を探る。スモールヘループに別れ、それぞれ発表し、討論する。</p>	
授業時間外の学習(準備学習等)について	配布資料を配布し、授業のテーマについて自分なりに考える。		
教科書	配布資料を配布し、授業のテーマについて自分なりに考える。		
参考書	授業中に推奨する書籍を紹介する。		
成績評価	課題に対するレポートおよび出席日数、授参加態度を総合的に判断し優、良、可で評価します。最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 矢野 忠 名誉教授 客員教授</p> <p>研究室 : 1号館2階研究室</p> <p>メールアドレス : t_yano@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 事前に予約</p>		
備考			

講義科目名称： 鍼灸総合演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
齊藤真吾、鶴浩幸、山崎翼、多田羅勝広、糸井マナミ、澤谷友香理			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義・演習（対面）	AL
添付ファイル			

授業目標	<p>目的</p> <p>本講義は、はり師きゅう師の国家試験に合格するだけでなく、将来はり師きゅう師として、あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることを目的としています。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造と機能を理解すること</li> <li>2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につけること</li> <li>3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につけること</li> </ol>
授業計画	<p>第1・2回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第3・4回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第5・6回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第7・8回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第9・10回 模擬試験</p> <p>【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>第11・12回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第13・14回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第15・16回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第17・18回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広）</p> <p>【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第19・20回 はりきゅう理論（担当：齊藤真吾）</p> <p>【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第21・22回 公衆衛生（担当：糸井マナミ）</p> <p>【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>

第23・24回	問題演習とフィードバック 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験
第25・26回	病理学（担当：澤谷） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第27・28回	病理学（担当：澤谷） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第29・30回	模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験
第31・32回	解剖学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第33・34回	生理学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第35・36回	模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験
第37・38回	解剖学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第39・40回	生理学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第41・42回	模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験
第43・44回	はりきゅう理論 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第45・46回	リハビリテーション 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第47・48回	リハビリテーション 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック
第49・50回	病理学 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック

	<p>第51・52 病理学 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第53・54回 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験</p> <p>第55・56回 解剖学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第57・58回 生理学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第59・60回 まとめ（評価含む） 【到達目標】 これまで学んできたこと</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行なってください。 事前学習（予習 所要時間30分） 授業内容に関連する領域の教科書を読む。 事後学習（復習 所要時間30分） 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。</p>
教科書	「鍼灸国家試験攻略テキスト」（上下巻）2024 明治東洋医学院専門学校 2,000円
参考書	<p>公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解剖学</li> <li>2. 生理学</li> <li>3. 臨床医学総論</li> <li>4. 臨床医学各論</li> <li>5. 東洋医学概論</li> <li>6. 経絡経穴概論</li> <li>7. 東洋医学臨床論</li> </ol> <p>「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Vol.1 消化器</li> <li>Vol.2 循環器</li> <li>Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌</li> <li>Vol.4 呼吸器</li> <li>Vol.5 血液</li> <li>Vol.6 免疫・膠原病・感染症</li> <li>Vol.7 脳・神経</li> <li>Vol.8 腎・泌尿器</li> <li>Vol.9 婦人科・乳腺外科</li> <li>Vol.11 運動器・整形外科</li> <li>Vol.12 眼科</li> </ol>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験対策模擬試験 : 全てを必須受験とする。</li> <li>2. 期末試験（100%） : 期末試験として後期末に評価試験を満点を100%として実施する。</li> <li>3. 追再試験 : 期末試験に不合格となった者、あるいは期末試験を受験しなかった者に実施する。</li> </ol> <p>【評価基準】 実施される模擬試験を全て受験して、期末試験の評価点が60%以上取得出来た者に対して単位を評価する。</p> <p>「本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。」</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名 : 齊藤真吾 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 鶴浩幸 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : h_turu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 澤谷 友香理 所属先 : 附属病院2階病理部</p>



	<p>連絡先 : y_kotani@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 月-金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>1. 実務経験          齊藤真吾 : はり師きゅう師、鍼灸学 (博士)          鶴浩幸 : はり師きゅう師、鍼灸学 (博士)          明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>澤谷 友香理 : 臨床検査技師、細胞検査士 (国内・国際)、2級甲類臨床検査士 (病理学)          市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし本授業の講義を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連          ◎-1</p> <p>3. 科目ナンバー          SS-3-AM37-ES-S-0</p>
	<p>授業計画については現段階でのものである。授業担当者と担当コマ数に変更となる場合がある。なお変更がある場合には授業において別途指示をする。</p>

講義科目名称： 鍼灸総合演習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
齊藤真吾、鶴浩幸、山崎翼、多田羅勝広			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：問題・演習（対面）	
添付ファイル			

授業目標	<p>目的 本講義は、はり師きゅう師の国家試験に合格するだけでなく、将来はり師きゅう師として、あるいは医療の専門家として、患者の悩みや社会の医療健康課題に対して貢献できる人材になるために必要な問題解決能力を身につけることを目的としています。</p> <p>目標 1. 人体の構造と機能を理解すること 2. 構造と機能の知識を疾病の成り立ち（病態）に活かせる能力を身につけること 3. 効果的な学習の進め方に関する知識と学習習慣を身につけること</p>
授業計画	<p>第1・2回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第3・4回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第5・6回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第7・8回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第9・10回 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。</p> <p>第11・12回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第13・14回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第15・16回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第17・18回 臨床医学各論（担当：多田羅勝広） 【到達目標】 主要疾患の病態と症状を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第19・20回 はりきゅう理論（担当：齊藤真吾） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第21・22回 公衆衛生（担当：糸井マナミ） 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p>

第23・24回	<p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第25・26回	<p>模擬試験</p> <p>病理学（担当：澤谷）</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第27・28回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>病理学（担当：澤谷）</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第29・30回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第31・32回	<p>模擬試験</p> <p>解剖学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第33・34回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>生理学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第35・36回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第37・38回	<p>模擬試験</p> <p>解剖学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第39・40回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>生理学演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第41・42回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>模擬試験</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>現在の到達レベルを知ること。</li> <li>得意な分野、不得意な分野を知ること。</li> </ol> <p>【授業形態】</p>
第43・44回	<p>模擬試験</p> <p>はりきゅう理論</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第45・46回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第47・48回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>リハビリテーション</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
第49・50回	<p>問題演習とフィードバック</p> <p>病理学</p> <p>【到達目標】</p> <p>基本事項および頻出項目を理解する。</p> <p>【授業形態】</p>
	<p>問題演習とフィードバック</p>

	<p>第51・52 病理学 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第53・54回 模擬試験 【到達目標】 1. 現在の到達レベルを知ること。 2. 得意な分野、不得意な分野を知ること。 【授業形態】 模擬試験</p> <p>第55・56回 解剖学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第57・58回 生理学演習 【到達目標】 基本事項および頻出項目を理解する。 【授業形態】 問題演習とフィードバック</p> <p>第59・60回 まとめ（評価含む） 【到達目標】 これまで学んできたこと</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>授業に臨むマナーとして、授業計画を参考に自学自習を行なってください。 事前学習（予習 所要時間30分） 授業内容に関連する領域の教科書を読む。 事後学習（復習 所要時間30分） 1. ここからプリントを用いて、知識を整理する。 2. 過去の国家試験問題を解き、傾向と対策を練る。</p>
教科書	「鍼灸国家試験攻略テキスト」（上下巻）2024 明治東洋医学院専門学校 2,000円
参考書	<p>公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>解剖学</li> <li>生理学</li> <li>臨床医学総論</li> <li>臨床医学各論</li> <li>東洋医学概論</li> <li>経絡経穴概論</li> <li>東洋医学臨床論</li> </ol> <p>「病気がみえる」 医療情報科学研究所編 株式会社メディックメディア 平成29年6月発行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Vol.1 消化器</li> <li>Vol.2 循環器</li> <li>Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌</li> <li>Vol.4 呼吸器</li> <li>Vol.5 血液</li> <li>Vol.6 免疫・膠原病・感染症</li> <li>Vol.7 脳・神経</li> <li>Vol.8 腎・泌尿器</li> <li>Vol.9 婦人科・乳腺外科</li> <li>Vol.11 運動器・整形外科</li> <li>Vol.12 眼科</li> </ol>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>【評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国家試験対策模擬試験 : 全てを必須受験とする。</li> <li>2. 期末試験（100%） : 期末試験として後期末に評価試験を満点を100%として実施する。</li> <li>3. 追再試験 : 期末試験に不合格となった者、あるいは期末試験を受験しなかった者に実施する。</li> </ol> <p>【評価基準】 実施される模擬試験を全て受験して、期末試験の評価点が60%以上取得出来た者に対して単位を評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名 : 齊藤真吾 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : s_saito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 鶴浩幸 所属先 : 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室 連絡先 : h_turu@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 原則として17時30分～</p> <p>教員名 : 澤谷 友香理 所属先 : 附属病院2階病理部 連絡先 : y_kotani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>

備考	<p>1. 実務経験</p> <p>齊藤真吾：はり師きゅう師、鍼灸学（博士）  鶴浩幸：はり師きゅう師、鍼灸学（博士）  明治国際医療大学附属鍼灸センターでの実務経験をもとに指導を行う。</p> <p>澤谷 友香理：臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学）  市中病院勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験を活かし本授業の講義を行う。</p> <p>2. ディプロマポリシーとの関連  ◎-1</p>
	<p>授業計画については現段階でのものである。授業担当者と担当コマ数に変更となる場合がある。なお変更がある場合には授業において別途指示をする。</p>

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅰ：予防・養生 授業コード：  
生

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：オンデマンド（講義・AL対話）	
添付ファイル			

授業目標	<p>これからの医療に必要な予防や養生の基礎となる内容を学ぶ。 特に鍼灸師として、患者教育に必要な予防・養生の知識を系統的に学ぶこととします。 最終的には、鍼灸治療の際の患者指導、健康教室の開催が自分でできることを目標としています。 なお、講義はクラスルームから動画を視聴し、レポートを作成します。レポートはグーグルクラスルームで受け付けます。</p>
授業計画	<p>第1回 これからの医療で何故予防や養生が必要か？ これからの医療の中で予防や養生が必要な理由を動画で学習し、予防・養生の大切さを知る</p> <p>第2回 脳を考える 健康の精神を保つための脳について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第3回 腸を考える 便秘や下痢の原因となる腸について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第4回 老化を考える 人の最大の悩みである老化について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第5回 睡眠・疲労を考える 健康の中で大切な睡眠や疲労について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第6回 運動を考える 健康の中で大切な運動について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第7回 食事を考える 健康の中で大切な食事について動画で学習し、機序や病気との関係、さらには家庭でも行えるセルフケア（養生）について学習する。</p> <p>第8回 健康の継続に必要なコミュニティとは 健康とコミュニティの関係について学習し、どのような効果があるのかを知る</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>毎回講義ごとに動画を配信しますので、関連する内容（参考資料など）について授業前・授業後にそれぞれ30分間程度予習復習をしてください。</p>
教科書	指定なし
参考書	今日からはじめる養生学（集英社インターナショナル）
成績評価	<p>オンデマンドによる課題講義と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 講義の前半はオンデマンド教材を見て各自がレポートを行い、後半はその意見を各自、またはグループ（アクティブラーニング）で発表し、授業内でフィードバックする。 出席日数は、3/5以上を受験資格とし、クラスルームに提出されたレポートと発表で評価する。</p> <p>評価はレポートと出席で行い、レポートを60%、出席（発表を含む）を40%とする。 なお、成績評価は、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。</p> <p>本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 伊藤和憲 研究室 : 鍼灸センター2階教授室 メールアドレス : k_itoh@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日の12:30～13:30</p>
備考	<p>DPとの関係 1：知識・理解-○ 3：関心意欲-◎</p>
	<p>職務経歴 鍼灸センター、京都桂川治療院、附属病院に勤務。その臨床経験をもとに教授する。</p>

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅱ：健康寿命 授業コード：  
命

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	演習（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：本演習では、超高齢社会を迎えた日本において健康寿命を伸延するにはどのような対応が良いのか、危急な課題となっている。厚生労働省は健康日本21で「健康寿命の延伸」を目的に種々の施策がなれている。この課題を理解でき、鍼灸師はどのように取り組むのかを考察する。 到達目標：健康寿命を理解し、健康寿命を伸延するにはどのようなことを行う必要があるのかを考え、鍼灸師に行える健康指導や鍼灸治療を提案できる。</p>
授業計画	<p>第1回 健康寿命について 健康寿命とは何か、平均寿命との違い、他国と比較して日本の健康寿命の現状を理解し、説明することができる。 【授業形態】講義 配布資料中の設問に答えることができる（復習）。AL；Googleformによる課題、健康寿命についてを記載できる。 必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第2回 健康寿命の延伸とその施策について 健康日本21では「健康寿命の延伸」を目的に種々の施策がなれている。関心のある施策を理解してまとめることができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、配布資料中の設問や健康寿命の延伸と施策についてを記載できる（復習）。 必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第3回 健康寿命の延伸とその施策について 「健康寿命の延伸」の施策について、関心のある施策を要約して提示することができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、「健康寿命の延伸」の施策について、関心のある施策を要約して記載できる（復習）。 必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第4回 健康寿命と生命観、健康観 健康寿命を踏まえて、生命観や健康観について調べ、その意義を考察することができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、健康寿命を踏まえて、生命観や健康観についての意義などを記載できる（復習）。 必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第5回 東洋医学の健康と寿命 『黄帝内経素問』上古天真論にある寿命の延伸と養生に関する内容を理解し、その要点を説明することができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、東洋医学における寿命の延伸と養生に関する内容などを記載できる（復習）。 必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第6回 健康寿命の延伸と鍼灸の役割 東西医学の考え方から、鍼灸師が健康寿命の延伸に関与できることを調べることができる。また、その成果を要約して提示することができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、東西医学の考え方から、鍼灸師が健康寿命の延伸にどのように関わることができるのかを考え、記載できる（復習）。必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第7回 健康寿命の延伸と鍼灸の役割 その2 東西医学の考え方から、鍼灸師が健康寿命の延伸に関与できることの結果（幾つかの意見）を踏まえ、再度、自らの健他の学生が考えた鍼灸師の健康寿命の延伸に関与できることに関して、検討することができる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、講義を踏まえて自らが健康寿命の延伸にどのように関わることができるのかを考え、記載できる（復習）。必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p> <p>第8回 まとめおよび課題レポート 講義全体を通して知識をまとめることができる。健康寿命の延伸に関与できることを考察できる。 【授業形態】講義 AL；Googleformによる課題、講義全体から健康寿命の延伸を行うための、東西医学における方法の概要を説明し、記載することができる（復習）。必要に応じてmellyなどでフィードバックを行う。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>配布プリントを熟読したり、課題テーマに対して調べること。 配布プリントの内容を参考にし、各テーマについて自身の考えを考察すること。 上記の授業毎に1時間の予習・復習を行うこと。</p>

教科書	自作プリント
参考書	厚生労働白書
成績評価	出席基準:授業回数の5分の3以上の出席(欠席は2回まで)を満たした者を対象に評価する。欠席の場合は必ず欠席届を提出すること。評価レポートを適切な理由無くして提出しなかった場合は、再評価を行わない。 (平常点:30%、評価レポート:70%) 評価に必要な課題レポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 附属鍼灸センター2F教員室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 木・金曜日の昼休み、放課後
備考	鍼灸センター・京都駅前鍼灸院・統合医療センターにて鍼灸治療の実務経験あり。、また在宅訪問鍼灸にも実務経験がある。 アクティブラーニング ; 自ら興味を持つ健康寿命に関する事項を調べ、その内容を要約したり、それに関して質問をする。 授業とディプロマポリシーとの関連: 3-◎、1-○



講義科目名称： 人の生活・生きがいとほり・きゅう論Ⅲ：医療連 授業コード：  
携

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
福田 文彦			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習、アクティブ ラーニングを活用	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、今まで学修した基礎医学、臨床医学、鍼灸学を演習を通じてまとめる、多職種の役割を考える、鍼灸治療を考えることができることを授業目標とする。また、本科目の学修が医療と連携した鍼灸治療(医療連携)につながることを認識することを授業目標とする。</p> <p>授業は2部構成となっている。1部では、症状・疾患および多職種の役割について、2部では鍼灸治療の目的について講義を行う。</p>
授業計画	<p>1時間目 医療連携とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携について説明できる。</li> </ul> <p>2時間目 慢性閉塞性肺疾患(COPD)と鍼灸治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性閉塞性肺疾患について説明できる。</li> <li>・慢性閉塞性肺疾患に対する多職種の役割について説明できる。</li> <li>・慢性閉塞性肺疾患の鍼灸治療の目的、治療方法について説明できる。</li> </ul> <p>3時間目 便秘と鍼灸治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘について説明できる。</li> <li>・便秘に対する多職種の役割について説明できる。</li> <li>・便秘の鍼灸治療の目的、治療方法について説明できる。</li> </ul> <p>4時間目 糖尿病と鍼灸治療①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性閉塞性肺疾患について説明できる。</li> <li>・慢性閉塞性肺疾患に対する多職種の役割について説明できる。</li> </ul> <p>5時間目 糖尿病と鍼灸治療②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性閉塞性肺疾患の鍼灸治療の目的、治療方法について説明できる。</li> </ul> <p>6時間目 緩和医療と鍼灸治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和医療について説明できる。</li> <li>・緩和医療に対する多職種の役割について説明できる。</li> <li>・緩和医療における鍼灸治療の目的、治療方法について説明できる。</li> </ul> <p>7時間目 ストレス疾患と鍼灸治療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレス疾患について説明できる。</li> <li>・ストレス疾患に対する多職種の役割について説明できる。</li> <li>・ストレス疾患の鍼灸治療の目的、治療方法について説明できる。</li> </ul> <p>8時間目 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携としての鍼灸治療の役割が説明できる。</li> </ul>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>本授業内容について授業前には必要な基礎医学、臨床医学について予習してください。授業後は、鍼灸治療について復習してください。</p>
教科書	<p>授業に関する資料は、配布します。</p> <p>学修に必要な基礎医学、臨床医学、鍼灸学の教科書・資料(今まで学修したものは)準備してください。</p>
参考書	<p>指定する参考書はありません</p> <p>臨床医学については、</p>
成績評価	<p>授業の3/5以上の出席日数を満たした者を対象としてレポート提出を認める。</p> <p>レポートは60点以上を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>本授業は、オンデマンド形式で実施する。質問等については、Mellyもしくはメールにて福田までご質問ください。</p> <p>f_fukuda@tch.meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>実務経験</p> <p>福田文彦：附属鍼灸センター、京都駅前鍼灸院に勤務、その実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>【この科目とディプロマポリシーとの関連：◎3関心・意欲、○2思考・判断】</p>

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅳ：臨床ス ポーツ  
ポーツ

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択必修
担当教員			
谷口 剛志			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習・実技 AL:対話	
添付ファイル			

授業目標	本授業は、はり師きゅう師としてアスリートとどのように関わっていくのか？また、スポーツ現場で得た知見をいかに一般の方々に浸透させていくのか？をテーマに、これまでの現場経験をもとに、演習・実技を行ない、現場でのcapavility (対応力) 向上を目指します。
授業計画	<p>1回目 EAA (スポーツ鍼通電療法) 【到達目標】 EAA (ElectroAcupuncture for Athlete)の方法論を理解し、状況に応じてEAAができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>2回目 Sr-AP (スポーツ再適応プログラム) 【到達目標】 SRAP (Sports re-Adaptation Program)の方法論を理解し、状況に応じてSRAPができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>3回目 FAT (女性アスリートの3主徴) 【到達目標】 FAT (Female Athlete Triad) の特徴を理解し、東洋医学を活かしたアプローチができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>4回目 Recovery (回復系アプローチ) 【到達目標】 自律神経系・免疫系のインバランスに着目し、東洋医学を活かしたアプローチができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>5回目 Alignment (調整系アプローチ) 【到達目標】 筋骨格系のマルアライメントに着目し、東洋医学を活かしたアプローチができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>6回目 Performance (出力系アプローチ) 【到達目標】 筋の入・出力系に着目し、東洋医学や反射療法を活かしたアプローチができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>7回目 Mental (心身系アプローチ) 【到達目標】 筋の入・出力系に着目し、東洋医学や反射療法を活かしたアプローチができる力を修得します。 【授業形態】 AL</p> <p>第8回 Well-being (最適系アプローチ) 【到達目標】 その人にとってより良い状態とはどのような状態か？をテーマに、様々なアプローチを一緒に考え、提案・実行できる力を修得します。 【授業形態】 AL</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>予習 (60分) 準備学習として、テーマに関連した論文等を事前に配布します。授業開始までに読んで、臨んでください。</p> <p>復習 (60分) 授業で出された課題を作成してください。</p>
教科書	授業プリントを配布します。
参考書	<p>1. A new perspective to electroacupuncture and a brief history of the MITSU METHOD of "PICA PAU"</p> <p>2. Kiiiko Matsumoto's Clinical Strategies. In the Spirit of Master Nagano. Volume 1 &amp; 2.</p> <p>3. テーピング療法最前線 医道の日本社. 2018.</p> <p>4. チャップマンとグッドハートによる神経リンパ反射療法 ガイアブックス. 2016.</p> <p>5. コンテクスチュアルトレーニング 運動学習・運動制御理論に基づくトレーニングとリハビリテーション フランボッシュ著 大修館書店</p>
成績評価	<p>受験資格：学生便覧に準じ、総授業時間数の3/5 以上の出席者に対し、評価を実施します。</p> <p>評 価：初回の授業時に配布するレポートルーブリックをもとに評価します。60%以上を取得出来た者に単位を認定します。</p>
担当教員の基本情報	<p>教員名：谷口剛志 (臨床歴26年)</p> <p>経 歴：はり師きゅう師、スポーツ健康科学 (修士)</p> <p>たなか針灸治療所、永澤鍼灸院、明治東洋医学院専門学校附属鍼灸センター、やまぎわ整形外科、渡辺整形外科、Avante OSAKAビーチサッカートレーナー、KALEBITCHフットサルトレーナー、ポルトガルクリニカ土屋、SLベンフィカ、ベンフィカフットボールキャンパス、FCバルセロナフットサル、FCポルトクリニカドラゴン、明治国際医療大学附属鍼灸センター、アスリートサポートセンターでの実務経験をもとに実習指導を行う。</p> <p>所属先：鍼灸学部はりきゅう学講座 附属鍼灸センター2階鍼灸教員室、アスリートサポートセンター</p> <p>連絡先：t_taniguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：随時 ※メリーで連絡ください</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連 ○-③ ○-①

講義科目名称： 人の生活・生きがいとはり・きゅう論Ⅴ：伝統 授業コード：  
医学

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
和辻 直			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	演習（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本特論では、日本で昭和初期に体系化され、伝承されてきた伝統的な鍼灸治療法の一つである「経絡治療」を取り上げ、診察から治療までの一連の過程を学習する。また経絡治療と中医学における臨床的な活用についても学習する。自ら興味を持つ愁訴について調べることで、伝統医学における病証と治療を理解する。なお経絡治療は、特に六部定位の脈診法による脈証の判断、診察情報からの証の決定の基礎を学習する。</p> <p>これまで学んできた伝統はり・きゅう学を復習して、基本と応用を学習し、自ら興味を持った愁訴において伝統鍼灸学の診察・治療をまとめて、レジメを作成できるようになる。</p>
授業計画	<p>1 回目 日本伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学） [到達目標] 日本伝統鍼灸の特徴（経絡治療、中医学）を理解できる。 予習：「経絡治療とは」を調べてみる。 復習：経絡治療と中医学の特徴を整理できる。 AL：Googleformによる課題（日本の伝統鍼灸の特徴、中医学との比較など）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>2 回目 経絡治療の病証と切診（六部定位脈診） [到達目標] 経絡治療の病証と切診について概要を理解できる。 予習：「六部定位の臟腑配当や六祖脈」を直ぐに言えるようにする。 復習：六部定位脈診、腹診と経絡治療との関連を理解する。基本的な脈診（六祖脈）が取れる。 AL：Googleformによる課題（経絡治療の体系、経絡治療における病証あるいは体質）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>3 回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（1） [到達目標] 腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療ができる。 予習：腰痛、頭痛、腹痛について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：腰痛、頭痛、腹痛における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習できる。 AL：Googleformによる課題（六部定位の臟腑配当、祖脈と病証について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>4 回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（2） [到達目標] 不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：不眠、喘息、肩こりについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習できる。 AL：Googleformによる課題（不眠、喘息、肩こりにおける伝統医学の病証判断について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>5 回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（3） [到達目標] 感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療ができる。 予習：感冒、便秘、めまいについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：感冒、便秘、めまいにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習できる。 AL：Googleformによる課題（感冒、便秘、めまいにおける伝統医学の病証判断について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>6 回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（4） [到達目標] 耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症について、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学と鍼灸治療の要点を復習できる。 AL：Googleformによる課題（耳鳴、顔面神経麻痺、月経痛、冷え症における伝統医学の病証判断について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>7 回目 伝統医学における愁訴と鍼灸治療（5） [到達目標] 浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療が出来る。 予習：浮腫、倦怠、寝違いについて、臨床鍼灸学で学んだことを調べる。 復習：浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学と鍼灸治療の要点を復習できる。 AL：Googleformによる課題（浮腫、倦怠、寝違いにおける伝統医学の病証判断について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p> <p>8 回目 日本伝統鍼灸について（まとめ） [到達目標] 日本伝統鍼灸における診察 予習：鍼の補瀉を復習する。 復習：日本伝統鍼灸の診察を復習できる。 AL：Googleformによる課題（日本伝統鍼灸を学修した上で、自らの活用について）を記載できる。 mellyで質問や意見に対して、必要に応じてフィードバックする。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義ごとにGoogleformに質問を尋ねる(出席確認にも用いるため、必ず提出する)。このため授業プリントや教科書は持参すること。 また自ら興味を持つ愁訴について、伝統鍼灸の観点から調べてもらう。 授業毎に予習・復習を1時間行うこと。
教科書	『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』教科書検討小委員会著(南江堂) 『中医針灸治療のプロセス』朱紅ほか編、篠原昭二監訳(東洋学術出版社)
参考書	『すぐ使える若葉マークのための鍼灸臨床指針～臓腑病、経脈病、経筋病の診察法と治療法～』篠原昭二・和辻直(ヒューマンワールド社) 『針灸学[臨床篇]』日中共同編集(東洋学術出版社) 『運動器疾患の治療』整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸:平澤康介・北出利勝編集(医歯薬出版社) 『やさしい鍼を打つための本』中根一(医道の日本社) 『経絡治療のすすめ』首藤傳明(医道の日本社)
成績評価	評価方法:受講状況とレポート評価を総合して評価する。 評価割合:レポート60%;レポート評価として、選択した「愁訴について」、 各々、A4レポート用紙2枚以上で提出することとする(30% X2)。 受講状況20%;Googleformの提出状況、成果物など;20% 評価に必要なレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います。 本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すため、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名:和辻直 研究室:附属鍼灸センター2階 教員室 メールアドレス:t_watsuji@meiji-u.ac.jp 担当教員名:和辻直 オフィスアワー:木・金曜日の昼休み、放課後
備考	レポート作成に必要な図書『新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)』教科書検討小委員会著(南江堂)、 『針灸学[臨床編]』(東洋学術出版社)、『新しい鍼灸診療』篠原昭二/和辻直/北出利勝編集(医歯薬出版社)
	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。 アクティブラーニング:自ら興味を持つ愁訴を調べ、その内容を要約したり、それに関する質問を行う。 授業とディプロマポリシーとの関連:○-1、◎-3

講義科目名称： 人の生活・生きがいに必要なはり・きゅう治効学 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
角谷 英治			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	鍼、灸の作用メカニズムについて、詳しい内容を学修し、鍼、灸刺激の主要な作用メカニズムについて、概ね説明でき、理論に基づく作用機序、刺激部位や刺激方法などを、鍼灸臨床に応用するための知識を学修することを目標にします。
授業計画	<p>第1回目 神経系について 鍼灸刺激は、東洋医学的には体内の気・血を循環させることによって、病気を治したり、症状を軽減させると考えられている一方で、現代医学的には、中枢神経系や末梢神経を介した反射を起こすことによって、病気を治したり、症状を軽減させると考えられ、こちらの方が広く理解に一般的に理解されやすいと思われます。そこでこの講義では、鍼灸刺激の神経系を介した作用機序をよく理解するために、生体内の神経系について復習、学修します。</p> <p>第2回目 自律神経系について 鍼灸治療はその効果の一つとして自律神経系に影響を及ぼします。そこでこの講義では、生体の自律神経系について復習、学修します。</p> <p>第3回目 体性感覚刺激の伝導について 生体に行った鍼灸刺激は体性感覚刺激として、感覚神経を興奮させ、中枢神経系の伝導され、末梢部あるいは脊髄、脳幹部等で種々の反射を引き起こして、効果を発揮します。そこでこの講義では、体性感覚刺激の受容から脳までの伝導について復習、学修します。</p> <p>第4回目 鍼灸刺激の特性について 鍼灸刺激の質的な特性とそれを受けた生体の反応について学修します。</p> <p>第5回目 鍼灸刺激によって作用する内因性痛覚抑制系について 鍼灸師羽劇の作用の一つとして鎮痛効果があります。鍼灸刺激は生体内に存在する複数の内因性痛覚抑制系を活発にすることによって、鎮痛効果を起こします。そこでこの講義では鍼灸刺激によって活発になる内因性痛覚抑制系の特徴について学修します。</p> <p>第6回目 鍼灸刺激の自律神経系に対する作用について 鍼灸刺激は種々の自律神経系器官に作用を及ぼします。そこでこの講義では、主に小動物を用いられて行われた研究結果を基に、鍼灸刺激が主要な内臓器官に対して及ぼす影響について学修します。</p> <p>第7回目 電気治療とその理論について 日常の鍼灸臨床では、低周波鍼通電療法（LFEA）や経皮的電気神経刺激法（TENS）などの通電療法が頻繁に行われます。そこでこの講義では、鍼灸臨床で用いられる通電療法の基礎理論と臨床応用について学習します。</p> <p>第8回目 まとめ この講義のまとめと課題（レポート）の作成。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまでに学修した生理学、解剖学、鍼灸治効学の内容を、よく復習しておいてください。
教科書	資料を配布します。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はりきゅう理論（医道の日本社）</li> <li>・鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス（医歯薬出版株式会社）</li> </ul>
成績評価	レポート（8回目の授業の際に授業内容に関連した課題に対するレポートを作成していただきます）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 角谷 英治          研究室 : 鍼灸センター2階 鍼灸学部教員室          メールアドレス : e_sumiya@meiji-u.ac.jp          オフィスアワー : 月曜日・木曜日（時間は随時）</p>
備考	<p>実務経験内容：教育機関の附属鍼灸センターで鍼灸臨床業務に従事しています。その実務経験に基づいて本講義の授業を行います。</p> <p>この科目は、これまで学修した生理学、解剖学、鍼灸治効学などの基礎医学の知識に基づいて、さらに詳細な鍼灸治効機序を学修し、基礎理論に基づく作用機序を鍼灸臨床に応用するための知識を学ぶ科目です。</p> <p>この科目とディプロマ・ポリシーとの関連          1：知識・理解-○、3：関心意欲-◎</p>

講義科目名称： スポーツバイオメカニクス

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
赤澤 淳			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義（遠隔授業：オンデマンド）	
添付ファイル			

授業目標	医療に携わる大学生として、スポーツにおけるパフォーマンスを科学的に分析し説明するための知見および技術を習得することを授業目標とする。		
授業計画	第1回	<p>スポーツバイオメカニクスとは</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しなやかな動作の説明できる。</li> <li>・スキルについて説明できる。</li> <li>・反射と随意運動の説明できる。</li> <li>・ベクトルの計算ができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第2回	<p>動きを数値化する並進運動：速度，加速度，移動距離</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立位，歩行，走行の説明できる。</li> <li>・速度，加速度，移動距離の計算ができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第3回	<p>並進運動の力学：ニュートンの運動方程式，力積，着地時の衝撃吸収</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テコの原理について説明できる。</li> <li>・ニュートンの法則の説明ができる。</li> <li>・力積の計算ができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第4回	<p>回転運動の力学：角速度，角加速度，角変位，ハンマー投げ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角速度，角加速度，角変位の計算ができる。</li> <li>・関節トルク，慣性モーメント，（遠心力）の説明ができる。</li> <li>・変化球の正体（マグヌス力）の説明ができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第5回	<p>流体力学：風をとらえる（抵抗，揚力），水のねばりけ（粘性），摩擦</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風をとらえる抵抗と揚力の説明ができる。</li> <li>・水のねばりけ粘性の説明ができる。</li> <li>・摩擦の説明ができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題またはグループワークに関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第6回	<p>確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</p> <p>効果的な筋力トレーニングについて。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋腱複合体の説明ができる。</li> <li>・効率的なトレーニングの説明できる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対面形式で行う。日時は別途指定する。</li> <li>・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第7回	<p>試験及びまとめ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的な概要を説明することができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
	第8回	<p>総括</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義全体を振り返り，スポーツバイオメカニクスを総合的に判断し説明することができる。</li> </ul> <p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題に関するアクティブ・ラーニング有。</li> </ul>	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義の項目に対して参考書を読み予習（約130分程度）すること。講義の後，配布プリントや参考書を用い復習（約130分程度）すること		
教科書	特に指定しない。		
参考書	スポーツ・バイオメカニクス入門 絵で見る講義ノート 金子 公有 杏林書院 スポーツ動作の科学—バイオメカニクスで読み解く 深代 千之 東京大学出版会		
成績評価	試験（100%）により評価する。		

	本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 赤澤 淳 研究室 : 5号館3階研究室 オフィスアワー : Mellyを活用して連絡して下さい。
備考	DPとの関連「○-1」, ◎-5」 科目コード : S-9-HA1-ES-L-0
	講義の動画は該当週の月曜日9:30までに公開する。 動画視聴(20~50分程度)と課題(30~80分程度)で講義を行う。 動画視聴に関する質問は、原則Mellyで行ってください。 課題の提出期限は日曜日23:59とする。 出欠は課題の期限内での提出をもって行います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
村川 増代			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	実技（対面授業）	
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業は、「健康運動実践指導者資格取得」を目標とする。生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、健康運動指導に必要な知識と有酸素運動の特性を理解した上で、水中運動の基本的な技術を習得し、仲間と楽しく身体運動の喜びに触れることを目的として、実践を中心とした授業を展開する。すなわち、グループ指導能力の繰り返し実践を通し、人間性と教養を身につけコミュニケーション力の向上、基本的技術、正しい動作、指導技術を修得することをねらいとする。また、他者の健康管理と健康指導に従事しようとする医療人に求められている、自分のからだの仕組みを知り自身の健康に対する意識を常に高める習慣づくりとは何かを体得する。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス [到達目標] 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解することができる。 [授業形態] 講義と実習 水中運動とは何か事前に調べ（予習35分）、本時内容をまとめる（復習35分）。</p> <p>第2講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動① [到達目標] 水の特性（浮力・水抵抗・水圧・水温）について解説できるようになる。 [授業形態] 講義と実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第3講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動② [到達目標] 水中運動の基本姿勢やテンポ、動作を習得し、リズムカルに動けるようになる。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第4講 健康づくり運動の実際 水中運動の課題運動③ [到達目標] 前歩き・横歩き・後ろ歩き・回旋歩きを習得し教示できるようにする。 [授業形態] 実習 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第5講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動① [到達目標] 水中レジスタンス運動の特性・目的・内容について理解し、説明できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第6講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動② [到達目標] 課題とした基本姿勢・動作確認に習熟し、指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第7講 健康づくり運動の実際 水中レジスタンス運動③ [到達目標] 運動強度の考えかた、実施における留意点などを理解し、解説できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第8講 健康づくり運動の実際 水中運動および水中レジスタンス運動 [到達目標] 水中運動・水中レジスタンス運動のグループワークを習熟し、水の抵抗を利用した筋の強化運動のグループワークを指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第9講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導① [到達目標] 「規定の課題運動」を、グループワークにて指導できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第10講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導② [到達目標] グループワーク指導で、キューイング法とステップ動作指導ができるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第11講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導③ [到達目標] グループワーク指導で、課題ステップ動作を実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第12講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導④ [到達目標] 運動プログラム作成・実践指導：プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実演できる能力を身につける。 [授業形態] 実習（グループワークをする） 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p> <p>第13講 水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑤ [到達目標] 対象者の健康状態に即した運動プログラム作成・実践指導を、プールに於いて実践できるようになる。 [授業形態] 実習（グループワークをする）</p>



	<p>第14講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑥</p> <p>[到達目標] プールに於いて「課題運動」の運動の目的と内容を説明でき、実践できる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>第15講 実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。水中の健康づくり運動の実際 プールにおける実践指導⑦</p> <p>[到達目標]（実習のまとめ）。第1講～第14講を総括した実践指導ができるようになる。</p> <p>[授業形態] 実習（グループワークをする）</p> <p>実習内容を事前学習し（予習35分）、実習で体得した内容を図解でまとめる（復習35分）。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	資料を集め、水中運動の要点をまとめた自分のハンドブックを作成する。プログラム作成後は、それに基づいた指導練習を行う。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布する。
参考書	「健康運動実践指導者 養成用テキスト」（公財）健康・体力づくり事業財団
成績評価	実際の身体活動量の評価30%、パフォーマンス・スキルの習熟度10%、運動プログラム作成の工夫と習熟度10%、取り組みの意欲・態度（探究心の総合評価）30%、教員・学生間のコミュニケーションの有無10%、スポーツマンシップの実践10%で総合評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 村川増代</p> <p>研究室 : 体育館・教員室</p> <p>メールアドレス : m_murakawa@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業前後、水曜日・木曜日の昼休みに質問等を受け付ける。</p>
備考	<p>① 服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。</p> <p>② 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。</p> <p>③ この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-5, 技能・表現。</p> <p>④ 科目ナンバー：SS-9-HA7-ES-P-0。</p>
	④ 科目ナンバー：SS-9-HA7-ES-P-0。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択必修
担当教員			
吉元拓也、藤井 健介			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業内容】テーピングはケガの予防、再発防止、応急処置の方法として、スポーツ現場や医療分野において広く普及しています。しかし医学的知識を持たずに施行したり、各スポーツの特異性を知らずテーピングを行っても、効果を発揮できないばかりか、二次損傷も招きかねません。この授業ではテーピングの基礎知識、基本的な操作方法などから、各種スポーツの特性を踏まえてのテーピング法を実習形式で学びます。将来トレーナーや医療に従事する上で大変役に立つ内容ですので、しっかり学修しましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーピングの基礎知識（意義、実施上の注意点など）について説明できる。</li> <li>2. テーピングの基本的操作について説明し施行できる。</li> <li>3. 人体各部位の基本テーピングを施行できる。</li> <li>4. キネシオテープの基礎知識（原理、実施上の注意点）などを説明できる。</li> <li>5. 各部位の代表的なキネシオテーピング法を施行できる。</li> <li>6. 各種スポーツの競技特性を踏まえての応用テーピングが施行できる。</li> </ol>
授業計画	<p>1回目 テーピングの基礎知識 【到達目標】テーピングの意義、効果、実施上の注意点、テープの種類と用具、テープの保管方法について説明できる。テープの取り扱い方について理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「THE TAPING」P8-18まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>2回目 足関節の基本テーピング 【到達目標】足関節の基本テーピングを理解し、実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「THE TAPING」P19-31まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>3回目 膝関節、大腿部、腰部のテーピング 【到達目標】膝関節、大腿部、腰部の基本テーピングを理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「THE TAPING」P35-48まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>4回目 指、手関節、肘関節、肩関節のテーピング 【到達目標】指、手関節、肘関節、肩関節の基本テーピングを理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「THE TAPING」P49-65まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>5回目 1から4回目の授業のまとめと実技試験 【到達目標】人体各部の基本テーピングを理解し実施できる。 【授業形態】主に実技形式でこれまでの復習と実技試験を行います。 【備考】教科書「THE TAPING」P8-65まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>6回目 キネシオテープの基礎 【到達目標】キネシオテープの原理、効果、注意点を理解できる。キネシオテープの取り扱い方を理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「キネシオスポーツテープ」P4-9まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>7回目 各種スポーツにおける応用テーピング法1 【到達目標】マラソン、野球、テニスの競技特性を理解し、それらの特異的スポーツ障害に対するテーピング実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】事前資料を予習し、授業に臨みましょう。</p> <p>8回目 各種スポーツにおける応用テーピング法2 【到達目標】ゴルフ、バレーボール、サッカーの競技特性を理解し、それらの特異的スポーツ障害に対するテーピング実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】事前資料を予習し、授業に臨みましょう。</p> <p>9回目 肩関節、腹部、腰部、背部のキネシオテーピング法 【到達目標】肩関節、腹部、腰部、背部のキネシオテーピング法を理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「キネシオスポーツテープ」P15-33まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>10回目 各種スポーツにおける応用テーピング法3 【到達目標】陸上競技、スキー、バスケットボールの競技特性を理解し、それらの特異的スポーツ障害に対するテーピング実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】事前資料を予習し、授業に臨みましょう。</p> <p>11回目 肘関節、手関節、指関節のキネシオテーピング法 【到達目標】肘関節、手関節、指関節のキネシオテーピング法を理解し実施できる。 【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備考】教科書「キネシオスポーツテープ」P34-46まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>12回目 各種スポーツにおける応用テーピング法4</p>

	<p>【到達目標】柔道、ラグビー、体操・器械体操の競技特性を理解し、それらの特異的スポーツ障害に対するテーピング実施できる。</p> <p>【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】事前資料を予習し、授業に臨みましょう。</p> <p>13回目 大腿部、膝関節、下腿部、足関節、足部のキネシオテーピング法</p> <p>【到達目標】大腿部、膝関節、下腿部、足関節、足部のキネシオテーピング法を理解し実施できる。</p> <p>【授業形態】主に講義と実技形式ですが、適宜ペアワークを実施します。</p> <p>【備考】教科書「キネシオスポーツテープ」P47-73まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>14回目 キネシオテーピングのまとめと実技</p> <p>【到達目標】これまで行ったキネシオテーピング法を理解し実施できる。</p> <p>【授業形態】主に実技形式の授業ですが、実技試験も行います。</p> <p>【備考】教科書「キネシオスポーツテープ」P4-73まで予習し授業に臨みましょう。</p> <p>15回目 応用テーピング法のまとめと実技試験</p> <p>【到達目標】これまでの授業で行った応用テーピング法を理解し実施できる。</p> <p>【授業形態】主に実技形式の授業ですが、実技試験も行います。</p> <p>【備考】事前に配布した資料を予習し、授業に臨みましょう。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1) 解剖学（筋学、骨学）、生理学（運動生理学）、外傷、スポーツ傷害の理解が本科目習得の前提になります。関連する既習事項の知識を事前に確認しておいて下さい。</p> <p>(2) 復習が重要です。ノートは講義の板書やスライド等を写すのではなく、自分の言葉で噛みこなしで記載しましょう。その上で復習は、ノートを整理し直しながら、テキストや資料を確認してください。</p> <p>予習：授業予定範囲の教科書や資料を用いて30分程度の予習を行って下さい。教科書や資料に記載されているわからない語句を事前に調べておくのも良い方法です。</p> <p>復習：授業ノートをまとめるなど、30分程度復習しましょう。</p>
教科書	<p>「THE TAPING」第2版 著者 長尾淳彦、ニチバン株式会社 1,200円（価格変動あり）</p> <p>「キネシオスポーツテーピング」編集人 君島廣美、マキノ出版ムック 800円（価格変動あり）</p>
参考書	必要に応じ授業で紹介します。
成績評価	<p>実技試験（100％）により評価します。</p> <p>実技試験は2人の先生がそれぞれ行い（100点満点）、その平均点が成績となります。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：吉元拓也（柔道整復学科、助教）、藤井健介（鍼灸学科、助教）</p> <p>代表者：吉元拓也 研究室：8号館4F講師室</p> <p>メールアドレス：t_yoshimoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー：授業前30分と授業終了後30分</p>
備考	<p>臨床実習などで救護活動（トレーナー）の経験があります。その経験をもとに「スポーツテーピング実習」を行います。</p> <p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-2、○-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	落ち込んだ選手に対するリハビリテーションには集中力や意識など精神面を強化が特に必要になります。これまでこのような局面に遭遇したことがない学生たちに集中力や意識、モチベーション（意志）など心理学ではなく大脳生理学的に理解し、選手の心のサポートができる考え方やトレーニング法を理解することを目的とする。また、アスレチックリハビリテーションを通じてメンタル面をサポートし競技復帰後、選手が能力を発揮できるよう指導できるようになることを最終目的とする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・精神面のサポートとは [到達目標] 心技体の相関関係など肉体的サポートの他に心のサポートについて何を理解しなければいけないのかが分かる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>2回目 大脳と小脳の働き [到達目標] それぞれの役割から勉強とスポーツの反省の仕方や習得/理解の方法を学ぶ。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>3回目 集中力の理解 [到達目標] 集中力について、大脳生理学から集中状態とはどのような状態（アルファ波、シータ波、ベータ波など）かを理解する。ただ集中力が”ある” ”ない”と言う捉え方ではなく、”意識の分散”であることとこととを知り、一点にフォーカスできるトレーニングをすれば集中できるようになることを選手にアドバイスできることを目的とする。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>4回目 脳と身体つながり [到達目標] 脳の無意識領域について学ぶ。外界からの刺激で感情が働き体内での自律神経に無意識的に直接影響を及ぼす。外界から落ち着いた刺激を入れるトレーニングを継続することで自律神経も安定する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>5回目 大脳のプログラム [到達目標] なぜ、人間は同じように勉強やスポーツをしているのにできる人とできない人、上達する人となかなか上達しない人に分かれるのか？と言う疑問に対して、そのメカニズムと改善方法を習得する。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>6回目 エネルギー（やる気）の理解 [到達目標] 人間を知るには心理学ではなく、エネルギー理論に基づいて科学的に人間を捉えることが大切。脳からの電気エネルギー、エネルギー生産で発生する熱エネルギー、動作に変換される運動エネルギー。ここに外界からの刺激が感覚情報処理システムを介して様々な情動反応へと表現される流れを理解して初めて人間を客観的に見ることができると知る。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>7回目 自主性と主体性 [到達目標] 自主独立について、行動学から人間の行動には3つの段階が存在します。治療家として利他的に行動できる物事の考え方や捉え方を理解して、まずは自分なりにやってみる。その結果、様々な経験を通じて患者さんに対してこころのサポートができるようになる。 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p> <p>8回目 意識の働き [到達目標]意識が高い、低いと表現しますが、それがどのような状態を指すのか？3つの意識から自分でコントロールできる意識を知る 【授業形態】アクティブラーニングあり（小テストを行いフィードバックする）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	前回の授業範囲の予習(45分)復習(45分)行う。
教科書	担当講師作成資料
参考書	特になし
成績評価	レポートにて評価を行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo.co.jp

	オフィスアワー : 授業直後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3 科目ナンバー : SS-3-HA18-ES-L-0
	スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択必修
担当教員			
川西 弘晃			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	アスレチックリハビリテーションの講義にて理解したことを実践できることを目的とする。また部位別にケガからの復帰までの段階的なプログラム及び基本的な考え方を習得することを最終目的とする。		
授業計画	1回目	オリエンテーション・アスレチックリハビリテーションに必要な基礎知識 [到達目標] リハビリテーションを行う上で必要な障害・外傷評価法の手順や考え方を理解する。 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	2回目	足関節1 [到達目標] 足関節評価法・ステージ1、固定テーピングなど復帰に向けての準備において漸進的アプローチと悪化/再発防止の手順を理解する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	3回目	足関節2 [到達目標] ステージ3・復帰テスト、バリエーションテーピングなど競技復帰直前から復帰後の経過観察において安全に全力が出せる状態を構築できる方法が身に付く 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	4回目	足底筋膜炎 [到達目標] ]足底筋膜炎アスレチックリハビリテーション競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	5回目	ハムストリングス [到達目標] ハムストリングス肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラム及びテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	6回目	内転筋 [到達目標] 内転筋肉離れ、第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	7回目	膝関節1 [到達目標] 様々な膝関節評価法とテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	8回目	膝関節2 [到達目標] 膝関節前十字靭帯損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	9回目	膝関節3 [到達目標] 膝関節前十字靭帯第3ステージから競技復帰プログラム及びテーピングの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	10回目	肘関節 [到達目標] テニス肘の評価法及び第1ステージから競技復帰までのプログラムを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	11回目	肩関節1 [到達目標] 様々な肩関節評価法と脱臼予防のテーピングを習得する 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	12回目	肩関節2 [到達目標] 腱板損傷第1～第2ステージプログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	13回目	肩関節3 [到達目標] ]腱板損傷第3ステージから競技復帰プログラムの習得 【授業形態】実習（アクティブラーニング）	
	14回目	腰部 [到達目標] ヘルニアリハビリプログラムからの競技復帰を習得	

	<p>【授業形態】実習（アクティブラーニング）  15回目 実技評価・まとめ  [到達目標]  膝関節リハビリテーションステージ別に5種目ずつ（イラスト、回数、セット数）解説する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	前回の授業範囲の予習の予習(45分)復習(45分)行う。部活動や学生間で学んだテーピングやリハビリを実施してする。感じたことや気づきについて次の講義で質問し、部活動で生かす。
教科書	担当講師作成資料
参考書	特になし
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。評価は筆記試験で行う。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 川西 弘晃NATA-ATC 研究室 : 8号館4階講師室 メールアドレス : sports_stay_focus@yahoo.co.jp オフィスアワー : 授業直後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1，○-2 科目ナンバー： SS-9-HA17-ES-P-0
	川西弘晃：スポーツ現場や施術所での臨床業務に従事し、その実務経験にもとづいて本講義の授業を行う。

講義科目名称： ジュニアスポーツ指導の実際 I

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>スポーツとの「出会い」の時期となるジュニア期は、その後のスポーツライフスタイルや大人になってからの生活習慣を左右する大切な時期となる。それだけにジュニアスポーツ指導員に求められる役割や理解しておくべき知識や事柄は多岐にわたる。          本授業では、テキストを用いて「スポーツ好き」の子ども達を増やし、将来アスリートとなるための土台づくりを行うために、指導の基本となる知識を学んでいく。</p>		
授業計画	第1講	<p>オリエンテーション            [到達目標]            子どもたちの運動・スポーツ実施状況、体力・運動能力の現状と課題、発育発達に応じた適切な運動・スポーツ活動の重要性について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第2講	<p>概論1 スポーツ指導者とは            [到達目標]            スポーツの意義と価値についてその役割と、ジュニアスポーツ指導員に求められる資質について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第3講	<p>指導者の心構えと視点            [到達目標]            指導者のコミュニケーションスキル、ジュニア期のコーチングについて理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第4講	<p>アスリートの発掘と育成            [到達目標]            トップアスリートの育成指導実践について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第5講	<p>トレーニング論1            [到達目標]            体力の概念について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第6講	<p>トレーニング論2            [到達目標]            トレーニングの原理と原則、処方について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第7講	<p>スポーツ指導者に必要な医学的知識1            [到達目標]            スポーツと健康について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第8講	<p>スポーツ指導者に必要な医学的知識2            [到達目標]            スポーツ活動中に多いケガや病気(内科)について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第9講	<p>スポーツ指導者に必要な医学的知識3            [到達目標]            スポーツ活動中に多いケガや病気(外科)について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第10講	<p>スポーツ指導者に必要な医学的知識4            [到達目標]            スポーツ活動中に多いケガや病気の救急処置について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第11講	<p>指導計画と安全管理            [到達目標]            スポーツ指導計画の重要性と立案について実践理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第12講	<p>ジュニア期のスポーツ            [到達目標]            発育発達期の身体的特徴と心理的特徴について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第13講	<p>発育発達期のプログラム            [到達目標]            発育発達に応じた指導について理解できる。            アクティブラーニングの有無：有</p>	
	第14講	<p>地域のスポーツ振興と行政のかかわり            [到達目標]</p>	



	我が国のスポーツ行政のねらいとしくみについて理解できる。 アクティブラーニングの有無：有 検定試験について [到達目標] 公認ジュニアスポーツ指導員専門科目検定試験の実践経験ができる。 アクティブラーニングの有無：有
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルを事前学習(予習70分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習70分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況、小テスト、授業態度で総合評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名： 池本 敬博 研究室： 体育館健康スポーツ学ユニット メールアドレス： iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー： 授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連； ◎-1 ○-2
	SS-45-HA-ES-L-1

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅱ」では、「ジュニアスポーツ指導の実際Ⅰ」で学んだ内容を基に実際にどのように指導すればよいのかを実技を通して学んでいく。 併せて、指導に際しての事前準備、指導計画の立案、指導実践、指導内容について学び、自分自身の指導の評価と改善、応用実践ができるようになることを目標とする。 また、総まとめとして、実際の指導現場（ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等）で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験する（体験実習）。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション、授業（実習）の進め方について [到達目標] 授業（実習）のすすめ方を理解する。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第2講 発達段階に応じた運動遊びについて（1） [到達目標] 幼少期における遊びについて理解できる。 けん玉、めんこ使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第3講 発達段階に応じた運動遊びについて（2） [到達目標] 発達段階に応じた運動遊びが理解できる。 木ゴマ、タオル、風船使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第4講 発達段階に応じた運動遊びについて（3） [到達目標] 発達段階に応じたスポーツの選択ができる。 おにごっこ、ソフトテニスボール使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第5講 スポーツ指導における運動遊びの活用について [到達目標] スポーツ指導における運動遊びの活用場面、活用方法について理解できる。 マット運動、跳び箱、バッティング系。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第6講 アイスブレイクの必要性について [到達目標] アイスブレイクの必要性について理解できる。 ペアでのじゃんけん系 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第7講 スポーツの必要性について（1） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 ソフトハンドボール、ミニハードル使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第8講 スポーツの必要性について（2） [到達目標] スポーツの指導現場で使える具体例を体験することができる。 卓球、バドミントン使用。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第9講 指導プログラムの作成について [到達目標] 指導プログラムの作成手順、留意点を理解し指導プログラムを作成できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第10講 プログラムの指導実践について [到達目標] 指導実践を行う際の留意点（ねらい、観察、働きかけ）を理解できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第11講 指導内容の評価方法について [到達目標] 指導内容の振り返り手順について理解し説明できる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第12講 ジュニアスポーツ指導体験実習（1） [到達目標] ジュニア対象のスポーツ教室、スポーツ少年団等で、ジュニアスポーツの指導を実際に体験・実習する。 アクティブラーニングの有無：あり</p>

	<p>第13講 スポーツ実践 (1) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第14講 スポーツ実践 (2) [到達目標] ジュニア期に必要とされるスポーツ実践ができる。 アクティブラーニングの有無：あり</p> <p>第15講 まとめ [到達目標] 第2講から第14講までの内容を理解し、資格取得に必要な知識を確認できる。。 アクティブラーニングの有無：あり</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義のタイトルに関して事前学習(予習45分)するとともに、受講後に学習したことを配布したプリントをもとにまとめる(復習45分)。
教科書	特定の教科書は使用しない。 必要に応じて資料を配付する。
参考書	公益財団法人日本スポーツ協会 「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」
成績評価	出席状況及び取り組み姿勢等で総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：池本 敬博 研究室：体育館 健康スポーツ学ユニット メールアドレス：iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：授業の前後
備考	ディプロマ・ポリシーとの関連；◎-1、○-2
	SS-4-HA-ES-S-1

講義科目名称： 卒業研究IV

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	必修
担当教員			
伊藤 和憲			
配当学科：鍼灸学科	時間数：30時間	講義形態：演習（AL:対話）	
添付ファイル			

授業目標	本講義は、4月に配布されるゼミ一覧から、希望するゼミを1つ選び、専門知識の習得に努める。 具体的には、西洋または東洋医学の知識を深めたり、実際に検証する研究を行ったり、調査を行ったりする。 なお、各ゼミごとに卒業論文を作成し、提出することとする。 卒業論文の詳細は、選んだゼミに指導教員の指示に従うこと。
授業計画	<p>第1回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。 (各講義・必要に応じてアクティブラーニングを行う)</p> <p>第2回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第3回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第4回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第5回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第6回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第7回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第8回 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第9回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第10回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第11回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第12回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第13回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第14回目 調査・研究 ゼミのテーマに従い、調査・研究を行う 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。</p> <p>第15回目 卒業論文の作成 ゼミのテーマに従い、卒業論文を作成する 詳細はゼミの担当教員に確認をすること。 (アクティブラーニング)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	鍼灸や東洋医学に関する書籍・文献を読む。 鍼灸治療院の見学や、大学院生の研究を積極的に行う。
教科書	なし (各ゼミ担任の指示に従う)
参考書	なし (各ゼミ担任の指示に従う)
成績評価	出席及びレポート（卒業研究）により評価(優・良・可・不可)する

	<p>なお、本試験で不合格となった者には、原則補講や課題を課すので、別途指示に従ってください。 最終評価の課題もしくはレポートを期日までに提出しない場合は、理由なし追試として扱います</p>
担当教員の基本情報	<p>連絡先 各担当のゼミ教員に確認すること。</p> <p>総括 研究室：鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス：伊藤和憲 k_ito@meiji-u.ac.jp オフィスアワー・質問などがある際は、事前に上記メールで連絡をください。</p>
備考	<p>ディプロマポリシーとの関連 ③関心・意欲-◎ ②思考・判断-○</p>
	<p>DPとの関係 2：思考・判断-○ 3：関心・意欲-◎</p>